

文閣出版)

注二、注一坪内士行氏論考参照。

## 第四章 常磐津節の資料研究

### 第一節 常磐津節正本稽古本一覽

はじめに

本一覽は、科学研究費補助金の交付によつて、調査した結果に基づいて、現存する常磐津節正本稽古本を、簡便な書誌解題を附して、一覽表としたものである。

なお、現在まで調査を終えた範囲は、上田市立図書館花月文庫約三〇〇点・上野学園日本音楽資料室約四〇〇点・国立音楽大学附属図書館竹内道敬寄託文庫約四〇〇点・名古屋市蓬左文庫約一〇〇点・東京芸術大学附属図書館約一〇〇点・東京大学教養学部黒木文庫約一八五点・東京大学附属図書館約三〇点・東京都立中央図書館加賀文庫約一〇〇点・東北大学附属図書館狩野文庫約五〇点・その他個人蔵約五〇点、及び架蔵一五〇〇点である。これらの内には、重複する資料も多いので、本一覽には、それらを整理して掲げた。

また、未調査・未発掘の資料が存在し、それらの調査・収集を続行しているので、本一覽は中間的報告ということになる。



凡例

1、常磐津節正本・稽古本を、あいうえお順（原則として内題による。但し、俗称で通っているものはそれに依った。また、末尾の数編補充したものがあ）に配列し、簡便な書誌の解題を附した（但し、写真収集によるもの等は項目によっては記さなかった）。

2、表記は、原則として、左記の如くである。（猶、各項目に「0」とあるのは、それが無いことを示す）

一、内題。

二、外題。

三、版心・版外（これは「版心」「版外」で区別は示した）。

四、資料種別（これは、「刊本」「書本」・「正本」「稽古本」で示した）。寸法（縦\*横）。字高。行数・字数。丁数（表紙・裏表紙を含む）。

五、刊記・奥書・譏語（番号は次の紋を示す。1 2 3その他）、また、abcdは、それぞれ刊本ヲ頭シ令開版者也御求御覽被遊可被下候以上。

- a、右常磐津一流太夫直傳之正本者私方ヨリ外ニ決而無御座ノ仍而太夫自筆ヲ取而節章句ヲ正シ入印ノ如此印形ヲ頭シ令開版者也御求御覽被遊可被下候以上。
- b、右常磐津一流太夫直傳之正本者私方ヨリ外ニ決而無御座ノ仍而太夫自筆を取而節章句を正し入印ノ如此印形を頭し令開版者也御求御覽被遊可被下候以上。
- c、右常磐津一流太夫直傳之正本「作品名」者「作者名」之著述ニシテ太夫自筆ヲ取テ節章句ヲ正シ入印ノ此ノ如キ印形ヲ頭シ私方ヨリ外ニ決テ無御座仍而令開版者也。
- d、右常磐津一流太夫直傳之正本者私方ヨリ外ニ決而無御座ノ仍而太夫自筆ヲ取而節章句ヲ正シ入印ノ如此印形ヲ頭シ令開版者也御求御覽被遊可被下候以上ノいがや勘右衛門原板。

（また、版元の紋及び印は次の通り。猶、玉沢屋は右の記号で示した通り）

|         |   |  |   |  |      |   |  |
|---------|---|--|---|--|------|---|--|
| いがや勘右衛門 | 紋 |  | 印 |  | 薦屋吉蔵 | 紋 |  |
| 坂川平四郎   | 紋 |  | 印 |  | 芳野屋  | 紋 |  |
| 若林芳造    | 紋 |  | 印 |  | 勝五郎  | 紋 |  |
|         |   |  |   |  | 菱屋   | 紋 |  |
|         |   |  |   |  | 金兵衛  | 紋 |  |



ノ「一樹蔭の／雨舎りも／かりそめならぬ／値遇の縁」杵傘艶白雨〔常磐津文字太夫直傳／狂言堂左交述〕

ロ杵傘艶白雨〔常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

ニ2・雨舎り一（〜六了）△枠あり

ニ1・2（B） B（行・字）六・一六 七丁

キ慶應三「丁卯」歳夏狂言／中村座

ハ「一樹蔭の／雨舎りも／かりそめならぬ／値遇の縁」杵傘艶白雨〔常磐津文字太夫直傳／狂言堂左交述〕

ロ

ニ2・雨舎り一（〜六了）△枠あり

ニ1・2（B） B（行・字）六・一六 七丁

キ慶應三「丁卯」歳夏狂言／中村座／△判読不能

ハ芥川紅葉冊〔作者堀越二三治〕

ロ

ニ1・2（B） B（行・字）七・二〇 一六丁

キ

ハ芥川紅葉冊〔作者堀越二三治〕

ロ芥川紅葉冊 上 市村座

キ

ニ2・1（B） B（行・字）七・二〇 二丁

キはんもと／いがや／元はま丁

ロ

ロ芥川紅葉冊 中 市村座

キ

ニ2・1（B） B（行・字）七・二〇 二丁

キはんもと／いがや／元はま丁

ロ

ロ芥川紅葉冊 下 市村座

キ

ニ2・1（B） B（行・字）七・二〇 二丁

キはんもと／いがや／元はま丁 常磐津文字太夫直傳／はんもと／元はま町／いがや勘右衛門／同／元石町四丁

目／駿河屋文右衛門

ハ明烏夢泡雪〔常磐津豊後大掾直傳／佐々木市藏述／玉沢屋新七板〕



ロ「明烏夢泡雪」上巻「いけんの場」

2・明烏上巻（十）

11・1 (B) 二二、七\*一五、二一八、五〇 (行・字) 六・一三 一一丁

1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

10

ロ「明烏夢泡雪」雪責段

2・明烏下十巻（二十一了）

11・1 (B) 二三、二\*一五、八一八、五〇 (行・字) 六・一八 一一丁

1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

10

ロ

2・明烏下十巻（二十一了）

11・2 (B) 二〇、九\*一四、五一八、五〇 (行・字) 六・一八 一〇丁

明治十九年八月六日翻刻出版人「愛知縣平民」編野長三郎「名古屋區八百屋町百三番邸」

1・明烏夢泡雪「常磐津豊後大掾直傳」

ロ

2・明烏上巻（上六了・下巻下六了）

11・2 (B) B (行・字) 七・一五 一四丁

文久式戌三月再板、正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印

1・明烏夢泡雪「常磐津豊後大掾直傳」

ロ「明烏夢泡雪」上「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎

2・明烏上巻（六了）

11・2 (B) C (行・字) 七・一五 八丁

文久式戌三月再板、正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印

10

ロ「明烏夢泡雪」下「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎

2・明烏下巻（六了）

11・2 (B) C (行・字) 七・一五 八丁

文久式戌三月再板、正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印

1・明烏夢泡雪「常磐津豊後大掾直傳」

ロ

2・くもの糸上（上七了・中一、中六了・下一、下六了）



二1・2 (B) 四 (行・字) 七・一八 二〇丁

※ 文久式戌年二月再板、正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地、さか川平四郎板「印」

一「朝顔」日記「あかしの浦」の段

二〇

※2・朝顔 舟 巻(七了)

二1・1 (B) 二二、四\*二五、六一八、五〇 (行・字) 六・一四 八丁

※2・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

一「朝顔」日記大井川之段 「常磐津」文字太夫直傳、三味線佐々木市蔵調

二「朝顔」日記 大井川の段

二〇

二1・1 (B) 二二、〇\*一四、六一七、八〇 (行・字) 七・一七 九丁

※1・長者町筋、玉澤屋新七、廣小路角

一「朝顔」日記「大井川の段」 「常磐津」豊後大掾直傳

二〇

※2・大井川上巻(五了)・大井川下巻(五了)

二1・2 (B) 二一、三\*一四、三一七、四〇 (行・字) 六・一四 一〇丁

※ 上巻、文久式戌三月再板、下巻、文久式戌二月再板、正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地、さか川平四郎板「印」

一〇

二「朝顔」日記「大井川の段」下「常磐津」豊後大掾直傳、正本所坂川平四郎

※2・大井川下巻(五了)

二1・2 (B) 二〇 (行・字) 六・一四 七丁

※ 文久式戌二月再板、正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町、さか川平四郎板「印」

一「朝顔」日記「大井川の段」 「常磐津」豊後大掾直傳

二〇

※2・大井川上巻(五了)・下巻(五了)

二1・2 (B) 二〇 (行・字) 六・一八 一一丁

※ 文久式戌二月再板、正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地、さか川平四郎板「印」

一「朝顔」日記「大井川の段」 「常磐津」豊後大掾直傳

二「朝顔」日記「大井川の段」上「常磐津」豊後大掾直傳、正本所坂川平四郎

※2・大井川上巻(五了)

二1・2 (B) 二〇 (行・字) 六・一八 七丁



文久式戊三月再板、 正本版元東京「地本問屋」紋、「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印

10

口「朝顔日記」大井川の段「下」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」  
2・大井川下老（七了）

1・2 (B) B (行・字) 六・一八 七丁

文久式戊二月再板、 a 正本版元東京「地本問屋」紋、「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印

朝顔日記宿屋段

口朝顔日記 宿屋の段

2・朝 一（十四）

1・1 (B) 111' 0\*14' 1 一七、五 B (行・字) 七・一八 一五丁  
板元 名古屋廣小路玉沢屋新七

朝顔日記宿屋段「常磐津豊後大掾直傳」

口「朝顔日記」宿屋の段「上」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・朝 上老・朝がほ上二（七了）・朝顔下一（七了）

1・2 (B) B (行・字) 七・一九 一五丁

10

朝顔日記宿屋の段

10

2・朝かお上老（七了）・下老（七了）（梓あり）

1・2 (B) B (行・字) 七・一六 一五丁

a 正本版元東京「地本問屋」紋「下谷區谷中清水町老番地」さか川平四郎板印

10

口「朝顔日記」宿屋の段「下」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・朝顔下一（七了）

1・2 (B) B (行・字) 七・一九 九丁

a 正本版元東京「地本問屋」紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎板印

朝顔日記宿屋段「常磐津豊後大掾直傳」

口「朝顔日記」宿屋の段「上」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・朝 上老（七了）

1・2 (B) B (行・字) 七・一八 九丁

a 正本版元東京「地本問屋」紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎板印



「上巳に飜る御あつらへを漸出来恐入候」時翫雜淺草八景「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

福聚海駒盃傳記「第二番目大切」相つとめ申候」「上巳に飜る御あつらへを漸出来恐入候」時翫雜淺草八景

2・淺神八景卷（五了）（梓あり）

1・1 (B) 二二、一\*一五、〇一七、五〇 (行・字) 七・一五 五丁

弘化三丙午年五月狂言「明治三十老年六月再版」常磐津正本版元「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎印

初旭影松栄「常磐津太夫文中直傳」作詞や竹柴金作著

初旭影松栄

2・松のさか糸（三了）

1・1 (B) B (行・字) 六・一四 三丁

正本板元坂川平四郎「明治八乙亥年十二月廿六日」著者「東京府平民」竹柴金作「第五大區拾壹小區」淺草寺地中修善院「上地町家」板元「東京府平民」坂川平四郎印「第一大區拾四小區」松島町四番地「板元」上野元黒門町老番地

朝比奈地獄巡

朝比奈地獄巡「上」常磐津文字太夫直傳「正本所」坂川平四郎

2・あさひな上 一（七了）

1・2 (B) 二一、三\*一四、四一八〇 (行・字) 七・二二 九丁

右常磐津一流太夫直傳之正本者私方外決而無御座仍而太夫自筆取而節章句正印如此印形顯令開版者也御求御覽被遊可被下候以上「正本版元東京」地本「問屋」上野廣小路元黒門町老番地「紋」さか川平四郎板印

10

朝比奈地獄巡下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

2・あさひな下卷（六了）

1・2 (B) 二一、四\*一四、三一八、〇〇 (行・字) 七・二四 八丁

右常磐津一流太夫直傳之正本社私方外決而無御座仍而太夫自筆取而節章句正印如此印形顯令開版者也御求御覽被遊可被下候以上「正本版元東京」地本「問屋」上野廣小路元黒門町老番地「紋」さか川平四郎板印

朝比奈地獄巡「岸澤式治」玉沢屋新七「板」

10

2・朝ひな巻（十五了）

1・1 (B) 二三、四\*一五、七一七、五〇 (行・字) 七・一七 一六丁

1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

朝比奈地獄巡

10

2・朝ひな上巻（上七了・下巻下六了）（梓あり）

1・2 (B) B (行・字) 七・二四 一三丁

10



ハ「結んだり」といたり風の柳かな」浅緑露玉川「玉沢屋新七板」

ロ瀬川五郎浅緑露玉川

ニ2・せ川五郎老（〜五了）

ニ1・1（B）二二、七\*一五、八一七、五B（行・字）六・一六 六丁

名古屋屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

ハ「結んだり」といたり風の柳かな」浅緑露玉川「常磐津豊後大掾直傳」作者櫻田治助述

ロ浅緑露玉川「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎

ニ2・せ川五郎一（〜五了）へ梓あり

ニ1・2（B）二二、二\*一四、一 一六、七B（行・字）六・一六 七丁

右常磐津一流太夫直傳之正本者私方外決而無御座仍而太夫自筆取而節章句正印如此形頭令開版者也御求御覽被遊可被下候以上 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

ハ「新曲」東都獅子

ロ「新曲」東都獅子「常磐津直伝正本」版元坂川平四郎

ニ2・東都獅子老（〜了二）

ニ1・2（B）二三、〇\*一五、四B（行・字）六・一二 四丁

\*昭和二「丁卯」年十月吉日書寫 正本版元 坂川製 千種萬藏大々叶常磐津正本版元「東京都台東區谷中清水町

老番地」坂川平四郎へ印

ハ東土産浪越普言「岸澤式佐直傳」振付西川鯉三郎

ロ東土産浪越普言

ニ〇

ニ1・1（B）二二、一\*一五、五一八、〇B（行・字）六・一二 四丁

岸澤式寿齋「作者不二廻家高根

ハ「あづま／＼与五郎」道行千種の乱咲「常磐津文字太夫直傳」

ニ〇

ニ2・みだれ咲老（〜八了）へ梓あり

ニ1・2（B）B（行・字）七・一九 九丁

ハb/ 正本版元江戸「地本」問屋「堺町通新和泉町」へ紋いがかや勘右衛門へ印

ハ「在りし姿を其まゝに八重桔梗の塚を尋て優への露にぬれ髪の舌妻すゝきに狂ふ蝶」乱朝戀山崎「玉沢屋新七板」

ロ「あづま／＼与五郎」乱朝戀山崎

ニ2・あづま老（〜五）

ニ1・1（B）二三、〇\*一五、三一七、二B（行・字）七・一九 六丁

板元名古屋玉澤屋新七廣小路



- ナ 「あづま／与五郎」道行千種の乱咲「常磐津兼太夫直傳」  
 ロ 「あづま／与五良」道行千種の乱咲「常磐津兼太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板  
 ヌ 2・乱さきき・みだれ咲二（八了）（梓あり）  
 ニ 1・2 （B） B （行・字）七・一六 一〇丁  
 キ a/ 正本版元江戸「地本問屋」神田鍋町西横町「紋いがや勘右衛門印」

ナ 「枕婦ある娘さかり」桜恥らふ若衆ふり「新煖房難世話事」常磐津文字太夫直傳、作者櫻田治助述  
 HO

- ヌ 2・あらせたい上巻（上六了・下巻）下五了）  
 ニ 1・2 （B） B （行・字）七・一四 一一丁  
 キ 文化六載乙巳三月於森田座興行

ナ 「阿波／鳴戸」じゆん礼の段「岸沢式治」玉沢屋新七板

ロ 阿波鳴戸 巡禮場

ヌ 2・なる戸巻（九）

ニ 1・1 （B） 二一、七\*一五、五 一七、五 B （行・字）七・二三 一〇丁

キ 板元・「名古屋や長者町廣小路上」玉沢屋新七

ナ 「阿波鳴門」じゆん礼の段「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「阿波鳴門」順禮の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ヌ 2・じゆんれい巻（八了）（梓あり）

ニ 1・2 （B） B （行・字）七・二四 一〇丁

キ a/ 正本版元東京「地本問屋」紋い「人形町通松嶋町」さか川平四郎板印

ナ 阿波鳴門順禮段

ロ 「常磐津節」阿波の鳴門「ひらかなけいこ本」順禮の段

ヌ 2・じゆんれい巻（八了）（梓あり）

ニ 1・2 （B） B （行・字）七・二四 九丁

キ 板元「南傳馬町巻」目「芳野屋勝五郎板」

ナ 「阿波鳴門」じゆん礼の段「常磐津文字太夫直傳」

HO

ヌ 2・じゆんれい巻（八了）（梓あり）

ニ 1・2 （B） B （行・字）七・二四 九丁

キ a/ 正本版元江戸「地本問屋」紋い「神田鍛冶町二丁目」いがや勘右衛門板印

ナ 阿波鳴門順禮段



マ2・じゆん札巻(八了)へ梓あり

ハ1・2 (B) B (行・字) 七・二四 八丁

ハ「深川に地廻りの魚屋、飯宅に浮名の鳥追」契戀春粟餅「常磐津豊後大掾直傳」作者河竹新七補

口鶴春土佐画箱當、契戀春粟餅

マ2・あわもち(一)~(二)

ハ1・1 (B) 二〇、九\*一四、三一七、二B (行・字) 一一・三三 二丁

マ文久元酉年三月狂言、 正本、坂川平四郎、板元

ハ「道成寺」今様の、舞扇をへひるがへして「花競俄曲突」常磐津文字太夫直傳、櫻田治助述

口玉<sup>七</sup>源平會我「狂言」作者櫻田治助、幸若周蔵、狂言作者三升屋二三治、「浄瑠璃」道成寺今様の、舞扇をへ翻して「花

競俄曲突、中村座

マ2・きよくづき巻(一)~(三)

ハ1・1 (B) B (行・字) 一一・二五 三丁

マ弘化二「乙巳」年二月、板元、神田鍋町西横町、いがや勘右門

ハ花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

口花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板

マ2・きよくづき巻(一)~(七了)へ梓あり

ハ1・2 (B) B (行・字) 七・二三 八丁

マa/ 正本版元江戸「地本、問屋」へ紋、神田鍛冶町、いがや勘右衛門へ印

ハ花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

口花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

マ2・きよくづき巻(一)~(七了)以外梓あり

ハ1・2 (B) 二一、二\*一四、一 一七、〇B (行・字) 七・一六 九丁

マa/ 正本版元東京「地本、問屋」上野廣小路元黒門町老番地、へ紋、さか川平四郎板へ印

ハ花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

口花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

マ2・きよくづき巻(一)~(七了)

ハ1・2 (B) 二二、三\*一五、五一七、〇B (行・字) 七・一五 九丁

マa/ 正本版元東京「地本、問屋」下谷區谷中清水町老番地、へ紋、さか川平四郎板へ印

ハ花競俄曲突「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述



ア2・きよくじき吉(七了)了以外粹あり

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 七・一八 八丁

ホ a/ 常磐津正本元〔印刷者兼發行者〕〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕坂川平四郎印

ハ〔あわ餅〕花競俄曲突〔抜粹〕〔常磐津文字太夫〕作曲四世岸沢式佐、作者櫻田治助

ロ〔あわ餅〕抜粹〔花競俄曲突〕〔常磐津文字太夫直傳〕坂川平四郎

ア2・あわ餅一(四・一)三

ニ1・2 (四) 二二、〇\*一五、四 一八、二四 (行・字) 六・一五 一〇丁

昭和二十八年三月再改版

坂川平四郎板印

a/ 〔正本元〕東京都台東區谷中清水町老番地

ハ花競俄曲突〔常磐津文字太夫直傳〕作者櫻田治助述

ロ

ア2・きよくじき吉(七了)了以外粹あり

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 七・二三 八丁

ホ a/ 正本元江戸〔地本〕問屋〔紋〕〔神田鍛冶町二丁目〕いがや勘右衛門印

ハ家名所妹背笠紐〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ

ア〇

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 六・一八 七丁

ホ

ハ〔伊賀越〕沼津の段上〔岸澤古式部直傳〕玉沢屋新七板元

ロ沼津ノ段

ア2・沼津上詰(十四了)

ニ1・1 (四) 二二、一\*一五、四 一八、四四 (行・字) 六・一八 一五丁

ホ2〔名古屋長者町〕玉沢屋新七〔廣小路角板元〕

ロ

ロ沼津のだん 下の巻

ア2・平作腹切下(七)

ニ1・1 (四) 二二、〇\*一五、一 一八、〇四 (行・字) 六・二〇 八丁

ホ2・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元、明治十九年八月六日翻刻出版人〔愛知縣平民〕鍋屋野長三郎〔名古屋区八百屋町百三番邸〕

ロ

ロ沼津のだん〔下の巻〕



22・平作腹切下巻(七了)

11・1 (B) 二二、七\*一五、四 一八、三 (行・字) 六・一八 八丁

22・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元

1 「沼津ノの里」平作腹切段「岸澤古式部直傳/玉沢屋新七板元」

ロ およね場

22・平作はら切中巻(七了)

11・1 (C) 二一、八\*一五、六 一八、四 (行・字) 六・二二 八丁

22・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元

1 「伊賀越ノ道中/双六」沼津之段「常磐津小文字太夫直傳/岸澤式佐節付」

ロ

22・沼津上巻(七了)・下巻(七了) (梓あり)

11・2 (B) 四 (行・字) 六・一八 一四丁

22/ 常磐津正本版元「發行兼印刷者」【東京市下谷區谷中清水町老番地】/坂川平四郎印

1 「沼津の里」平作腹切段「常磐津小文字太夫直傳/岸澤式佐節付」

ロ

22・平作はら切上巻(七了)・下巻(七了) (梓あり)

11・2 (B) 四 (行・字) 六・一八 一五丁

22/ 正本版元東京「地本ノ問屋」紋ノ上野廣小路元黒門町老番地】/さか川平四郎板印

1 「沼津ノの里」平作腹切段「常磐津小文字太夫直傳/岸澤式佐節付」

ロ

22・平作はら切上巻(七了)・下巻(七了) (梓あり)

11・2 (B) 四 (行・字) 六・一八 一五丁

22/ 常磐津正本版元「發行兼印刷者」【東京市下谷區谷中清水町老番地】/坂川平四郎印

1 「箱根」雙仇討鏡別の段「玉沢屋新七板元」

ロ 雙せんへつ 上

22・5/おわり上巻(六了)

11・1 (B) 二三、一\*一五、七 一八、〇 (行・字) 六・一九 七丁

22・1・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元

1 雙鏡別の段 下

ロ 雙せんへつ 下

22・5/おわり下巻(十一了)

11・1 (B) 二三、〇\*一六、〇 一八、三 (行・字) 六・一八 一二丁

22・1・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元 明治六「癸酉」四月吉日出版



イ「壁仇討」箱根瀧下の段「岸澤古寿満述」

ロ箱根瀧の段 下

ア2・箱根下巻(〜八丁)

ニ1・1 (四) 二二、二\*一五、六 一八、〇 (行・字) 六・一五 一二丁

イ 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

イ「壁仇討」箱根瀧下の段「岸澤古寿満述」

ロ箱根瀧の段 下

ア2・箱根下巻(〜十二丁)

ニ1・1 (四) 二一、八\*一五、五 一八、〇 (行・字) 六・一八 一二丁

イ 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元 明治十九年八月六日御届翻刻出版人「愛知縣平民」編野長三郎「名古屋區八百屋町百三番邸」

イ「石川五右門」糖子黄段「釜淵双級巴」岸澤式治／玉澤屋新七／板

ロ「釜淵双級巴」上之巻

ア2・「上巴」上巻(〜八丁)

ニ1・1 (四) 二二、〇\*一四、七 一七、五 (行・字) 七・二一 九丁

イ1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

イ「釜淵双級巴」上之巻

ロ

ア「上巴」上巻(〜八丁)

ニ1・2 (四) 二〇、九\*一四、四 一八、二 (行・字) 七・二二 九丁

イ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」神田鍛冶町二丁目「紋いがかや勘右衛門」印

ロ

ロ

ア 双巴中一(〜八丁)

ニ1・2 (四) 二〇、九\*一四、四 一七、九 (行・字) 七・二二 九丁

イ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」「紋いがかや勘右衛門」印

イ「釜淵双級巴」上之巻

ロ「石川五右門」釜淵双級巴上「宮古路豊後掾直傳」正本所坂川平四郎

ア2・「上巴」上巻(〜八丁)

ニ1・2 (四) 二一、二\*一四、一 一七、七 (行・字) 七・二一 一〇丁

イ a/ 正本版元東京「地本／問屋」下谷區谷中清水町老番地「紋いがか川平四郎板」印



ロ「石川五右衛門」釜淵双級巴中「宮古路豊後掾直傳」正本所坂川平四郎

2・双巴中一(八了)

1・2 (B) 二一、三\*一四、〇、一七、九+ (行・字) 一〇 e 正本版元東京「地本」問屋」下谷區谷中

清水町老番地」へ紋さか川平四郎印

1「七条河原」新釜煎の段

ロ「石川五右衛門」釜淵双級巴下「宮古路豊後掾直傳」正本所坂川平四郎

2・新かま下(新かま下二新釜下四八了)

1・2 (B) 二一、二\*一四、一、一八、一 (行・字) 七・二五 一〇丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋」下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎印

1「七条河原」新釜煎の段「岸澤式治」玉澤屋新七板

ロ「石川五右衛門」新釜いりの段

2・釜入老(九)

1・1 (B) 二二、二\*一五、三、一七、三 (行・字) 七・一七 一〇丁

a 板元・「名古屋廣小路」玉澤屋新七

1「七条河原」新釜煎の段

2・新釜下老(八了)

1・2 (B) 二〇、〇\*一四、〇、一八、〇 (行・字) 七・二一 八丁

a 伊賀屋勘右門板」 正本版元江戸「地本」問屋」神田鍛冶町二丁目」へ紋いがや勘右衛門印

1「七条河原」新釜煎の段

ロ「七条河原」新釜入」石川五右衛門

1・2 (B) 二二、四\*一六、六 (行・字) 八・一六 一四丁

1釜淵双級巴「上之巻」

ロ「石川五右衛門」釜淵双級巴「上」常盤津+豊後大掾」正本所坂川平四郎

2・「上」巴上老(八了)

1・2 (B) (行・字) 七・二二 一〇丁

a 文化十年閏六月再版」 正本版元東京「地本」問屋」へ紋」上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印



ロ「石川／五右門」釜淵双級巴「中」〔常磐津豊後大掾／正本所坂川平四郎〕

ア2・二「巴」中一（～八了）

二1・2 （ロ） 四 （行・字）七・二二 一〇丁

イ a / 正本版元東京「地本／間屋」へ紋／「上野廣小路元黒門町老番地」／さか川平四郎板へ印

イ「七条／河原」新釜煎の段

ロ石川五右門（手書）

ア2・新かま下一（～八了）

二1・2 （ロ） 四 （行・字）七・一八 一〇丁

イ 伊賀屋勘右門板 / ロ 正本版元江戸「地本／間屋」へ紋／「神田鍋町西横町」／いがや勘右衛門へ印

イ 釜淵双級巴「上之巻」

ロ

ア2・二「巴」上巻（～上八了・中一～中八了・下一～下八了）

二1・2 （ロ） 四 （行・字）七・二二 二四丁

イ へ上巻末／文化十癸酉六月再板

イ 釜淵双級巴「上之巻」

ロ

ア2・二「巴」上巻（～上八了・中一～中八了）

二1・2 （ロ） 四 （行・字）七・二二 一七丁

イ へ上巻末／文化十年閏六月再板 / ロ 正本版元江戸「地本／間屋」へ紋／「判読不能」へ印

イ 釜淵双級巴「上之巻」

ロ

ア2・二「巴」上巻（～上八了）・双巴中巻（～中八了）へ枠あり

二1・2 （ロ） 四 （行・字）七・二二 一六丁

イ へ上巻末／文化十癸酉六月再板 / いがや勘右衛門板 / へ中巻末 / いがや勘右門板

イ「石川／五右門」釜淵双級巴「常磐津稽古本」

ロ

ア2・二「巴」上巻（～上八了・中一～中八了）へ枠あり

二1・2 （ロ） 四 （行・字）七・二二 一六丁

イ

イ「七条／河原」新釜煎の段

ロ「石川／五右門」新釜煎の段「宮古路豊後大掾直傳／正本所坂川平四郎」

ア2・新かま下一（～八了）



二1・2 (四) 四 (行・字)七・一八 八丁  
ホ

ハ「石川／五右門」新釜煎の段「常磐津稽古本」

ホ

ハ2・新釜巻(〜八了)へ梓あり

二1・2 (五) 五 (行・字)七・一八 八丁  
ホ

ハ釜湖双級巴「上之巻」

ホ

ハ2・二ツ巴上巻(〜上八了)・二三ともへ中一(〜中八了)へ中巻のみ梓あり

二1・2 (五) 五 (行・字)七・二四 一六丁  
ホ

ハ昔鏡輪廻の小車

ロ石童丸「山の段」

ハ2・石童丸上巻(〜七)

二1・1 (四) 二一、八\*一五、四 一八、〇 四 (行・字)六・一七 八丁

※長者町八丁目／玉沢屋新七 板

ハ昔鏡輪廻の小車「岸澤式治／玉沢屋新七」板

ロ石童丸下の巻

ハ2・石童丸下巻(〜九了)

二1・1 (四) 二二、四\*一五、六 一八、二 四 (行・字)七・一八 一〇丁

※1・板元／名古屋／玉沢屋新七／長者町

ハ首鏡輪小車上

ロ「常磐津文字太夫直傳」首鏡輪小車上「石童丸」

ホ

二2・2 (五) 二三、九\*一六、八 四 (行・字)七・二〇 九丁  
ホ

ハ「苜蓿桑門」高野山の段

ロ苜蓿山の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・かるかや二(〜六)

二1・2 (四) 四 (行・字)七・二三 八丁

※2/ 正本版元東京「地本」問屋「へ紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板へ印」



イ 〔苜蓿桑門〕高野山の段

ロ 苜蓿山の段〔常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

ア2・かるかや一(一)六了(六)あり

イ1・2 (四) Ⅱ (行・字) 七・二三 八丁

オa/ 正本版元東京〔地本／問屋〕へ紋く〔下谷區谷中清水町老番地〕／さか川平四郎板へ印く

イ 〔苜蓿桑門〕高野山の段

ロ

ア2・かるかや・かるかや二(一)六

イ1・2 (四) 二〇、九\*一四、四 一七、一 Ⅱ (行・字) 七・一五 七丁

オa/ 正本版元江戸〔地本／問屋〕〔墨消しにワタナヒ〕／紋くがや勘右衛門へ印く

イ 高野山山之段

ロ

イ2・2 (四) 二三、九\*一六、八 Ⅱ (行・字) 七・二〇 一一丁

オ

イ

ロ 〔高野山／山之段〕首鏡輪小車上

オ

イ2・2 (四) 一八、二\*一二、〇 Ⅱ (行・字) 六・一七 一〇丁

オ

イ 石山寺紅葉錦画〔作者櫻田治助述〕

ロ

オ

イ1・2 (四) Ⅱ (行・字) 七・一六 一三丁

オ

イ 一谷嫩軍記二段目與討段〔常磐津若太夫直傳〕

ロ 一谷嫩軍記

ア2・くみ討一・二・あつもり三(一)六了

イ1・1 (四) 二二、二\*一五、四 一八、〇 Ⅱ (行・字) 七・二六 七丁

オ 板元／名古屋長者町八丁目／玉澤屋新七

イ 一の谷嫩軍記組討の段〔常磐津文字太夫直傳〕



H0

2・1の谷老(八了)へ枠あり

1・2 (甲) 二一、四\*一四、二 一七、五 (行・字) 六・二一 八丁

明治十五年一月再板 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町位置番地「さか川平四郎板」印

1の谷嫩軍記組討の段「常磐津稽古本」

H0

2・1のたに老(六了)へ枠あり

1・2 (甲) 二〇、六\*一四、三 一七、九 (行・字) 七・一七 七丁

東都板元「南傳馬町老丁目」高屋吉蔵「同所」吉野屋勝五郎

1の谷嫩軍記

口「常磐津文字太夫直傳」1の谷嫩軍記「くみ討の段」

H0

2・2 (甲) 二三、八\*一六、七 (行・字) 七・一八 一〇丁

H0

10

口「常磐津文字太夫直傳」1の谷嫩軍記「下」

H0

2・2 (甲) 二一、七\*一四、二 (行・字) 六・一九 五丁

森一

1の谷嫩軍記組討の段「常磐津文字太夫直傳」

H0

2・1の谷老(八了)へ枠あり

1・2 (甲) 行・字) 六・一九 八丁

H0

1の谷嫩軍記二段目與討段「常磐津文字太夫直傳」

口1の谷嫩軍記「與討の段」

2・1の谷老(八了)へ枠あり

1・2 (甲) 行・字) 七・二四 七丁

大字七行けいこほん正本所「元濱町」伊賀屋勘右衛門版

祝帆旋歡迎萬歳

祝帆旋歡迎萬歳「常磐津小文字太夫」岸澤式佐「直傳」老満津替へ文句  
老まつ老(式了)



11・1 (四) 二二、二\*一五、四一七、〇 (行・字) 六・一〇 三丁  
\* 玉澤屋新七版 / 「明治廿八年八月四日印刷 / 同年同月同日出版」印刷兼発行者 / 「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

→ 狸々

□ 今様 / 狸々 「振付西川鯉三郎 / 三弦岸澤式壽」

10

11・1 (四) 二三、八\*一五、七一七、六 (行・字) 六・一五 四丁  
\* 〇

→ 狸々引ぬき

□ 今様 狸々引ぬき 「玉澤屋新七」

12・引ぬき巻 (〓三了)

11・1 (四) 二二、一\*一二、五一八、〇 (行・字) 六・一五 四丁  
\* 玉澤屋新七 / 明治十五年午十二月 /

→ 狸々引ぬき

□ 今様 狸々引ぬき

12・引ぬき巻 (〓三了)

11・1 (四) 二二、一\*一五、四一八、〇 (行・字) 六・一五 四丁  
\* 玉澤屋新七

→ 今様夜仇討會我 「岸澤古式部直傳 / 玉澤屋新七板元」

□ 「振付西川鯉三郎 / 三味線岸沢式壽」夜仇討會我

12・夜うちそが巻 (〓七了)

11・1 (四) 二二、九\*一五、四一八、三 (行・字) 六・一八 八丁

\* 2・名古屋長者町 / 玉沢屋新七 / 廣小路角板元

→ 今様夜仇討會我 「岸澤古式部直傳 / 玉澤屋新七板元」

□ 今様夜仇討會我 「正本所玉澤屋」

12・夜うちそが巻 (〓七了)

11・2 (四) 二二、七\*一五、四一八、四 (行・字) 六・一八 九丁

\* 常磐津豊後節正本 / 常磐津版元玉澤屋

→ 今様夜仇討會我 「岸澤古式部直傳 / 玉澤屋新七板元」

□ 今様夜仇討會我 「正本所玉澤屋」

12・夜うちそが巻 (〓七了)

11・2 (四) 二二、〇\*一五、三一八、二 (行・字) 六・一八 九丁



※常磐津豊後節正本「常磐津版元」〔大阪市西區北堀江御池通り式丁目十番地〕へ紋へ若林芳造へ印へ

へ今様夜仇討會我 「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

ロ今様夜仇討會我 「常磐津小文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ハ2・夜うちそが巻(七了)

ハ1・2 (B) 二一、五\*一五、二一六、二四 (行・字) 六・一八 八丁

ホ

へ今様夜仇討會我 「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

ホ

ハ2・夜うちそが巻(七了) へ枠ありへ

ハ1・2 (B) 二一、四\*一四、二一六、四 (行・字) 六・一八 七丁

※a/ 常磐津正本版元「發行兼印刷者」〔東京市下谷區谷中清水町喜番地〕へ坂川平四郎へ印へ

へ妹背塚松桜「作者堀越二三治」並木良助津打情祐」

ホ

ハ1・2 (B) 二 (行・字) 七・一九 一四丁

ホ

ハ2・まさゆめ一(二了)

ロ水滸傳會我風流「第老ばんめ三立目に相勤申候」〔故人与鳳亭三笑述〕狂言作者瀬川如臯」〔浄瑠璃〕下の巻「鷺鷥客姿

正夢」中村座

ハ2・へ判読不可へ

ハ1・1 (B) 八・二六 (行・字) 二 文政十一歳戊子正月吉辰日へ 正本版元「大傳馬町二丁目」いがや 勘

右衛門丁

ホ

へ鷺鷥客姿「常磐津小文字太夫直傳」

ホ

ハ2・おし鳥上巻(七了) 下巻(六了)

ハ1・2 (B) 二 (行・字) 七・一八 一四丁

※文政十一歳戊子正月吉辰日へ 「大傳馬町二丁目」いがや勘右衛門へ印へ

へ鷺鷥客姿「常磐津小文字太夫直傳」

ホ

ハ2・おし鳥上(五)

ハ1・2 (B) 二 (行・字) 六・一五 六丁



文政十一歳「戊子」正月吉辰、<sup>レ</sup> 正本版元東京「地本」問屋「<sup>ハ</sup>紋」上野廣小路元黒門町老番地「<sup>レ</sup>さか川平四郎板<sup>ハ</sup>印」

10

ロ「妹背山」婦女庭訓「妹背山の段」下「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎  
2・いもせ山の段下二（六了）

11・2 (B) 二一、一\*一四、〇 一七、六<sup>四</sup> (行・字) 七・二一 八丁

文久元「辛酉」霜月吉日、<sup>レ</sup> 常磐津豊後大掾藤原永光<sup>ハ</sup>印直傳「正本版元東京」地本「問屋」上野廣小路元黒門町老番地「<sup>ハ</sup>紋」さか川平四郎<sup>ハ</sup>印

1「くり言」ながら「御最辰を」妹背山道行「岸澤式治」玉澤屋新七「板」

ロ「妹背山」おみわ道行段

2・おみわ老（六了）

11・1 (B) 二二、七\*一五、五 一七、八<sup>四</sup> (行・字) 六・一九 七丁

1・版元「長者町」玉澤屋新七「廣小路」

願糸縁苧「常磐津小文字太夫直傳」寶田壽助補綴」<sup>ロ</sup>常磐津 お三輪道行の段（手書題簽）

2・おだまき老（六了）

11・2 (B) 二三、一\*一五、四 一八、五<sup>四</sup> (行・字) 六・二三 八丁

10

1「くり言」ながら「御最辰を」願糸縁苧「近松半二原作」寶田壽助補綴「岸澤市蔵節付」

ロ「おみわ」道行「願糸縁苧」常磐津直傳「版元坂川平四郎」

2・御みわ一（八）

11・2 (B) 二三、一\*一五、四 一八、二<sup>四</sup> (行・字) 六・一五 一一丁

a/ 正本版元東京 「東京都台東區谷中清水町老番地」坂川平四郎板<sup>ハ</sup>印

1「くり言」ながら「御最辰を」願糸縁苧「常磐津小文字太夫直傳」寶田壽助補綴」

10

2・おだまき老（六了）<sup>ハ</sup>枠あり

11・2 (B) 二一、〇\*一五、一 一八、五<sup>四</sup> (行・字) 六・二三 六丁

10

1「妹背山」婦女庭訓「縁苧環」常磐津豊後大掾直傳」

10

2・いもせ山下の巻上（老）上（六了）中（老）中（六了）下（老）下（六了）<sup>ハ</sup>枠あり

11・2 (B) B (行・字) 六・二一 一八丁

文久元酉年八月吉日



- イ 「妹背山」婦女庭訓「鎌七使者の段」〔玉澤屋新七板元〕
- ロ 妹背山御殿のだん
- ㇿ 2・ふか七巻(〜十五了)
- ニ1・1 (ロ) 四 (行・字) 六・二四 一六丁
- ㊦ 名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

イ 「お三輪」御殿の段上

ロ 「常磐津」お三輪「御殿の段上

ㇿ 〇

- ニ2・2 (ロ) 二三、〇\*一六、二一六、三 (行・字) 五・一〇 一二丁
- ㊦ 筆者 澤田春

イ 「お三輪」御殿の段

ロ 「常磐津」お三輪「御殿の段

ㇿ 〇

- ニ2・2 (ロ) 二三、〇\*一六、四一六、六 (行・字) 五・一二 二二丁
- ㊦ 筆者 澤田春

イ 「妹背山」婦女庭訓「鎌七使者の段」〔常磐津豊後大掾直傳〕

- ロ 「妹背山」婦女庭訓「鎌七使者の段」上「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎
- ㇿ 2・ふか七上巻(〜七了)
- ニ1・2 (ロ) 二一、一\*一四、三一六、四 (行・字) 六・二三 九丁
- ㊦ a/ 常磐津豊後大掾藤原永光印直傳「正本版江戸」〔地本「問屋」〕「いがや勘右衛門原板」人形町通松鳴町「紋」さか川平四郎板印

イ 色揚三番叟

ロ 色揚三番叟「老松

ㇿ 2・色上巻(〜式)

- ニ1・1 (ロ) 二二、八\*一五、八一八、〇 (行・字) 六・一六 三丁

㊦ 板元「長者町八丁目」玉沢屋新七

ㇿ 〇

- ロ 色儀梅野邊花道下「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板
- ㇿ 2・色さんげ下二(〜五了) 〇 枠あり
- ニ1・2 (ロ) 二一、四\*一四、五一七、七 (行・字) 七・一七 七丁
- ㊦ b/ 正本版元印「大傳馬町二丁目」「紋」いがや勘右衛門印

ㇿ 〇



ロ 色紙梅野邊花道「下」〔常磐津文字太夫直傳〕伊賀屋勘右衛門版〕

ナ2・色紙んげ下二（〜五了）

ニ1・2 （B） B （行・字）七・一九 七丁

※ 綴賀写ノ D/ 板元〔大傳馬町式丁目〕いがや勘右衛門印

ナ1〔おもしろき人をおよび出すしぐれかな〕色紙寝覚床〔作者増山金八述〕

ロ

ナ0

ニ1・2 （B） B （行・字）七・二三 一五丁

ナ0

ナ 色紙初手玉章〔作者笠縫専助述〕

ロ

ナ2・玉つぎ上ノ巻（〜上ノ八・下ノ巻）下ノ十一終）

ニ1・2 （B） B （行・字）七・二八 一九丁

ナ0

ナ 色紙副寝冊〔常磐津文字太夫直傳〕作者瀬川如皋述〕

ロ 色紙副寝冊「上」〔常磐津文字太夫直傳〕正本所伊賀屋勘右門板〕

ナ2・しがらみ上二（〜上六了）

ニ1・1 （B） B （行・字）七・二七 八丁

※ a/ 正本版元江戸〔地本問屋〕ハ紋ノ神田鍋町ノいがや勘右衛門印

ナ1〔所作事とノ申も恐れノ有ふれてノ時代世話〕艶紅接拙〔常磐津小文字太夫直傳〕岸澤式佐節付ノ狂言堂左交述〕

ロ

ナ2・いろもみぢ巻（〜七了）

ニ1・2 （B） 二〇・一\*一四、一 一七、七 B （行・字）六・一八 八丁

※ a/ 正本版元東京〔地本問屋〕ノ上野廣小路元黒門町巻番地ノハ紋ノさか川平四郎板印

ナ 祝月間帯解〔笠縫専助述〕

ロ

ナ0

ニ1・2 （B） B （行・字）七・一八 一五丁

ナ0

ナ1〔那須ノ与市〕初陣の児鏡〔岸沢式治ノ玉沢屋新七ノ板〕

ロ 〔駒若ノ小太郎〕初陣の児鏡

ナ2・那須上巻（〜十七了）



11・1 (甲) 二二、五\*二五、五一七、四cm (行・字) 七・一九 一八丁  
\*1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ハ「那須／与市」初陣の児鑑「岸沢式治／玉沢屋新七／板」

ロ「駒若／小太郎」初陣の児鑑

2・那須上巻(〜十)

11・1 (甲) 二二、一\*一五、五一七、五cm (行・字) 七・一九 一一丁

\*1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ハ初陣の児鑑「常磐津文字太夫直傳」

ロ初陣の児鑑「初代文字太夫正本」ハ手書

2・うるじん上巻(〜七了・下巻〜七了)ハ梓あり

11・2 (甲) 二〇、四\*一四、三一八、〇cm (行・字) 七・二六 一四丁

\*1/ 正版本「高砂町南新道」いがや勘右衛門ハ印

10

ロ初陣の児鑑 下の巻

2・那須十一(〜十七了)

11・1 (甲) 二二、一\*一七、三一七、三cm (行・字) 七・一九 八丁

\*2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ハ初陣の児鑑「常磐津文字太夫直傳」

ロ「那須／与市」初陣の児鑑「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

2・うるじん上巻(〜上七了)ハ梓あり

11・1 (甲) 甲 (行・字) 七・二三 九丁

\*1/ 正版本元東京「地本／問屋」ハ紋／「人形町通松嶋町」さか川平四郎板ハ印

10

ロ「那須／与市」初陣の児鑑「下」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

2・うるじん下巻(〜七了)ハ梓あり

11・2 (甲) 甲 (行・字) 七・二三 九丁

\*1/ 正版本元江戸「地本／問屋」ハ紋／「人形町通松嶋町」さか川平四郎板ハ印

ハ初陣の児鑑「常磐津文字太夫直傳」

10

2・ハ判読不可

11・2 (甲) 甲 (行・字) 七・二四 八丁

\*1/ 正版本元江戸「地本／問屋」ハ紋／「神田鍛冶町二丁目」いがや勘右衛門ハ印



10

H0

22・△判読不可

11・2 (B) B (行・字)七・二七 一〇丁

カb/ △判読不可いがや勘右衛門

1 鶉飼船

H0 [常磐津]鶉飼船

H0

12・2 (B) 二二、九\*一五、八一七、〇 B (行・字)五・一〇 六丁

カ0

1 1 1 うかむ瀬狸々 [作詞半井桃水 作曲常磐津文字八]

H0 [常磐津]うかむ瀬狸々

H0

12・2 (B) 二二、九\*一六、〇 一六、五 B (行・字)五・九 五丁

カ0

1 道行浮名の蹟染 [櫻田左交述]

H0 増補重井筒 [第二番目大切] [しつぽりと 藤にぬれ事] 道行浮名の蹟染 [左交述] / 上 / 市村座

2 2 2 おぼろぞめ上巻 (上二・下巻) △梓あり 11・1 (B) B (行・字) 一〇・三二 三丁

\* 正本板元 大傳馬町式丁目 いがや勘右衛門

1 1 1 染りけも / 拙き手業や / 桃の鉢 [農士新酒の秋月] 雑兵早打の帰帆

H0 農士新酒の秋月 [七変化之内] / うし路めん / ぐんびやう [市川鯉三郎 奴 / 牛若市川久吉 相勤申候]

2 2 2 後めん二 (二) 三 見立八景了 △梓あり

1 1 1 (B) B (行・字) 七・二〇 四丁

\* 板元 1 長者町 / 玉澤屋新七 / 廣小路板元

1 壽勃猿

H0

2 2 2 鞠さる老 (六了) △梓あり

1 1 2 (B) B (行・字) 七・二〇 六丁

カ0

1 1 1 奴鳴田の / 八幡諸候 / 奴容形の / 太郎冠者 [花舞臺霞の猿曳] [玉澤屋新七板]

H0 白旗世界樹今鏡 [第壹番目三立目] [浄瑠璃] / 花舞臺霞の猿曳



2・さる曳老(さる引九了)

11・1 (B) 二一、六\*一四、五 一七、五 (行・字) 七・一七 一〇丁

板元/長者町/玉沢屋新七/廣小路

「奴嶋田の八幡諸候/奴容形の太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「玉澤屋新七板」

「うつほ」花舞臺霞猿曳「正本所玉澤屋」

2・さる曳老(さる引式九了)

11・2 (B) 二二、七\*一六、〇 一七、五 (行・字) 七・一七 一一丁

常磐津豊後節「正本」常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目重番地」/紋/若林芳造/印

「壽靱猿」常磐津文字太夫直傳/作者福森久助述

10

2・物さる老(六了)

11・2 (B) 四 (行・字) 七・二一 七丁

文化十二「乙亥」年初秋 / 正本版元江戸「地本」問屋「紋」/堺町通新和泉町北がわ「い」がや勘右衛門/印

「奴嶋田の八幡諸候/奴容形の太冠者」花舞臺霞猿曳「常磐津文字太夫直傳/作者中村重助述」

10

2・さる曳上老(五了) / 印あり

11・2 (B) 一〇、一\*一三、八 一七、四 (行・字) 六・二〇 六丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「い」がや勘右衛門原板/人形町通松嶋町「紋」さか川平四郎板/印

「奴嶋田の八幡諸候/奴容形の太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳/作者中村重助述」

口花舞臺霞猿曳「上下」「うつほ」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2・さる曳上老(式・さるひき上三)五了・さるひき下老(四・引五了) / 印あり

11・2 (B) 二一、六\*一五、三 一七、〇 (行・字) 六・一八 一一丁

\*天保九戌霜月 / 正本版元東京「地本」問屋「下」谷區谷中清水町老番地「紋」さか川平四郎板/印

「奴嶋田の八幡諸候/奴容形の太郎冠者」花舞臺霞猿曳「常磐津文字太夫直傳/作者中村重助述」

10

2・うつほ上老(五了)・下老(五了)

11・2 (C) 二二、九\*一五、五 一八、二 (行・字) 六・一八 一一丁

\*天保九戌霜月(坂川蔵版) / 常磐津正本版元「印」兼発行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」/坂川平四郎/印

「奴嶋田の八幡諸候/奴容形の太郎冠者」花舞臺霞猿曳「常磐津文字太夫直傳/作者中村重助述」

口花舞臺霞の猿曳「うつほ」上下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

「うつほ上老(五了)・下老(五了)」

11・2 (B) 二三、一\*一五、四 一八、三 (行・字) 六・一八 一二丁



天保九戌霜月、昭和廿三年老月再版(坂川蔵版) / 常磐津正本版元「印刷兼發行者」東京都台東區谷中清水町老番地「坂川平四郎」印

イ「朝猿」花舞臺霞猿曳

ロ「常磐津」うつほ猿「花舞臺霞猿曳」

No

11・2 (B) 111、五\*一五、五 一七、六 (行・字) 五・一〇 二三丁

筆者 澤田春

イ「奴嶋田の八幡諸候」奴容形の「太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ「花舞臺霞の猿曳」上「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板

12・さるひき上巻(五了)「梓あり」

11・2 (B) B (行・字) 六・二〇 七丁

12a/ 正本版元江戸「紋」神田鍛冶町式丁目「い」がや勘右衛門「印」

イ「奴嶋田の八幡諸候」奴容形の「太郎冠者」花舞臺霞猿曳「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

12・さるひき上巻(五了)「梓あり」

11・2 (B) B (行・字) 六・一九 六丁

12a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」判読不可「い」がや勘右衛門「紋」

10

No

12・さるひき下巻(五了)「梓あり」

11・2 (B) B (行・字) 六・一九 六丁

12a/ 天保九戌霜月「印」 正本版元江戸「地本」問屋「紋」判読不可「い」がや勘右衛門「紋」

10

No

12・さるひき下巻(四)・さる引五了「梓あり」

11・2 (B) 110、一\*一三、八 一七、四 (行・字) 六・二〇 六丁

12a/ 天保九戌霜月「印」 正本版元江戸「地本」問屋「い」がや勘右衛門原板「印」紋「さか川平四郎板」印

イ「奴嶋田の八幡諸候」奴容形の「太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

No

12・さるひき上巻(五了)「梓あり」

11・2 (B) B (行・字) 六・二〇 六丁

12a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印



- ナ 「奴嶋田の八幡諸候／奴容形の太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳」×作者中村重助述  
 ニ 花舞臺霞の猿曳「上」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎  
 ニ・ヌ なるひき上巻（～五了）△梓あり  
 ニ・一・二 (B) 三 (行・字) 六・二〇 七丁  
 ニ a/ 正本版元東京「地本／問屋」△紋▽「下谷區谷中清水町老番地」／さか川平四郎板△印▽ 大正七年四月六日／日の出や内／吉弥

ノ

- ノ 花舞臺霞の猿曳「下」「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板  
 ノ・ヌ なるひき下巻（～五了）△梓あり  
 ノ・一・二 (B) 三 (行・字) 六・二〇 七丁  
 ノ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」△紋▽「神田鍛冶町式丁目」／いがや勘右衛門△印▽

ハ 「奴嶋田の八幡諸候／奴容形の太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳」×作者中村重助述

ロ 花舞臺霞の猿曳「上下」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ・ヌ なるひき上巻（～上五了・下巻～五了）△梓あり▽

ハ・一・二 (B) 三 (行・字) 六・二〇 一一丁

ハ 天保九戊寅月ノニ 正本版元東京「地本／問屋」△紋▽「人形町通松嶋町」／さか川平四郎板△印▽

ハ 「奴嶋田の八幡諸候／奴容形の太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳」×作者中村重助述

ロ 花舞臺霞の猿曳「上」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ・ヌ なるひき上巻（～上五了・下巻～五了）△梓あり▽

ハ・一・二 (B) 三 (行・字) 六・二〇 一一丁

ハ a/ 正本版元東京「地本／問屋」△紋▽「上野廣小路元黒門町老番地」／さか川平四郎板△印▽

ハ 「奴嶋田の八幡諸候／奴容形の太郎冠者」花舞臺霞の猿曳「常磐津文字太夫直傳」×作者中村重助述

ロ

ハ・ヌ なるひき上巻（～上五了・下巻～五了）△梓あり▽

ハ・一・二 (B) 三 (行・字) 六・二〇 一一丁

ハ a/ 正本版元東京「地本／問屋」△紋▽「人形町通松嶋町」／さか川平四郎板△印▽

ハ 花舞臺霞の猿曳

ロ

ハ・ヌ なるひき上巻（～上五了・下巻～五了）△梓あり▽

ハ・一・二 (B) 三 (行・字) 六・二〇 一〇丁

オ



ハ 紅葉傘糸錦色木「河竹新七述」

ロ

カ2・ウとウ寄上二(〽九了)

ニ1・2 (B) 二〇、七\*一四、二一八、〇 (行・字) 七・二二 一〇丁

キa/ 正本版元江戸「地本/問屋」いがや勘右衛門原板/人形町通松嶋町へ紋さか川平四郎板へ印

ク

ロ 紅葉傘糸錦色木「下」[常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎]

カ2・ウとウ寄下寄(〽十一了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 一三丁

キa/ 正本版元東京「地本/問屋」へ紋/上野廣小路元黒門町老番地/さか川平四郎板へ印

コ

ロ 紅葉傘糸錦色木「下」[常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎]

カ2・ウとウ寄下寄(〽十一了)

ニ1・2 (B) 二〇、九\*一四、二一七、五 (行・字) 七・二〇 一三丁

キa/ 正本版元東京「地本/問屋」上野廣小路元黒門町老番地/へ紋さか川平四郎板へ印

ハ 紅葉笠糸錦木

ロ [常磐津文字太夫直傳]紅葉笠糸錦木「うたふ」

ク

ニ2・2 (B) 二二、三\*一六、五 B (行・字) 七・一九 八丁

キ

ハ 紅葉傘糸錦木「上」[常磐津文字太夫直傳/作者河竹新七述]

ロ 紅葉傘糸錦木「上」[常磐津文字太夫直傳/正本所伊賀屋勘右門板]

カ2・ウとウ寄(〽九了)へ枠あり

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 一一丁

キa/ 正本版元江戸「地本/問屋」[神田鍛冶町式丁目]へ紋いがや勘右衛門へ印

ハ 紅葉傘糸錦木「上」[常磐津文字太夫直傳/作者河竹新七述]

ロ

カ2・ウとウ寄(〽九了)へ枠あり

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 一〇丁

キa/ 正本版元江戸「地本/問屋」[神田鍋町]へ紋いがや勘右衛門へ印

ハ 紅葉傘糸錦木「作者河竹新七述」

ロ 紅葉傘糸錦木「上」[常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎]



㍷2・うとみ上二(〜九丁)

㍷1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・二二 一一丁

㍷a/ 正本版元江戸「地本/問屋」上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

㍷ 紅葉傘糸錦色木「常磐津文字太夫直傳/作者河竹新七述」

㍷0

㍷2・判読不可へ枠あり

㍷1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・二二 二〇丁

㍷0

㍷ 姥母が望智

㍷ 姥餅のだん

㍷2・うはかもち老(〜十丁)

㍷1・1 (㍷) ㍷1三、三\*一五、七 一七、五 ㍷ (行・字) 七・二二 一一丁

㍷1・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元

㍷ 梅川/忠兵衛「傾城戀飛脚」飛脚屋の段「常磐津小文字太夫直傳/岸澤式佐節付」

㍷ 梅川/忠兵衛「傾城戀飛脚上」飛脚屋の段「常磐津小文字太夫直傳/正本所坂川平四郎」

㍷2・恋飛脚上老(〜五丁)

㍷1・2 (㍷) ㍷1一、三\*一四、二 一六、二 ㍷ (行・字) 六・一七 七丁

㍷a/ 正本版元東京「地本/問屋」下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

㍷ 梅川/忠兵衛「傾城戀飛脚」常磐津小文字太夫直傳/岸澤式佐節付」飛脚屋の段

㍷0

㍷2・戀飛脚上老(〜上五丁・下二〜五丁)へ枠あり

㍷1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 六・一六 一一丁

㍷a/ 常磐津正本版元「發行兼印刷者」東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎「印」

㍷0

㍷ 梅川/忠兵衛「傾城戀飛脚下」飛脚屋の段「常磐津小文字太夫直傳/正本所坂川平四郎」

㍷2・恋飛脚下一(〜五丁)

㍷1・2 (㍷) ㍷1一、三\*一四、二 一六、四 ㍷ (行・字) 六・一九 七丁

㍷a/ 正本版元東京「地本/問屋」上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

㍷ 梅川/忠兵衛「道行恋三度笠」

㍷ 梅川/忠兵衛「道行恋三度笠上」

㍷2・梅川上老(〜六)

㍷1・1 (㍷) ㍷1二、三\*一六、二 一八、〇 ㍷ (行・字) 七・二二 七丁



※長者町八丁目玉澤屋新七 板

ノ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠

ロ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠下

ハ2・梅川下巻(八)

ハ1・1 (ロ) 二一、九\*一五、三一八、〇ロ (行・字) 七・二三 九丁

※長者町八丁目玉澤屋新七 板

ノ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠

ロ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠「正本所玉澤屋」

ハ2・梅川上巻(六)

ハ1・2 (ロ) 二二、九\*一六、〇一七、八ロ (行・字) 七・二三 八丁

※常磐津豊後節正本／常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」へ紋若林芳造へ印

ノ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠

ロ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠下「正本所玉澤屋」

ハ2・梅川下巻(八)

ハ1・2 (ロ) 二二、一\*一五、五一七、九ロ (行・字) 七・二三 一〇丁

※常磐津豊後節正本／常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」へ紋若林芳造へ印

ノ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠「常磐津文字太夫直傳」

ロ「梅川／忠兵衛」道行恋三度笠「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・梅川上巻(六了・下巻(六了))

ハ1・2 (ロ) 二三、一\*一五、三一八、五ロ (行・字) 七・二三 一四丁

※a/ 正本版元東京「地本問屋」下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ノ梅忠 恋の三度笠

ロ「常磐津」恋の三度笠／梅忠

ハ0

ハ2・2 (ロ) 二二、五\*一五、五一八、五ロ (行・字) 四・一〇 一七丁

ハ0

ノ「梅川／忠兵衛」道行戀三度笠「常磐津文字太夫直傳」

ロ「梅川／忠兵衛」道行戀三度笠「上」常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右衛門版

ハ2・梅川上巻(六了)へ梓あり

ハ1・2 (ロ) 二 (行・字) 七・二一 八丁

※再版/a/ 正本版元江戸「地本問屋」へ紋「神田鍋町西横町」いがや勘右衛門へ印



ノ「梅川」忠兵衛「道行戀三度笠」常磐津文字太夫直傳」

ロ

メ2・梅川上一（六了）

ニ1・2（ロ） 四（行・字）七・二四 七丁

※文久元酉年八月再板ノ 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」〔紋〕「人形町通松嶋町」ノさか川平四郎  
〔印〕

ノ「梅川」忠兵衛「道行戀三度笠」常磐津文字太夫直傳」

ロ「道行戀三度笠」上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

メ2・梅川上老（六了）（梓あり）

ニ1・2（ロ） 四（行・字）七・二一 八丁

※再板ノ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町」ノさか川平四郎板（印）

ノ「梅川」忠兵衛「道行戀三度笠」上「常磐津文字太夫直傳」

ロ「道行戀三度笠」上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

メ2・梅川上老（六了）（梓あり）

ニ1・2（ロ） 四（行・字）七・二一 八丁

※正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地」ノさか川平四郎板（印）

ノ「道行戀三度笠」常磐津文字太夫直傳」

ロ

メ2・梅川上老（六了）（梓あり）

ニ1・2（ロ） 四（行・字）七・二一 六丁

※明治十五年區月再版

ノ

ロ「梅川」忠兵衛「道行戀三度笠」下「常磐津稽古本」芳野屋勝五郎板」

メ2・梅川下老（六了）（梓あり）

ニ1・2（ロ） 四（行・字）七・二一 八丁

※東都板元「紋」南傳馬町老丁目」芳野屋勝五郎「紋」同町」高屋吉蔵

ノ

ロ

メ2・梅川下一（七了）

ニ1・2（ロ） 四（行・字）七・二四 八丁

※文久元酉年八月再板ノ 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」〔紋〕「人形町通松嶋町」ノさか川平四郎  
〔印〕



メ「梅川／忠兵衛」道行懸三度笠「常磐津文字太夫直傳」

ロ

メ2・梅川上巻(〜上六了・下1〜六了)〈枠あり〉

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二一 一三丁

※再版/ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〈紋〉〈判読不可〉/ いがや勘右衛門〈印〉

メ「梅川／忠兵衛」道行懸三度笠「常磐津文字太夫直傳」

ロ

メ2・梅川上巻(〜上六了・下1〜六了)〈枠あり〉

ニ1・2 (ロ) 五 (行・字) 七・二六 一三丁

※a/ 正本版元東京「地本／問屋」〈紋〉「下谷區谷中清水町老番地」/ さか川平四郎「印」

メ「梅川／忠兵衛」道行懸三度笠「新口村」  
「常磐津文字太夫直傳」

ロ

メ2・梅川上巻(〜上六了・下巻〜六了)〈枠あり〉

ニ1・2 (ロ) 五 (行・字) 七・二一 一二丁

※麴町區通拾丁目十四番地／稽古本老式特約販賣／大橋楽器店

メ「梅川／忠兵衛」道行懸三度笠

ロ

メ2・梅川上巻(〜上六了・下巻〜六了)〈枠あり〉

ニ1・2 (ロ) 五 (行・字) 七・二一 一二丁

ホ

メ「梅川／忠兵衛」燕鳥故郷軒「常磐津文字太夫直傳」作者村岡幸治述

ロ

メ2・梅川巻(〜八了)〈枠あり〉

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二二 九丁

※a/ 正本版元江戸「a-y／問屋」〈紋〉「神田鍛冶町」/ いがや勘右衛門〈印〉

メ「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中の隠井「岸澤式治／玉沢屋新七／板」

ロ「梅野由兵衛」茜染野中の隠井

メ2 あかねぞめ 巻(〜十三了)

ニ1・1 (ロ) 二一、八\*二五、五 一七、二四 (行・字) 七・一二 一四丁

※1・名古屋長者町／玉沢屋新七／広小路角板元

メ「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中隠井・茜染野中隠井

ロ「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中隠井「上」  
「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎



㍷・あかねぞめ上二(六了)・下巻(六了)  
㍷・1 (㍷) 二〇、八\*一四、〇 一七、九 (行・字) 七・二〇 一三丁  
㍷

㍶「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中隠井

㍷ 茜染野中隠井

㍷・判読不可

㍷・1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・二三 一八丁

㍷

㍸

㍷「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中隠井「上」〔常磐津文字太夫直傳／正本所伊賀屋勘右門〕  
㍷・あかねぞめ下巻(六了)

㍷・1・2 (㍷) 二〇、八\*一四、二 一七、九 (行・字) 七・二〇 八丁

㍷ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〔いがや勘右衛門原板／人形町通松嶋町〕へ紋／さか川平四郎板へ印

㍶「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中隠井

㍷

㍷・あかねぞめ上巻(六了)

㍷・1・2 (㍷) 二〇、八\*一四、二 一七、九 (行・字) 七・二〇 七丁

㍷ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〔いがや勘右衛門原板／人形町通松嶋町〕へ紋／さか川平四郎板へ印

㍶「梅の由兵衛／浮名の二人妻」茜染野中隠井

㍷

㍷・判読不可

㍷・1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 八・二九 一〇丁

㍷

㍶ 茜染野中隠井

㍷「常磐津節」茜染野中隠井「上」〔ひらかなけいこ本〕「梅の由兵衛／浮名の二人妻」

㍷・あかねぞめ上巻(六了)へ梓あり

㍷・1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・二二 七丁

㍷「南傳馬町き丁目」／芳野屋勝五郎板

㍶ 茜染野中隠井

㍷「常磐津節」茜染野中の隠井「下」〔ひらかなけいこ本〕「梅野由兵衛／女房小梅／丁稚長吉」㍷・あかねぞめ下二(六了)へ梓あり

㍷・1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・二九 七丁



\* 「南傳馬町一丁目」〔芳野屋勝五郎板〕

ハ 「梅の由兵衛」浮名の二人妻」茜染野中の隠井

ロ

ニ2・あかね染上巻(〜上六了・下巻〜下六了)

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二三 一二丁

オ

ハ 道行栄花月」常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述」

ロ

ニ2・栄花月上巻(〜六了)

ニ1・2 (ロ) 二一、一\*四四、三一七、五四 (行・字) 七・一七 七丁

\* a/ 正本版元江戸」地本」問屋」神田鍛冶町二丁目」いがや勘右衛門」印

ハ 「牙たりな」福原ばかり」関の月」栄花の夢全盛遊」常磐津小文字太夫直傳」作詞や松嶋てうふ述」

ロ 重年花源氏顔鏡」第一ばん目四立めに相勤申候」「牙たりな」福原ばかり」関の月」栄花の夢全盛遊」市村座」狂言作者

松嶋」見消」上

ニ2・ぜんせい遊巻(〜三)

ニ1・1 (ロ) 四 (行・字) 一〇・三九 三丁

\* 板元」判読不可」式丁目いがや勘右衛門

ハ 栄花の夢全盛遊」常磐津小文字太夫直傳」作詞や松嶋てうふ述」

ロ

ニ2・全盛遊上巻(〜上六了・下巻〜下六了)

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・一五 一二丁

\* b/ 「大傳馬町二丁目」いがや勘右衛門」印

ハ 歳旦恵方の寶

ロ 歳旦恵方の寶

オ

ニ1・1 (ロ) 四 (行・字) 七・二四 二丁

\* 板元」いがや

ハ 老

ロ 老

ニ2・老松

ニ1・1 (ロ) 二三、〇\*一五、七 一七、八四 (行・字) 六・一四 二丁

\* 名古屋長者町」玉澤屋新七」八丁目廣小路上



ノ老松

ロ老松

NO

112・2 (四) 二三、六\*一六、七 (行・字) 六・一六 三丁

NO

ノ老まつ

ロ老まつ「直傳しやうまつ」

112・老松二 111・1 (五) (行・字) 六・一八 二丁

※するがや文右衛門「正本板元いがや勘右衛門」

ノ老まつ

ロ老まつ「直傳しやうまつ」

112・老松二

111・2 (五) (行・字) 六・一六 三丁

※するがや文右衛門「正本板元いがや勘右衛門」  
正本版元江戸「地本問屋」へ紋へ「いがや勘右衛門原板」人形町  
通松嶋町「さか川平四郎板」印へ

ノ老まつ

ロ老まつ「直傳しやうまつ」

112・老松二

111・1 (五) (行・字) 六・一八 四丁

※するがや文右衛門「いがや勘右衛門」正本板元「坂川平四郎」

ノ老まつ

ロ老まつ「直傳しやうまつ」

112・老松二

111・1 (五) (行・字) 六・一八 二丁

※上野元黒門町一番地「正本所」坂川平四郎

ノ老まつ

ロ老まつ「直傳しやうまつ」

NO

111・1 (五) (行・字) 六・一八 二丁

※するがや文右衛門「正本板元」和國橋通小舟町二丁目「いがや勘右衛門」

ノ老まつ



ロ 老まつ「直傳しやうきし」

マ2・おいまつ一・おいまつ二了へ梓あり

ニ1・1 (B) B (行・字) 六・一八 三丁

※ 東京市下谷區谷中清水町老番地へ正本板元坂川平四郎へ  
※ 本版元東京「地本へ問屋」へ紋へ「下谷區谷中清水町老番地」へさか川平四郎へ印へ

ノ「新曲」扇獅子

ロ「午の歳旦」新曲へ扇獅子「指手引手西川鯉三郎へ古河黙阿弥述へ岸澤寿佐久調」

マ2・属しへ老へ式了)

ニ1・1 (B) 二二、一\*二五、二一六、八B (行・字) 六・一二 三丁

※ 常磐津一流へ正本板元 玉沢屋新七へ 明治廿八年八月十八日印刷へ同年同月同日出版印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」へ佐々新七

ノ「新曲」扇獅子

ロ「午の歳旦」新曲へ扇獅子「指手引手西川鯉三郎へ古河黙阿弥述へ岸澤寿佐久調」

マ2・属しへ老へ式了)

ニ1・1 (B) 二二、〇\*一五、二一六、八B (行・字) 六・一二 三丁

※ 常磐津一流へ正本板元 玉沢屋新七

ノ 奥州安達原雪降の段「岸澤式佐直傳」

ロ

マ2・安達原老へ十二了)

ニ1・1 (B) 二二、二\*一八、五一八、五B (行・字) 六・一八 一二丁

※ 2・名古屋長者町へ玉澤屋新七へ廣小路角板元

ノ 奥州安達原雪降の段「常磐津小文字太夫直傳へ岸澤式佐節付」

ロ

マ2・安達原上一へ六了)

ニ1・2 (B) 二一、四\*一四、二一五、五B (行・字) 六・二〇 八丁

※ 2へ 正本板元東京「地本へ問屋」へ「下谷區谷中清水町老番地」へ紋へさか川平四郎板へ印へ

ノ 奥州安達原「常磐津文字太夫直傳へ岸澤式佐節付」へ雪降の段

ロ

マ2・安達原上一へ上六了・下老へ下五了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・二〇 一一丁

※

ノ「お梅へ久米野助」我衣手運躰「常磐津文字太夫直傳」



110

2・高野老(七畢)△梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二〇 八丁

110

1「事跡は古き/姿見の橋/名譽は今に/高田の里」歌徳惠山吹「常磐津太夫文中直傳/岸澤式佐節附/作者河竹黙阿弥述」

110

2・ぬれ衣上老(上七了)△梓あり

11・1 (B) B (行・字) 六・一六 一三丁

110

1「事跡は古き/姿見の橋/名譽は今に/高田の里」歌徳惠山吹「常磐津太夫文中直傳/岸澤式佐節附/作者河竹黙阿弥述」

2「太田道灌/高田の里」歌徳惠山吹「上下」上の巻「常磐津太夫文中直傳/岸澤式佐節付/正本所坂川平四郎」

2・歌の徳上老(七了・下老)△梓あり

11・2 (B) 11・1 \* 15、四 一七、七 B (行・字) 六・一六 一五丁

2a/ 明治二十一年一月廿六日印刷/明治二十一年一月廿七日出版/東京本所區南二葉町三拾老番地/著者吉村新七/東京下谷區谷中清水町老番地/発行者兼印刷者坂川平四郎△印

1「事跡は古き/姿見の橋/名譽は今に/高田の里」歌徳惠山吹下の巻「常磐津太夫文中直傳/岸澤式佐節附/作者河竹黙阿弥述」

彌著述

1「事跡は古き/姿見の橋/名譽は今に/高田の里」歌徳惠山吹「上下」下の巻「常磐津太夫文中直傳/岸澤式佐節付/正本所坂川平四郎」

2・歌の徳下の上老(六了・下)△梓あり

11・2 (B) 11・1 \* 15、四 一七、五 B (行・字) 六・一六 一四丁

2a/ 明治二十一年三月廿六日印刷/明治二十一年三月七日出版/東京本所區南二葉町三拾老番地/著者吉村新七/東京下谷區谷中清水町老番地/発行者兼印刷者坂川平四郎△印

1「事跡は古き/姿見の橋/名譽は今に/高田の里」歌徳惠山吹「上の巻」・同道瀧物語「下の巻」

2「當<sub>レ</sub>戌の/十老月十四日」常磐津岸沢連中/其水作東兩國/中村横に於而/晴雨共相催候「歌徳惠山吹」第二段新曲/其弟寫沢水/惣連中出勤

11・011(〜09)

11・1 (B) B (行・字) 11・三三 九丁

千穂満歳大入叶

1「事跡は古き/姿見の橋/名譽は今に/高田の里」歌徳惠山吹「上の巻」

2「當<sub>レ</sub>戌の/十一月十日」歌徳惠山吹「第二段新曲/其弟寫沢水/惣連中出勤」常磐津連中/岸沢連中/其水作/東兩國/中村横に於而/晴雨共相催候

11・011(〜09)



11・1 (B) 二二、七\*一五、四 一八、五cm (行・字) 一一・三一・〇丁

ノ「事跡は古き姿見の櫛」名譽は今に高田の里」歌徳恵山吹「常磐津太夫文中直傳」岸澤式佐節附「作者河竹黙阿弥述」

10

11・1 (B) B (行・字) 六・一七 一二丁

9

ノ大森彦七「常磐津文字太夫直傳」故櫻癡居士新作」

ロ「明治三十年十月狂言」中幕

11相勤申候「明治座」「新歌舞伎十八番之内」大森彦七

12・大森彦七「七」ハ梓あり

11・1 (B) 二三、〇\*一五、〇 一七、八cm (行・字) 六・一五 九丁

明治四十二年西三月吉日ノ明治四十二年三月十日印刷「明治四十二年三月十三日發行」補述者「東京下谷區上根岸町八十六番地」覆本虎彦「常磐津正本版元」東京都下谷區谷中清水町老番地」印刷兼發行者坂川平四郎

ノ大森彦七「常磐津文字太夫直傳」故櫻癡居士新作」

10

12・大森彦七「七」

11・2 (B) 二二、四\*一五、四 一七、八cm (行・字) 六・一五 七丁

明治四十二年西三月吉日

ノ「新歌舞伎十八番之内」大森彦七「常磐津文字太夫直傳」

ロ大森彦七

12・大森彦七「七」

11・2 (B) 二三、六\*一六、〇 一七、七cm (行・字) 六・一五 一〇丁

昭和廿八年拾月一日印刷「昭和廿八年拾月五日發行」常磐津稽古本「校訂著作十六世宗家常磐津文字太夫」東京都中央區日本橋吳服橋三丁目老番地」發行者常岡晃「東京都中央區日本橋吳服橋三丁目老番地」印刷者江川堂印刷株式會社「住所略」發行所定本常磐津刊行會

ノ大森彦七

ロ常磐津大森彦七

10

12・2 (B) 二三、〇\*一六、三 一七、五cm (行・字) 五・一〇 一五丁

9

ノ色直肩毛氈



口色直肩毛氈「お龜与兵衛」

㊦2・おかめ吉(〜五)

㊦1・1 (B) 二二、四\*一五、七 一八、四cm (行・字) 六・一六 六丁

㊦2・板元/玉沢屋新七

㊦「おかめ/与兵衛」色直肩毛氈「常磐津小文字太夫直傳」作者奈河本助述

印

㊦2・おかめ一(〜五)

㊦1・2 (B) B (行・字) 六・一四 六丁

㊦文政十三年庚寅春/㊦ 正本江戸「地本/問屋」へ紋/「墨」消シ「い」がや勘右衛門へ印

㊦「おかめ/与兵衛」色直肩毛氈「常磐津文字太夫直傳」作者奈河本助述

印

㊦2・おかめ一(〜五)

㊦1・2 (B) B (行・字) 六・一四 六丁

㊦文政十三年庚寅春/㊦ 正本板元江戸「地本/問屋」いがや勘右衛門原板へ紋/「人形町通松鳴町」/さか川平四郎板へ印

㊦「おかめ/与兵衛」色直肩毛氈「常磐津文字太夫直傳」作者奈河本助述

印

㊦2・おかめ一(〜五)

㊦1・2 (B) B (行・字) 六・一四 六丁

㊦文政十三年庚寅春/㊦ 正本板元東京「地本/問屋」へ紋/「上野廣小路元黒門町老番地」/さか川平四郎板へ印

㊦「おきく/幸助」比翼加賀紋「常磐津文字太夫直傳」

印「おきく/幸助」ひよく加賀もん

㊦2・かゝもん二(〜七)

㊦1・2 (B) 二二、九\*一五、一 一八、五cm (行・字) 七・一七 八〇丁

㊦文字太夫直傳清書所/沾翁書/ 常磐津文字太夫直傳/ 江戸正本板元「たちばな町」二丁目「地本問屋いづみやじん四郎」印

㊦稻穂是當嬢「作者漆越二三次」

印

㊦2・さでそよ一(〜十三上終・下二〜下十三)

㊦1・2 (B) B (行・字) 六・一五 二三丁

印

㊦「おこま/才三」白木屋の段「岸澤式治/玉澤屋新七」板



ロ「おこま才三」戀娘昔八丈、白木屋のだん

ナ2・しろき老(〜八)・白木屋九了

ハ1・1 (ロ) 二一、五\*一五、〇 一七、一 (行・字) 七・二〇 一〇丁

ナ1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

ハ「おこま才三」白木屋の段「岸澤式治、玉澤屋新七、板」

ロ「おこま才三」戀娘昔八丈、白木屋のだん

ナ2・しろき老(二)〜九

ハ1・1 (ロ) 二一、六\*一五、五 一七、〇 (行・字) 七・二〇 一〇丁

ナ1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元 明治十九年八月六日翻刻出版人「愛知縣平民」鍋野長三郎「名古屋區

八百屋町百三番邸」

ハ戀娘昔八丈 城木屋の段

ロ「戀娘昔八丈」城木屋の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ナ2・白木や老(〜九了)

ハ1・2 (ロ) 二一、四\*一四、二 一七、二 (行・字) 七・二〇 一一丁

ナ2/ 正本版元東京「地本、問屋」上野廣小路元黒門町老番地」紋、さか川平四郎印

ハ戀娘昔八丈、城木屋の段

ロ「戀娘昔八丈」城木屋の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ナ2・白木や老(〜九了)

ハ1・2 (ロ) (ロ) (行・字) 七・二三 一一丁

ナ2/ 正本版元東京「地本、問屋」紋、人形町通松鳴町」さか川平四郎印

ハ戀娘昔八丈「城木屋の段」

ロ

ナ2・白木や老(〜九了)

ハ1・2 (ロ) (ロ) (行・字) 七・一九 一〇丁

ナ2/ 正本版元江戸「地本、問屋」紋、埋木、消シタカ」いがや勘右衛門印

ハ戀娘昔八丈「城木屋の段」

ロ「戀娘昔八丈」城木屋の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ナ2・白木や一(〜九了)

ハ1・1 (ロ) (ロ) (行・字) 七・二〇 一〇丁

ナハ表紙見返(〜ハ)

ハ「雪踏置、長五郎むすめ、おこよ、阿古木源之丞、心の中、樹毎濡色花春雨」岸澤古式部直傳、玉澤屋新七板元

ロ「おこよ、源之丞」道行



ナ2・おこよき(〜四了)

ナ1・1 (B) C (行・字) 六・一五 五丁

※ 文久二壬戌四月吉日、名古屋長者町、廣小路角板元、玉澤屋新七

ナ「道行き」心にあらぬ、ミ兵が「視仇雪掃事」常磐津小文字太夫直傳、作者瀬川如皋述

ロ「おさん」茂兵へ「視仇雪掃事上」常磐津小文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

ナ2・おさん茂兵へ上巻(〜六了) 〆梓あり

ナ1・2 (B) 二〇、九\*一四、五 一七、七 C (行・字) 六・一五 八丁

※ さいがや勘右衛門原板、 正本版元江戸「地本」問屋「人形町通松嶋町」〆紋〆さか川平四郎〆印

ナ0

ロ「おさん」茂兵へ「視仇雪掃事下」常磐津小文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

ナ2・おさん茂兵へ下巻(〜六了) 〆梓あり

ナ1・2 (B) 二二〇、五\*一四、四 一七、五 C (行・字) 六・一五 八丁

※ 慶應元「乙丑」歳十月吉日、 さいがや勘右衛門原板、 正本版元江戸「地本」問屋「人形町通松嶋町」〆紋〆さか川平四郎〆印

〆鷺鷥容姿正夢

ロ「常磐津文字太夫直傳」鷺鷥容姿正夢「おしどり」

ナ0

ナ2・2 (B) 二二三、六\*一六、七 C (行・字) 七・一七 六丁

ナ0

ナ「おしゆん」白藤が、義理のしからみ「戀綾瀬流派」岸沢式寿、玉沢屋新七

ナ0

ナ2・おしゆん(〜四)

ナ1・1 (B) 二二、七\*一五、八 一七、五 C (行・字) 七・一九 五丁

※ 長者町八丁目板元、玉沢屋新七

ナ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津豊後大掾直傳

ロ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ナ2・堀川上巻(〜六了)

ナ1・2 (B) 二一、四\*一四、二 一八 C (行・字) 六・二〇 八丁

※ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」〆紋〆さか川平四郎板〆印

ナ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津文字太夫直傳

ロ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津文字太夫直傳、伊賀屋勘右衛門版

ナ1・1(〜十)



二1・2 (B) B (行・字) 六・二四 一一丁

\*a/ 正本版元江戸「地本問屋」へ紋「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門へ印

イ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津豊後大掾直傳

ロ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

※2・堀川上巻(六了)へ枠あり

二1・2 (B) B (行・字) 六・一八 八丁

\*a/ 正本版元江戸「地本問屋」へ紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎半へ印

10

ロ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」中「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

※2・堀川中巻(六了)

二1・2 (B) 二1、四\*一四、〇 一八B (行・字) 六・二二 八丁

\*a/ 正本版元東京「地本問屋」上野廣小路元黒門町老番地へ紋さか川平四郎板へ印

イ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津豊後大掾直傳

ロ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」上中「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

※2・判読不可

二1・2 (B) B (行・字) 六・二二 八丁

\*a/ 正本版元江戸「地本問屋」へ紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎「印」

イ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津文字太夫直傳

ロ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

※2・ほりかわ五(十了)(巻四は2なし)

二1・2 (B) 二1、二\*一四、〇 一八B (行・字) 六・二二 一一丁

\*a/ 正本版元東京「地本問屋」下谷區谷中清水町老番地へ紋さか川平四郎板へ印

イ「おしゆん」傳兵衛「堀川の段」常磐津豊後大掾直傳

ロ

※2・堀川上巻(上六了・中巻中六了)へ枠あり

二1・2 (B) B (行・字) 六・二〇 一一丁

※

10

ロ

※2・判読不可

二1・2 (B) B (行・字) 六・二二 七丁

\*a/ 正本版元江戸「地本問屋」へ紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎「印」



ナ「おしゆん／傳兵衛」堀川の段上「常磐津豊後大掾直傳」佐々木市藏述「玉沢屋新七板」

ロ「おしゆん／傳兵衛」堀川の段上「卷」

マ2・ほり川上巻（十五了）

ニ1・1（B）二二、一\*一五、四 一八、五<sub>cm</sub>（行・字）六・一六 一六丁

チ1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ナ「おしゆん／傳兵衛」堀川の段「佐々木市藏調」玉澤屋新七板

ロ「おしゆん／傳兵衛」堀川の段

マ2・おしゆん巻（十二了）

ニ1・1（B）二二、八\*一五、一 一九<sub>cm</sub>（行・字）六・一八 一三丁

チ1・長者町筋／玉澤屋新七／廣小路角

ナ「近頃戀世語」よみ人しらす

ロ「おしゆん／傳兵衛」近頃戀世語「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門版

マ2・世がたり巻（八了）

ニ1・2（B）二二、五\*一四、七 一七、七<sub>cm</sub>（行・字）七・一六 一〇丁

チb/ 正本版元「大傳馬町二丁目」紋いがや勘右衛門印

ナ「おしゆん／傳兵衛」堀川の段「佐々木市藏調」玉澤屋新七板

ロ「おしゆん／傳兵衛」堀川の段

マ2・おしゆん巻（十二了）

ニ1・1（B）二二、一\*一五、四 一八、八<sub>cm</sub>（行・字）六・一七 一三丁

チ1・長者町筋／玉澤屋新七／廣小路角、明治十九年八月六日翻刻出版人（愛知縣平民）鍋野長三郎「名古屋區八百屋町

百三番邸」

ナ「おその／六三」浮名の散書「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田左交述

ロ「おその／六三」浮名の散書「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板

マ2・ちうしがき（三六了）

ニ1・2（B）二二、三\*一四、六 一八、〇<sub>cm</sub>（行・字）七・二〇 八丁

チa/ 正本版元判読不明いがや勘右衛門

ナ「お染／久松」質の段「岸沢式治」玉沢屋新七板

ロ「お染／久松」質の段

マ2・久松一（七了）

ニ1・1（B）二二、五\*一五、四 一七、四<sub>cm</sub>（行・字）六・一六 八丁

チ1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元



10  
ロ「お染久松」妹背門松「御文章之段」

10

11・2 (B) B (行・字) 丁

\* 長者町筋「玉澤屋新七」廣小路角

1 染模様妹背門松

ロ 染模様妹背門松「質店蔵のだん

12・質店蔵老(十三了)

11・1 (B) 二一、八\*一五、四一九、〇B (行・字) 六・一四 一四丁

\* 萬延元「庚申」九月出版、2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

1 「お染久松」質店蔵の段「常磐津文字太夫直傳」

ロ「おそめ久松」質店のだん「上」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

12・染質みせ老(七了)「了以外枠あり」

11・2 (B) B (行・字) 六・二三 九丁

\* a/ 正本版元東京「地本」問屋「へ紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印

1 「お染久松」質店蔵の段「常磐津文字太夫直傳」

10

12・染質みせ老(十四了)「へ枠あり」

11・2 (B) B (行・字) 七・二〇 一四丁

10

1 「お染久松」質店蔵の段「常磐津文字太夫直傳」

10

12・染質みせ老(十四了)「へ枠あり」

11・2 (B) B (行・字) 七・一五 一五丁

\* a/ 正本版元江戸「地本」問屋「へ紋」いがや勘右衛門原板「人形町通松嶋町」さか川平四郎板「印」

1 「お染久松」質店蔵の段「常磐津文字太夫直傳」

ロ「おそめ久松」質店のだん「上」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

12・染質みせ老(七了)「下八」十四了「了以外枠あり」

11・2 (B) B (行・字) 六・二三 一六丁

\* a/ 正本版元東京「地本」問屋「へ紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

10

ロ「お染久松」質店蔵の段「下」「板元」芳野屋勝五郎「萬屋吉蔵」



♪2・しちみせ下巻(七了)へ梓あり

11・2 (四) 四 (行・字) 七・二三 九丁

※ 東都板元「紋」南傳馬町巻丁目「萬屋吉蔵」紋「同所」芳野屋勝五郎

♪「お染久松」道行浮寝時鷗「岸澤式治」玉沢屋新七「板」

ロ「お染久松」道行浮寝友鳥「大山まいり」御最辰後新三津釜

♪2・おそめ巻(五)

11・1 (四) 二二、〇\*一五、五一七、五〇 (行・字) 六・一九 六丁

※ 長者町八丁目「玉澤屋新七」板

10

ロ お染久松道行

10

11・2 (四) 二二、〇\*一六、四一八、六〇 (行・字) 五・一四 五丁

※ 田中志ん

♪「おみつ」心中翌の噂「岸澤式治」玉澤屋新七「板」

ロ「心中翌の噂」岩井半四郎所作事之内「おみつ

♪2・おみつ巻(四)

11・1 (四) 二二、三\*一五、九一六、五〇 (行・字) 六・一一 五丁

※ 1・長者町筋「玉澤屋新七」廣小路角

♪「おそめ久まつ」心中翌の噂上「常磐津文字太夫直傳」

ロ「おそめ久まつ」心中翌の噂「おみつ」やまとだん「子もり」上

♪2・子もり上二(上六了)

11・1 (四) 四 (行・字) 六・一八 六丁

※ な「や板元」紋「ひしや金兵衛」

♪「おそめ久まつ」心中翌の噂下「常磐津文字太夫直傳」

ロ「おそめ久まつ」心中翌の噂「おみつ」やまとだん「子もり」下

♪2・子もり上式(上八了)

11・1 (四) 四 (行・字) 六・一八 八丁

※ 名古屋板元「紋」菱屋金兵衛

♪ 八百萬園生梅枝「四季山姥」明の鐘「東下り」心中翌の噂

ロ「おそめ久まつ」心中翌の噂「八百萬園生の梅か枝」花づくし「山姥四季」

♪2・八百一(五)

11・1 (四) 二二、一\*一五、四一七、三〇 (行・字) 七・一四 六丁



※長者町八丁目／玉澤屋新七板

ナ「秋風に／袂狂ふや／萩尾花」初戀千種の謠事「岸澤古式部直傳／玉澤屋新七板元」

ロ

ニ・おそめ上巻（十三丁）

ニ・1（ロ）二二、二二・一五、〇一六、〇ロ（行・字）六・一七 一四丁

※2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ナ「秋風に／袂狂ふや／萩尾花」初戀千種の謠事「常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐節付／作者瀬川如臈」

ロ

ニ・おそめ上巻（上六丁・下巻七丁）（梓あり）

ニ・2（ロ）ロ（行・字）六・二二 一四丁

※2/ 常磐津正本版元「發行兼／印刷者」／東京市下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎へ印

ナ「秋風に／袂狂ふや／萩尾花」初戀千種の謠事「おみつ／物くるひ／のだん」「岸澤古式部直傳／玉澤屋新七板元」

ロ

ニ・おみつ物狂ひ巻（六丁）

ニ・1（ロ）二二、八・一五、七 一六、〇ロ（行・字）六・一九 七丁

※

ナ「秋風に／袂狂ふや／萩尾花」初戀千種の謠事「おみつ／物くるひ／のだん」「岸澤古式部直傳／玉澤屋新七板元」

ロ「土手場之段」初戀千種の謠事「正本所玉澤屋」

ニ・おそめ上巻（十三丁）

ニ・2（ロ）二二、一・一五、五 一六、二ロ（行・字）六・一七 一五丁

※常磐津豊後節正本／常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」／紋／若林芳造へ印

ナ「秋風に／袂狂ふや／萩尾花」初戀千種の謠事「おみつ／物くるひ／のだん」「岸澤古式部直傳／玉澤屋新七板元」

ロ「おみつ物狂の段」初戀千種の謠事「正本所玉澤屋」

ニ・おみつ物狂ひ巻（六丁）

ニ・1（ロ）二二、八・一五、八 一六、〇ロ（行・字）六・一九 八丁

※常磐津豊後節正本／常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」／紋／若林芳造へ印

ナ「秋風に／袂狂ふや／萩尾花」初戀千種の謠事「おみつ／物くるひ／のだん」「常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐節付／作者瀬

川如臈」

ロ

ニ・おみつ物狂ひ巻（六丁）（梓あり）

ニ・2（ロ）ロ（行・字）六・二二 七丁

※2/ 常磐津正本版元「發行兼／印刷者」／東京市下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎へ印



ハ「秋風に袂狂ふや萩尾花」初戀千種の講事「おみつ／物くるひ／のだん」〔常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐節付／作者瀨川如島〕

ロ

ニ2・おみつ物狂ひ老（～六了）（～梓あり）

ニ1・2 （ロ） 四 （行・字）六・二三 七丁

キa/ 正本版元東京「地本／問屋」〔紋〕「上野廣小路元黒門町老番地」〔さか川平四郎板〕印

ハ「秋風に袂狂ふや萩尾花」初戀千種の講事「おみつ／物くるひ／のだん」〔常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐節付／作者瀨川如島〕

ロ「おみつ／物狂ひ」初戀千種の講事「中の巻」〔常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

ニ2・おみつ物狂ひ老（～六了）（～梓あり）

ニ1・2 （ロ） 四 （行・字）六・二三 八丁

キa/ 正本版元東京「地本／問屋」〔紋〕「下谷區谷中清水町老番地」〔さか川平四郎板〕印

ハ初戀千種の講事〔常磐津文字太夫／岸澤式佐節付／作者瀨川如島述〕／下の巻／お染久松道行のだん／久松意見のだん

ロ

ニ2・おそめ道行老（～十一了）（～梓あり）

ニ1・2 （ロ） 四 （行・字）六・二二 一二丁

キa/ 常磐津正本版元〔發行兼／印刷者〕〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕／坂川平四郎〔印〕

ハ初戀千種の講事〔下の巻／お染久松道行のだん／久松意見のだん〕〔常磐津小文字太夫直傳／岸澤式佐節付／作者瀨川如島述〕

ロ「初戀千種の講事下の巻」お染久松道行之段／久松意見之段〔常磐津小文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

ニ2・おそめ道行老（～五了）

ニ1・2 （ロ） 二一、二二、四〇 一七、〇四 （行・字）六・二〇 七丁

キa/ 正本版元東京「地本／問屋」〔下谷區谷中清水町老番地〕〔紋〕〔さか川平四郎板〕印

ハ初戀千種の講事〔下〕〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ「初戀千種の講事〔下〕」お光物狂

ニ2・お光一（～八）

ニ1・2 （ロ） 二三、四一、五、七 一七、〇四 （行・字）六・一六 一一丁

キ 昭和三十一年六月五日印刷／昭和三十一年六月十日發行・常磐津稽古本（以下略）

10

ロ「常磐津／お光物狂」初戀千種の講事

ノ

ニ2・2 （ロ） 二二、五一、五、八 一七、四四 （行・字）四・一一 一七丁



70

1 「お染久松」花須誓十七夜待

70

2 「おそめ上吉」上七了・下二下六了(ハ枠あり)

11・2 (B) C (行・字) 六・一四 一五丁

70 b/ 正版元「高砂町南新道」いがや勘右衛門ハ印

1 「お染久松」花須誓十七夜待「常磐津文字太夫直傳」

70

2 「おそめ上吉」上七了(ハ枠あり)

11・2 (B) C (行・字) 六・一七 七丁

70

1 「お染久松」翠戀柳蹟夜

70

2 「おそめ一」上七了

11・2 (B) C (行・字) 七・一五 七丁

70 本時に文化五載戊辰二月藏板「河原崎座」

70

1 道行「おちよ半兵衛」

70

2・2 (B) 二四、六\*一六、九 C (行・字) 五・一四 八丁

70 常磐津

1 「おちよ半兵衛」浮名野毛毘「常磐津文字太夫直傳」

70

2・毛

11・2 (B) C (行・字) 七・一八 六丁

70

1 「お千代半兵衛」五月帯縁の短夜「常磐津兼太夫直傳」

70

2 「いわた帯上吉」上七了・下二下六了(ハ枠あり)

11・2 (B) C (行・字) 七・二二 一三丁

70



ナ「おぢぢや」半兵衛「浮名野毛跣」

ロ

ハ1・2 (B) B (行・字) 七・一六 七丁

ホ

ナ「おぢぢや」半兵衛「紅の染小袖」中之巻」

ロ

ハ1・1 (〜十終) へ枠あり

ハ1・2 (B) B (行・字) 八・三〇 一〇丁

ホ

ナ「おぢぢや」半兵衛「浮名野毛跣」宮古路文字太夫直傳」

ロ

ハ2・おぢぢはん一 (〜七了)

ハ1・2 (B) 二一、九\*一五、七 一八、七 (行・字) 七・一六 九丁

ホ B/ 宮古路文字太夫直傳 / 江戸板元「元はま町」いがや勘右衛門へ印

ナ「丹波屋おつま」古手屋八郎兵衛「丹波屋」段上

ロ 恨蛟鞘／古手屋八郎兵衛「丹波屋の段上」巻」

ハ2・丹波や上巻 (〜九了)

ハ1・1 (B) 二二、一\*一五、五 一八、二 (行・字) 六・一三 一〇丁

ホ2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ナ「丹波屋内」下「ころしの場」

ロ 鎌谷／古手屋八郎兵衛「ころしの段」丹波屋下のまき」岸澤式壽斎調」

ハ2・丹波屋下巻 (〜十五了)

ハ1・1 (B) 二二、八\*一五、五 一八、〇 (行・字) 六・一三 一六丁

ホ2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ナ「丹波屋おつま」古手や八郎兵衛「八十八夜恨蛟鞘」常磐津文字太夫直傳」

ロ「おつま」八郎兵衛「八十八夜恨蛟鞘」常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板」

ハ2・おつま巻 (〜六了) へ枠あり

ハ1・2 (B) 二一、〇\*一四、三 一七、七 (行・字) 六・一七 八丁

ホ2/ 正本版元江戸「地本」問屋」へ判読不明「丁目」へ紋「いがや勘右衛門」へ印

ナ 心中浮名の蛟鞘

ロ「たんばや」おつま」／「ふるてや」八郎兵衛」嫌 の二二連たつ／野道哉」心中浮名の蛟鞘



ナ2・1(〜五)

ニ1・1 (四) 二二、五\*一五、二一七、四 (行・字) 六・一五 六丁

※玉澤屋新七板

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道哉」心中浮名の絞鞘 下の巻

ロ「おつま八郎兵衛」下の巻

ナ2・新お妻下巻(〜七)

ニ1・1 (四) 二二、九\*一五、五一八、二 (行・字) 六・一五 八丁

※板元・長者町廣小路上三玉沢屋新七

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の絞鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ心中浮名の絞鞘上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ナ2・浮名の絞ざや上(〜五了) へ枠あり

ニ1・2 (四) 二〇、三\*一四、一 一八、二 (行・字) 七・一八 七丁

※a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の絞鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ

ナ2・浮名の絞ざや上(〜五) へ枠あり

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 七・二二 七丁

※a/ 正本版元江戸「地本」問屋「へ紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」へ印

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の絞鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ

ナ2・浮名の絞ざや上(〜五了) へ枠あり

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 七・二二 五丁

ナ

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の絞鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ

ナ2・浮名の絞ざや上(〜五) へ枠あり

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 七・二二 六丁

※a/ 正本版元江戸「地本」問屋「へ紋」いがや勘右衛門原板「人形町通松嶋町」さか川平四郎板へ印

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の絞鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ心中浮名の絞鞘上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ナ2・浮名の絞ざや上(〜五了) へ枠あり

ニ1・2 (四) 四 (行・字) 七・二二 七丁



キア/ へ判読不可

ナ「蝶く」のふたつれ立野道かな」心中浮名の紋鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ心中浮名の紋鞘「上」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

リ2・浮名の紋ざや上「」五了」へ梓あり

二1・2 (ロ) 三 (行・字) 七・二一 六丁

ホ

イ

ロ心中浮名の紋鞘下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

リ2・浮名の紋ざや下「」五了」

二1・2 (ロ) 二〇、三\*二四、一 一八、五 (行・字) 七・一六 七丁

キア/ 正本版元東京「地本」問屋「へ判読不明」上野公園地前廣小路西側 上野元黒門町老番地「へ紋ざさか川平四郎板へ印

イ

ロ

リ2・浮名の紋ざや下「」五了」へ梓あり

二1・2 (ロ) 三 (行・字) 七・一六 五丁

天保十二丑四月狂言

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の紋鞘下「常磐津文字太夫直傳」中村重助述

ロ

リ2・浮名の紋ざや上「」五了」

二1・2 (ロ) 二一、二\*二四、〇 一八、一 (行・字) 七・一九 五丁

ホ

ナ心中浮名の紋鞘

ロおつま

イ

二2・2 (ロ) 二三、三\*一六、八 (行・字) 六・一四 六丁

ホ

ナ「蝶く」のふたつれ立つ野道かな」心中浮名の紋鞘「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ

リ2・浮名の紋ざや上「」上五・下老」下五了」へ梓あり

二1・2 (ロ) 三 (行・字) 七・一六 一〇丁

天保十二丑四月狂言



ナ「蝶くくのふたりつれとて」道かな「心中浮名の蛟箱」上「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助

HO

ニ・浮名の蛟ぎや上二（上五了・下老）下五了（梓あり）

ニ・2（B） B（行・字）七・一七 一一丁

天保十二丑四月狂言ノ 常磐津正本版元「印刷者兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎印

ナ「蝶くくのふたつれ立」野道かな「心中浮名の蛟箱」常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

HO

ニ・浮名の蛟ぎや上二（上五）梓あり

ニ・2（B） B（行・字）七・二〇 六丁

ナ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」埋木消シタム」いがや勘右衛門印

ナ「丹波屋七郎兵衛」表具音羽「順情音羽瀧

口「丹波や七郎兵衛」表具おとわ「音羽瀧」あはしまのたん

HO

ニ・2（B） B（行・字）七・二八 七丁

HO

ナ「新曲」おなつ狂乱「常磐津文字太夫直傳」常磐津松壽齋節附「藤間勘右衛門振付」坪内逍遙博士著作

口「新曲」おなつ狂乱

ニ・おなつ老（十了）

ニ・1（B） 二二、三・一五、二 一七、二 B（行・字）六・一三 一三丁

大正三甲寅歲九月興行「帝國劇場中幕所作事」坂川製」大正十四年十月廿三日印刷「大正十四年十月廿六日發行」常磐津行「昭和二十三年七月再版」著作者「東京都新宿區牛込四丁目百十四番地」坪内雄藏「常磐津正本版元」東京都台東區谷中清水町老番地」坂川平四郎

ナ「新曲」おなつ狂乱「常磐津文字太夫直傳」常磐津松壽齋節付「藤間勘右衛門振付」坪内逍 博士著作

口「新曲」おなつ狂乱

ニ・おなつ老（十了）梓あり

ニ・1（B） B（行・字）六・一二 一三丁

大正三甲寅歲九月興行「帝國劇場中幕所作事」大正十四年十月廿三日印刷「大正十四年十月廿六日發行」常磐津正本版元「著作者」東京市牛込區余丁町百十市番地」坪内雄藏印「印刷兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎印

ナ「新曲」おなつ狂乱「常磐津文字太夫直傳」常磐津松壽齋節付「藤間勘右衛門振付」坪内逍 博士作

HO

ニ・おなつ老（十了）梓あり



11・2 (B) B (行・字) 六・一二 一〇丁

\* 大正三甲 歳九月興行、帝國劇場 幕所作事、坂川蔵版

1 「お花／半七」色雉子浮名夜櫻「常磐津文字太夫直傳」作者増山金八述

ロ 色雉子浮名夜櫻上「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板

12・お花巻(六了)

11・2 (B) 二一、三\*一四、六一七、七B (行・字) 七・一七 八丁

\* b/ 正本版元江戸「地本／問屋」へ判読不可、いがや勘右衛門へ印

1 「お花／半七」色雉子浮名夜櫻「常磐津文字太夫直傳」増山金八述

B0

12・お花上巻(六了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・一六 七丁

\* b/ 正本版元「判読不可」いがや勘右衛門へ印

10

ロ 「お花／半七」戀路の真崎「下」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

12・おつきさき下巻(六了)

11・2 (B) 二一、四\*一四、四 一七、八B (行・字) 七・二八 八丁

\* 文化七年庚午正月於森田座興行、正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地へ紋、さか川平四郎へ

印

10

B0

12・まつさき下巻(六了)

11・2 (B) B (行・字) 七・一八 七丁

\* 文化七年庚午正月於森田座興行、正本版元江戸「地本／問屋」へ紋、埋木、消シ「ミ」、いがや勘右衛門

へ印

1 「お花／半七」柳浮名春雨「作者増山金八述」

B0

12・おはな巻・お花二(八了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・一七 八丁

\* 0

1 好僧川傍柳「作者櫻田治助述」

B0

12・好僧上巻(拾巻了)



二一・二 (B) B (行・字)七・一六 一一丁

ホ

ハ好借川傍柳〔作者櫻田治助述〕

ロ

二2・好僧上老(〜上拾老了・下老(〜下終十了)

二1・2 (B) B (行・字)七・一六 二二丁

ホ

ハ帯文桂川水〔岸澤式治(玉沢屋新七)板〕

ロお半長右衛門

二2・おはん老(〜五)

二1・1 (B) 二二、二二一六、三一八、〇 (行・字)六・一六 六丁

ホ板元・一名古屋長者町廣小路上(玉沢屋新七)

ハ「おはん」長右衛門〔帯文桂川水〔佐々木市藏述(玉沢屋新七)板元〕

ロ「桂川」帯屋のだん

二2・帯屋老(〜十三了)

二1・1 (B) 二二、八\*一五、八一八、四 (行・字)六・一六 一四丁

ホ1・名古屋長者町(玉沢屋新七)廣小路角板元

ハ「初日(道行)〔帯文桂川水〔常磐津文字太夫直傳(作者櫻田治助述)〕

ロ振分髪青柳會我〔第二ばんめ中幕〕〔初日(道行)〔帯文桂川水(上)〔狂言作者櫻田治助述)〕

二2・帯文上老(〜二了)

二1・1 (B) B (行・字)一一・三五 二丁

ホ板元(高砂町)南新道(いがや勘右衛門)

ホ

ロ振分髪青柳會我〔第二ばんめ中ま(〜)都座〕〔初日(道行)〔帯文桂川水(下)〔狂言作者櫻田治助述)〕

二2・帯の文下老(〜二了)

二1・1 (B) B (行・字)一一・三五 二丁

ホ板元(高砂町)南新道(いがや勘右衛門)

ハ「初日(道行)〔帯文桂川水〔常磐津文字太夫直傳(作者櫻田治助述)〕

ロ

二2・おはん一(〜八了)ハ梓あり

二1・2 (B) 二一、〇\*一四、三一七、九 (行・字)七・二三 九丁

ホa/ 正本版元江戸〔地本(問屋)〔(玉沢屋)〕ハ紋(いがや勘右衛門)ハ印



ハ「紋日ノ道行」帯文桂川水「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ

ナ2・おはん老(〜八了)

ニ1・2 (ロ) 三 (行・字) 七・二五 八丁

オ

ハ「紋日ノ道行」帯文桂川水「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ

ナ2・おはん老(〜八了)

ニ1・2 (ロ) 三 (行・字) 七・二五 九丁

オ b/ 正本版元江戸「地本ノ間屋」ハ紋「神田鍋町西横」いがや勘右衛門ハ印

ハ「紋日ノ道行」帯文桂川水「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ 帯文桂川水「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ナ2・おはん一(〜八了)

ニ1・2 (ロ) 三 (行・字) 七・二五 一〇丁

オ a/ 正本版元江戸「地本ノ間屋」いがや勘右衛門原板ハ紋「人形町通松嶋町」ノさか川平四郎板ハ印

ハ「おはんノ長右門」帯文川傍柳「常磐津文字太夫直傳」作者三升屋二三治述

ロ

ナ2・帯文川傍柳老(〜四)ハ枠あり

ニ1・2 (ロ) 三 (行・字) 六・一四 六丁

オ 天保九戌春狂言ノ 正本版元江戸「地本ノ間屋」ハ紋「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門ハ印

ハ「初日ノ道行」帯び文桂川水「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ 「初日ノ道行」帯び文桂川水「お半ノ長右衛門」

ナ2・おはん老(〜八了)

ニ1・1 (ロ) 三 (行・字) 七・二〇 九丁

オ 名古屋板元ハ紋ノ菱屋金兵衛

ハ 帯※小蝶昏「作者津打治兵衛」

ロ

ナ2・再板をび引一(〜十二)

ニ1・2 (ロ) 二〇、九\*一四、六 一八、四 三 (行・字) 七・二一 一二丁

オ

ハ 棲重拾羅衣「常磐津文字太夫直傳」作者笠縫専助述



ロ「おふぎ」徳兵へ「褙重袷衣上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

ㇿ2・「つまがさね上巻」(七了)

ㇿ1・2 (ロ) 二一、二\*二七、八一七、八四 (行・字) 七・二二 九丁

ㇿa/ 正本版元東京「地本／問屋」下谷區谷中清水町老番地「紋」さか川平四郎板印

10

ロ「おふぎ」徳兵へ「褙重袷衣下」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

ㇿ2・「つまがさね下巻」(八了)

ㇿ1・2 (ロ) 二一、二\*二四、一一七、七四 (行・字) 七・二二 一〇丁

ㇿa/ 正本版元東京「地本／問屋」下谷區谷中清水町老番地「紋」さか川平四郎板印

ㇿ褙重袷衣「常磐津文字太夫直傳／作者笠縫專助述」

ロ

ㇿ2・「つまがさね上巻」(七了)

ㇿ1・2 (ロ) 二〇、九\*一四、〇一七、六四 (行・字) 七・二三 七丁

ㇿa/ 正本版元江戸「地本／問屋」[「X」]「紋」がや勘右衛門印

ㇿ褙袷袷衣「常磐津文字太夫直傳／作者笠縫專助述」

ロ 褙袷袷衣「上」常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右衛門板

ㇿ2・「つまがさね上巻」(七了)

ㇿ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二四 九丁

ㇿa/ 正本版元江戸「地本／問屋」紋「判読不能」がや勘右衛門印

ㇿ褙重袷衣下

ロ 褙重袷衣「おふぎ徳兵衛」

ロ

ㇿ2・2 (ロ) 二三、四\*一六、四四 (行・字) 七・二三 一〇丁

ㇿ〇

ㇿ褙重袷衣「常磐津文字太夫直傳／作者笠縫專助述」

ロ 褙重袷衣「上」常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右門板

ㇿ2・「つまがさね上巻」(七了)

ㇿ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二四 九丁

ㇿa/ 正本版元江戸「地本／問屋」紋「神田鍛冶町式丁目」がや勘右衛門印

ㇿ褙重袷衣「常磐津文字太夫直傳／作者笠縫專助述」

ロ

ㇿ2・「つまがさね上巻」(七了)・下巻(八了)



11・2 (B) 田 (行・字) 七・二四 一五丁  
40

1 襖重袷羅衣〔常磐津文字太夫直傳〕作者笠縫專助述

40

2 判読不可

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二二 一三丁

4 文政五年五月狂言

1 襖重袷羅衣〔常磐津文字太夫直傳〕作者笠縫專助述

40

2 襖重上老(〜八了)

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二〇 九丁

40

1 親子連枝襦〔常磐津文字太夫直傳〕作者櫻田次助述

40

2 枝襦一(〜十五了)

11・2 (B) 田 (行・字) 八・三五 一五丁

40

1 過懸深山櫻〔作者柳井隣左文述〕

40

2 及ぬ戀老(〜九了)〔梓あり〕

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二二 九丁

40

1 〔松竹梅の内〕折簾梅花笠〔常磐津連中〕

2 山王御祭禮附祭踊臺 松竹梅の内海の見立 〔傾城初梅〕奴風槍梅〔折簾梅花笠〕作者柳屋梅彦

2 松竹梅 梅の花笠老(〜四)

11・1 (B) 田 (行・字) 六・一六 七丁

4 板元森屋治兵衛 文久二〔壬〕戌年六月吉日

1 〔真鳥〕二段目切〔恩愛草苅鎌〕宮古路豊後掾直傳

40

2 2・くろ一(〜十)

11・2 (B) 二〇、九\*一四、六一八、四cm (行・字) 七・二〇 一〇丁

40 9曲合綴本、合綴本表紙無文・紺、表紙・裏表紙共墨書き判読不能、合綴背に「老」の字有り、表紙見返し



「三州額田郡池金村棚田酒井氏」、合綴本扉裏に「此主多代」、裏表紙見返しに「天保八歳酉春、此主多代、酒井吉三郎」

ハ「早くも三歳橋の櫓に亦も帰り咲の御ひいき願ふ」餘波五色花魁番「常磐津文字太夫直傳作者櫻田治助述」弥生花見酒・七夕千種結

ロ「浪花紅成盛」狂言作者櫻田治助作者清水正七「所作事」「早くもみとせ橋の櫓に亦も帰り咲の御最願ふ」餘波五色花魁番「上・下」

NO

ニ1・1 (B) B (行・字) 一三・三九 三丁

※ハ上巻正本板元神田鍛治町いがや勘右衛門 ハ下巻正本板元伊賀屋勘右衛門鍛治町

ハ「増補」女鳴神「常磐津小文字太夫直傳岸澤式佐節附櫻痴居士補述」

ロ「増補」女鳴神「歌舞伎座」

ニ2・なる神喜(十三了)ハ梓あり

ニ1・1 (B) 二二、一\*一五、一 一七、七 B (行・字) 六・一九 一五丁

※ニ1「明治二十四年十月九日印刷明治二十四年十月十三日出版」東京市浅草區馬道町二丁目十二番地「補述者」竹芝金作「常磐津正本版元」東京市下谷區谷中清水町老番地「發行者兼印刷者」坂川平四郎ハ印

ハ「辰駕の佛俄のにしき絵」女辰駕「岸澤式治玉澤屋新七ハ板」

ロ「姿花鳥居の色彩」女かこ「ハ」ふり付西川仁蔵

ニ2・おんな駕老(七了)

ニ1・1 (B) 二二、六\*一五、七 一七、五 B (行・字) 六・一七 八丁

※1・名古屋長者町玉沢屋新七ハ廣小路角板元

ハ「辰駕の佛俄のにしき絵」女辰駕「岸澤式治玉澤屋新七ハ板」

ロ「女かこ」姿花鳥居色彩「正本所玉澤屋」

ニ2・おんな駕老(七了)

ニ1・1 (B) 二二、七\*一六、〇 一七、五 B (行・字) 六・一七 九丁

※常磐津豊後節正本「常磐津版元」大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地ハ紋若林芳造ハ印

ハ「辰駕の佛俄のにしき絵」女辰駕「岸澤式治玉澤屋新七ハ板」

ロ「女かこ」姿花鳥居色彩「正本所玉澤屋」

ニ2・おんな駕老(七了)

ニ1・2 (B) 二二、七\*一五、七 一七、六 B (行・字) 六・一七 八丁

NO

ハ「女辰駕」

ロ「常磐津」女辰駕



10

11・2 (B) 二二、〇\*一六、〇 一七、六 (行・字) 五・二〇 一三丁  
筆者 澤田春

1 「辰鴉佛」うつす、俄のにしき繪「菱花鳥居の色彩」常磐津文字太夫直傳、作者櫻田左文述

10

12・すがたの花巻(七了)

11・2 (B) (C) (行・字) 六・一八 八丁

1 b/ 正板元「和國 通」小舟町二丁目「いがや勘右衛門」印

1 「大津絵之内」藤娘「座頭」

口歌へす 餘波、大津賀画

12・藤娘巻(三了)

11・1 (B) 二二、四\*一五、七 一七、九 (行・字) 六・一六 四丁

12・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路版元

1 加々見山東錦繪「岸澤式治、玉沢屋新七」板

口「加賀見山東錦繪下」巻「ぞうり打のだん

12・ぞうり打(十二)

11・1 (B) 二二、〇\*一四、六 一七、一 (行・字) 六・一四 一四丁

11・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元、明治十九年八月六日御届翻刻出版人「愛知縣平民」鍋野長三郎「名古屋

屋區八百屋町百三番邸」

1 加々見山七、目「常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付」

10

12・かがみやま上巻(七了、下巻(七了)

11・2 (B) 二二、四\*一四、三 一六、八 (行・字) 七・二二 一四丁

10

1 「かが見山、旧錦繪」書置の段「玉沢屋新七」板

口鏡山舊錦繪「上乃巻」

12・かがみやま巻(九) 11・1 (B) 二二、二\*一五、四 一七 (行・字) 七・一六 一〇丁

12・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

10

口加賀見山舊錦繪「下乃巻」

12・かがみ山十(十六了)

11・1 (B) 二二、〇\*一四、六 一七、五 (行・字) 七・二〇 八丁



※2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

10

ロ 加賀見山書おきの段

※2・かがみ山四(〜十五了)

※1・1 (B) 二二、七\*一五、四 一七、四 (行・字) 七・二二 一三丁

※板元／名古屋廣小路／玉澤屋新七

ハ 加々見山／旧錦繪「敵討之段」岸澤式治／玉澤屋新七／板

ロ 加賀見山「敵うちのだん」

※2・かがみ七下巻(〜八了)

※1・1 (B) 二二、九\*一五、七 一五、七 (行・字) 六・一七 九丁

※1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ハ 加々見山旧錦繪 書置の段

10

※2・かゝ見山上巻(〜七了)

※1・2 (B) 二〇、六\*一四、三 一七、〇 (行・字) 七・一六 八丁

※ハ 正本版元江戸「地本／問屋」『いがや勘右衛門原板／人形町通松嶋町』へ紋々さか川平四郎板へ印

10

ロ 加々見山／旧錦繪「書置のだん」菅磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

※2・かゝ見山下(〜六)

※1・2 (B) 二〇、五\*一四、一 一六、九 (行・字) 七・一七 七丁

※文政五年／六月吉日／再版／ハ 正本版元江戸「地本／問屋」『いがや勘右衛門原板／人形町通松嶋町』へ紋々さか川平四郎板へ印

ハ かがみ山「七段目」

ロ 「尾の上／岩藤」かがみ山／旧錦繪「尾のへ部屋之段」

10

※2・2 (B) 二三、八\*一六、六 (行・字) 七・二二 一四丁

※小川寿々

ハ 加々見山旧錦繪「書置」段

10

※2・加々見山書上巻(〜上七了・下二／下六)へ上のみ枠あり

※1・2 (B) (行・字) 七・一八 一四丁

※文政五年／六月吉日再版



ハ加々見山旧錦繪「書置の段」

ロハ判読不能「常磐津豊後大掾直傳」坂川平四郎」

ハ2・加々見山書上巻（〜上七了・下二〜下六）

ハ1・2（甲） 乙（行・字）七・一八 一五丁

※文政五年六月吉日再版、正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地」さか川平四郎板印

10

ロ「加々見山旧錦繪」書置の段「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ハ2・加々見山下巻（〜六了）

ハ1・1（甲） 乙（行・字）七・一七 七丁

※表紙見返し、文政五年六月吉日再版、元板元「明治十五年十一月廿七日御届」さか川平四郎翻刻人「馬喰町二丁目一番地」木村文二郎

ハ加々見山旧錦繪「書置の段」

ロ「加々見山旧錦繪」書置の段「上」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ハ2・加々見山上巻（〜七了七）

ハ1・1（甲） 乙（行・字）七・一七 八丁

※表紙見返し、元板元「坂川平四郎」翻刻人「明治十五年十一月廿七日御届」馬喰町二丁目一番地」木村文二郎

ハ後の月酒宴鳴臺「常磐津文字太夫直傳」瀬川如皋述」

ロ後の月酒宴鳴臺「かくべい」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ハ2・かくべい酒盛巻（〜五了）（梓あり）

ハ1・1（甲） 乙（行・字）六・一七 六丁

※表紙見返し、

ハ後の月酒宴鳴臺

ロ「後の月酒宴鳴臺」角兵衛獅子

ハ2・酒盛巻（〜五了）

ハ1・1（甲） 乙 丙 丁（行・字）六・一五 六丁

※1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ後の月酒宴鳴臺

ロ後の月酒宴鳴臺「正本所玉澤屋」

ハ2・酒盛巻（〜五了）

ハ1・2（甲） 乙 丙 丁（行・字）六・一九 六丁

※常磐津版元玉澤屋



ノ 後の月酒宴鳴臺

ロ 後の月酒宴鳴臺〔正本所玉澤屋〕

ノ2・酒盛巻(〜五了)

ニ1・2 (B) 二二、七\*一五、八 一七、五 (行・字) 六・一八 七丁

\*常磐津豊後節正本ノ常磐津版元〔大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地〕ノ紋ノ若林芳造ノ印ノ

ノ 後の月酒宴鳴臺〔常磐津小文字太夫直傳ノ瀬川如皋述〕

ロ

ノ2・酒盛巻(〜五了)

ニ1・2 (B) 二二、一\*一五、一 一七、〇 (行・字) 六・一七 五丁

\*a/ 正本版元東京〔地本ノ間屋〕〔下谷區谷中清水町老番地〕ノ紋ノさか川平四郎板ノ印ノ

ノ 後の月酒宴鳴臺〔常磐津小文字太夫直傳ノ瀬川如皋述〕

ロ

ノ2・酒宴巻(〜五了)ノ梓ありノ

ニ1・2 (B) 四 (行・字) 六・二三 六丁

\*a/ 正本版元江戸〔地本ノ間屋〕〔埋木ノ消ノ紋ノいノがや勘右衛門ノ印ノ

ノ 後の月酒宴鳴臺〔常磐津文字太夫直傳ノ瀬川如皋述〕

ロ

ノ 酒盛巻(〜五了)ノ梓ありノ

ニ1・2 (B) 四 (行・字) 六・一七 六丁

\*a/ 正本版元江戸〔地本ノ間屋〕ノ紋ノいノがや勘右衛門原板ノ人形町通松嶋町ノさか川平四郎板ノ印ノ

ノ 後の月酒宴鳴臺

ロ [かくい] 後の月酒宴鳴臺

ロ

ニ2・2 (B) 二二、〇\*一六、三 二〇 (行・字) 七・一三 六丁

\*田中しん

ノ 神楽娘

ロ [常磐津] 神楽娘

ロ 二2・2 (B) 二二、九\*一六、一 四 (行・字) 五・九 七丁

\*筆者 澤田春

ノ [歌舞伎ノ十八番之内] 景清〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ [歌舞伎ノ十八番の内] 景清〔上〕〔常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎〕

ノ2・景きよ上巻(〜九了)



二1・2 (B) 二一、二\*一四、三 一八、二B (行・字) 七・一六 一〇丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

10

ロ「歌舞伎」十八番の内「景清」下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

2・景きよ下(〜七了)

二1・2 (B) 二一、三\*一三、八 一八、二B (行・字) 七・一六 九丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

ハ「秋風副る」琵琶の音は冷々として子を思ふ「夜の鶴」涛青山月の景清「常磐津豊後大掾直傳」作者櫻田左交述」

ロ涛青山月の景清「上」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・月のかげきよ上(〜六了)

二1・2 (B) 二一、三\*一四、二 一六、六B (行・字) 七・一六 八丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

10

ロ涛青山月の景清「中」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・月のかげきよ中の(〜中六了) 二1・2 (B) 二一、三\*一四、〇 一六、八B (行・字) 七・二二 八丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

10

ロ涛青山月の景清「下の上」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・月のかげきよ下の上(〜下の上の六了)

二1・2 (B) 二一、二\*一四、一 一七、二B (行・字) 六・一五 八丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

10

ロ涛青山月の景清「下」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・月のかげきよ下(〜六了)

二1・2 (B) 二一、二\*一四、二 一六、八B (行・字) 七・一九 八丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎へ印

10

ロ涛青山月の景清「下の下」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

2・月のかげきよ下の下(〜六了)

二1・2 (B) 二一、一\*一四、四 一七、五B (行・字) 六・一三 八丁

\*元治二乙丑年二月新浄瑠璃へ、正本版元東京「地本」問屋「人形町通松嶋町」へ紋さか川平四郎板へ印



ハ「歌舞妓十八番之内」景清「常磐津文字太夫直傳」

ロ

マ2・景きよ上巻(一)上八了・中巻(一)中七了・下(一)下七了(ハ枠あり)

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字)七・一六 二二丁

※嘉永四亥年十二月

ハ「八重かすみ」難波の演藝「かしく」岸沢式治「玉沢屋新七」

ロかしく

マ2・かしく巻(一)十五全

ニ1・1 (ロ) 二二、四\*一六、五 一八、〇 四 (行・字)六・一九 一六丁

※板元 長者町八丁目「玉沢屋新七」

ハ霞三曲

ロ

マ2・かすみの三曲巻(一)三・かすみ三曲四了

ニ1・1 (ロ) 二二、九\*一五、三 一七、四 四 (行・字)六・一四 五丁

※(表紙)「玉澤」 明治廿八年八月四日印刷、同年同月同日出版、印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

※(目)「佐々新七」

ハ霞三曲

ロ霞の三曲(手書)

マ2・かすみの三曲巻(一)三・かすみ三曲四了

ニ1・2 (ロ) 二二、五\*一五、五 一七、三 四 (行・字)六・一三 五丁

※明治廿八年八月四日印刷、同年同月同日出版、印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

ハ歌壽美三曲「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附

ロ歌壽美三曲

マ2・かすみ(一)四

ニ1・2 (ロ) 二二、六\*一五、四 一七、八 四 (行・字)六・一二 六丁

※明治三十四年辛丑十二月吉日、明治三十四年十二月五日印刷、明治三十四年十二月十日發行、東京下谷區上野

元黒門待老番地、著作者、印刷者、發行者、坂川平四郎

ハかたつむり

ロ常磐津過牛

マ

ニ2・2 (ロ) 二四、六\*一六、九 一七、五 四 (行・字)五・一一 二五丁

※筆者 澤田春



ノかつほ売「岸澤式治」玉澤屋新七「板」

H0

2・かつほ売(二)

1・2 (B) 二一、六\*一五、二一七、三 (行・字) 五・一五 二丁

オ

ノかつを売り

口常磐津かつをうり

ク0

2・2 (B) 二二、七\*一五、六一七、〇 (行・字) 四・一二 六丁

筆者 澤田春

ノ「虎尾海道桜」人丸衣紋桜「鐘入妹背佛」常磐津文字太夫直傳

口鐘入妹背佛「大字七くだりけいこ本」するがや文右「門」

2・かね入一(五)

1・2 (B) (行・字) 七・二二 六丁

\*大字七くだりけいこ本「するがや文右門」板元「もとはま町」伊賀屋勘右衛門

ノ「虎尾海道桜」人丸衣紋桜「鐘入妹背佛」常磐津文字太夫直傳

H0

2・かね入一(八了)

1・2 (B) (行・字) 七・二一 八丁

オ

ノ鎌倉山男翁の学

H0

1・2 (B) (行・字) 五・一二 一〇丁

\*安政三歳辰中秋中院秋山氏 / あふみやノ判読不可ノ賀

ノ神路山色珍「岸澤古式部直傳」作者瀬川如皐述

H0

2・油や書置巻(十了)・表紙のみ版心二

1・1 (B) 二一、八\*一五、五一八、四 (行・字) 六・一七 一一丁

\*2・板元ノ長者町ノ玉沢屋新七ノ廣小路角

ノ「おごん買」が伊勢音頭の脚色をかりて「神路山色珍」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節付」作者瀬川如皐述「下之



巻於こん縁切の段／頁十人切の段

H0

㊦2・おこん縁切上巻(〜上七了・下巻〜下六了)〈梓あり〉

㊦1・2 (B) ㊦ (行・字) 七・二三 一四丁

㊦a/ 常磐津正本版元「發行兼印刷者」〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕／坂川平四郎「印」

㊦ 神路山色 珍「岸澤古式部直傳／作者瀨川如臈述」

H0

㊦2・油や書置巻(〜十了)・表紙のみ版心二

㊦1・1 (B) ㊦ ㊦ 二二、八\*一五、五 一八、四 ㊦ (行・字) 六・一七 一一丁

㊦2・板元／長者町／玉沢屋新七／廣小路角／ 明治十九年十二月二十四日御届翻刻出版人「愛知縣平民」 鍋野長三郎「名古屋區八百屋町百三番邸」

㊦「おこん貫が／伊勢音頭の／脚色をかりて」神路山色 珍／油屋酒宴の場「岸澤古式部直傳／瀨川如臈述」

H0

㊦2・油や酒系ん巻(〜八)・表紙のみ版心一

㊦1・1 (B) ㊦ ㊦ 二二、一\*一五、五 一八、三 ㊦ (行・字) 六・一八 九丁

㊦2・板元／長者町／玉沢屋新七／廣小路角

㊦「おこん貫が／伊勢音頭の／脚色をかりて」神路山色 珍／油屋酒宴の場「岸澤古式部直傳／瀨川如臈述」

H0

㊦2・油や酒系ん巻(〜八)・表紙のみ版心一

㊦1・1 (B) ㊦ ㊦ 二二、一\*一五、五 一八、三 ㊦ (行・字) 六・一八 九丁

㊦2・板元／長者町／玉沢屋新七／廣小路角／ 明治十九年十二月二十四日御届翻刻出版人「愛知縣平民」 鍋野長三郎「名古屋區八百屋町百三番邸」

㊦ 神路山色 〃おこん縁断の場「岸澤古式部直傳／瀨川如臈述／振付西川鯉三郎／三弦岸澤式寿斎」

ロ あいそつかし

㊦2・おこん縁切巻(〜十三了)

㊦1・1 (B) ㊦ ㊦ 二二、二\*一五、六 一八、二 ㊦ (行・字) 六・一九 一四丁

㊦2・板元／長者町／玉沢屋新七／廣小路角

㊦ 神路山色 〃おこん縁断の場「岸澤古式部直傳／瀨川如臈述／振付西川鯉三郎／三弦岸澤式寿斎」

ロ あいそつかし

㊦2・おこん縁切巻(〜十三了)

㊦1・1 (B) ㊦ ㊦ 二二、二\*一五、六 一八、二 ㊦ (行・字) 六・一九 一四丁

㊦2・板元／長者町／玉沢屋新七／廣小路角／ 明治十九年十二月二十四日御届翻刻出版人「愛知縣平民」 鍋野長三郎「名古屋區八百屋町百三番邸」



ノ 神路山色<sup>彦</sup>〔岸澤古式部直傳〕瀨川如臯述

ロ 神路山色<sup>彦</sup>〔中〕〔正本所玉澤屋〕

ハ2・油や書置一(〜十了)

ハ1・2 (四) 二二、六\*一六、〇 一八、五<sup>四</sup> (行・字) 六・一七 一二丁

\* 常磐津豊後節正本／常磐津版元〔大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地〕／<sup>ハ</sup>紋／若林芳造<sup>ハ</sup>印

10

ロ

ハ2・油や酒まん巻(〜八)

ハ1・1 (四) 五 (行・字) 六・一七 九丁

\* 板元／長者町二玉沢屋新七／廣小路角

ノ 神路山色<sup>彦</sup>おこん縁断の場〔岸澤古式部直傳〕瀨川如臯述／振付西川鯉三郎／三弦岸澤式寿斎

ロ 神路山色<sup>彦</sup>〔下〕〔正本所玉澤屋〕

ハ2・おこん縁切巻(〜十三了)

ハ1・2 (四) 二二、二\*一五、六 一八、二<sup>四</sup> (行・字) 六・一九 一五丁

\* 常磐津豊後節正本／常磐津版元〔大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地〕／<sup>ハ</sup>紋／若林芳造<sup>ハ</sup>印

ノ 「おこん貢が／伊勢音頭の脚色をかりて」神路山色<sup>彦</sup>〔常磐津小文字太夫直傳〕岸澤式佐節附／作者瀨川如臯述

ロ 「お紺貢が／伊勢音頭の脚色をかりて」神路山色<sup>彦</sup>〔中〕〔常磐津／正本所坂川平四郎〕

ハ2・油や上巻(〜了六)・中一(〜了六)・下巻(〜了六)／<sup>ハ</sup>枠あり

ハ1・2 (四) 二三、一\*一五、四 一七、六<sup>四</sup> (行・字) 七・一七 二〇丁

\* 文久二壬戌年初秋吉辰／大正七戊午年改再版／坂川蔵版／<sup>ロ</sup> 常磐津正本版元／印刷兼／發行者〔東京都台東區谷中清

水町老番地〕坂川平四郎<sup>ハ</sup>印

ノ 「おこん貢が／伊勢音頭の脚色をかりて」神路山色<sup>彦</sup>〔常磐津小文字太夫直傳〕岸澤式佐節付／作者瀨川如臯述／油屋

酒宴の場

ロ

ハ2・油屋ん縁切上巻(〜上六了)・下巻(〜下十二了)／<sup>ハ</sup>枠あり

ハ1・2 (四) 五 (行・字) 七・二〇 一九丁

\* 文久二壬戌初秋吉辰／大正七戊馬年改訂再版／坂川蔵版／<sup>ロ</sup> 常磐津正本版元〔發行兼／印刷者〕〔東京市下谷區

谷中清水町老番地〕坂川平四郎<sup>ハ</sup>印

ノ 「於こん貢が／伊勢音頭の脚色をかりて」神路山色<sup>彦</sup>〔常磐津小文字太夫直傳〕岸澤式佐節付／作者瀨川如臯述／油屋

酒宴の場

ロ

ハ2・油屋のだん上巻(〜上六了)・油や(下巻(〜七了)／<sup>ハ</sup>枠あり



11・2 (B) C (行・字) 七・二八 一三丁

\* 文久二辛戌 年初秋吉辰

ハ「於こん賈が伊勢音頭の脚色をかりて、神路山色珍」常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付、作者瀬川如皁述

ロ「於こん賈が伊勢音頭の脚色をかりて、神路山色珍」上「常磐津小文字太夫直傳、正本所坂川平四郎」

ニ2・油屋おこん上巻(六了) 〆梓あり

ニ1・2 (B) C (行・字) 七・二二 八丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」〆紋〆「下谷區谷中清水町老番地」〆さか川平四郎板〆印〆 日、出家、こいね

ハ「於こん賈が伊勢音頭の脚色をかりて、神路山色珍」常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付、作者瀬川如皁述「下の巻」於こん縁切の場、賈十人切の場

110

ニ2・おこん縁切上(七了) 〆上七了、下巻(六了) 〆梓あり

ニ1・2 (B) C (行・字) 七・二二 一四丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」〆紋〆「下谷區谷中清水町老番地」〆さか川平四郎板〆印〆

ハ「於こん賈が伊勢音頭の脚色をかりて、神路山色珍」常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付、作者瀬川如皁述「下の巻」於こん縁切の場、賈十人切の場

ロ「於こん賈が伊勢音頭の脚色をかりて、神路山色珍」上「縁切の段、十人切の段」常磐津小文字太夫直傳、正本所坂川

平四郎

ニ2・おこん縁切上(七了) 〆上七了、下巻(六了) 〆梓あり

ニ1・2 (B) C (行・字) 七・二二 九丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」〆紋〆「下谷區谷中清水町老番地」〆さか川平四郎板〆印〆 日、出家、こいね

110

ロ「於こん賈が伊勢音頭の脚色をかりて、神路山色珍」上「縁切の段、十人切の段」常磐津小文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

ニ2・おこん縁切下巻(六了) 〆梓あり

ニ1・2 (B) C (行・字) 七・二二 八丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」〆紋〆「下谷區谷中清水町老番地」〆さか川平四郎板〆印〆 日、出家、こいね

ハ 上毛袖振合

ロ 上毛袖振合「天明八伊香保座」

ニ2・上毛巻(二丁)

ニ1・1 (B) C (行・字) 八・二六 二丁

\* 正本版元、高砂町南新道、いがや勘右門

ハ 髪梳千鳥囀「作者津打治兵衛」



H0  
N0  
11・2 (B) B (行・字) 六・二二 一一丁  
\*0

ノ 狩場櫻通翼

H0  
N2・かよひつばや一(六)  
11・2 (B) B (行・字) 七・一六 六丁  
\*0

ノ 松花宮古路「常磐津小文字太夫直傳」柳糸亭三楽調之」

ロ 松花宮古路「常磐津小文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

N2・みやこぢき(五)

11・2 (B) B (行・字) 六・一〇 七丁

\* 明治三庚午十一月吉日ノ 〆 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」ノさか川平四郎板「印」ノ

ノ 「一時の夢」とはしら雪の上人となるノ文作に寄て」邯鄲「岸澤式治」玉沢屋新七「板」

ロ 邯鄲

N2・かんだん老(六了)

11・1 (B) 11・1 \* 二五、五 一一、五 B (行・字) 五・一五 七丁

\* 名古屋長者町ノ玉沢屋新七ノ廣小路角板元

ノ 「一時の夢」とはしら雪の上人となるノ文作に寄て」邯鄲「常磐津文字太夫直傳」作者狂言堂左交述」

ロ 「一時の夢」とはしら雪の上人となるノ文作に寄て」邯鄲「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右衛門板」

N2・かんだん老(六了)

11・2 (B) 11・2 \* 二〇、八 \* 一四、六 一七、〇 B (行・字) 六・一六 七丁

\* 弘化三「丙午」年八月ノ 〆 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」ハ紋「いがや勘右衛門」ハ印

ノ 「一時の夢」とはしら雪の上人となるノ文作に寄て」邯鄲「常磐津文字太夫直傳」作者狂言堂左交述」

H0

N2・かんだん老(六了)

11・2 (B) B (行・字) 六・一一 七丁

\* 弘化三丙午八月ノ 〆 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」ハ紋「いがや勘右衛門」ハ印

ノ 「一時のゆめ」とはしら雪の上人となるノ文作に寄て」邯鄲「常磐津文字太夫直傳」作者狂言堂左交述」

H0

N2・かんだん老(六了)



二一・二 (B) B (行・字) 六・一三 七丁

\* 弘化三丙午年八月、正本版元江戸「地本」問屋へ紋、判読不可、いがや勘右衛門へ紋

ハ「一時の夢とはしら雪の上人となる」文作に寄て「邯鄲」常磐津文字太夫直傳、作者狂言堂左交述

ロ「一時の夢とはしら雪の上人となる」文作に寄て「邯鄲」印

ニ・二・かんたん老(六了)

二一・二 (B) 二二、一\*一五、二一六、八四 (行・字) 六・一六 八丁

\* 弘化三「丙午」年八月、常磐津正本版元印刷兼、發行者「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印

ハ「一時の夢とはしら雪の上人となる」文化にとづきて「邯鄲」常磐津文字太夫直傳、作者狂言堂左交述

ロ「一時の夢とはしら雪の上人となる」文化にとづきて「邯鄲」

ニ・二・かんたん老(六了)へ梓あり

二一・二 (B) B (行・字) 六・一六 八丁

\* 弘化三「丙午」年八月、正本版元東京「地本」問屋へ紋、下谷區谷中清水町老番地、さか川平四郎板へ印、目、

出家、いね

ハ「一時の夢とはしら雪の上人となる」文作に寄て「邯鄲」常磐津文字太夫直傳、作者狂言堂左交述

ロ「一時の夢とはしら雪の上人となる」文作にもとづきて「邯鄲」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

ニ・二・かんたん老(六了)

二一・一 (B) B (行・字) 六・一三 七丁

\* 弘化三丙午年八月

ハ「曾我」兩社の祭禮も、皁月の空に、魁て「勢獅子劇場花屋」常磐津豊後大掾直傳、作者瀬川如皁述

ロ「浄瑠璃」曾我「兩社の祭礼に」勢獅子劇場花屋

ニ・二・勢し老、二丁目版外なし

二一・一 (B) 二二、六\*一五、五一八、三四 (行・字) 一一・二六 三丁

\* 正本「坂川屋」平四郎「板元」嘉永四「辛亥」皁月狂言 中村座

ハ「曾我」兩社の祭禮も、皁月の空に、魁て「勢獅子劇場花屋」常磐津豊後大掾直傳、作者瀬川如皁述

ロ「浄瑠璃」曾我「兩社の祭礼に」勢獅子劇場花屋

ニ・二・勢し老(六了)

二一・一 (B) 二二、六\*一五、六一八、〇四 (行・字) 六・一三 八丁

\* 正本「坂川」平四郎「板元」嘉永四「辛亥」皁月狂言 中村座に於て相勤申候、明治四十五年七月十二日印刷、明治

四十五年七月十五日發行、補述者「略」常岡丑五郎、常磐津正本版元印刷兼、發行者「略」坂川平四郎へ印

ハ 競獅子

ロ 競獅子「ふり付西川鯉三郎」

ニ・二・きおひじし(二)~(三)



11・1 (四) 二二、五\*一五、〇 一七、七 (行・字) 六・一五 五丁  
\*2・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

→ 鼓獅子

ロ 鼓獅子「ふり付西川鯉三郎」

12・きおひじ(吉) (三丁)

11・1 (四) 二二、八\*一五、六 一七、八 (行・字) 六・一五 四丁

\*2・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

→ 鼓獅子

ロ 鼓獅子「正本所玉澤屋」

12・きおひじ(吉) (三丁)

11・2 (四) 二二、〇\*一五、四 一七、八 (行・字) 六・一五 五丁

\*常磐津豊後節正本「常磐津版元」大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地「紋」若林芳造「印」

→ 「曾我の兩社の祭礼も」皇月の空に魁て「勢獅子劇場花登」常磐津豊後大掾直傳「作者瀬川如臈述」

ロ 世界花小栗外傳「曾我」御狂言「祭禮に」浄瑠璃「勢獅子劇場花登」

12・勢し(吉) (二丁)

11・1 (四) 二 (行・字) 一一・二四 三丁

\* 嘉永四辛亥皇月狂言中村座「板元」神田鍛冶町「いがや勘右門」

→ 「曾我の兩社の祭礼も」皇月の空に魁て「勢獅子劇場花登」常磐津豊後大掾直傳「作者瀬川如臈述」

ロ 世界花小栗外傳「曾我」御狂言「祭禮に」浄瑠璃「勢獅子劇場花登」

12・勢し(吉) (二丁)

11・1 (四) 二 (行・字) 一一・二四 三丁

\* 嘉永四辛亥皇月狂言中村座「正本板元」坂川屋平四郎

→ 「曾我の兩社の祭礼も」皇月の空に魁て「勢獅子劇場花登」常磐津豊後大掾直傳「作者瀬川如臈述」

ロ 世界花小栗外傳「曾我」御狂言「祭禮に」浄瑠璃「勢獅子劇場花登」

12・勢し(吉) (六)

11・1 (四) 二 (行・字) 六・一七 八丁

\* 嘉永四辛亥皇月狂言中村座「於」相勸申候「明治四十五年壬子年五月改正再版」明治四十五年七月十二日印刷「明

治四十五年七月十五日發行「常磐津正本版元」補述者「東京日本橋區檜物町二十五番地」常岡丑五郎「印刷兼發行

人「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

→ 其源菊の盃「常磐津文字太夫直傳」

ロ 其源菊の盃「故常磐津若太夫」岸澤和歌吉

12・菊の盃(吉) (三丁)「梓あり」



二一・一 (B) 四 (行・字) 八・二〇 三丁

\*千種萬歳大々叶／巳卯月／東京上野廣小路元黒門町老番地／正本版元坂川平四郎

ノ菊の盃

ロ「常磐津」菊の盃

二〇 二二・二 (B) 二二、九\*一六、一一五、一四 (行・字) 五・一〇 六丁

\*筆者 澤田春

ノ樹花戀浮松「作者増山金八述」

二〇

二二・樹花上一(十二丁)

二一・二 (B) 四 (行・字) 七・二二 一二丁

二〇

ノ「千賀の煙りと須磨の浪を其の儘に取りあへず」岸満立汐籠「岸澤仲助節／振りつけ西川鏗三郎」

ロ岸満立汐籠

二〇

二一・一 (B) 二一、一七\*一五、四 一八、一四 (行・字) 五・一四 四丁

二〇

ノ「睦み語らふ／陸奥の／名所」岸連斎常磐松嶋

ロ「睦み語らふ／陸奥の／名所」岸連斎常磐松嶋

二二・松しまさ(三丁)

二一・一 (B) 二二、一\*一五、五 一七、五四 (行・字) 六・一二 四丁

\*名古屋市下長者町廣小路角／玉澤屋新七板元／明治廿七年十月二十一日印刷／同年同月同日出版／印刷兼発行者「愛

知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

ノ「睦み語らふ／陸奥の／名所」岸連斎常磐松嶋

ロ「睦み語らふ／陸奥の／名所」岸連斎常磐松嶋

二二・松しまさ(三丁)

二一・一 (B) 二二、六\*一五、二 一七、四四 (行・字) 六・一二 四丁

\*名古屋市下長者町廣小路角／玉澤屋新七板元

ノ「睦み語らふ／陸奥の／名所」岸連斎常磐松嶋「常磐津小文字太夫直傳／岸澤式佐節附／河竹其水著作」

ロ「睦み語らふ／陸奥の／名所」岸連斎常磐松嶋「十一代目／常磐津小文字太夫」

二二・松しまさ(三丁) 〆枠あり

二一・一 (B) 二三、二\*一五、三 一七、八四 (行・字) 六・一三 五丁

\*明治十七年七月初版／明治四十三年二月再版改正／正本／版元／坂川平四郎／明治十七年七月五日御届



編輯人「東京市淺草區馬道町二丁目十二番地」吉村新七「常磐津正本版元 出版人「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

ノ「陸み語らふ／陸奥の／名所」岸達齋常磐松嶋「常磐津文字太夫直傳」

ロ岸達齋常磐松嶋「松島」

ハ2・松しまき(三)

ハ1・2 (B) 二三、六\*一六、〇 一七、一四 (行・字) 六・一三 四丁

昭和廿七年十一月五日印刷、昭和廿七年十一月十日発行、常磐津稽古本(以下略)

ノ岸達齋常磐松嶋

ロ岸達齋常磐松嶋

ハ0

ハ2・2 (B) 二三、一\*一六、四 一九、〇四 (行・字) 六・一四 五丁

ハ0

ノ「陸み語らふ／陸奥の／名所」岸達齋常磐松嶋「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付、作者河竹其水述

ロ「陸み語らふ／陸奥の／名所」岸達齋常磐松嶋「十一代目常磐津小文字太夫」

ハ2・松しまき(二式)

ハ1・1 (B) 四 (行・字) 八・一七 三丁

ノ 明治十七年七月五日御届「編輯人」東京淺草區馬道町二丁目十二番地「吉村新七」出版人「東京下谷區上野元黒門町老番地」坂川平四郎

ノ「陸み語らふ／陸奥の／名所」岸達齋常磐松嶋「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付、作者河竹其水述

ロ「陸み語らふ／陸奥の／名所」岸達齋常磐松嶋「十一代目常磐津小文字太夫」

ハ2・松しまき(三)

ハ1・1 (B) 四 (行・字) 六・一三 五丁

明治十七年七月五日出版、明治四十三年二月改正大正九年十一月再版、ノ 明治十七年七月五日御届「常磐津正本版元」編輯人「東京淺草區馬道町二丁目十二番地」吉村新七「出版人」東京下谷區上野元黒門町老番地「坂川平四郎

ノ狂乱娘撫子「常磐津文字太夫直傳」作者三升屋二三治述・唐人「作者鶴屋南北述」

ハ0

ハ2・きよつらんき(四)・唐人巻(三了)

ハ1・2 (B) 四 (行・字) 七・一七 七丁

ハ0

ノ祇園守護花頭巾「常磐津芳太夫直傳」河竹文治述

ロ八百八町飄單「狂言作者村岡幸助」第一ばんめ四立目「浄瑠璃」祇園守護花頭巾「河竹文次述」上



㊦・きおん上(巻)二式了)

㊦1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 一二・三二 二丁

㊦ 正本/板元/高砂町/南新道/いがや勘右衛門

㊦0

㊦ 八百八町瓢箪「第一ばんめ四だてめ」河竹文次述「浄瑠璃」祇園守護花頭巾「森田座」下  
㊦2・きおん下(巻)二了)

㊦1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 一二・三二 二丁

㊦ 正本/板元/高砂町/南新道/いがや勘右衛門

㊦ 赤垣徳利場

㊦ 義士銘々傳「赤垣徳利之場」

㊦2・赤垣巻(十四了)

㊦1・1 (㊦) ㊦ 〇\*一五、三一七、五㊦ (行・字) 六・一五 一五丁

㊦ 名古屋市下長者町四丁目/玉沢屋新七/廣小路上(板元) 明治廿九年十一月五日印刷/同年同月同日出版/印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

㊦ 「くるふほぼ」くるふて/蝶の行衛哉「三人花真の道行」作者左文述

㊦ 露出色助花「大切の暮」くるふほぼくるふて/蝶の行衛哉「三人花真の道行」中村座/上

㊦2・三人上巻(二了)

㊦1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 一〇・三四 二丁

㊦ 正本/板元/高砂町/南新道/いがや勘右衛門

㊦0

㊦ 露出色助花「大切の暮」くるふほぼくるふて/蝶の行衛哉「三人花真の道行」中村座/下  
㊦2・三人下巻了)

㊦1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 一〇・三四 二丁

㊦ 正本/板元/高砂町/南新道/いがや勘右衛門

㊦ 「桶公」櫻井の訣別「常磐津文字太夫直傳」常磐津文字兵衛節付

㊦ 「桶公」櫻井の訣別

㊦2・へ判読不可

㊦1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 六・一四 八丁

㊦ 千秋/坂川蔵版/ 明治四十四年二月廿五日印刷/明治四十四年二月廿八日發行補述者「東京日本橋區繪物町二十五番地」/常岡丑五郎/印刷兼/發行者「東京下谷區谷中清水町巻番地」/坂川平四郎へ印

㊦0

㊦ 熊坂お長



10  
11・2 (B) 二五、〇\*一七、六 (C) (行・字) 六・一四 六丁  
\*表紙:「きしやわ式治」

1 蜘蛛絲梓弦〔岸澤式治/玉澤屋新七〕

1 蜘蛛絲梓弦

12・千代巻(十一丁)

11・1 (B) 二一、八\*一五、五 一八、八 (C) (行・字) 六・二〇 一二丁

\*1・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元

1 蜘蛛絲梓弦〔作者金井三笑〕

10

12・くもの糸上(一)上七了(八)梓あり

11・2 (B) (C) (行・字) 六・二〇 八丁

\*a/ 正本版元江戸〔地本/問屋〕(紋)〔神田鍛冶町式丁目〕(いがや勘右衛門(印)

10

12・くもの糸上(一)上七了(八)梓あり

11・2 (B) (C) (行・字) 六・一七 一三丁

\*a/ 正本版元江戸〔地本/問屋〕(紋)〔神田鍛冶町式丁目〕(いがや勘右衛門(印)

1 蜘蛛絲梓弦〔作者金井三笑〕

1 蜘蛛絲梓弦〔上中〕〔常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎〕

12・くもの糸上(一)上七了・中(一)中六了(八)梓あり

11・2 (B) (C) (行・字) 六・二〇 一三丁

\*a/ 正本版元東京〔地本/問屋〕(紋)〔下谷區谷中清水町老番地〕(さか川平四郎板(印)

1 蜘蛛絲梓弦〔作者金井三笑〕

10

12・くもの糸上(一)上七了・中(一)中六了・下(一)下十二大尾(八)梓あり

11・2 (B) (C) (行・字) 六・一六 二六丁

\*a/ 正本版元東京〔地本/問屋〕(紋)〔下谷區谷中清水町老番地〕(さか川平四郎板(印)

1 巫山伏千早経言〔柳井隣左交述〕

10

12・巫女上巻(七了)

11・2 (B) 二一、五\*一四、五 一八 (C) (行・字) 七・二一 一〇丁



\*a/ 正本版元江戸「地本／問屋」／「神田鍛冶町貳丁目」へ紋いしがや勘右衛門へ印

10

10

2・巫女下巻(八了)へ梓あり

11・1 (B) B (行・字)七・二六 九丁

\*b/ 正本版元江戸「地本／問屋」へ紋いしがや勘右衛門へ印

「夜咄しの古きをもつて新しき」の百物語に「来宵蜘蛛線」常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述

10

2・蜘蛛の糸筋巻(五了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字)五・一四 五丁

\*天保八丁酉霜月吉日

「雲美芳野帯」作者遠越二三治

10

2・芳の帯一(十五了)

11・2 (B) B (行・字)七・一五 一七丁

10

「鞍馬禰子」女夫酒替奴仲々「玉澤屋新七板元」

口六行稽古本／鞍馬禰子／「振り付西川鯉三郎」

2・くらまじり巻(五了)

11・1 (B) B (行・字)六・二一 六丁

\*名古屋長者町／廣小路角板元／玉澤屋新七

「玉を延へたる」文作の名誉をしたひて「其儘廓八景」岸澤古式部直傳／故柳井隣述

口廓八景「玉をのへたる」文作の名誉をしたひて「玉澤屋新七板元」

2・くるわ八景巻(二了)

11・1 (B) B 1\*15、四 一七、0 B (行・字)六・一一 三丁

\*玉澤屋新七板元／振付西川鯉三郎／三味線岸澤式壽

「玉を延へたる」文作の名誉をしたひて「其儘廓八景」常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐節付／故柳井隣述

口其儘廓八景「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎版

2・廓八景巻(式)

11・1 (B) B 1\*15、八 一八、二 B (行・字)六・一一 四丁

\*文久元「辛酉」年三月吉日／昭和十四「乙卯」年霜月吉日再々版／正本版元坂川蔵版／常磐津正本版元「東京市下谷

區谷中清水町巻番地」印刷兼發行者「坂川平四郎」印



ハ「君が代は千代に八千代に」細石巖鶴亀「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附「狂言堂左交述」・「玉を延たる」文作の名譽をしたひて「其儘廓八景」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節附」故柳井隣述

ロ

ニ2・つるかめ老（五了）

ニ1・2 (B) 二二、三\*一五、二一七、三 (行・字) 六・一四 五丁

※文久元辛酉年三月吉日「正本版元坂川蔵板」

ハ「君が代は千代に八千代に」細石巖鶴亀「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付「狂言堂左交述」・「玉を延たる」文作の名譽をしたひて「其儘廓八景」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節附」故柳井隣述

ロ細石巖鶴亀「其儘廓八景」常磐津小文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ニ2・つるかめ老（五了）

ニ1・1 (B) 二二、二\*一五、二一七、五 (行・字) 六・一五 七丁

※文久元辛酉年三月吉日「正本版元坂川蔵板」常磐津「正本版元」東京都台東區谷中清水町老番地「印刷兼發行者」坂川平四郎「印」

ハ「鶴亀」細石巖鶴

ロ「常磐津」細石巖鶴

ニ

ニ2・2 (B) 二二、〇\*一六、〇一六、八 (行・字) 五・一一 六丁

※筆者 澤田春（「細石巖鶴亀」だけのもの）

ハ「君が代は千代に八千代に」細石巖鶴亀「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付「狂言堂左交述」

ロ其儘廓八景「細石巖鶴亀」常磐津小文字太夫直傳「坂川平四郎」

ニ2・つるかめ老（五了）（梓あり）

ニ1・2 (B) 行・字) 六・一四 七丁

※文久元辛酉年三月吉日「正本版元東京」地本「間屋」紋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板「印」

ハ「君が代は千代に八千代に」細石巖鶴亀「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付「狂言堂左交述」

ロ

ニ2・つるかめ老（五了）（梓あり）

ニ1・2 (B) 行・字) 六・一四 六丁

※文久元辛酉年三月吉日「正本版元東京」地本「間屋」紋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板「印」

ハ「君が代は千代に八千代に」細石巖鶴亀「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付「狂言堂左交述」

ロ其儘廓八景「細石巖鶴亀」常磐津小文字太夫直傳「坂川平四郎」

ニ2・つるかめ老（五了）（梓あり）

ニ1・2 (B) 行・字) 六・一四 七丁



文久元辛酉年三月吉日、常磐津正本版元〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕〔發行兼印刷者〕坂川平四郎印

戀路濃友鳥〔常磐津文字太夫直傳〕

10

2・友とり一(六了)

11・2 (B) B (行・字) 七・一六 六丁

10

千種笠戀の両道

ロ〔降りかねてこよひとなりし月の雨〕小いな半兵衛

2・小いな(八)

11・1 (B) 11・2、10・15、0 一八、七 B (行・字) 六・一三 九丁

板元〔名古屋廣小路玉沢屋新七

千種笠戀の両道〔常磐津文字太夫直傳〕櫻田治助述

千種野戀の両道〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

2・恋のふた道一(六了) 了以外枠あり

11・2 (B) 11・2、11・15、11・16、六 B (行・字) 七・一八 八丁

2・ 正本版元東京〔地本問屋〕〔下谷區谷中清水町老番地〕〔紋〕さか川平四郎板印

千種野戀の両道〔常磐津文字太夫直傳〕作者櫻田治助述

10

2・戀のふたみち一(六了) 了のみ枠外

11・2 (B) 11・2、11・13、11・17、11・2 B (行・字) 七・一五 一丁

2・ 正本版元江戸〔地本問屋〕〔いがや勘右衛門原板印〕〔紋〕さか川平四郎板印

千種笠戀の両道

小ひな半兵衛

10

2・2 (B) 11・24、11・27、11・3 B (行・字) 六・一三 一〇丁

常磐津名歌太夫

千種野戀の両道

10

2・戀の兩道(六了) 枠あり

11・2 (B) B (行・字) 七・一五 六丁

10

富岡屏風八景〔常磐津文字太夫直傳〕作者福森久助述



ロ「小いな／半兵衛」富岡屏風八景「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板」

㍷・屏風八けい巻（～五）

㍷1・2（㉔）二一、四\*一四、八 一八、二〇（行・字）六・一三 八丁

㍷文化十一戌年九月中村座興行ノ㍷ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」紋いがや勘右衛門印

㍷千種野戀の兩道「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述」

ロ千種野戀の兩道「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

㍷2・戀のふた道一（～六了）へ了以外枠あり

㍷1・2（㉔）㉔（行・字）七・一五 八丁

㍷a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町」さか川平四郎板印

㍷千種野戀の兩道「常磐津文字太夫直傳」櫻田治助述」

ロ

㍷2・戀のふた道一（～上六了）へ了以外枠あり

㍷1・2（㉔）㉔（行・字）七・一六 七丁

㍷a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」埋木「消」がや勘右衛門印

㍷高野物狂ひ「常磐津文字太夫」狂言堂櫻田治助述」

ロ高野物狂「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

㍷2・物くるひ巻（～六了）

㍷1・2（㉔）㉔（行・字）六・一五 七丁

㍷0

㍷高野物狂ひ「常磐津文字太夫」狂言堂櫻田治助述」

ロ

㍷2・物くるひ巻（～六了）

㍷1・2（㉔）㉔（行・字）六・一五 七丁

㍷へ巻末尾嘉永三戌年三月ノ㍷ 常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」發行兼印刷者「坂川平四郎」印

㍷高麗菊浮名色入「瀬川如皐述」

ロ高麗菊浮名色入「上」常磐津兼太夫直傳「伊賀屋勘右衛門版」

㍷2・高麗菊巻（～七了）

㍷1・2（㉔）二一、五\*一四、六 一八、〇（行・字）七・一八 九丁

㍷a/ 正本版元江戸「地本」問屋「判読不可」紋いがや勘右衛門印

㍷高麗菊浮名色入「瀬川如皐述」

ロ

㍷2・高麗菊上巻（～上七了・下巻～下七）



11・2 (B) B (行・字) 七・一九 一四丁

イ 茲木曾山雪宮本「振附西川鯉三郎節附岸沢式寿斎」

ロ 茲木曾山雪宮本「上の巻」

ハ 雪の宮本上巻(〜八了)

11・1 (B) 二二、七\*一六、〇 一八、〇 cm (行・字) 六・一七 九丁

\* 慶應四「戊辰」閏四月吉辰日出板 / 2・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

10

ロ 茲木曾山雪宮本「下の巻」

ハ 雪の宮本下巻(〜八了)

11・1 (B) 二二、八\*一六、〇 一八、〇 cm (行・字) 六・一八 九丁

\* 2・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

イ 思春娘婿巳年「常磐津兼太夫」作者櫻田左交述

10

2・思春上巻(〜上六了・下巻〜下七了) (梓あり)

11・2 (B) B (行・字) 七・二七 一三丁

10

イ 子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ 子寶三番叟

2・三ばそうき(〜五)

11・1 (B) 二二、九\*一五、八 一八、〇 cm (行・字) 六・一七 六丁

\* 板元長者町玉沢屋新七廣小路

イ 子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「祝言」子寶三番叟「正本所玉澤屋」

2・三ばそうき(〜五)

11・2 (B) 二二、六\*一五、四 一八、〇 cm (行・字) 六・一六 七丁

\* 常磐津豊後節正本「常磐津版元」大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地 (紋) 若林芳造 (印)

イ 子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「祝言」子寶三番叟

2・三ばそうき(〜五)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、四 一八、〇 cm (行・字) 六・一六 六丁

\* 板元長者町玉沢屋新七廣小路



ㄥ 子寶三番叟〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ 子寶三番叟〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎〕

ㄨ 2・子寶老(〜四了)

ㄨ 1・2 (B) 二〇、二\*一三、九 一七、四 〇 (行・字) 七・一七 六丁

\* a/ 正本版元東京〔地本〕問屋〔上野廣小路元黒門町老番地〕へ紋さか川平四郎板へ印

ㄥ 子寶三番三〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ 〇

ㄨ 2・こたから一(〜四)

ㄨ 1・2 (B) 二、〇四\*一四、二 一七、九 〇 (行・字) 七・一七 四丁

\* 〇

ㄥ 子寶三番三〔常磐津文字太夫〕

ロ 〔祝言〕子寶三番叟〔常磐津〕坂川平四郎〕

ㄨ 2・子寶一(〜六)

ㄨ 1・2 (B) 二、二\*一五、六 一八、〇 〇 (行・字) 六・一五 九丁

\* a/ 正本版元〔東京都台東区谷中清水町老番地〕坂川平四郎へ印

ㄥ 子寶三番三〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ 〔祝言〕子寶三番叟〔常磐津文字太夫直傳〕坂川平四郎〕

ㄨ 2・小だから一(〜三)・子だから四了

ㄨ 1・2 (B) 二、五\*一五、〇 一七、四 〇 (行・字) 七・一七 六丁

\* a/ 正本版元東京〔地本〕問屋〔下谷區谷中清水町老番地〕へ紋さか川平四郎板へ印

ㄥ 子寶三番三〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ 子寶三番叟〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎〕

ㄨ 2・小だから一(〜三)・子だから四了

ㄨ 1・1 (B) 〇 (行・字) 七・一八 六丁

\* a/ 正本版元東京〔地本〕問屋〔上野廣小路元黒門町老番地〕坂川平四郎板へ印

ㄥ 〔置鼓詞〕子寶三番三〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ 〇

ㄨ 2・子寶老(〜八了)

ㄨ 1・2 (B) 二、〇\*一四、三 一七、九 〇 (行・字) 七・一八 九丁

\* a/ 正本版元江戸〔地本〕問屋〔いがや勘右衛門原板〕人形町通松嶋町へ紋さか川平四郎板へ印

ㄥ 子寶三番叟



ロ「常磐津文字太夫直傳」子寶三番叟「ひらがなけいこ本」

ア0

二2・2 (ロ) 二三、七\*一六、六 四 (行・字) 七・二〇 五丁

イ0

ハ子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ0

二2・子寶叟(〜四丁)

二1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・一八 五丁

イ0 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

ハ子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ0

二2・「だかさ」(〜四)

二1・1 (ロ) 四 (行・字) 七・一八 四丁

イ0

ハ子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ0

ア0

二1・2 (ロ) 四 (行・字) 九・二七 二丁

イ0

ハ「置鼓詞」子寶三番三「常磐津文字太夫直傳」

ロ子寶三番三

二2・「判読不可」

二1・1 (ロ) 四 (行・字) 七・一八 五丁

イ名古屋板元「紋」ひしや金兵衛

ハ子寶三番叟

ロ0

二2・2 (ロ) 四 (行・字) 四・一〇 八丁

イ0

ハ「寿末廣」

ロ0

二2・末ひろ巻(〜十丁)



二1・1 (B) 二二、九\*一六、〇 一六、三 (行・字) 六・一二 一一丁  
\*萬延二酉春ノ 4・「振り付」西川鯉三郎ノ・「三味線」岸澤式壽調

ノ 寿末廣

ロ 「常磐津」壽末廣

ノ

二2・2 (B) 二三、〇\*一六、一 一八、三 (行・字) 五・一〇 七丁

\*筆者 澤田春

ノ 獨樂「木村富子作」常磐津文字兵衛作曲」

ロ 「新曲」獨樂「常磐津直伝正本」版元坂川平四郎

ノ 又其一(〜四)

二1・2 (B) 二二、九\*一五、五 一七、八 (行・字) 六・一五 六丁

字1

ノ 駒島戀關札「常磐津文字太夫直傳」

ロ

又2・又2ヨリ一(〜四)了(〜梓あり)

二1・2 (B) 二 (行・字) 七・一六 四丁

オ

ノ 「日和」仇枕夢玉鉢

ロ 「小まん」源五兵衛「仇枕夢玉鉢」常磐津稽古本「芳野屋勝五郎板」

又2・仇まへら一(〜七了)

二1・2 (B) 二一、〇\*一四、三 一八、六 (行・字) 七・二三 九丁

\*東都板元ノ印「南傳馬町老丁目」芳野屋勝五郎ノ印「同町」萬屋吉蔵

ノ 「初日」仇枕夢玉鉢「常磐津文字太夫直傳」作者並木五瓶述」

ロ

又2・玉ぼ(老)〜七了(〜梓あり)

二1・2 (B) 二 (行・字) 七・一八 七丁

オ

ノ 紺屋のお六

ロ

二2・2 (B) 二三、一\*一六、一 一六、八 (行・字) 五・一二 二丁

オ



→「異羽袋錦盤」五色晒(抜粹)「常磐津小文字太夫直傳」作者狂言堂左文述

□五色晒

→五色晒一(〜三)

11・2 (B) 二二三、〇\*一五、四 一八、一四 (行・字) 一一・六 六丁

\*文久三「壬戌」年菊月狂言第二番目大切に中村座に於て初演原本保存す 其后素浄瑠璃短縮抜萃す昭和十五年「庚辰」三月再版、坂川書舗、 正本版元「東京都台東区谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印

→道行伊勢みやげ

□〇

12・御所桜道行一(〜二)へ粹あり

11・2 (B) B (行・字) 七・三三 二丁

□〇

→「頃も弥生の」舞男寄て集し花の宴「内裡模様源氏紫」常磐津文字太夫直傳、作者中村重助述

□〇

12・源氏老(〜五)へ粹あり

11・2 (B) 二〇、八\*一四、五 一七、五四 (行・字) 七・一八 七丁

\*天保九年戊辰狂言、常磐津正本版元「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」へ粹、いがや勘右衛門へ印

→内裡模様源氏紫「岸沢式治」玉沢屋新七

□内裡模様源氏紫

12・五人林老(〜七)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、三 一七、五四 (行・字) 六・一七 八丁

\*板元 長者町八丁目、玉沢屋新七

→「五人ばやし」内裡模様源氏紫

□「常磐津」五人ばやし

□〇

12・2 (B) 二二、九\*一五、九 一六、五四 (行・字) 五・一二 九丁

\*筆者 澤田春

→「頃も弥生の」舞男寄て集し花の宴「内裡模様源氏紫」常磐津文字太夫直傳、作者中村十助述

□〇

12・源氏老(〜五)へ粹あり

11・2 (B) 二二、一\*一四、一 一七、五四 (行・字) 七・一六 〇丁

\*天保九年戊辰四月狂言、明治二年巳九月再版、 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老丁目」へ粹、さか

川平四郎板へ印



ハ「頃も弥生の、難男奇て、集し花の宴」内裡模様源氏紫「常磐津文字太夫直傳」作者中村重助述

ロ内裡模様源氏紫「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・源氏老(五)へ梓あり

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・一七 九丁

※天保九年戊四月狂言ノ、正本版元東京「地本」問屋へ紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎へ印

ハ「新吉原」碁太平記白石断「西川鯉三郎」岸澤式寿齋

ロ白石断/揚屋之段

ハ2・白石断上巻(七了)

ニ1・1 (B) 二二、〇\*一五、四 一七、六 (行・字) 六・一六 八丁

※2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ「白石断」新吉原の段「下の巻」西川鯉三郎「岸澤式寿齋」

ロ白石断/異見之場下

ハ2・白石断(下巻)(十六了)

ニ1・1 (B) 二二、〇\*一五、三 一七、九 (行・字) 六・一七 一七丁

※2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ「白石断」新吉原の段「下の巻」

ロ「白石はなし」新吉原の段「下の巻」

ハ0

ニ2・2 (B) 二五、一\*一七、三 (行・字) 六・一八 一八丁

ハ0

ハ「五人女」五人一座花の盃「振附西川鯉三郎」三味線岸澤式寿齋

ロ五人一座花の盃

ハ2・五人女老(六了)

ニ1・1 (B) 二一、七\*一五、六 一七、三 (行・字) 六・二〇 七丁

※1・板元「長者町」玉沢屋新七「廣小路上」

ハ五人一座花の盃「常磐津兼太夫」作者櫻田治助述

ハ0

ハ2・五人一座上老(七了・下巻)下六了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二四 一三丁

ハ0

ハ歳旦福八内「常磐津豊後大掾直傳」



ロ「乙未歳旦」福八内

ㄥ2・ふくはうちぎ丁

ㄥ1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 八・二三 二丁

伊賀屋

ハ「咲分枕土俵」常磐津文字太夫直傳／瀬川如臈述

ロ

ㄥ2・枕どひやう一(六了)

ㄥ1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二八 六丁

伊

ハ「佐倉曙」宗五郎半屋の段

ロ「佐倉曙」宗五郎／半屋の段「上のまき」／「岸澤式寿斎調」

ㄥ2・宗五郎上巻(十一了)

ㄥ1・1 (㊦) 二一、四\*一四、九 一八、〇 ㊦ (行・字) 六・一四 一二丁

ㄥ2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ハ「佐倉曙」宗五郎子別の段「岸澤式佐傳」玉澤屋新七板

ロ「花雲」明徳野／佐倉宗五郎／子別の段上

ㄥ2・宗五郎子別巻(十六了)

ㄥ1・1 (㊦) 二一、九\*一四、八 一八、〇 ㊦ (行・字) 六・一五 一七丁

ㄥ名古屋長者町／廣小路角／玉澤屋新七／板元

ハ「花雲明徳野佐倉」宗五郎子別「下の巻」

ロ「佐倉」宗五郎／子別／下の巻

ㄥ2・宗五郎子別下巻(十一了)

ㄥ1・1 (㊦) 二二、三\*一五、〇 一七、〇 ㊦ (行・字) 六・一七 一一丁

ㄥ名古屋長者町／玉沢屋／新七／廣小路角

ハ「酒宴會我」

ロ「酒宴會我」第式ばんめ「」船田十内／沢むら宗十良／相勤申候「」市村座／さどさくら

ㄥ2・さど板元

ㄥ1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 七・一〇 二丁

ㄥかんださくま町二丁目／板元たけたやゑん十郎

ハ「里模倣若菜の壽」

ロ

伊



二1・2 (B) B (行・字) 九・二〇 二丁

※右

※太夫直傳之以正本被改板者也

ノ里模様若菜の壽

B〇

A〇

二1・2 (B) B (行・字) 七・一三 四丁

※〇

ノ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「岸澤和佐太夫直傳ノ玉澤屋新七板元」

ロ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「振付西川鯉三郎」

A2・サヨ衣上巻(ノ五了)

二1・1 (B) 二二、〇\*一四、八 一八、〇 B (行・字) 六・一六 六丁

※名古屋長者町廣小路上ニ玉澤屋新七板元

ノ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「岸澤古式部直傳ノ玉澤屋新七板元」

ロ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「正本所玉澤屋」

A2・サヨ衣上巻(ノ五了)

二1・2 (B) 二一、五\*一五、三 一八、〇 B (行・字) 六・一六 七丁

※〇

ノ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「岸澤古式部直傳ノ玉澤屋新七板元」

ロ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「正本所玉澤屋」

A2・サヨ衣上巻(ノ五了)

二1・2 (B) 二二、九\*一六、一 一七、九 B (行・字) 六・一六 七丁

※常磐津豊後節正本ノ

常磐津版元ノ「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」ノ紋ノ若林芳造ノ印ノ

ノ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣「岸澤和佐太夫直傳ノ玉澤屋新七板元」

B〇

A2・サヨ衣上巻(ノ五了)

二1・2 (B) 二二、一\*一五、三 一八、〇 B (行・字) 六・一六 五丁

※〇

ノ「小夜衣ノ千太郎」恨葛露濡衣ノ下の巻

ロ恨葛露濡衣ノ下の巻

A2・小夜衣下巻(ノ十了)

二1・1 (B) 二二、一\*一五、六 一八、二 B (行・字) 六・一五 一丁



\*名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路上

→根葛露濡衣「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付／作者河竹新七述

ロ「小夜衣／千太郎」根葛露濡衣上「常磐津豊後大掾直傳」岸澤古式部節付／正本所坂川平四郎

ニ・2・ぬれ衣上巻（～六了）へ枠あり

ニ1・2 (ロ) 二二、三\*一五、二一七、四 (行・字) 六・一六 七丁

\*大正五「丙辰」年三月再版／<sup>2)</sup> 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋／さか川平四郎板へ印

→根葛露濡衣「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付／作者河竹新七述

ロ「小夜衣／千太郎」根葛露濡衣上「常磐津豊後大掾直傳」岸澤古式部節附／正本所坂川平四郎

ニ・2・ぬれ衣上巻（～上六了）へ枠あり

ニ1・1 (ロ) 五 (行・字) 六・一五 八丁

\*大正五「丙辰」三月再版／<sup>2)</sup> 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」さか川平四郎板へ印／  
日の出家／こゝね

10

ロ「小夜衣／千太郎」根葛露濡衣中下「常磐津豊後大掾直傳」岸澤古式部節付／正本所坂川平四郎

ニ・2・ぬれ衣中巻（～六了・下巻～六了）

ニ1・2 (ロ) 二二、二\*一五、二一七、五 (行・字) 六・一七 一四丁

\*文久二年八月吉辰／明治十七年六月再刻 守田座／<sup>2)</sup> 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋

さか川平四郎へ印

→根葛露濡衣「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付／作者河竹新七述

ロ「小夜衣／千太郎」根葛露濡衣上「常磐津豊後大掾直傳」岸澤古式部節付／正本所坂川平四郎

ニ・2・ぬれ衣上巻（～六了）

ニ1・2 (ロ) 二二、三\*一五、一一七、五 (行・字) 六・一五 八丁

\*大正五「丙辰」年三月再版／<sup>2)</sup> 常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」印刷兼發行者「坂川平四郎」印

→根葛露濡衣「常磐津小文字太夫」岸澤式佐節付／作者河竹新七述

ロ

ニ・2・ぬれ衣上巻（～上六了・中巻～中六了・下巻～六了）へ枠あり

ニ1・2 (ロ) 五 (行・字) 六・一五 一八丁

\*へ上巻末尾／大正後丙辰年三月再版／へ下巻末尾／文久式戊辰年八月吉辰／明治十七年六月再刻／守田座／<sup>2)</sup> 常磐津正  
本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」印刷者「坂川平四郎」印

→根葛露濡衣「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付／作者河竹新七述

ロ

ニ・2・ぬれ衣上巻（～上六了・中巻～中六了・下巻～下六了）へ枠あり



11・1 (B) C (行・字) 六・一五 一八丁

\* 文久荷戌年八月吉辰、明治十七年六月再刻、守田座

10

ロ「小夜衣、千太郎」根葛露濡衣「中」常磐津豊後大掾直傳、岸澤古式部節附、正本所坂川平四郎

2・ぬれ衣中巻、中六了、(梓あり)

11・1 (B) C (行・字) 六・一五 八丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」紋、下谷區谷中清水町老番地、さか川平四郎板、印、

日の出家、こいね

10

ロ「小夜衣、千太郎」根葛露濡衣「下」常磐津豊後大掾直傳、岸澤古式部節附、正本所坂川平四郎

2・ぬれ衣下巻、下六了、(梓あり)

11・1 (B) C (行・字) 六・一五 八丁

\* 文久荷戌年八月吉辰、明治十七年六月再刻、森田座、正本版元東京「地本、問屋」紋、下谷區谷中清水町老番地、

さか川平四郎板、印、日の出家、小稲

1「皿やしき」昔噺唐繪皿「岸澤式治、玉沢屋新七」板

ロ「昔噺唐繪皿」皿屋しきのだん

2・皿やしき、(十)

11・1 (B) C (行・字) 七・一七 一一丁

\* 1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

去程戀重荷「常磐津文字太夫直傳、作者櫻田治助述」

10

2・戀重荷上巻、上六了、下二、下六了、(梓あり)

11・2 (B) C (行・字) 七・二二 一二丁

10

1「三かつ、半七」桜浮名蹟夜「作者増山金八述」

ロ「三かつ、半七」桜浮名蹟夜「常磐津文字太夫直傳、正本所伊賀屋勘右衛門板」

2・三かつ巻、(七)

11・2 (B) C (行・字) 七・二三 九丁

\* a/ 正本版元江戸「地本、問屋」神田鍛冶町式丁目、紋、いがや勘右衛門、印、

1「三かつ」常磐津文字太夫直傳

ロ其常磐津仇兼言「三かつ、半七」

2・三かつ式、(八了)

11・1 (B) C (行・字) 六・一八 八丁



※ なごや板元へ紋ひしや金兵衛

△ 「三かつ」半七「其常磐津仇兼言」岸澤式治／玉澤屋新七「板」

□ 三かつ「子別段」

△ 2・三勝寺(七)

△ 1・1 (B) 二三、〇\*一六、一 一七、五 (行・字) 六・一七 八丁

※ 1・板元へ長者町筋／玉澤屋新七／元廣小路角

△ 三勝えん切の段「岸澤式治／玉沢屋新七」

□ 三かつ縁切

△ 2・三かつえん切巻(八了)

△ 1・1 (B) 二二、八\*一五、二 一七、二 (行・字) 七・一九 九丁

※ 板元へ長者町八丁目／玉澤屋新七

△ 三勝えん切の段

□ 三勝縁切の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

△ 2・三かつ巻(九了)

△ 1・2 (B) 二二、二\*一四、一 一七、〇 (行・字) 七・一六 一一丁

※ △ 正本坂元「地本へ問屋」いがや勘右衛門原板「人形町通松嶋町」へ紋さか川平四郎へ印

△ 三かつ

□ 三かつ

△ 〇

△ 2・2 (B) 二三、二\*一六、八 (行・字) 五・一四 一一丁

※ 〇

△ 其常磐津仇兼言「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田次助述」

□ 其常磐津仇兼言「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

△ 2・三かつ巻(六了)

△ 1・2 (B) (行・字) 七・一八 七丁

※ △ 1 正本坂元江戸「地本へ問屋」へ紋いがや勘右衛門原板へ印さか川平四郎へ印

△ 「豊後がゆく」邯鄲の夢／式部が操る／荘子の蝶「三世相錦繡文章 仲町福嶋屋の段「岸澤古式部直傳」

□ 三世相錦繡文章「岸澤古式部直傳」振付西川鯉三郎／三弦岸澤式壽齋」

△ 2・三世相ふく嶋巻(三十了)

△ 1・1 (B) 二二、六\*一五、一 一八、三 (行・字) 七・二〇 三三丁

※ 2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元



ノ「豊後が詠く／邯鄲の夢／式部が操る／莊子の蝶」三世相錦繡文章 仲町福嶋屋の段〔岸澤古式部直傳〕

ロ三世相錦繡文章〔正本所玉澤屋〕

ル2・三世相ふく清き(～三十式了)

二1・2 (四) 二二、七、一五、七 一八、四 (行・字) 七・一九 三四丁

※常磐津豊後節正本〔常磐津版元 玉澤屋〕

ノ「豊後が詠く／邯鄲の枕／式部が操る／莊子の蝶」三世相錦繡文章〔常磐津豊後大掾直傳〕／仲町福嶋屋の段

ロ「豊後が詠く／邯鄲の枕／式部が操る／莊子の蝶」三世相錦繡文章〔常磐津豊後大掾直傳〕正本所伊賀屋勘右「門板」

ル2・三世相ふく嶋上き(～上十了・中巻／中十了・下／巻／下／十一了)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二二 三三丁

※安政二乙卯年三月大吉日／作者狂言堂左交／門人松島半二 〆 正本版元江戸〔地本／問屋〕／紋／〔神田鍛冶

町式丁目〕／いがや勘右衛門／印

ノ「豊後が詠く／邯鄲の枕／式部が操る／莊子の蝶」三世相錦繡文章〔常磐津豊後大掾直傳〕／仲町福嶋屋の段

ロ常磐津正本全集〔十之巻〕

ル2・三世相ふく嶋上き(～上十了・中巻／中十了・下／巻／下／十了)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・一九 三三丁

※安政二乙卯年二月大吉／作者狂言堂左交／門人松嶋 〆 正本版元東京〔地本／問屋〕〔紋〕／〔下谷區谷中滑

水町吉番地〕／坂川平四郎／印

ノ「豊後が詠く／邯鄲の枕／式部が操る／莊子の蝶」三世相錦繡文章〔常磐津豊後大掾直傳〕／仲町福嶋屋の段

ロ「三世相」福島屋の段〔上〕〔常磐津豊後大掾直傳〕正本所坂川平四郎

ル2・三世相ふく嶋上き(～上十了)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・一九 一一丁

※〆

10

ロ「三世相」福島屋の段〔中〕〔常磐津豊後大掾直傳〕正本所坂川屋平四郎

ル三世相だしき中巻(～十了)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 一一丁

※〆

10

ロ「三世相」福島屋の段〔下〕〔常磐津豊後大掾直傳〕正本所坂川平四郎

ル三世相だしき下／巻(～十一了)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 一一丁

※安政二乙卯年三月大吉日 〆 作者狂言堂左交／門人松嶋半二



ハ「豊後が<sup>く</sup>／＼邯鄲の枕」式部が操る／＼莊子の蝶」三世相錦繡文章「常磐津豊後大掾直傳／＼玉澤屋新七板元」

ロ「三世相錦繡文章／＼洲崎堤の場」おその／＼六三／＼道行／＼段

㍻・三世相道行巻（〜七了）

㍿1・1 （目）二二、〇\*一五、三 一七、〇 〇 〇 （行・字）六・一四 八丁

㍿1・板元／＼名古屋／＼玉沢屋新七／＼長者町

ハ「豊後が<sup>く</sup>／＼邯鄲の枕」式部が操る／＼莊子の蝶」三世相錦繡文章「常磐津豊後大掾直傳／＼玉澤屋新七板元」

ロ「道行段」三世相錦繡文章「正本所玉澤屋」

㍻・三世相道行巻（〜七了）

㍿1・2 （目）二二、七\*一六、〇 一七、〇 〇 〇 （行・字）六・一四 九丁

㍿常磐津豊後節正本／＼常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」／＼紋／＼若林芳造／＼印

ハ三世相錦繡文章式「常磐津文字太夫直傳」道行蝶吹雪 洲崎堤の段

ロ三世相錦繡文章「洲崎堤」

㍻・道行一（〜七）

㍿1・2 （目）二三、三\*一五、七 一七、〇 〇 〇 （行・字）六・一六 一〇丁

㍿昭和廿九年五月一日印刷／＼昭和廿九年五月五日／＼発行常磐津稽古本（以下略）

ハ「豊後が<sup>く</sup>／＼邯鄲の枕」式部が操る／＼莊子の蝶」三世相錦繡文章「第二」道行蝶吹雪 洲崎堤の段「常磐津豊後大掾直

傳／＼作者狂言堂左交述」

ロ「三世相」道行蝶吹雪「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎」

㍻・三世相道行巻（〜六了）／＼枠あり

㍿1・2 （目）二〇、二\*一四、〇 一七、八 〇 〇 （行・字）七・一六 八丁

㍿a/ 正本版元東京「地本／＼問屋」／＼上野廣小路元馬門町老番地」／＼紋／＼さか川平四郎板／＼印

ハ「豊後が<sup>く</sup>／＼邯鄲の枕」式部が操る／＼莊子の蝶」三世相錦繡文章「第二」道行蝶吹雪 洲崎堤の段「常磐津豊後大掾直

傳／＼作者狂言堂左交述」

ロ「三世相」道行蝶吹雪「洲崎堤」常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎」

㍻・三世相道行巻（〜六了）

㍿1・2 （目）二二、四\*一五、三 一七、一 〇 〇 （行・字）七・一七 八丁

㍿安政二乙卯年五月吉日（坂川蔵版）／＼ 正本版元東京「地本／＼問屋」／＼東京市下谷區谷中清水町老番地」／＼紋／＼さか川

平四郎／＼印

ハ「豊後が<sup>く</sup>／＼邯鄲の枕」式部が操る／＼莊子の蝶」三世相錦繡文章「第二」道行蝶吹雪 洲崎堤の段「常磐津豊後大掾直

傳／＼作者狂言堂左交述」

ロ「三世相」道行蝶吹雪「洲崎堤」常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎」

㍻・三世相道行巻（〜六了）

㍿1・2 （目）二二、一\*一五、一 一七、〇 〇 〇 （行・字）七・一七 七丁



\* 安政二乙卯年五月吉日 / B / 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

→ 道行蝶吹雪 洲崎堤の段

ロ「常磐津」三世相錦繡文章「道行蝶吹雪洲崎堤の段」

NO

11・2 (B) 二四、〇\*一七、六一七、六四 (行・字) 五・一〇 一二丁

\* 春

→ 「豊後がさく」邯鄲の枕式部が操る／莊子の蝶「三世相錦繡文章」常磐津豊後大掾直傳／作者狂言堂左交述「第二道行

蝶吹雪「洲崎堤の段」

ロ「三世相」道行蝶吹雪「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

11・2 三世相道行一(六丁)

11・2 (B) B (行・字) 七・二二 八丁

\* 乙卯年五月吉日 / B / 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板へ印

→ 「豊後がさく」邯鄲の枕式部が操る／莊子の蝶「三世相錦繡文章」常磐津豊後大掾直傳／作者狂言堂左交述「第二道行

蝶吹雪

ロ「三世相」道行蝶吹雪「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

11・2 三世相道行一(六丁)

→ 三社祭禮の段

ロ 三社祭禮の段

11・2 三社まつり巻(十二丁)

11・1 (B) 二二、九\*一五、一一八、九四 (行・字) 六・一七 一三丁

\* 〇

→ 三社祭禮の段

ロ「三世相」三社祭禮之段「正本所玉澤屋」

11・2 三社まつり巻(十二丁)

11・2 (B) 二二、一\*一五、三一八、八四 (行・字) 六・一七 一四丁

\* 常磐津豊後節正本「常磐津版元 玉澤屋」

→ 三社祭禮の段

ロ「三世相」三社祭禮之段「正本所玉澤屋」

11・2 三社まつり巻(十二丁)

11・2 (B) 二二、八\*一五、四一八、八四 (行・字) 六・一七 一四丁

\* 常磐津豊後節正本「常磐津版元」大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地「へ紋」若林芳造へ印

→ 「豊後がさく」邯鄲の枕式部が操る／莊子の蝶「三世相錦繡文章」常磐津豊後大掾直傳／三社祭禮の段



22・三世相くくく上一(一六)

11・2 (B) 二一、二\*一四、一 一六、五 (行・字) 七・二〇 八丁

\*a/ 正本版元東京「地本/問屋」/「上野廣小路元黒門町老番地」/紋くさか川平四郎板印

10

□「三世相」極楽浄土の段「下」常磐津豊後大掾直傳正本所坂川平四郎

22・三世相くくく下老(一六)

11・2 (B) 二一、二\*一四、一 一六、七 (行・字) 七・二二 八丁

\*安政二乙卯年以下墨ヲ消シテ / a/ 正本版元東京「地本/問屋」/「上野廣小路元黒門町老番地」/紋くさか川平四郎板印

ト「豊後がくく邸邸の枕/式部が操る/莊子の蝶」三世相錦繡文章「常磐津豊後大掾直傳/狂言堂左交」/第五 極楽浄土の段

10

22・三世相くくく上一(一六・下老下六了)

11・2 (B) B (行・字) 七・一九 一三丁

\*安政二乙卯年以下埋木で消してある / b/ 正本版元東京「地本/問屋」/「下谷區谷中清水町老番地」/さか川平四郎板印

11・2 (B) 二一、一\*一四、〇 一六、五 (行・字) 七・二〇 一〇丁

\*a/ 正本版元東京「地本/問屋」/「下谷區谷中清水町老番地」/紋くさか川平四郎板印

ト「豊後がくく邸邸の枕/式部が操る/莊子の蝶」三世相錦繡文章「常磐津豊後大掾直傳/作者狂言堂左交述」/第四 鹽地獄の段

10

22・三世相くくく上一(一八了・下老下七了)

11・2 (B) B (行・字) 七・一九 一五丁

\*b/ 正本版元東京「地本/問屋」/「下谷區谷中清水町老番地」/さか川平四郎板印

ト三世相錦繡文章「第五」極楽浄土の段「岸澤古式部直傳」

□極楽浄土の段

22・極楽吉(一上七了)

11・1 (B) 二一、七\*一五、一 一七、八 (行・字) 七・二二 八丁

70

ト「豊後がくく邸邸の枕/式部が操る/莊子の蝶」三世相錦繡文章「第五」極楽浄土の段「常磐津豊後大掾直傳/作者狂言堂左交述」

□「三世相」極楽浄土の段「上」常磐津豊後大掾直傳正本所坂川平四郎



11・1 (B) B (行・字) 七・一六 七丁

※表紙見返しに、元板人坂川平四郎、翻刻人「明治十五年十一月廿七日御届」馬喰町二丁目一番地、木村文三郎

1 「豊後がゆく」邯鄲の枕ノ式部が操るノ莊子の蝶「三世相錦繡文章」常磐津豊後大掾直傳ノ第三 十萬億途の段

10

12・三世相十萬億土上巻ノ上六了・下巻ノ下六了

11・2 (B) B (行・字) 七・一九 一二丁

※安政三乙卯年五月吉日ノ、正本版元東京「地本ノ問屋」へ紋ノ「下谷區谷中清水町老番地」さか川平四郎へ印

1 墮地獄の段

10 墮地獄の段

12・三世相さくく巻ノ十五了

11・1 (B) 11・2 七・一六、二一八、九 (行・字) 七・一七 一六丁

10

1 「豊後がゆく」邯鄲の枕ノ式部が操るノ莊子の蝶「三世相錦繡文章」第四「墮地獄の段」常磐津豊後大掾直傳ノ作者狂言堂  
左交誼

10 「三世相」墮地獄の段「上」常磐津豊後大掾直傳ノ正本所坂川平四郎

12・三世相さくくノ一(八了)

10

12・三世相三世まつり上巻ノ六了・下巻ノ下の六了

11・2 (B) B (行・字) 六・一七 一三丁

※安政二乙卯年五月大安日ノ千穠萬歳大々叶ノ坂川之本ノ、正本版元東京「地本ノ問屋」へ紋ノ「下谷區谷中清水町老番地」さか川平四郎へ印

10

10 「三世相」三世祭禮の段「下」常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎

12・三世相三世まつり下巻ノ六了

11・1 (B) 11・2 〇・一五、五 一七、二 (行・字) 六・一六 八丁

※千穠萬歳大々叶ノ紋ノ安政二乙卯年五月大安日ノ、常磐津正本版元「印刷兼発行者」東京市下谷區谷中清水町老番地「坂川平四郎」へ印

1 三世祭禮の段

10 「常磐津」三世相ノ錦繡文章「三世祭禮之段」下巻

10

12・2 (B) 12・4 五・一六、九 一七、五 (行・字) 五・九 一五丁

10



10

110

22・三世相三社まつり下巻(下の六了)

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二〇 七丁

\* 安政二乙卯年五月大安日 / 2 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

10

110

22・三世相三社まつり下巻(下の六了)

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二〇 七丁

\* 千穂葉萬歳大叶「印」安政二乙卯年五月大安日 / 2 正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地「さか川平四郎板」印

1 「豊後がく」郡郡の枕式部が操る／莊子の蝶「三世相錦繡文章」常磐津豊後大掾直傳／三社祭禮の段

110

22・三世相三社まつり上巻(上六了・下巻(下六了))

11・2 (B) 田 (行・字) 六・一七 一三丁

\* 安政二乙卯年五月大安日

1 「豊後がく」郡郡の枕式部が操る／莊子の蝶「三世相錦繡文章」常磐津豊後大掾直傳／三社祭禮の段

110 「三世相」三社祭禮の段「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎

22・三世相三社まつり上巻(上六了)

11・2 (B) 田 (行・字) 六・一七 八丁

\* b/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」いがや勘右衛門原板「人形町通松嶋町」さか川平四郎板「印」

1 「豊後がく」郡郡のまくら 式部が操る／莊子の蝶「三世相錦繡文章」三社祭禮の段「常磐津豊後大掾直傳」

110

22・三世相三社まつり上巻(六了)

11・1 (B) 田 (行・字) 六・二三 七丁

\* b/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

10

110

22・三世相三社まつり下巻(下の六了)

11・1 (B) 田 (行・字) 六・二三 七丁

\* 安政二乙卯年五月大安日 / 2 正本版元江戸「地本」問屋「紋」いがや勘右衛門原板「人形町通松嶋町」さか川平四郎板「印」



ハ「物好き」長者」三人片輪

ロ「物好き」長者」三人片輪

ハ三人片輪一（七）

二一・二 (四) 二三、一\*一五、四 一八、二 四 (行・字) 六・一六 九丁

※「昭和十三年六月吉辰」昭和廿三年五月再版「常磐津正本版元」東京都台東區谷中清水町一番地「坂川平四郎」印

ハ「物好き」長者」三人片輪

ロ「物好」長者」三人片輪

ハ三人片輪一（八）

二一・二 (四) 二二、二\*一五、二 一八、一 四 (行・字) 六・一七 九丁

※「昭和十三年六月吉辰」常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町一番地」坂川平四郎「印」

ハ三人片輪

ロ「常盤津」三人片輪

ハ〇

二二・二 (四) 二四、五\*一六、七 四 (行・字) 五・一一 一一丁

ハ〇

ハ三幅對和歌姿畫「常磐津文字太夫直傳」

ロ三幅對和歌姿畫「三幅對の内 俳諧師」

ハ一（五了）

二一・一 (四) 二二、九\*一四、九 一八 四 (行・字) 七・一六 六丁

※長者町八丁目「板元玉澤屋新七」

ハ三幅對和歌姿畫「常磐津文字太夫直傳」

ロ〇

ハはるかへし一（五了）

二一・二 (四) 二二、三\*一四、二 一七、九 四 (行・字) 七・一六 五丁

ハ〇

ハ三幅對和歌姿畫「常磐津文字太夫直傳」

ロ三幅對和歌姿畫「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ二・はるかへし一（五了）

二一・二 (四) 四 (行・字) 七・一七 七丁

※ハ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

ハ「御最原のお恵」難波の梅を接枝しながらも大江戸の故郷へ「飴色花の土産」三幅對和歌姿畫「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述



口 櫻門詠千本「三幅對の内/俳諧師」/「御最原のお恵に/再びさかゆく難波の梅を/接枝ながらも大江戸の/故郷へかき  
る花の土産」三幅對和歌姿畫

ナ2・三ふくつ(二丁)

ニ1・1 (四) 田 (行・字) 一一・三四 二丁

天保九戌年三月狂言/ 正本板元/神田鍋町西横町/いがや勘右門

入 名本所塩原実記「河竹新七述/岸沢寿佐久調/玉澤屋新七出版」

口 名本所/塩原実記

ナ2・塩原一(五丁)

ニ1・1 (四) 二三・〇\*一五、六一八、〇田 (行・字) 六一八 六丁

板元/玉沢屋新七/ 「明治廿七年二月廿日印刷/同年同月同日出版」印刷兼発行者/「愛知縣名古屋市下長者町四丁目  
百廿五番戸」佐々新七

入 「所作事と申も/恐れいり豆に/花の東の師匠を/力に」/四季寫土佐画拙/大黒「玉沢屋新七板」

口 四季寫土佐画拙/「ふり付/西川和光」

ナ2・大く一(三) 二1・1 (四) 二二、〇\*一五、五一九、〇田 (行・字) 六一 四丁

ナ1・名古屋長者町/玉澤屋新七/廣小路上板元

ナ 七七五画

口 「新版/章句改正六行稽古本」土佐画

ナ2・とさへ巻(五丁)

ニ1・2 (四) 二一、八\*一五、〇 一六、八田 (行・字) 六一 六丁

ナ1・名古屋長者町/玉沢屋新七/廣小路角板元

入 「所作事と申/恐れいり豆の/花の東の師匠を/力に」/四季寫土佐画拙「常磐津文字太夫直傳/作者西沢一鳳」/舟頭/大黒  
契情/大盡

口 源家八代惠剛者「第二番目大切相勤申候」/「所作事と申/恐れいり豆の/花の東の師匠を/力に」/四季寫土佐画拙上/三升屋二三

治/櫻田治助

ナ〇

ニ1・1 (四) 田 (行・字) 一〇・三三 二丁

いがや勘右衛門/板元/鍋町

ナ 雷

口 源家八代惠剛者「第二番目大切相勤申候」/「所作事と申/恐れいり豆の/花の東  
の師匠を/力に」/四季寫土佐画拙下/「狂言作者」櫻田治助/清水正七

ナ〇

ニ1・1 (四) 田 (行・字) 一〇・三三 一丁

いがや勘右衛門/板元/鍋町



ハ「所作事と申も、恐れ入豆に花の、東の師匠を力に」四季寫土佐画拙「大黒」〔常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述〕  
H O

ニ2・大こく上巻(五了)

ニ1・2 (B) 二一、一\*一四、〇 一六、七 B (行・字) 六・一八 五丁

弘化四丁未年月狂言 市村座、B 正本版元東京〔地本、問屋〕〔下谷區谷中清水町老番地〕、ハ紋、さか川平四郎ハ印、

ハ「所作事と申も、恐れ入豆に花の、東の師匠を力に」四季寫土佐画拙「大黒」〔常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述〕

ロ「小園次、大黒」四季寫土佐画拙〔常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎〕

ニ2・大こく上巻(五了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・一五 七丁

弘化四丁未霜月狂言、市村座、B 正本版元東京〔地本、問屋〕ハ紋、ハ「人形町通松嶋町」、さか川平四郎板ハ印、

ハ「所作事と申も、恐れ入豆に花の、東の師匠を力に」四季寫土佐画拙「大黒」〔常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述〕

H O

ニ2・大こく上巻(五了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・一五 六丁

弘化四丁未霜月狂言、市村座、B 正本版元東京〔地本、問屋〕ハ紋、ハ「上野廣小路元黒門町老番地」、さか川平四郎板ハ印、

ハ「四季寫土佐画拙」〔船頭〕〔常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述〕

ロ「雷」〔船頭〕四季寫土佐画拙〔常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎〕

ニ2・大こく上巻(六了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・一二 八丁

弘化四未年十一月狂言、市村座、B 正本版元東京〔地本、問屋〕ハ紋、ハ「上野廣小路元黒門町老番地」、さか川平四郎板ハ印、

ハ「四季寫土佐画拙」〔常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述〕

H O

ニ2・大こく上巻(五)

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・一〇 七丁

弘化四未年十二月狂言、市村座、B 常磐津正本版元〔印刷者兼、發行者〕〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕、坂川平四郎ハ印、

ハ「四季寫土佐画拙」〔船頭〕〔常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述〕

ロ「雷」〔船頭〕四季寫土佐画拙〔常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎〕

ニ2・大こく上巻(五)

ニ1・1 (B) B (行・字) 六・一〇 七丁



※表紙見返しへ、弘化四未十一月狂言市村座、元板人、坂川平四郎、明治十五年十一月廿七日御届、馬喰町二丁目一番地、翻刻人、木村文三郎

四季寫土佐画拙「船頭」常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述

HO

※2・2ヤカダモ(六了)

※1・2 (B) 二一、〇\*一三、九 一六、五cm (行・字) 六・一二 六丁

※弘化四未年十一月狂言市村座、正本版元東京「地本」問屋「人形町通松嶋町」紋、さか川平四郎板印

四季寫土佐画拙「船頭」常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述

HO

※2・2ヤカダモ(六了)

※1・2 (B) B (行・字) 六・一二 七丁

※弘化四未年十一月狂言市村座、正本版元東京「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」紋、「人形町通松嶋町」さか川平四郎板印

四季寫土佐画拙「船頭」常磐津文字太夫直傳、作者西沢一鳳述

HO

口「常磐津」四季寫土佐画拙「夕月」

※2・2 (B) 二二、九\*一五、七 一六、二cm (行・字) 六・一二 八丁  
※弘化四未年十一月狂言 市村座

ノ式三番「岸澤古式部直傳」

ロ式三番叟「正本所玉澤屋」

ハ式三ば一(五了)

※1・2 (B) 二二、六\*一五、一 一七、五cm (行・字) 六・一二 六丁

※玉澤屋版

ノ式三番「岸澤古式部直傳」

ロ式三番叟「正本所玉澤屋」

ハ式三ば一(五了)

※1・2 (B) 二二、七\*一六、一 一七、八cm (行・字) 六・一二 七丁

※常磐津豊後節正本、常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」紋、若林芳造印

ノ式三番「岸澤古式部直傳」

ロ式三番叟

ハ式三ば一(五了)

※1・1 (B) 二一、六\*一五、四 cm (行・字) 六・一二 六丁



\* 「なごや長者町八丁目」玉沢屋新七板元

ノ式三番叟「豊後大掾直傳」烏亭焉馬翁述

ロ式三番叟「式佐改」四代目岸澤古式部

ノ

二一・一 (B) B (行・字) 一〇・二八 五丁

\* 三世相錦繡文章老松の番組一覽あり、紋、常磐津豊後大掾「三弦」岸沢三蔵、右番組浄瑠璃惣門弟中躍出相勤申候、安政三乙卯年五月吉日、千秋萬歳、代々叶

ノ式三番叟「豊後大掾直傳」烏亭焉馬翁述

ロ式三番叟「式佐改」四代目岸澤古式部

ノ

二一・一 (B) B (行・字) 一〇・二八 四丁

\* 表紙見返し、豊後節、常磐津直傳本、正本所坂川平四郎、奥付、正本版元東京「地本」問屋、「下谷區谷中清水町老番地」紋、さか川平四郎板、千穰萬歳、代々叶

ノ式三番叟「豊後大掾直傳」烏亭焉馬翁述

ロ式三番叟「四代目」式佐改、岸澤古式部

ノ

二一・二 (B) 二二、六\*一五、三 二〇、五 B (行・字) 一〇・二三 四丁

\* 明治十七年春再版 板元坂川平四郎、千穰萬歳、大々叶

ノ「祝言」式三番叟「常磐津豊後大掾」烏亭焉馬翁述

ロ式三番叟

ノ式三ばき(一五)

二一・二 (B) 二三、〇\*一五、四 一八、七 B (行・字) 六・一六 七丁

\* 大正三年甲寅六月吉日改訂再版 坂川蔵版、常磐津豊後大掾藤原永光直傳、常磐津正本版元、「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎、印

ノ式三番叟「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附、烏亭焉馬翁述

ロ

ノ

二一・二 (B) B (行・字) 六・一五 四丁

ノ

ノ式三番叟「常磐津文字太夫直傳」

ロ鼠小紋東君新形「第一番目五立目」相勤申候、「狂言作者」河竹新七、橋田積助、「浄瑠璃」上巻、判読不可の浄瑠璃、下の巻、判読不可の、狂言「偽縁笑遠山」



22・笑遠山上のき・上の式・下のき・下の式了

21・1 (B) 田 (行・字) 11・30 四丁

\* 上巻正本所へ紋くいがや 下巻安政四丁巳正月大吉日市村座 正本所伊賀屋勘右門

1 式三番叟「豊後大掾直傳/烏亭焉馬翁述」

ロ 式三番叟「四代目」式佐改「岸澤古式部」

10

21・1 (B) 田 (行・字) 10・24 四丁

\* 明治十七年春再版 板元坂川平四郎 千種萬歳大々叶

1 「祝言」式三番叟「常磐津豊後大掾直傳/烏亭焉馬翁述」

ロ 式三番叟

22・式三ばき(五)へ梓ありく

21・1 (B) 田 (行・字) 6・15 七丁

\* 大正三年甲寅六月吉日改訂再版/坂川蔵版 常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

1 「爰にさく/みんな三升や江戸の花」四季詠⑤歳「常磐津文字太夫直傳/作者並木五瓶述」

10

22・夏せんだうき(五了)

21・2 (B) 11・0\*14、三 16、九 田 (行・字) 6・14 六丁

\* a/ 正本版元江戸「地本/問屋」/「~~ミナガ~~」へ紋くいがや勘右衛門へ印く

1 「爰に咲くはんな三神や江戸の花」四季詠⑤歳「常磐津文字太夫直傳/作者並木五瓶述」夏船頭

ロ 則幸櫻色園「第二ばん目大切」夏「爰に咲くはんな三神や江戸の花」四季詠い歳「狂言作者並木五瓶述」/「河原崎座」

4

22・四季上

21・1 (B) 田 (行・字) 10・40 二丁

\* 「正本版元/神田鍋町/西横町」くいがや勘右門

1 「夏にさく/みんな三升の江戸の花」四季詠⑤歳「常磐津文字太夫直傳/作者並木五瓶述」

ロ 「夏船頭」四季詠い歳「常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎」

22・夏せんだうき(五了)

21・2 (B) 田 (行・字) 6・13 七丁

\* 天保丁亥年三月狂言/河原崎座 正本版元東京「地本/問屋」へ紋く「人形町通松嶋町」さか川平四郎板へ印く

1 「夏にさく/みんな三升の江戸の花」四季詠⑤歳「常磐津文字太夫直傳/作者並木五瓶述」

ロ 「夏船頭」四季詠い歳「常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎」

22・夏せんだうき(五了)



二1・2 (B) B (行・字)六・一三丁

\*天保丁亥年三月狂言「河原崎座」の正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板印」

ハ夏船頭

ロ夏船頭「蝶々娘」四季詠い紋「ふり附」中村梅太「板元玉沢屋新七」

ハ2・四季詠巻(六了)

二1・1 (B) 二二、四\*一五、九一八、二〇 (行・字)六・一九七丁

\*板元 玉沢屋新七

ハ夏船頭

ロ「常磐津」夏船頭

ハ〇

二2・2 (B) 二二、〇\*一六、〇一六、二〇 (行・字)四・九一一丁

\*澤田春

ハ「爰にさく／みんな三升や／江戸の花」四季詠①歳「常磐津文字太夫直傳」作者並木五瓶述 口「夏船頭」四季詠①歳「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎 二2・夏せんどう巻(五了)

二1・1 (B) B (行・字)六・一四六丁

\*表紙見返し「a」天保十亥年三月狂言「河原崎座」元板人「坂川平四郎」日本橋区馬喰町二丁目一番地「木村文三郎」

ハ四季詠①歳「常磐津文字太夫直傳」作者三升屋二三治述「秋屋數娘」

ロ則幸櫻色園「第二ばんめ大切」秋「爰に咲／はんな三神や／江戸の花」四季詠①歳「狂言作者並木五瓶述」ハ／三升屋

二三治述「河原崎座」下

ハ2・四季下

二1・1 (B) B (行・字)一〇・四〇二丁

\*天保十亥年三月狂言「正本板元」神田鍋町「西横町」いがや勘右衛門

ハ四季詠寄三大字「六月糸乱塞所唐人」瀬川如臈「七月踊田舎替女」十一月雪鷺娘

ロ其面影伊達寫繪「第二番目大切」世話時代「年中行事」四季詠寄三大字「狂言作者福森久助」瀬川如臈「中村座」上

ハ2・三月一(三)

二1・1 (B) B (行・字)一一・三二四丁

\*「正本版元」小舟町二丁目「中橋通」いがや勘右衛門

ハ舌きり雀

ハ〇



70

11・2 (甲) 乙 (行・字) 四・一〇 一六丁

\* 文字登和記

ハ 四天王大江山入「瀬川如臈述」

ロ

2 山入上巻(九了)下巻(下十一了)へ上のみ枠あり

11・2 (甲) 乙 (行・字) 七・二五 二二丁

\* b/ 正版本元「判読不可」いがや勘右衛門へ印

ハ 四天王大江山入「瀬川如臈述」

ロ 四天王大江山入「上」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2 山入上巻(九了)へ枠あり

11・2 (甲) 乙 九\*一四、〇一七、三 乙 (行・字) 七・二二 一一丁

\* a/ 正版本元東京「地本」問屋「人形町通」上野公園地前廣小路西側 上野元黒門町壱番地へ紋さか川平四郎板へ印

ハ

70

2 山入下巻(十一了)

11・2 (甲) 乙 二一、三\*一四、五一八、一 乙 (行・字) 七・二三 一三丁

\* a/ 正版本元東京「地本」問屋「堺町通 和泉町」へ紋いがや勘右衛門へ印

70

ロ

2 山入下巻(十一了)

11・1 (甲) 乙 (行・字) 七・二二 一一丁

\* 0

ハ 四天王大江山入「下の巻」

ロ 四天王大江山入「下の巻」「振り附西川鯉三郎」

2 大江山入下巻(六了)

11・1 (甲) 乙 二二、〇\*一五、三一七、五 乙 (行・字) 六・一五 七丁

\* 1 名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

70

ロ 四天王大江山入

2 山入一(十二)



11・1 (四) 二二、三\*一五、三 一八、六 (行・字) 七・二二 一三丁  
\*1・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

10

10

2・山入下巻(十一了)

11・2 (四) 二〇、七\*一四、一 一八、五 (行・字) 七・二二 一二丁

\*2/ 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」人形町通松嶋町へ紋さか川平四郎板へ印

4 四天王大江山入「瀬川如臈述」

10 四天王大江山入「上」常盤津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2・山入上巻(九了)へ梓あり

11・1 (四) 四 (行・字) 七・二二 一一丁

\*2/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板へ印

10

10 四天王大江山入「下」常盤津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2・山入下巻(十一了)

11・1 (四) 四 (行・字) 七・二二 一三丁

\*2/ 正本版元東京「地本」問屋「へ紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板へ印」

4 四天王大江山入「瀬川如臈述」

10 四天王大江山入(手書)

2・山入上巻(九了・下巻(十一了)へ上巻のみ梓あり

11・1 (四) 四 (行・字) 七・二二 二二丁

10

10

10 四天王大江山入「下」常盤津文字太夫直傳「正本所伊賀屋勘右門」

2・山入下巻(十一了)

11・1 (四) 四 (行・字) 七・二二 一三丁

\*2/ 正本版元江戸「地本」問屋「へ紋」神田鍋町「いがや勘右衛門」へ印

4 四天王大江山入

10 四天王大江山入「子もち」山うば

2・山うばへ判読不可

11・1 (四) 四 (行・字) 六・一八 四丁

\*2/ 板元へ紋ひしや金兵衛



ハ「文車のら助」たがわぬ／向ふの古狐「信田樓容影中富」作者櫻田治助述

H0

マ2・判読不可（梓あり）

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・一九 八丁

サb/ 正本所「高砂町南新道」いがや勘右衛門（印）

ハ「恋車のめは」たがわぬ／向の古狐「信田樓容影中富」作者桜田治助述

ロ「判読不能」常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右衛門版

マ2・シのだ上二（六了）（梓あり）

ニ1・1 (B) B (行・字) 七・一七 八丁

サa/ 正本版元江戸「地本／問屋」紋／「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門（印）

ハ垣衣戀寫繪「作者能進述」

H0

マ2・ウつしゑ上巻（十二上・下）十二尾

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・一六・〇・丁

サb/ するがや文右衛門／いがや勘右衛門（印）

ハ垣衣戀寫繪「作者能進述」

H0

マ2・判読不可

ニ1・1 (B) B (行・字) 七・一七 一七丁

H0

ハ芝八景「常磐津文字太夫直傳」六 園二葉述

H0

マ2・二（二～四）

ニ1・2 (B) B (行・字) 五・九 六丁

サa/ 正本版元江戸「地本／問屋」紋／「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門（印）

ハ芝八景

H0

マ2・芝はつけいぎ（五了）（梓あり）

ニ1・2 (B) B (行・字) 五・九 五丁

H0

ハ芝八景「常磐津文字太夫直傳」六 園二葉述



H0  
A2・(～四)

H1・2 (B) 二二、一\*一五、〇一八、〇cm (行・字) 五・九 六丁

\*a/ 常磐津正本版元「印刷兼發行者」〔東京下谷區谷中清水町老番地〕坂川平四郎印

祝賀の菊獅子

H0

A2・1(～三)

H1・1 (B) 二二、一\*一五、三一八、〇cm (行・字) 六・一二 三丁

H0

ハ「白井権八小紫」郭の仇夢

ロ「白井権八小紫」郭の仇夢「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

H0

H1・2 (B) B (行・字) 六・一六 一〇丁

\*昭和廿一年十月吉日 浪越 常磐津式登太夫之書

ハ「白井権八小紫」郭の仇夢「常磐津文字太夫直傳」

ロ「白井権八小紫」郭の仇夢「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

A2・ 廓仇夢一(～八)

H1・2 (B) 二二、一\*一五、四一七、五cm (行・字) 六・一六 一〇丁

\*千穂萬歳大々叶印(坂川平四郎)

ハ「白井権八小紫」廓の仇夢「常磐津文字太夫直傳」

ロ「白井権八小紫」廓の仇夢「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

A2・ 廓仇夢一(～八)

H1・2 (B) 二二、八\*一五、五一七、五cm (行・字) 六・一六 一〇丁

\*千穂萬歳大々叶印(坂川平四郎)

ハ「白井権八小紫」廓の仇夢「常磐津文字太夫直傳」

H0

A2・ 廓仇夢一(～八) (梓あり)

H1・2 (B) B (行・字) 六・一六 八丁

\*千秋楽印

ハ「鈴木主水橋本屋白糸」戀「岸澤古式部直傳」

ロ白糸主水 上巻 「振付西川鯉三郎三味線岸澤式寿斎」常磐津寿和太夫岸沢式太夫

A2・ 鈴木主水恋(二～七)



二一・一 (B) 二二、〇\*一四、六一八、五cm (行・字) 六・一四 八丁  
\*2・長者町／玉沢屋新七／廣小路角、明治十九年八月六日御届翻刻出版人「愛知縣平民」鍋野長三郎／「名古屋區八百屋町百三番邸」

ハ「鈴木主水／橋本屋白糸」戀「岸澤古式部直傳」

ロ「白糸主水 上」卷「振付西川鯉三郎／三味線岸澤式壽齋／常磐津壽和太夫／岸沢式太夫」

ハ2・鈴木主水巻(二)～(七了)

二一・一 (B) 二二、〇\*一五、五一八、三cm (行・字) 六・一四 八丁

\*2・長者町／玉沢屋新七／廣小路角

ハ「橋本屋二階」戀 下の巻

ロ「しら糸／主水 下」卷「振付西川鯉三郎／三味線岸澤式壽齋／岸沢式太夫／常磐津壽和太夫」

ハ2・主水下一(一)～(八了)

二一・一 (B) 二二、七\*一五、六一八、四cm (行・字) 六・一九 九丁

\*0

ハ0

ロ「白糸主水 下」卷「振付西川鯉三郎／三味線岸澤式壽齋／岸沢式太夫／常磐津壽和太夫」  
ハ2・主水下一(一)～(九了)

二一・一 (B) 二二、八\*一五、四 一八、四cm (行・字) 六・一九 九丁

\*明治十九年八月六日御届翻刻出版人「愛知縣平民」鍋野長三郎／「名古屋區八百屋町百三番邸」

ハ「鈴木主水／橋本屋白糸」戀「岸澤古式部直傳」

ロ「しら糸／主水／橋本屋の段」戀「正本所玉澤屋」

ハ2・鈴木主水巻(一)～(七了)

二一・二 (B) 二二、七\*一六、一一八、四cm (行・字) 六・一八 九丁

\*常磐津豊後節正本／常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り四丁目十番地」紋／若林芳造「印」

ハ「橋本屋二階」戀 下の巻

ロ「しら糸／主水／橋本屋の段」戀「正本所玉澤屋」

ハ2・主水下一(一)～(八了)

二一・二 (B) 二二、七\*一六、一一八、五cm (行・字) 六・一六 一〇丁

\*常磐津豊後節正本／常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り四丁目十番地」紋／若林芳造「印」

ハ「鈴木主水／橋本屋白糸」主誰糸春雨「常磐津小文字太夫直傳／岸澤式佐節付」

ロ「鈴木主水／橋本屋白糸」主誰糸春雨「常磐津小文字太夫直傳／岸澤式佐節付／正本所坂川平四郎」

ハ2・鈴木主水上巻(一)～(七)「枠あり」

二一・二 (B) B (行・字) 六・一四 九丁



※ a/ 明治十九年七月一日御届「東京日本橋區繪物町二拾老番地」／「編輯人」常岡忠助／「東京下谷區上野元黒門町老番地」／「出版人」坂川平四郎

↳「橋本屋二階」下の巻「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

no

↳2・鈴木主水下巻（〜八）へ梓あり

↳1・2 (B) B (行・字) 六・二二 九丁

※ 明治十九年七月出版、e/ 明治十九年七月一日御届「東京日本橋區繪物町二拾老番地」／「編輯人」常岡忠助／「東京下谷區上野元黒門町老番地」／「出版人」坂川平四郎

↳「鈴木主水」橋本屋白糸「主誰糸春雨」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節付」／「橋本屋二階」下の巻「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

no

↳2・鈴木主水上巻（〜上七・下巻〜下八）へ梓あり

↳1・2 (B) B (行・字) 六・一四 一六丁

※ 明治十九年七月吉辰、e/ 明治十九年七月一日御届「編輯人」東京市日本橋區繪物町二拾番地」／「常岡忠助」／「出版人」東京下谷區谷中清水町老番地」／「坂川平四郎」印

↳「かづさの國」しら藤源太「男作出世の員唄」岸澤式治／玉沢屋新七板」

no しら藤源太

↳2・白藤一（〜三・下五・下四・六〜九）

↳1・1 (B) 二三、〇\*一五、五 一七、五 cm (行・字) 七・二三 一〇丁

※ 板元・一長者町廣小路／玉澤屋新七

↳「かづさの國」しら藤源太「男作出世のかぞへ唄

no 「白藤」源太「男作出世の員歌上」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

↳2・白藤上巻（〜六了）へ梓あり

↳1・2 (B) 二一、二\*一四、七 一八、一 cm (行・字) 七・二〇 八丁

※ a/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

no

no 「白藤」源太「男作出世の員歌下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

↳2・白藤下巻（〜六了）へ梓あり

↳1・2 (B) 二一、三\*一四、二 一八、二 cm (行・字) 七・二三 八丁

※ e/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

↳「かづさの國」白藤源太「男作出世の員唄

no 「かづさの國」白藤源太「男作出世の員唄」上「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右「門板」



ア2・白藤上巻(〜六了)〈梓あり〉

ニ1・2 (B) 二二、二\*一四、七 一八、一四 (行・字) 七・二〇 八丁

キa/ 正本版元江戸「地本/問屋」神田鍛冶町二丁目「紋い」がや勘右衛門〈印〉

10

ロ「かづさの國/白藤源太」男作出世の員唄「下」〔常磐津文字太夫直傳/正本所伊賀屋勘右門板〕

ア2・白藤下巻(〜六了)〈梓あり〉

ニ1・2 (B) 二二、二\*一四、七 一八、五四 (行・字) 七・二三 八丁

キa/ 正本版元江戸「地本/問屋」神田鍛冶町二丁目「紋い」がや勘右衛門〈印〉

イ「かづさの國/しら藤源太」男作出世のかぞへ唄

ロ「白藤/源太」男作出世の員歌「上」〔常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎〕

ア2・白藤上巻(〜上六了・下巻)下六了)〈梓あり〉

ニ1・2 (B) 四 (行・字) 七・二五 一四丁

キa/ 正本版元東京「地本/問屋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」〈印〉

10

ロ「白藤/源太」男作出世の員歌「下」〔常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎〕

ア2・白藤下巻(〜六了)〈梓あり〉

ニ1・2 (B) 四 (行・字) 七・二五 八丁

キa/ 正本版元東京「地本/問屋」紋い「人形町通松嶋町」さか川平四郎板〈印〉

イ「かづさの國/しら藤源太」男作出世のかぞへ唄

ロ

ア2・白藤上巻(〜上六了・下巻)下六了)〈梓あり〉

ニ1・2 (B) 四 (行・字) 七・二五 一四丁

キ

イ 夢泡雪浮名一節「上の巻」

ロ 夢泡雪浮名一節「上の巻」

ア2・新明島上巻(〜五了)

ニ1・1 (B) 二二、〇\*一五、四 一六、八四 (行・字) 六・一三 六丁

キ 名古屋市/下長者町/四丁目/玉沢屋/新七/板元 明治三十三年十月二十八日印刷/同年同月同日出版/印刷兼發行

キ 愛知縣名古屋市/下長者町/四丁目/百廿五番戸/佐々新七

イ 夢泡雪浮名一節「上の巻」

ロ「浦里/時治郎」夢泡雪浮名一節「上の巻」

ア2・新明島上巻(〜五了)



11・1 (四) 二二、六\*一六、〇 一六、八 (行・字) 六・一三 六丁

※名古屋市中長者町四丁目玉沢屋新七板元 明治三十三年十月二十八日印刷 同年同月同日出版 印刷兼發行  
者「愛知縣名古屋市中長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

ノ 夢泡雪浮名一節「下の巻」

ロ 新明鳥「下の巻」

12・新明鳥下巻(十了)

11・1 (四) 二二、九\*一五、九 一六、八 (行・字) 六・一三 一一丁

※板元玉新 / 明治三十三年十月二十八日印刷 同年同月同日出版 印刷兼發行者「愛知縣名古屋市中長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

ノ 「きぬ川つゝみ」羽生村の段「上」岸澤式治玉沢屋新七板

ロ 「新累談」殖生村の段「上」卷

12・きぬ川一(十)

11・1 (四) 二二、四\*一五、六 一七、五 (行・字) 七・二〇 一一丁

※1・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

ノ 累羽生村の段「岸澤式治玉沢屋新七板」

ロ 「新累談」殖生村の段

12・かさね巻(十一卒)

11・1 (四) 二二、五\*一五、七 一七、二 (行・字) 七・一八 一二丁

※1・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

ノ 鬼怒川紅葉模様

ロ 鬼怒川紅葉模様

10

12・2 (四) 二四、六\*一七、三 (行・字) 六・一五 一四丁

10

ノ 「きぬ川つゝみ」羽生村の段「上の巻」

ロ 「新累談」殖生村之段「上」卷

10

12・2 (四) 二五、〇\*一七、四 (行・字) 七・二二 一二丁

※常磐津名歌太夫

ノ 「きぬ川つゝみ」羽生村の段「上」卷「岸澤式治玉沢屋新七板」

ロ 「新累談」殖生村の段「上」卷

12・きぬ川二(十)



11・1 (B) 四 (行・字) 七・二一 一一丁

\*名古屋長者町ノ玉沢屋新七ノ廣小路角板元ノ 明治十九年十二月廿四日御届翻刻出版人愛知縣平民鍋野長三郎ノ名古屋區八百屋町百三番邸

ノ「新曲」相生松「岸澤寿佐久節附ノ古河黙阿弥翁著」ノ「心うきたつノ住よし参り」相合傘手々午歳

口新曲ノ相生松「指手引手西川鯉三郎」

22・相生松一(ノ三)・相合四(ノ六了)

11・1 (B) 二二、一\*一四、九 一七、六 四 (行・字) 六・一六 七丁

\*常磐津正本元 玉澤屋新七版ノ 明治廿七年二月廿日印刷ノ同年同月同日出版印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」ノ佐々新七

ノ新曲胡蝶夢「常磐津文字太夫直傳ノ狂言堂櫻田治助述」

10

22・投扇奥巻(ノ六了)

11・2 (B) 二一、一\*一四、三 一八、三 四 (行・字) 七・二一 七丁

\*嘉永四亥年十月ノ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町二丁目」ノ紋ノいがや勘右衛門ノ印

ノ新曲胡蝶夢「常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助述」

口「繪入抄史」雜物語「狂言作者」櫻田治助ノ「淨瑠璃」新曲胡蝶夢

22・ついでうのゆめ巻(ノ三)

11・1 (B) 四 (行・字) 九・二三 三丁

\*嘉永元申年九月ノ大々叶ノ 正本版元ノいがや勘右門ノ鍋町

ノ「白露やノ無分別なるノおき所」心中三升扇

10

22・三升扇巻(ノ四)

11・2 (B) 二二、八\*一五、八 一七、二 四 (行・字) 六・九 四丁

\*天保九「戊戌」年九月狂言

ノ「白露やノ無分別なるノおき所」心中三升扇「常磐津文字太夫直傳ノ作者鶴屋南北述」

10

22・三升扇巻(ノ五了)ノ控あり

11・2 (B) 四 (行・字) 七・一六 六丁

\*天保九戊戌年ノ九月狂言ノ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」ノ「判読不可」ノいがや勘右衛門ノ印

ノ八重一重花咲分

口「八重一重花咲分」新忠信「ふり附西川鯉三郎」

22・新たノのぶ巻(ノ七了)



二一・一 (B) 二三、〇\*一五、八一七、〇〇 (行・字) 六・一二 八丁

二二・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ノ 廓操無合いだの鐘優下

ロ

二二・むげんのかね(一)と下二(一)六了)

二一・二 (B) B (行・字) 六・一四 七丁

キ

ノ 「判読不可」廓操無間の鐘優「常磐津豊後大掾直傳／作者瀬川如阜 詞」

ロ 廓操無間の鐘優「常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

二二・「判読不可」

二一・二 (B) B (行・字) 七・二四 八丁

キ

ノ

ロ 廓操無間の鐘優「下」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

二二・むげんのかね下二(一)七了)へ了以外枠あり

二一・二 (B) B (行・字) 七・二四 八丁

キ

ノ 「會我もやうに競へ／千鳥へ不可／し／その かねへ不可／めかねて菊へ不可／く／なすくめに せ」廓操無間の鐘優

ロ 廓操無間の鐘優「新むげん／市村座」

二二・むげんのかね(一)と十二了)

二一・一 (B) B (行・字) 六・一八 一三丁

二二・名古屋長者町／廣小路角板元／玉澤屋新七

ノ 「山姥が松枝の／萬葛／怪童が照葉の／紅葉」薪荷雪間の市川「常磐津文字太夫直傳」

ロ (題會判落)

二二・山うば(一)八了)

二一・二 (B) 二一、二\*一四、二一七、八〇 (行・字) 七・二〇 九丁

二 嘉永元丙申歳顯見世／明治十六年二月再版／河原崎座／ 正本版元東京「地本／問屋」下谷區谷中清水町老番地」

紋／さか川平四郎へ印

ノ 「山姥が松枝の／萬葛／怪童が照葉の／紅葉」薪荷雪間の市川「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「山姥が松枝の／萬葛／怪童が照葉の／紅葉」薪荷雪間の市川「常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

二二・山うば(一)八了)へ枠あり

二一・二 (B) 二一、六\*一五、二一七、三〇 (行・字) 七・二〇 八丁



※ 嘉永元丙申歳顔見世／河原崎座／敘／明治十六癸未年二月再版／大正五丙辰年八月再々版

イ「山姥が／松枝の萬葛／怪童が／照葉の紅葉」薪荷雪間の市川「常磐津文字太夫直傳」

ロ 薪荷雪間の市川「山姥」

※ 山うば老(一〇十)

※ 1・2 (甲) 二三、五\*一五、八 一六、九 〇 (行・字) 六・一六 一三丁

※ 昭和廿七年七月一日印刷／昭和廿七年七月五日発行／常磐津稽古本(定本常磐津刊行會本)

イ 薪荷雪間の市川

ロ 「常磐津／新山姥」薪荷雪間の市川

ノ

※ 2・2 (甲) 二三、〇\*一五、九 一七、八 〇 (行・字) 五・一八 一九丁

※ 筆者 澤田春

イ「山姥が松枝の萬葛／怪童が照葉の紅葉」薪荷行間の市川「常磐津文字太夫直傳」

ロ 薪荷行間の市川

※ 山うば老(一八了)

※ 1・1 (甲) 〇 (行・字) 七・二二 一五丁

※ 嘉永元丙申歳顔見世／河原崎座／不許賣買／芝江齋蔵版

イ「山姥が松枝の萬葛／怪童が照葉の紅葉」薪荷行間の市川「常磐津文字太夫直傳」

ロ

※ 山うば老(一八了)／(控あり)

※ 1・2 (甲) 〇 (行・字) 七・二二 一八丁

※ 嘉永元丙申歳顔見世／明治十六年荷月再版／河原崎座

イ「山姥が松枝の／萬葛／怪が照葉／紅葉」薪荷行間の市川「常磐津文字太夫直傳」

ロ

※ 山うば老(一八了)／(控あり)

※ 1・2 (甲) 〇 (行・字) 七・二二 一九丁

※ 嘉永元丙申歳顔見世／明治十六癸未年再版／大正五丙辰年再々版／河原崎座／坂川平四郎蔵版／

正本版元「印刷者兼／發行者」／「東京市下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎／印

イ 常磐津

イ 神靈矢口渡上「玉澤屋新七板元」／三弦岸澤古壽満

ロ 神靈矢口渡／頓兵衛住家／上の巻「振付西川鯉三郎」

※ 矢口上老(一十了)

※ 1・1 (甲) 二二、六\*一五、四 一七、九 〇 (行・字) 六・一六 一一丁

※ 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元／ 明治十五年午十月吉日和睦日付／常磐津改正浄瑠璃



→ 神靈矢口渡下

□ 神靈矢口渡「頓兵衛住家」下の巻「」ふり付「西川鯉三郎」

2・矢口下巻（十丁）

1・1 (a) 二二、九\*一五、一 一七、六 (行・字) 六・一四 一一丁

\* 明治十六年未一月出版「一・名古屋長者町」玉沢屋新七「廣小路角板元

→ 由縁の色音

□ 十二段由縁能色音「作者櫻田治助述」

2・十二段巻（四）

1・1 (a) 二二、五\*一六、〇 一八、〇 (行・字) 六・一二 五丁

\* 板元 玉沢屋新七

→ 十二段

□ 由縁の色音

〇

2・2 (a) 二四、七\*一七、〇 (行・字) 五・一四 六丁

\* 常磐津

→ 「歳旦」末廣鶴初空「常磐津文字太夫直傳」

□ 「歳旦」末廣鶴初空

2・末廣一（四丁）

1・1 (a) (行・字) 七・二〇 四丁

\* いがや勘右衛門板 / 正銘「四谷傳馬町」式丁目「湯河原

→ 「歳旦」末廣鶴初空「常磐津文字太夫直傳」

□ 「歳旦」末廣鶴初空

2・末廣一（四丁）

1・1 (a) (行・字) 七・二〇 四丁

\* いがや勘右衛門板

→ 姿花后雛形「常磐津小文字太夫直傳」子もり・夜ばん・かるわざ

□ 信田館貢物 謡「第二晚目大切」相勤申候「所作事」又 おも不束な涙事を「姿花后雛形」市村座「上・下

2・后ひな形巻（三丁）

1・1 (a) (行・字) 一〇・三二 四丁

\* 正本板元「大傳馬町」式丁目「いがや勘右衛門

→ 姿花后雛形「常磐津小文字太夫直傳」子もり・夜ばん・かるわざ



口 信田館買物松圖「第二晚目大切」相勤申候「所作事」又おみも不束な涙事を「姦花后雛形」上・下

2・后ひな形巻（〜三丁）

1・1 (B) B (行・字) 一〇・三二 四丁

\* 正板元大傳馬式丁目いがや勘右門

入 菅原傳授手習鑑「三段目」口

口

2・ほり川上巻（〜十五丁）

1・2 (B) B (行・字) 六・二〇 一六丁

\* 安政三年辰中秋中陰あるじあふみや多賀(譏語)

入 菅原車引之段「玉澤屋新七板」

口 「菅原傳授手習鑑」車引のだん

2・車引巻（〜八丁）

1・1 (C) 二二、五\*一五、一 一七、九 (行・字) 七・二〇 九丁

\* 板元・名古屋屋廣小路玉沢屋新七

入 「櫻丸」切腹段「菅原三」切「岸澤式治」玉澤屋新七「板元」

口 「菅原傳授手習鑑」櫻丸腹切のだん

2・三切一（〜十）

1・1 (B) 二二、五\*一五、七 一九、五 (行・字) 六・一九 一一丁

\* 1・名古屋長者町筋廣小路角玉澤屋新七板

入 「菅原傳授」四目口「松王丸屋鋪」の段

口 「菅原傳授手習鑑」松王丸屋敷の段

2・松王屋敷上巻（〜九丁）

1・1 (C) 二二、五\*一五、八 一七、七 (行・字) 六・一七 一〇丁

\* 1・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

入 「菅原傳授」四目切「松王丸屋鋪」の段下

口 「菅原傳授手習鑑」松王屋鋪段「四目口」切「岸澤式壽齋調」

2・松王屋敷下巻（〜十丁）

1・1 (B) 二二、八\*一五、五 一八、〇 (行・字) 六・一五 一一丁

\* 1・名古屋長者町廣小路角玉澤屋新七板元

入 菅原傳授手習鑑「四段目」口

口 「常磐津文字太夫直傳」菅原傳授手習鑑「四段」の口

口



112・2 (B) 二三、九\*一六、五 (行・字) 七・二一 一一丁  
字0

ナ [菅原傳授] 手習見屋段 [岸澤式治 / 玉沢屋新七 / 板]

ロ [菅原傳授 手習鑑] / [四段目] 寺小屋のだん

112・1 (B) 二一、八\*一五、〇 (行・字) 七・二〇 一六丁

ナ1・名古屋長者町筋廣小路角 / 玉澤屋新七板

ナ 菅原傳授 [四の切下]

ロ [ひらかなけいこ本] 寺小屋の段 / 菅原傳授 [四の切下]

110

112・2 (B) 二三、八\*一六、五 (行・字) 七・一七 九丁

字0

ナ [菅原傳授 / 手習鑑] 天拝山之段 [岸澤式治 / 玉澤屋新七 / 板]

ロ [菅原傳授 手習鑑] / 天拝山のだん

112・天老 (十二丁)

111・1 (B) 二二、五\*一五、七 (行・字) 六・二四 一三丁

ナ1・長者町筋 / 玉澤屋新七 / 廣小路角

ナ [新曲] 助六 [常磐津文字 太夫直傳]

ロ [新曲] 助六

112・助六老 (参)

111・2 (B) 二二、九\*一五、五 (行・字) 六・一四 五丁

ナ 昭和十一年彌生寫之 / 常磐津正本 版元 [東京市下谷區谷中清水町一番地] / 坂川平四郎

ナ [増補] 雙六盤露の玉藻 [常磐津小文字 太夫直傳 / 岸澤古式部節附]

ロ 雙六盤露の玉藻

112・玉藻前上巻 (十一丁)

111・1 (B) 二二、〇\*一五、五 (行・字) 六・一七 一二丁

ナ 名古屋市 / 下長者町 / 四丁目 / 玉沢屋新七 / 明治廿九年二月二十一日印刷 / 同年同月同日出版 / 印刷兼發行者 [愛知縣名古屋市中長者町四丁目百廿五番戸] / 佐々新七

ナ [増補] 雙六盤露の玉藻 [常磐津小文字 太夫直傳 / 岸澤古式部節附]

ロ [増補] 雙六盤露の玉藻 [版元 坂川平四郎]

112・玉藻前序巻 (十一丁)

111・1 (B) 二三、二\*一五、四 (行・字) 六・一六 一三丁



※ a/ 明治二十七年三月十四日印刷／明治二十七年三月十六日出版〔補述者兼發行者兼印刷者〕〔東京下谷區谷中清水町老番地〕／坂川平四郎印

ハ 増補「雙六盤露の玉藻」下の巻〔常磐津文字太夫直傳／岸澤古式部節附〕

ロ 増補「雙六盤露の玉藻」下の巻

ハ2・玉藻下(一)～八。(ハ)枠あり

ハ1・2 (B) 二二、六\*一五、五一七、九四 (行・字) 六・一五 一〇丁

※ a/ 明治三十五年十二月一日印刷／明治三十五年十二月四日發行〔京市下谷區谷中清水町老番地〕〔補述者兼發行者兼印刷者〕坂川平四郎印

ハ すゞみゆかた

ロ 常磐津産め吉「すゞみゆかた」〔常磐津さん〕

ハ0

ハ2・2 (B) 二四、四\*一七、一 B (行・字) 五・一二 六丁

※ 中三

ハ 戀弦結縁結「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ 戀弦結縁結「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・すずみゆかた(ハ)了

ハ1・2 (B) 二二、三\*一四、二一八、五四 (行・字) 七・一七 八丁

※ a/ 正本版元東京〔地本／問屋〕〔上野廣小路元黒門町老番地〕ハ紋さか川平四郎印

ハ 戀弦結縁結「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ 戀弦結縁結「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・すずみゆかた(ハ)了

ハ1・2 (B) 二二、三\*一四、二一八、五四 (行・字) 七・一七 八丁

※ a/ 正本版元東京〔地本／問屋〕〔下谷區谷中清水町老番地〕ハ紋さか川平四郎印

ハ 戀弦結縁結「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ 戀弦結縁結「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・すずみゆかた(ハ)了

ハ1・2 (B) 二二、五\*一五、〇一八、二四 (行・字) 七・一六 七丁

※ a/ 常磐津正本版元〔印刷者兼發行者〕〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕／坂川平四郎印

ハ0

ロ 常磐津「須磨の寫繪」下巻

ハ0

ハ2・2 (B) 二三、三\*一六、二 B (行・字) 四・一〇 九丁



ノ 隅田川〔常磐津政太夫直傳〕

ロ 隅田川恋の梯〔しのぶ売〕

ハ2・すみき(ノ八了)

ハ1・1 (ロ) 二三、二\*一六、三 一七、三ロ (行・字) 六・一六 九丁

ハ 名古屋板元ノ紋ノ菱屋金兵衛

ノ 隅田川八景〔常磐津豊後大掾直傳〕

ロ 隅田川八景

ハ2・隅田川八景一(ノ三了)

ハ1・1 (ロ) 四 (行・字) 七・一五 三丁

ハ 慶應元丑歳六月吉日ノ 正本板元坂川平四郎

ノ

ロ 隅田川雪の八景(手書)

ハ0

ハ1・2 (ロ) 二一、九\*一五、三 一八、三ロ (行・字) 五・一二 四丁

ハ0

ノ 〔千代と一筆ノかきなかつ〕墨田川雪の八景〔霞の屋述〕

ロ 〔千代と一筆ノかきなかつ〕墨田川雪の八景

ハ0

ハ1・2 (ロ) 四 (行・字) 五・一四 六丁

ハ 明治十九年十二月ノ岸澤仲助節付

ノ 墨ぬり女

ロ 〔常磐津〕墨ぬり女

ハ0

ハ2・2 (ロ) 二三、一\*一五、九 四 (行・字) 五・一二 七丁

ハ0

ノ 開化西洋事分喜〔作不二の家高根ノ三味線岸澤式寿斎ノ振付西川鯉三郎〕

ハ Seiyō Kotobuki

ハ2・西洋書(ノ四)

ハ1・1 (ロ) 二二、一\*一五、六 一八、一ロ (行・字) 五・一四 七丁

ハ 明治七〔甲戌〕年一月出版ノ

長者町廣小路角ノ玉澤屋新七板元



→青陽壽「常磐津豊後大掾直傳」呼芳樓述

二〇

二〇

二一・一 (四) 二二、〇\*一五、四 一八、二 (行・字) 五・一六 五丁  
\*板元／玉澤や新七

→青陽壽「常磐津豊後大掾直傳」呼芳樓述

ロ「佐々木市蔵調」振り付西川鯉三郎

二〇

二一・一 (四) 二二、八\*一五、五 一八、四 (行・字) 五・一五 五丁  
\*2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

→関取千両機「佐々木市蔵述」玉沢屋新七板元

ロ関取千両機「上の巻」

二二・千両のぼり上二(十一)

二一・一 (四) 二〇、九\*一四、六 一八、〇 (行・字) 七・二〇 一二丁

\*1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

→「名古屋區八百屋町百三番邸」

明治十九年十二月廿四日御届翻刻出版人「愛知縣平民」編野長三郎

→関取千両機「佐々木市蔵述」玉沢屋新七板元

ロ関取千両機「上の巻」

二二・千両のぼり上二(十一)

二一・一 (四) 二二、九\*一五、〇 一八、〇 (行・字) 七・二〇 一二丁  
\*1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

→千両機角力の段

ロ関取千両機「下」

二二・千両一(七)

二一・一 (四) 二二、〇\*一五、三 一七、八 (行・字) 七・一九 八丁  
\*長者町八丁目／玉沢屋新七板

→千両機角力の段「常磐津小文字太夫直傳」

ロ千両機角力の段

二二・千両のぼり一(七)

二一・一 (四) 二二、〇\*一五、三 一七、〇 (行・字) 七・一九 八丁  
\*名古屋板元／紋／ひしや金兵衛

→関取千両機



ロ「常磐津文字太夫」千銀機

ア0 二・2 (B) 二三、八\*一六、七 C (行・字) 七・一九 一四丁  
北川鈴

ハ千兩機角力の段「常磐津小文字太夫直傳」

ロ千兩機角力の段「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右門板

ア2・千兩のぼり巻(七了)

二・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

キa/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」埋木「消シテ」/しがや勘右衛門印

ハ千兩機角力の段

B0

A0

二・2 (B) 二三、八\*一六、七 C (行・字) 七・一九 一〇丁

キ0

ハ千兩機角力の段「常磐津小文字太夫直傳」

ロ千兩機角力の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ア2・千兩のぼり巻(七了)

二・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

キa/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印

ハ千兩機角力の段「常磐津小文字太夫直傳」

ロ千兩機角力の段「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ア2・千兩のぼり巻(七了)

二・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

キa/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町巻番地「さか川平四郎板」印

ハ千兩機角力の段「常磐津小文字太夫直傳」

ロ千兩機角力の段「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ア2・角力千兩のぼり巻(六)・千兩角力七了

二・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

キa/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町巻番地「さか川平四郎板」印

ハ関取千兩機「常磐津豊後大掾直傳」佐々木市蔵述

B0

ア2・千兩のぼり上巻(上六了・中一六了)

二・2 (B) B (行・字) 七・二二 一二丁



※a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地「さか川平四郎板」印

→ 関取千兩幟「常磐津豊後大掾直傳」佐々木市藏述

□ 千兩幟喧嘩の段「上」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

※2・千兩のぼり上巻(一)上六・中一(一)中六・老(七了)

※1・2 (B) B (行・字)七・二二 二二丁

※a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

→ 千兩幟角力の段「下」常磐津小文字太夫直傳

B0

※2・角力千兩のぼり巻(七了)

※1・2 (B) B (行・字)七・二二 一〇丁

※a 表紙見返し「地方連名」へ奥付「右常磐津稽古本之箋」此度幟板にいたし「紙摺仕立て念入精々上等」仕立表紙相用「御子供衆方あらく御手あつかひ被遊候共決していたまぬ様製本仕候間御近所之繪紳子屋にて「沢山御求之程奉頼度」明治十五年五月八日御届「彫整板人」以下略

→ 千兩角力の段「下」常磐津小文字太夫直傳

□ 千兩幟角力の段「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

※2・角力千兩のぼり巻(一六)・上中下「成揃」千兩角力七了

※1・1 (B) B (行・字)七・二二 八丁

※a 表紙見返し「a/

→ 「秋津嶋」鬼ヶ嶽「関取二代鏡

□ 関取二代鏡「秋津嶋内のだん」岸澤式寿齋

※2・二代鏡巻(一八)

※1・1 (B) B (行・字)七・二二 八丁 (行・字)六・一四 一九丁

※2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

→ 積懸雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

□ 積懸雪関扉「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門

※2・せきの上巻(一十了)「梓あり」

※1・2 (B) B (行・字)七・二二 一二丁

※a 竹賀写「b/ 正本版元江戸「地本」問屋「大傳馬町二丁目」紋「いがや勘右衛門」印

→ 積懸雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

□ 積懸雪関扉「上」常磐津文字太夫直傳「伊賀屋勘右衛門板」

※2・つもる懸上巻(一十了)「梓あり」

※1・2 (B) B (行・字)七・二二 一二丁



\* b/ 正本版元「大傳馬町二丁目」へ紋い がや勘右衛門へ印

へ 積戀雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

H0

2・つもる戀上老(十了)へ了以外枠あり

1・2 (B) B (行・字)七・二二 一〇丁

ホ

へ 積戀雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

H0

2・つもる戀上老(十了)

1・2 (B) 一〇、九\*一四、五 一八、〇 B (行・字)七・二三 一一丁

\* a/ 正本版元「地本」問屋「神田鍛冶町」へ紋い がや勘右衛門へ印

へ 積戀雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

H0

2・つもる戀上老(十了)へ了以外枠あり

1・2 (B) 一〇、八\*一四、六 一八、〇 B (行・字)七・二〇 一一丁

\* b/ 正本版元江戸「地本」問屋「墨子消シテ」へ紋い がや勘右衛門へ印

へ 「少将」小町「関兵衛」積戀雪関扉

H0

2・つもる戀上老(十了)

1・2 (B) B (行・字)七・二二 一〇丁

\* b/ 正本版元江戸「神田鍛冶町二丁目」へ紋い がや勘右衛門へ印

へ 「少将」小町「関兵衛」積戀雪関扉

H0

2・つもる戀上老(十了)へ了以外枠あり

1・2 (B) B (行・字)七・二〇 一一丁

\* 東都板元へ紋「南傳馬町老丁目」芳野屋勝五郎へ紋「同町」萬屋吉蔵

へ 積戀雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

H0

2・つもる戀上老(十了)へ了以外枠あり

1・2 (B) B (行・字)七・一九 一一丁

\* a/ 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」へ印



ハ 積懸雪関扉〔常磐津文字太夫直傳〕劇神仙著

ロ 積懸雪関扉〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

ㇿ 2・せきのと上巻(〓十)〔梓あり〕

ㇿ 1・2 (B) B (行・字)・〇・一二丁

ㇿ 明治式乙丑年六月再版 / ㇿ 正本版元東京〔地本〕問屋〔人形町通松嶋町〕〔紋〕さか川平四郎板〔印〕

ハ 積懸雪関扉上〔常磐津文字太夫直傳〕劇神仙著

ロ 積懸雪関扉〔上〕

ㇿ 2・せきのと上巻(〓十)〔梓あり〕

ㇿ 1・2 (B) 二一、三\*一四、一 一八、〇 B (行・字)七・二〇 一二丁

ㇿ a / 正本版元東京〔地本〕問屋〔上野廣小路元黒門町老番地〕〔紋〕さか川平四郎板〔印〕

ハ 積懸雪関扉〔常磐津文字太夫直傳〕劇神仙著

ロ 積懸雪関扉〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

ㇿ 2・せきのと上巻(〓十)〔梓あり〕

ㇿ 1・2 (B) B (行・字)七・二二 一〇丁

ㇿ 明治十一年八月再版 / 坂川板 / ㇿ 正本版元東京〔地本〕問屋〔上野廣小路元黒門町老番地〕〔紋〕さか川平四郎板〔印〕

ハ 積懸雪関扉〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕劇紙仙著

ロ 積懸雪関扉〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

ㇿ 2・せきのと上巻(〓十)〔梓あり〕

ㇿ 1・2 (B) B (行・字)七・二〇 一二丁

ㇿ a / 正本版元東京〔地本〕問屋〔下谷區谷中清水町老番地〕〔紋〕さか川平四郎〔印〕

ハ 積懸雪関扉〔常磐津文字太夫直傳〕劇神仙著

ロ 積懸雪関扉〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

ㇿ 2・せきのと上巻(〓十)

ㇿ 1・2 (B) 二一、三\*一四、一 一八、〇 B (行・字)七・二〇 一二丁

ㇿ a / 常磐津正本版元〔印刷者兼發行者〕〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕〔坂川平四郎〕〔印〕

ハ 積懸雪関扉〔岸澤式治〕玉澤屋新七〔板元〕

ロ 〔中山南枝〕関三十郎〔三拵大五郎〕関の扉〔上〕

ㇿ 2・関の扉上(〓九了)

ㇿ 1・1 (B) 二二、三\*一五、六 一七、五 B (行・字)七・一八 一〇丁

ㇿ 1・名古屋長者町〔玉沢屋新七〕廣小路角板元

ハ 積懸雪関扉〔岸澤式治〕玉澤屋新七〔板元〕



口 積懸雪関扉「上」〔正本所玉澤屋〕

ア2・関の扉上巻(〜九了)

ニ1・2 (B) 二二、五\*一五、九 一七、五 (行・字) 七・一九 一一丁

\* 常磐津豊後節正本/常磐津版元〔大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地〕/〆紋〆若林芳造〆印〆

イ0

ロ〆判読不明〆

ア2・関の戸下巻(〜十了)〆〆粹あり〆

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 一二丁

\* 竹賀写/ B/ 正本版元江戸〔地本〆問屋〕〔新和泉町北?〕/〆紋〆いがや勘右衛門〆印〆

イ0

ロ0

ア〆判読不明〆

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 一〇丁

\* b/ 正本版元江戸〔地本〆問屋〕〔〆判読不明〆〕/〆紋〆いがや勘右衛門〆印〆

イ0

ロ0

ア2・関の扉下巻(〜九了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

イ0

イ0

ロ0

ア2・関の戸下巻(〜九了)〆〆七八丁のみ粹あり〆

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

イ0

イ0

口 積懸雪関扉「下」〔常磐津稽古本〆芳野屋勝五郎板〕

ア2・〆もる懸下巻(〜九了)〆〆粹あり〆

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二二 一二丁

\* 東都板元〆紋〆〔南傳馬町老丁目〕/芳野屋勝五郎〆紋〆〔同町〕/萬屋吉蔵

イ0

口 積懸雪関扉〔常磐津文字太夫直傳〆正本所坂川平四郎〕

ア2・関の戸下巻(〜九了)〆〆粹あり〆



11・2 (B) 110' 0\*14' 0 17' 0 (行・字) 七・一六 一一丁  
\*天明四辰年十一月、明治十一寅年八月再板 坂川板、正本版元「地本、問屋」〔人形町通松嶋町〕、紋、さか川平四郎板、印、

10

10

12・関の戸下巻(九了)〔梓あり〕

11・2 (B) B (行・字) 七・二〇 一〇丁

\*天明四辰年十一月、明治十一年八月再板、坂川板、正本版元東京「地本、問屋」〔上野廣小路元黒門町老番地〕、紋、さか川平四郎板、印、

10

10

12・関の戸下巻(九了)〔梓あり〕

11・2 (B) B (行・字) 七・二〇 一〇丁

\*2/ 正本版元東京「地本、問屋」〔下谷區谷中清水町老番地〕、紋、さか川平四郎板、印、

10

口 積徳雪関扉〔下〕〔常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎〕

12・関の戸下巻(九了)〔梓あり〕

11・2 (B) 112' 八\*一四、九 一七、一 (行・字) 七・一六 一一丁

\*昭和二〔丁卯〕年六月再々板 (坂川蔵版)、常磐津正本版元「印刷者兼發行者」〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕、坂川平四郎板、印、

10

10

12・関の戸下巻(九了)〔梓あり〕

11・2 (B) 110' 六\*一四、二 一八、五 (行・字) 七・二二 一〇丁

\*2/ 正本版元江戸「地本、問屋」〔いがや勘右衛門原板、人形町通松嶋町〕、紋、さか川平四郎板、印、

10

口 積徳雪関扉〔下〕〔常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎〕

12・関の戸下巻(九了)

11・2 (B) B (行・字) 七・一九 一一丁

\*元治貳乙丑年九月再板、正本版元東京「地本、問屋」〔紋〕〔人形町通松嶋町〕、さか川平四郎板、印、

10

口 中山南枝、関三十郎、三拼大五郎、関の扉



㊦2・関の戸下巻(〓十了)

㊦1・1 (㊦) 二二、八\*一五、四 一七、三 ㊦ (行・字) 七・一八 一一丁

㊦1・名古屋長者町玉沢屋新七/廣小路角板元

㊦0

㊦積戀雪関扉[下][正本所玉澤屋]

㊦2・関の戸下巻(〓十了)

㊦1・2 (㊦) 二二、七\*一五、九 一七、四 ㊦ (行・字) 七・一八 一二丁

㊦常磐津豊後節正本/常磐津版元[大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地]〓紋〓若林芳道〓印〓

㊦積戀雪関扉

㊦0

㊦2・つみる戀巻(上二〓十了)〓枠あり〓

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二二 一九丁

㊦0

㊦積戀雪関扉上[常磐津文字太夫直傳/劇神仙著]

㊦0

㊦2・せきの上巻(〓十了) 関の戸下巻(〓九了)〓枠あり〓

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二二 二〇丁

㊦2/ 正本版元東京[地本/問屋][下谷區谷中清水町壹番地]〓紋〓さか川平四郎板〓印〓

㊦積戀雪関扉[常磐津文字太夫直傳/劇神仙著]

㊦0

㊦2・〓判読不明〓

㊦1・2 (㊦) 二〇、七\*一四、六 ㊦ (行・字) 七・二二 一九丁

㊦0

㊦積戀雪関扉・積戀雪関扉下

㊦積戀雪関扉

㊦2・二(七〓〓壹九)二(廿一〓三十)

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 六・二〇 二四丁

㊦0

㊦積戀雪関扉[上][常磐津文字太夫直傳/劇紙仙著]

㊦0

㊦2・つみる戀上巻(〓十了)・関の戸下巻(〓九了)〓上了・下三以下枠なし〓

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二〇 二〇丁



\*元治二乙丑年六月再板 / 正本版江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」「人形町通松嶋町」へ紋さか川平四郎へ印

イ 積恋雪関扉「常磐津文字太夫直傳」劇神仙著

ロ 積恋雪関扉

ア2・1 (一) (二) (三) (行・字) 七・一七 一二丁

イ1・1 (一) (二) (三) (行・字) 七・一七 一二丁

\*名古屋板元へ紋さか屋金兵衛

イ 関の戸上下

ロ

ア

ア2・2 (一) (二) (三) (行・字) 一一・二〇 一一丁

イ

イ 積恋雪関扉「イ」

ロ「常磐津」積恋雪関扉「ロ」

ア

ア2・2 (一) (二) (三) (行・字) 五・一一 一二五丁

イ

イ 昇鯉海関扉

ロ 登鯉海関扉

ア2・1 (一) (二) (三) (行・字) 六・一六 一二丁

イ1・1 (一) (二) (三) (行・字) 六・一六 一二丁

\*板元 / 山同明町「釜屋友治郎」

イ 節句遊戀の手習「常磐津文字太夫直傳」

ロ「鶏合せ」涼舟「三人」生酔「節句遊戀の手習」常磐津豊後大掾直傳「正本所坂川平四郎」

ア2・1 (一) (二) (三) (行・字) 七・一七

イ1・2 (一) (二) (三) (行・字) 六・一八 九丁

\*常磐津豊後大掾藤原永光直傳「正本版元東京」地本「問屋」下谷區谷中清水町「老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

イ 節句遊戀の手習

ロ 両国遊山船「三人なま酔」

ア2・1 (一) (二) (三) (行・字) 七・一六 九丁

イ1・1 (一) (二) (三) (行・字) 七・一六 九丁

\*板元「名古屋」玉沢屋新七



ハ節句遊戀の手習「常磐津文字太夫直傳」

ロ

ニ2・節句遊一(七了)ハ梓あり

ハ1・2 (ロ) 四 (行・字) 六・二二 七丁

※天保四癸巳六月吉日「坂川板」ハいがや勘右衛門原板 正本版元江戸「地本問屋」ハ紋「人形町通松嶋町」ハさか川平四郎板ハ印

ハ五節句

ロ

ハ0

ハ1・2 (ロ) 四 (行・字) 四・一〇 七丁

※文字登和記

ハ三人生辭

ロ

ハ0

ハ1・1 (ロ) 四 (行・字) 四・一〇 一二丁

※文字登和記

ハ珍數戀の優曇華

ロ會我たいめん「振りつけ西川鯉三郎」

ニ2・會我対面巻(九了了)

ハ1・1 (ロ) 二二、一\*一五、三一八、五四 (行・字) 七・一六 一一丁

※明治八年亥十二月、ニ名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ0

ロ

ハ0

ハ2・2 (ロ) 四 (行・字) 八・一二 三丁

ハ0

ハ「おのが名の作りをくらふ狐かな」其佛寫淨水「上中下」常磐津太夫文中直傳「岸澤式佐節付」作者河竹其水述

ロ「おのが名の作りをくらふ狐かな」其佛寫淨水「上中下」常磐津太夫文中直傳「岸澤式佐節付」正本所坂川平四郎

ニ2・其佛上一(六丁)・中一(六丁)・下一(六丁)

ハ1・2 (ロ) 二二、三\*一五、三一七、一四 (行・字) 六・一四 二〇丁

※明治十九年十二月四日御届「東京淺草區馬道町二丁目十二番地」編輯人 吉村新七「東京下谷區谷中清水町志番地」出版人 坂川平四郎ハ紋



→ 其霞撞鐘頭「常磐津文字太夫直傳」

H0

2・判読不可

1・2 (B) B (行・字) 七・一四 二四丁

0

→ 「若芝や、柳緑を、濃交て」第二番目九變化「常磐津小文字太夫直傳」作者松本幸二述「第三豊前國布苅の祭・第六一、星長者の倉入・第七喜撰が庵の茶吞説、八花見酒のうかれ男

→ 櫻清水清玄「第二ばん目大切相勤申候」「若芝や、柳緑を、濃交て」第二番目九變化「全九冊之内、豊前國布苅の祭」[狂言勝儀蔵、作者松本幸二]、中村座、上・下

2・九へんげ老(三了)

1・1 (B) B (行・字) 一一・三二 四丁

→ 上巻、正本伊賀屋、下巻「大傳馬町二丁目」正本板元伊賀屋勘右衛門

→ 其九繪彩四季櫻「常磐津文字太夫直傳」作者福森久助述

H0

2・よたか老(五了)へ梓あり

1・2 (B) B (行・字) 六・一〇 六丁

a/ 正本版元江戸「地本、問屋」へ紋「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門へ印

→ 其姿秋七種「作者増山金八述」

→ 古版常磐津正本

2・判読不可

1・2 (B) B (行・字) 六・一八 二二丁

0

→ 太陽曆開化万歳

→ 太陽曆開化萬歳「名古屋長者丁廣小路角、玉沢屋新七板」作楽深齋散寿「振 西川鯉三郎」

2・開化万才老(四)

1・1 (B) 二二・〇\*一五、五一七、八 B (行・字) 六・一三 六丁

→ 名古屋長者丁廣小路角、玉沢屋新七板

→ 嬌柳花街「常磐津文字太夫直傳」

→ 嬌柳花街「大字七下りけいこ本」

2・たを柳一(七了)

1・2 (B) B (行・字) 七・二一 八丁

→ 「元濱町」正本銘、伊賀屋板



ハ 柳花街曉

ロ

ハ1・1 (一七)

ハ1・2 (B) B (行・字) 七・二一 七丁

オ

ハ 濃靨色三股

ロ 高尾

ハ2・1 (一五)

ハ1・1 (B) 二二、二\*一六、〇 一七、七 B (行・字) 六・一九 六丁

\* 板元 名古屋/玉沢屋新七

ハ 「濃紫の水上に浮名を流す」竜田川「濃靨色三股」常磐津文字太夫直傳/作者並木五瓶述

ロ 濃靨色三股「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・三また老(一五了)ハ梓あり

ハ1・2 (B) 二一、三\*一四、一 一八、一 B (行・字) 六・二〇 五丁

\* 2/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」ハ紋さか川平四郎板ハ印

ハ 「ハ判読不可」竜田川「濃靨色三股」常磐津文字太夫直傳/作者並木五瓶述

ロ 濃靨色三股「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・ハ判読不可

ハ1・2 (B) B (行・字) 六・二二 七丁

\* 2/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町/さか川平四郎板ハ印

ハ 高尾

ロ 「常磐津文字太夫直傳」高尾

オ

ハ2・2 (B) 二三、七\*一六、九 B (行・字) 八・一八 七丁

オ

ハ 「祝儀」高砂松「常磐津文字太夫直傳」應需松樹翁述

ロ 高砂/桜が和/曾我/景清/とも糸/小文字太夫改/常磐津文字太夫ハ印

オ

ハ1・1 (B) B (行・字) 九・二四 五丁

\* 安政五戊午年六月吉日ハこの後に番組一覧あり/右番組浄瑠璃惣門弟中罷出相勤申候/千穂萬歳/大々叶

ハ 高砂松



ロ 常磐津[高砂松]

アO

ニ2・2 (甲) 二三、一\*一五、八 四 (行・字) 五・一一 八丁

オO

ノ [祝儀]高砂松[常磐津小文字太夫直傳]應需松翁述]

ロ [祝儀]高砂松

アO

ニ1・1 (甲) 五 (行・字) 六・一五 七丁

オa/ 大正二年六月廿四日印刷大正二年六月廿七日發行ノ常磐津正本版元[補述者]ノ東京日本橋區繪物町二十五番地ノ常岡丑五郎ノ印刷兼發行者[東京下谷區谷中清水町老番地]ノ坂川平四郎ノ印

ノ 立田川紅葉白鷺

ロ 龍田川紅葉のしら鷺

ア2・立田川苔(ノ四)

ニ1・1 (甲) 二三、一\*一六、三 一八、五 四 (行・字) 六・一六 五丁

オ 長者町八丁目ノ板元玉澤屋新七

ノ 立田川紅葉白鷺[作者中村重助述]

ロO

ア2・立田川上苔(ノ十)

ニ1・2 (甲) 五 (行・字) 七・二二 一一丁

オa/ 正本版元江戸[地本ノ問屋]ノ紋ノ神田鍛冶町式丁目ノいがや勘右衛門ノ印

ノO

ア2・立田川十一(ノ廿丁)

ニ1・2 (甲) 五 (行・字) 七・二二 一一丁

オa/ 正本版元江戸[地本ノ問屋]ノ紋ノ神田鍛冶町式丁目ノいがや勘右衛門ノ印

ノ 巽八景・[茶屋廻りノ九変化の内]八重九重花姿繪

ロ 巽八景ノ[九変化之内]八重九重花姿繪[吉原茶屋廻り]

ア2・八景老(ノ式)

ニ1・1 (甲) 二二、四\*一五、一 一八、二 四 (行・字) 六・一四 五丁

オ 天保十二年[辛丑]七月狂言 中村座ノ名古屋長者町廣小路上ノ板元玉沢屋新七

ノ 巽八景・[茶屋廻りノ九変化の内]八重九重花姿繪

ロ 巽八景ノ[九変化之内]八重九重花姿繪[吉原茶屋廻り]



ㄣ2・八景巻(一)式)

ㄣ1・1 (㉔) 二二三、〇\*一五、九一八、三〇 (行・字) 六・一四 五丁

※天保十二年「辛丑」七月狂言 中村座、板元玉沢屋新七

ㄠ 巽八景「常磐津文字太夫直傳」作者立川為馬述

ㄠ 巽八景「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋揚右門板

ㄣ2・たつみ巻(一)四)

ㄣ1・2 (㉔) 二一〇、七\*一四、六一七、〇 (行・字) 五・一一 六丁

※天保八西九月、ㄣ、 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」へ紋いがや勘右衛門へ印

ㄠ 巽八景「常磐津文字太夫直傳」作者立川為馬述

ㄠ 巽八景「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ㄣ2・たつみ(一)四)

ㄣ1・2 (㉔) 二一一、一\*一四、二一六、二 (行・字) 五・一一 六丁

※天保八西九月、ㄣ、 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ㄠ 茶屋廻り

ㄠ 「常磐津」茶屋まわり

ㄠ

ㄣ2・2 (㉔) 二二一、五\*一六、二一七、一 (行・字) 四・九 八丁

※筆者 澤田春

ㄠ 「所作事」まだ深山木も巻かぬながら不束な枝振「八重九重花姿繪」常磐津文字太夫直傳「作者三升屋二三治述」茶屋廻り「九變化之内」 雷「九變化之内」

ㄠ 天竺徳兵衛万里入船「第二ばん目大切」作者三升屋二三治「所作事」まだ深山木も巻かぬながら不束な枝振「八重九重花姿繪

ㄣ2・茶屋廻り巻(一)式)

ㄣ1・1 (㉔) 三 (行・字) 一〇・二〇 三丁

※天保十二年辛丑七月狂言、 正本板元「神田鍋町いがや勘右衛門

ㄠ 巽八景「常磐津文字太夫直傳」作者立川為馬述

ㄠ

ㄣ2・たつみ巻(一)四)へ枠あり

ㄣ1・2 (㉔) 三 (行・字) 五・一一 五丁

※天保八西九月

ㄠ 巽八景

ㄠ



㊦2・却(〜四)

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 五・八 五丁

字0

㊦ 田仁志「玉沢屋新七板元」

㊦ 田仁子「振り付西川鯉三郎」

㊦2・田(し)巻(〜三丁)

㊦1・1 (㊦) 二二、〇\*一五、四 一八、五 ㊦ (行・字) 五・一五 四丁

㊦2・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

㊦ 旅雀三芳穂

㊦ 「常磐津」旅雀三芳穂

㊦2・旅雀巻(〜十一丁)

㊦1・1 (㊦) 二二、一\*一五、二 一七、〇 ㊦ (行・字) 六・一二 一二丁

㊦ 名古屋長者町玉沢屋新七版元廣小路角

㊦ 旅雀三芳穂

㊦ 旅雀三芳穂「正本所玉澤屋」

㊦2・旅雀巻(〜十一丁)

㊦1・2 (㊦) 二一、五\*一五、一 一六、八 ㊦ (行・字) 六・一二 一四丁

字0

㊦ 「晋を今に」取なして「旅雀三芳穂」常磐津文字太夫直傳作者櫻田治助述

㊦ 旅雀三芳穂「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

㊦2・㊦判読不可

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二二 九丁

字0

㊦ 「歌を今に」取なして「旅雀三芳穂」常磐津文字太夫直傳作者櫻田治助述

字0

㊦2・たびすずめ一(〜七丁)㊦枠あり

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二二 八丁

㊦2/ 常磐津正本版元「印刷者兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町巻番地」坂川平四郎㊦印

㊦ 「新曲」玉川

㊦ 「新曲」玉川調岸澤巳佐吉振西川鯉三郎

㊦ 玉川巻(〜六丁)

㊦1・1 (㊦) 二二、八\*一五、六 一七、五 ㊦ (行・字) 六・一六 七丁



※常磐津正本元 玉澤屋新七版、「明治廿六年三月十日印刷、同年同月同日出版」印刷兼發行者、「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

イ「新曲」玉川

ロ常磐津「新曲」玉川

ノ

ニ2・2 (ロ) 二三、〇\*一六、四 ㊦ (行・字) 五・九 一一丁

※筆者 澤田春

イ「玉屋新兵衛」三國小女郎「比翼の初旅」常磐津文字太夫直傳」

ロ「玉屋新兵へ」桶伏のだん「比翼初旅」上「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板」

ノ2・小女郎上巻(〜六了)

ニ1・2 (ロ) 一一、〇\*一四、二一七、五 ㊦ (行・字) 七・一九 八丁

※a/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町二丁目」へ紋いがや勘右衛門へ印

ノ

ロ「玉屋新兵へ」桶伏のだん「比翼初旅」下「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板」

ノ2・小女郎下(〜六了)

ニ1・2 (ロ) 一一、〇\*一四、二一七、二 ㊦ (行・字) 七・二一 八丁

※a/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町二丁目」へ紋いがや勘右衛門へ印

ノ

ロ

ノ2・小女郎下巻(〜六了)

ニ1・2 (ロ) 二〇、二\*一四、二一七、五 ㊦ (行・字) 七・二〇 七丁

※

イ玉屋新兵衛

ロ

ノ

ニ1・2 (ロ) 二三、七\*一六、八 ㊦ (行・字) 六・一八 一一丁

※板元伊賀屋勘右衛門

イ「玉屋新兵衛」三國小女郎「比翼の初旅」常磐津文字太夫直傳」

ロ

ノ2・判読不可

ニ1・2 (ロ) ㊦ (行・字) 七・二〇 一四丁

※



ナ 玉屋新兵衛／三国小女郎「比翼の初旅」

ロ 玉屋新兵衛／桶伏の段「比翼初旅」上「常磐津稽古本／芳野屋勝五郎板」

ル2・〈判読不可〉

二1・2 (B) 四 (行・字) 七・二二 七丁

ナ0

ナ0

ロ 玉屋

ナ0

二2・2 (B) 四 (行・字) 八・一六 五丁

ナ0

ナ 手向花菖蒲「常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐述」

ロ 手向の花あやめ

ナ0

二1・1 (B) 四 (行・字) 一一・二六 二丁

天保十五立つ年六月「神田鍋町西横丁」いがや勘右衛門正版／

維 点方十五／甲辰六月／千穂萬歳大々叶

ナ 「男二人の中へ／なふると知て／女文字」誰身色和事「常磐津文字太夫直傳／作者櫻多左交述」

ロ0

ル2・やつしき(～六丁)

二1・2 (B) 二〇、八\*一四、一 一七、二四 (行・字) 七・二〇 七丁

ナa/ 正本版元江戸「地本／問屋」神田鍛冶町二丁目「いがや勘右衛門」印

ナ0

ル2・やつし下巻(～五丁)

二1・2 (B) 二〇、八\*一四、〇 一七、五四 (行・字) 七・一八 六丁

ナa/ 正本版元江戸「地本／問屋」神田鍛冶町二丁目「いがや勘右衛門」印

ナ0

ロ 誰身色和事「下」常磐津文字太夫直傳／正本所伊賀屋勘右衛門板

ル2・やつし下巻(～五丁) 二1・2 (B) 四 (行・字) 七・一九 七丁

ナa/ 正本版元江戸「地本／問屋」紋「大傳馬町式丁目」いがや勘右衛門「印」

ナ 「男二人の中へ／なふると知て／女文字」誰身色和事「常磐津文字太夫直傳／作者櫻田左交述」

ロ0



㍷2・やつし上巻(上六了・下巻下五了)

㍷1・2 (㉗) ㉗ (行・字) 七・一八 一二丁

㍷\* 文久元酉年八月再板(正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地「坂川平四郎板」印)

㍷「男二人の」その中で「なると知手」女文字「誰身色和事」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田治助述」

㍷0

㍷2・やつし上巻(上六了・下五了)

㍷1・2 (㉗) ㉗ (行・字) 七・一八 一二丁

㍷\* 弘化四年「いもふと」松々(見返し譚語)

㍷ 丹前の名古屋帯

㍷ 丹前の名古屋帯「ふり付西川和光」

㍷2・丹前巻(五了)

㍷1・1 (㉗) 二二、四\*一五、一 一八、五 ㉗ (行・字) 七・一五 六丁

㍷\* 1・名古屋長者「玉沢屋新七」廣小路角板元

㍷「大和文庫」仮寝の「手枕」壇特山胡蝶羽織

㍷「釋迦八僧記」壇特山胡蝶羽織「大和文庫仮寝の手枕」岸澤式寿齋「岸澤古寿満節弘」振付西川鯉三郎

㍷2・だんどく山巻(十一了)

㍷1・1 (㉗) 二二、九\*一五、二 一八、五 ㉗ (行・字) 六・一七 一二丁

㍷\* 名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角

㍷「壇の浦」兜軍記「琴責段」岸澤式治「玉澤屋新七」

㍷ 琴責の段

㍷2・あいや巻(十五了)

㍷1・1 (㉗) 二二、四\*一五、八 一七、五 ㉗ (行・字) 七・二〇 一六丁

㍷\* 板元・1「名古屋」長者丁「廣小路上」玉沢屋新七

㍷「だんの浦」兜軍記「琴責の段」

㍷「常磐津文字太夫直傳」だんの浦「兜ぐん記」琴責の段

㍷0

㍷2・2 (㉗) 二二、七\*一六、五 ㉗ (行・字) 七・一九 二〇丁

㍷0

㍷「壇」浦「兜軍記」琴責段「常磐津小文字太夫直傳」

㍷0

㍷2・琴せめ上巻(上七了・下巻七了)

㍷1・2 (㉗) ㉗ (行・字) 七・二三 一四丁



キ a / 正本版元江戸「地本」問屋「へ紋」神田鍛冶町二丁目「いがや勘右衛門」印

ハ「だんまり」夜雨角田の寄木「西川鯉三郎」岸澤式寿斎

ロだんまり

ハ 矢取娘巻(三了)

二1・1 (B) 二二、〇\*一五、一 一七、五 (行・字) 六・一七 四丁

キ2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ「だんまり」夜雨角田の寄木「西川鯉三郎」岸澤式寿斎

ロだんまり

キ2・矢取娘巻(三)

二1・1 (B) 二二、七\*一五、〇 一七、六 (行・字) 六・一七 四丁

キ2・玉沢屋新七

ハ「だんまり」夜雨角田の寄木

ロ「だんまり」夜雨角田の寄木

キ0

二2・2 (B) 二三、一\*一六、三 (行・字) 六・一三 五丁

キ0

ハ「新曲」竹生島「常磐津文字太夫直傳」岸澤古式部節附「竹柴其水著述」

ロ「新曲」竹生島

キ2・竹生島巻(五)「梓あり」

二1・2 (B) 二二、六\*一五、三 一八、三 (行・字) 六・一二 七丁

キ 明治三十六年癸卯十一月吉辰「レ」 明治三十六年十一月二十日印刷「明治三十六年十一月廿三日發行」東京荏原

郡上大崎村五百八十二番地「竹柴其水事」著作者岡田新蔵「東京下谷區谷中清水町老番地」印刷兼「發行者」坂川平

四郎「印」

ハ「新曲」竹生嶋「常磐津文字太夫直傳」岸澤古式部節附「竹柴其水著述」

ロ「新曲」竹生嶋

キ 竹生島巻(五)

二1・2 (B) 二二、七\*一五、一 一八、一 (行・字) 六・一二 六丁

キ 明治三十六年癸卯十一月吉辰(坂川版)

ハ「新曲」竹生嶋「常磐津文字太夫直傳」岸澤古式部節附「竹柴其水著述」

ロ「新曲」竹生嶋

キ 竹生島巻(五)

二1・2 (B) 二二、七\*一五、一 一八、一 (行・字) 六・一二 六丁



★明治三十六年癸卯十一月吉辰（坂川版）／明治三十六年十一月二十日印刷／明治三十六年十一月廿三日發行／著者「東京荏原郡大崎村五百八十二番地」竹柴其水事「岡田新蔵」印刷兼「發行者」／東京下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎

イ「道行」千種の花色世盛「上」常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述

ロ「道行」千種の花色世盛「上」常磐津文字太夫直傳／正本所伊賀屋勘右衛門板

ㇿ2・世盛上巻（一六）

ㇿ1・2（㉔） ㉔（行・字）七・二七 八丁

ㇿㇿㇿ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

ㇿ0

ロ「道行」千種の花色世盛「下」常磐津文字太夫直傳／正本所伊賀屋勘右衛門板

ㇿ2・世盛一（一六）

ㇿ1・2（㉔） ㉔（行・字）七・二七 八丁

ㇿㇿㇿ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

イ「道行」千種の花色世盛「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田次助述

ㇿ0

ㇿ2・世盛上巻（一六・下一）六「梓あり」

ㇿ1・2（㉔） ㉔（行・字）七・二五 一二丁

ㇿ0

イ「市原整の鬼童丸」袴垂の夜寿助「智仁勇備茲頼光

ロ 智仁勇備茲頼光

ㇿ2・より光巻（一五了）

ㇿ1・1（㉔）二一、八・一五、五 一六、五 ㉔（行・字）六・一四 六丁

★名古屋「長者町」玉沢屋新七「廣小路上」板元

イ「市原整の鬼童丸」袴垂の夜寿助「智仁勇備並頼光」常磐津文字太夫直傳／岸澤式佐節付「狂言堂左交述」

ㇿ0

ㇿ2・ちじんゆう巻（一六了）

ㇿ1・2（㉔） ㉔（行・字）六・一二 七丁

★文久三癸亥年九月守田座於興行「常磐津正本版元」印刷者兼「發行者」東京市下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎「印」

イ「新曲」千年影「常磐津小文字太夫直傳」常磐津文字兵衛節付「永井素岳述」

ロ「新曲」千年影

ㇿ2・「判読不可」



11・1 (甲) 乙 (行・字) 六・一五 五丁  
\* 明治四十二年十二月素岳書 / 明治四十二年十二月二十三日印刷 / 明治四十二年十二月二十六日發行 / 常磐津正  
本版元「補述者」 / 「東京市京橋區北橋町老番地」 / 永井素岳 / 「印刷兼發行者」 / 「東京下谷區谷中清水町老番地」 / 坂川平  
四郎 < 印 >

1 「假名手本 / 忠臣蔵」 鶴ヶ岡の段「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「忠臣蔵」 大序「鶴ヶ岡の段上」 常磐津文字太夫直傳 / 正本所坂川平四郎」

2 忠大序上巻 (七了)

11・2 (甲) 二一、二\*二四、一 一八、二 乙 (行・字) 六・一五 九丁

\* a / 正本版元東京「地本 / 問屋」 / 「下谷區谷中清水町老番地」 < 紋 > さか川平四郎板 < 印 >

10

ロ 「忠臣蔵」 大序「鶴ヶ岡の段下」 常磐津文字太夫直傳 / 正本所坂川平四郎」

2 忠大序下巻 (六了)

11・1 (甲) 二一 0 乙 (行・字) 〇・丁

10

1 「かほよが目利御用に / たつた一ツ声の鶴ヶ岡」 忠臣蔵第序

ロ 「忠臣蔵第序」 鶴ヶ岡 / のだん

2 忠臣初巻 (十了)

11・1 (甲) 二三、一\*一六、一 一九、六 乙 (行・字) 七・一八 一二丁

\* 板元 / 名古屋 / 廣小路 / 玉沢屋新七

1 假名手本忠臣蔵初段

ロ 「常磐津文字太夫直傳」 假名手本忠臣蔵初段

10

11・2 (甲) 二三、七\*一六、七 乙 (行・字) 七・二二 一二丁

10

1 「假名手本 / 忠臣蔵」 鶴ヶ岡の段「常磐津文字太夫直傳」

10

2 忠大序上巻 (上七了) < 梓あり >

11・2 (甲) 乙 (行・字) 六・一六 八丁

\* a / 正本版元江戸「地本 / 問屋」 < 紋 > 「神田鍛冶町二丁目」 いがや勘右衛門 < 印 >

10

10

2 忠大序下巻 (六了) < 梓あり >



二1・2 (B) B (行・字)六・一六 七丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町二丁目「いがや勘右衛門」印

イ「假名手本」忠臣蔵「鶴」岡の段「常磐津文字太夫直傳」

ロ「忠臣蔵」大序「鶴」岡の段「上」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ニ2・忠大序上巻「上七了・下巻」六了「梓あり」

二1・2 (B) B (行・字)六・一六 一五丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

イ「假名手本」忠臣蔵「鶴」岡の段「常磐津文字太夫直傳」

ロ「忠臣蔵」大序「鶴」岡の段「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ニ2・忠大序上巻「上七了・下巻」六了「梓あり」

二1・2 (B) B (行・字)六・一七 一五丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

イ「忠臣蔵」二段目「桃井館」の段「常磐津豊後大掾直傳」

ロ「忠臣蔵」二段目「桃井館」の段上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ニ2・桃の井館の段上「七了」

二1・2 (B) 二1・二1\*1四、二1・二1七、六B (行・字)六・二1 九丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」紋「さか川平四郎板」印

10

ロ「忠臣蔵」二段目「桃井館」の段下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ニ2・桃の井館の段下「七了」

二1・2 (B) 二1・二1\*1四、三1・二1七、七B (行・字)六・一七 九丁

a/ 「右常磐津一流」の「正本版元東京」地本「問屋」下谷區谷中清水町老番地「紋」さか川平四郎板「印」

イ「忠臣蔵」二段目「假名手本早打」の段「岸澤式治」玉澤屋新七版元

ロ「假名手本忠臣蔵」式段目「謀言の寝釘」

ニ2・忠臣二ノ巻「十三了」

二1・1 (B) 二1・二1\*1五、三1・一八、四B (行・字)七・二〇 一四丁

a/ 板元「長者町筋」玉澤屋新七「元廣小路角」

イ「忠臣蔵」二段目「假名手本早打」の段「岸澤式治」玉澤屋新七版元

ロ「假名手本忠臣蔵」式段目「謀言の寝釘」

ニ2・忠臣二ノ巻「十四了」

二1・1 (B) 二1・二1\*1五、六1・一八、一B (行・字)七・二1 一五丁

a/ 板元「長者町筋」玉澤屋新七「廣小路角」明治十九年八月六日五届翻刻出版人「愛知縣平民」編野長三郎「名古屋」



ナ [忠臣蔵ノ二段目] 桃の井館の段 [常磐津豊後大掾直傳]

ロ [忠臣蔵ノ二段目] 桃井館の段 [上] [常磐津文字太夫直傳] 正本所坂川平四郎]

ニ 2・桃の井館の段上 (一) 上七了・下 (一) 下七了 (ハ梓あり)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 六・一八 一六丁

キ a/ 正本版元東京 [地本] 問屋 [ハ紋] [上野廣小路元黒門町老番地] さか川平四郎板ハ印

ナ [忠臣蔵ノ二段目] 桃の井屋館の段 [常磐津豊後大掾直傳]

ロ

ニ 2・桃の井館の段上 (一) 上七了・下 (一) 下七了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 六・一八 一五丁

キ a/ 正本版元東京 [地本] 問屋 [ハ紋] [下谷區谷中清水町老番地] 坂川平四郎板ハ印

ナ [進物の段] 忠臣蔵三段目上 [常磐津豊後大掾直傳] 佐々木市蔵述] 玉沢屋新七板]

ロ [忠臣蔵三段目上の巻] 進物のだん

ニ 2・忠三上巻 (一) 十三了)

ニ 1・1 (B) B (行・字) 六・一八 一四丁

キ 1・名古屋長者町] 玉沢屋新七] 廣小路角板元

ナ [進物の段] 忠臣蔵三段目上 [常磐津豊後大掾直傳] 佐々木市蔵述]

ロ [忠臣蔵ノ三段目] 進物の段上 [常磐津豊後大掾直傳] 正本所坂川平四郎]

ニ 2・進物上巻 (一) 六了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 六・一七 八丁

キ a/ 正本版元東京 [地本] 問屋 [上野廣小路元黒門町老番地] ハ紋] さか川平四郎板ハ印

ロ

ロ [忠臣蔵ノ三段目] 進物の段下 [常磐津豊後大掾直傳] 正本所坂川平四郎]

ニ 2・進物下巻 (一) 六了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 六・二二 八丁

キ a/ 正本版元東京 [地本] 問屋 [上野廣小路元黒門町老番地] ハ紋] さか川平四郎板ハ印

ナ [進物の段] 忠臣蔵三段目 [上] [常磐津文字太夫直傳] 佐々木市蔵述]

ロ

ニ 2・進物上巻 (一) 上六了・下巻 (一) 下六了 (ハ梓あり)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 六・一七 一二丁

キ



ナ「喧嘩場」忠臣蔵三段目下

ロ「忠臣蔵三段目下の巻」喧嘩場

マ2・忠三下巻(〜九了)

ニ1・1 (B) 二一、〇\*一四、六一八、三cm (行・字) 六・一五 一〇丁

マ1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ナ「忠臣蔵／三段目」喧嘩の段「常磐津豊後大掾直傳」

ロ「忠臣蔵／三段目」喧嘩の段「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎」

マ2・忠三巻(〜七了) へ枠あり

ニ1・2 (B) 二一、三\*一四、〇一七、七cm (行・字) 六・一九 九丁

マa/ 正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地」へ紋／さか川平四郎板へ印

ナ「おかる／勘平／道行」寄波情友衛「忠臣蔵三段目」

ロ「忠臣蔵三段目道行／作者立川焉馬」思ふ用意／しほる恋路の／袖かうら」寄波情友衛

マ2・袖が浦巻(〜七了)

ニ1・1 (B) 二一、五\*一五、二一七、五cm (行・字) 七・二一 八丁

マ板元・名古屋廣小路玉沢屋新七

ナ「おかる／勘平／道行」寄波情友衛「常磐津文字太夫直傳」作者立川焉馬」

ロ「忠臣蔵／三段目」寄波情友衛「道行」常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

マ2・忠三道行巻(〜七了)

ニ1・2 (B) 二一、二\*一四、〇一六、八cm (行・字) 七・二三 九丁

マa/ 正本版元東京「地本／問屋」下谷區谷中清水町老番地」へ紋／さか川平四郎板へ印

ナ寄波情友衛

ロ「忠臣蔵三段目」おかる／勘平」道行寄波情友衛

マ0

ニ2・2 (B) 二四、四\*一六、五一九、五cm (行・字) 五・一五 一一丁

マ0

ナ「四段目／判官腹切」假名手本忠臣蔵「常磐津豊後大掾直傳」佐々木市藏述」玉沢屋新七板」

ロ「忠臣蔵四段目」判官腹切のだん

マ2・忠四巻(〜十六了)

ニ1・1 (B) 二一、九\*一五、七一七、三cm (行・字) 六・一六 一七丁

マ1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ナ「四段目／判官腹切」假名手本忠臣蔵「常磐津豊後大掾」佐々木市藏述」

ロ「忠臣蔵／四段目」判官腹切の段」上」常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎」



22・忠四上巻(上六了)△梓あり

11・2 (B) 四 (行・字) 六・一八 八丁

22/ 正本版元東京「地本」問屋△紋△「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板△印△

10

ロ「忠臣蔵」四段目「判官腹切の段」下「常磐津豊後大掾直傳」正本所坂川平四郎

22・忠四下巻(上六了)△梓あり

11・2 (B) 四 (行・字) 六・一八 八丁

22/ 正本版元東京「地本」問屋△紋△「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板△印△

1「四段目」判官切腹「假名手本忠臣蔵」常磐津文字太夫直傳△佐々木市蔵述

10

22・忠四上巻(上六了・下巻)下六了(△梓あり)

11・2 (B) 四 (行・字) 六・一八 一二丁

10

1「忠臣蔵五段目」恩愛の式玉「岸澤式治」玉澤屋新七「板」

ロ忠臣蔵五段目

22・忠一(十二)

11・1 (B) 二二・七\*一五、一 二二〇、〇 B (行・字) 六・二五 一二丁

21・板元「長者町筋」玉澤屋新七「元廣小路角

1「忠臣蔵」五段目

ロ恩愛式玉

10

11・2 (B) B (行・字) 〇・〇・〇・丁

10

1「假名手本忠臣蔵」六段目「岸澤式治」玉澤屋新七「板元」

ロ假名手本忠臣蔵六段目

22・忠六巻(十)

11・1 (B) 二二三、一\*一五、七 一七、六 B (行・字) 七・一八 一二丁

21・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

10

ロ假名手本忠臣蔵六段目「下の巻」勘平切腹場

22・忠六十一(二十一)

11・1 (B) 二二二、二\*二五、二 一七、五 B (行・字) 七・二三 一二丁







ロ「忠臣蔵」七段目「軟飽」の段中「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

2・忠七中巻（七了）

11・2 (B) 二一、三\*一四、二一八、二cm (行・字) 七・二五 九丁

2a/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」>紋<さか川平四郎板<印>

ロ「忠臣蔵」七段目「軟飽」の段下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

2・忠七下巻（七了）

11・2 (B) 二一、三\*一四、一一八、四cm (行・字) 七・二六 九丁

2a/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」>紋<さか川平四郎板<印>

ハ「忠臣蔵七段目」軟飽の段

2・忠七上巻（八了・下巻八了）

11・2 (B) 二〇、三\*一四、三一九、五cm (行・字) 八・三四 一六丁

ハ「忠臣蔵七段目」大盡の拵刀「岸澤式治」玉澤屋新七「板元」

ロ大盡の拵刀上

2・忠七上巻（十三了）

11・1 (B) 二一、七\*一五、〇一八、五cm (行・字) 七・二一 一四丁

1・板元 名古屋廣小路「長者町筋」玉沢屋新七

ハ「忠臣蔵七段目」大盡の拵刀「岸澤式治」玉澤屋新七「板元」

ロ忠臣蔵七段目下の巻

2・忠七下巻（十一了）

11・1 (B) 二二、三\*一五、四一八、四cm (行・字) 七・二〇 一二丁

1・板元「長者町筋」玉澤屋新七「元廣小路角

ハ忠臣蔵七段目上

ロ假名手本忠臣蔵「七段目上之巻」揚屋場」

12・2 (B) 二三、五\*一六、五cm (行・字) 七・一九 一三丁

ハ揚屋の段

ロ「常磐津文字太夫正傳」智有信久良「七駄武馬」



ノ〇

二二・二 (四) 二三、五\*一六、五 (行・字) 六・一九 一六丁

ノ 忠臣蔵八段目

口 忠臣蔵八だん目上の巻「岸澤式壽齋調」

ノ二・忠八上巻(十二了)

二一・一 (四) 二二、〇\*一五、四 一八、〇 (行・字) 六・一九 一三丁

ノ二・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ノ 忠臣蔵八段目下

口 假名手本忠臣蔵八段目下の巻

ノ二・忠八下巻(十三了)

二一・一 (四) 二二、〇\*一五、三 一八、三 (行・字) 六・一六 一四丁

ノ 名古屋市／下長者町／四丁目／玉沢屋／新七／板元／明治廿七年六月廿二日印刷／同年同月同日出版／印刷兼發行者「愛知縣下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

ノ 「忠臣蔵／八段目」戸無瀬小浪道行

口 常磐津「忠臣蔵／八段目」戸無瀬小浪道行

ノ〇

二二・二 (四) 二三、〇\*一六、〇 一七、二 (行・字) 五・一二 一〇丁

ノ 駕屋

口 「常磐津」駕屋

ノ〇

二二・二 (四) 二二、八\*一五、九 (行・字) 五・一三 五丁  
筆者 澤田春

ノ 其佛旅路の嫁入「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

二〇

ノ二・よめ入上巻(上六了・下巻下六了)

二一・二 (四) 二 (行・字) 七・一七 一二丁

ノ 文政五年五月狂言「中村座

ノ 其佛旅路の嫁入「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

二〇

ノ二・よめ入上巻(上六了・下巻下六了)へ梓あり



11・2 (甲) 田 (行・字) 七・一七 一二丁

文政五年五月狂言

→ 其儘旅路の嫁入「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

H0

2・よめ入上巻(〜上六了・下巻〜上六了)

11・2 (甲) 田 (行・字) 七・一五 一三丁

文政五年五月狂言中村座」常磐津正本版元「印刷者兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

→ 其儘旅路の嫁入「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

H0

2・よめ入上巻(〜上六了)

11・2 (甲) 田 (行・字) 七・一七 六丁

70

→ 其儘旅路の嫁入

口「忠臣蔵」道行」其儘旅路の嫁入「上」常磐津稽古本「芳野屋勝五郎板」  
「忠臣蔵」道行」其儘旅路の嫁入「上」  
ひらがな「けいこ本」となせ「小浪」奴関助

2・よめ入下巻(〜五)

11・2 (甲) 田 (行・字) 七・一九 七丁

南傳馬町老丁目」板元芳野屋勝五郎

10

口「忠臣蔵」道行」其儘旅路の嫁入「下」常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板

2・よめ入下巻(〜五)

11・2 (甲) 田 (行・字) 七・一七 六丁

文政五年五月狂言」正本版元江戸「地本」問屋」紋」神田鍛冶町式丁目」伊賀屋勘右衛門」印

10

口「忠臣蔵」道行」其儘旅路の嫁入「下」常磐津稽古本「芳野屋勝五郎板」  
「忠臣蔵」道行」其儘旅路の嫁入「下」

ひらがな「けいこ本」奴可内「女馬士お六

2・よめ入下巻(〜五)

11・2 (甲) 田 (行・字) 七・一九 八丁

南傳馬町老丁目」板元芳野屋勝五郎

東結城旅路花嫁

口假名手本忠臣蔵「八段目道行」東結城旅路花嫁」増補亀玉」中村座」上  
下



2・はなよめ巻・はなよめ下二丁

11・1 (四) 四 (行・字) 一〇・四六 四丁

\* [正本板元/せともの町/南がわ]/村山源兵衛

1 [道行] 縁花旅路の嫁入 [常磐津小文字太夫直傳/作者櫻田左文述]

10

2・よめ入上巻(上六了・下巻)上六了(上梓あり)

11・2 (四) 四 (行・字) 七・一九 一三丁

90

1 [忠臣蔵九段目] 山科雪丸九段 [岸澤式治/玉澤屋新七/板元]

1 忠臣蔵九段目 山科のだん

2・忠九巻(十八)

11・1 (四) 二二・〇\*一五、八一七、八四 (行・字) 七・二三 一九丁

\* 1・版元/長者町/玉澤屋新七/廣小路

1 [假名手本] 忠臣蔵九段目 [常磐津文字太夫直傳]

10

90

11・2 (五) 110、三\*一四、三一八、六四 (行・字) 七・二七 一六丁

90

1 [假名手本] 忠臣蔵九段目 [常磐津文字太夫直傳]

1 忠臣蔵九段目 [雪丸の段] 上 [常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎]

2・忠臣九(上巻)上六了・中巻)中六了・下巻)下六了(上梓あり)

11・2 (五) 四 (行・字) 七・二五 二〇丁

\* a/ 正本板元東京 [地本/問屋] 上野廣小路元黒門町老番地 [さか川平四郎板印]

1 [假名手本] 忠臣蔵九段目 [常磐津文字太夫直傳]

10

2・忠臣九上巻(上六了)上梓あり

11・2 (五) 四 (行・字) 七・二五 七丁

\* a/ 正本板元江戸 [地本/問屋] 上野 [神田鍛冶町式丁目] いがや勘右衛門印

1 [假名手本] 忠臣蔵九段目 [常磐津文字太夫直傳]

10

2・忠臣九上巻(上六了・中巻)中六了・下巻)下六了(上梓あり)

11・2 (五) 四 (行・字) 七・二二 一八丁



70

70

70

2・忠臣九中巻(六了)〈梓あり〉

11・2 (B) B (行・字) 七・二五 七丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

70

70

2・忠臣九下巻(六了)〈梓あり〉

11・2 (B) B (行・字) 七・二五 七丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

70

口「假名手本忠臣蔵十段目」天川屋の段下の巻

2・忠十(十三)〜(廿一)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、二一九、五〇 (行・字) 七・二二 一〇丁

a1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

70

口「忠臣蔵」十段目「天河屋の段中」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2・忠十中一(六了)

11・2 (B) 二一、三\*一四、二一八、四〇 (行・字) 七・二九 八丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」紋「さか川平四郎板」印

70

口「忠臣蔵」十段目「天河屋の段下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2・忠十下巻(六了)

11・2 (B) 二一、四\*一四、四一八、五〇 (行・字) 七・二八 八丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」紋「さか川平四郎板」印

ト「忠臣蔵」十段目「天河屋の段

70

2・忠十上巻(六了)〈梓あり〉

11・2 (B) B (行・字) 七・二五 七丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印



10

D0

2・忠十中一(六了)〈梓あり〉

11・2 (B) B (行・字)七・二五 七丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

10

D0

2・忠十下巻(六了)〈梓あり〉

11・2 (B) B (行・字)七・二五 七丁

a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町式丁目「いがや勘右衛門」印

ノ 忠臣蔵十段目「天河屋の段」

D0

2・忠十上巻(六了)・中一(六了)・下巻(六了)〈梓あり〉

11・2 (B) B (行・字)七・二五 一八丁

a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」下谷區谷中清水町老番地「さか川平四郎」印

ノ 忠臣二度目清書

ロ 忠臣蔵二度目清書寺岡切腹「上の巻」岸澤式壽齋調

2・二度清書(八了)

11・1 (B) 11・2、六\*一六、〇 一八、五 (行・字)六・一六 九丁

a/ 玉沢屋新七板元

ノ 忠臣二度目清書下

ロ 「二段目」假名手本忠臣蔵「正本所玉澤屋」

2・二度清書下巻(十一了)

11・2 (B) 11・1、六\*一五、七 一八、二 (行・字)六・一五 一三丁

a/ 常磐津豊後節「正本」常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」紋「若林芳造」印

ノ 忠臣二度目清書下

ロ 「忠臣蔵」二度目清書「寺岡切腹」段下の巻「岸澤式壽齋調」

2・二度清書下巻(十一了)

11・1 (B) 11・2、二\*一四、九 一八、〇 (行・字)六・一五 一二丁

a/ 長者町廣小路角「玉澤屋新七板元」

ノ 「雪黄の段」中将姫古跡の松

ロ 「中将姫古跡松」雪黄の段



ナ2・1 (B) 二一、五\*一五、三一七、八〇 (行・字) 六・一五 一〇丁

ナ1「上の巻」千代をへ判読不可へ鶴尾の今様「蝶衝菴壽五郎會」常磐津豊後大掾直傳作者瀨川如臈述「色市墨劇の福播」

ロ會我恵後路「狂言作者瀨川如臈作者梅森春輔」第二ばんめ大切相勤申候「浄瑠璃」上の巻「蝶衝喜菴五郎會」中村座「上・下の巻」色彩一座劇の福撰下

ナ2・聴きとり(一〜三丁)

ニ1・1 (B) B (行・字) 一一・二七 四丁

ナ上巻へ嘉永四年亥正月吉日中村座へ板元へ神田鍛冶町いがや勘右門 へ下巻へ板元へ神田かぢ町いがや勘右門

ナ「判読不可」に風折るほしへ判読不可にさぶろふ秋の野の薄衣「蝶衝松太夫」常磐津文字太夫直傳作者儀儀蔵述

ロ〇

ナ2・へ判読不可

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二三 六丁

ナ〇

ナ「新曲」千代田の錦

ロ「新曲」千代田の錦「文學博士伊原青々園作歌へ六世常磐津兼太夫作曲」

ナ2・千代田の錦(一〜二)へ梓あり

ニ1・1 (B) B (行・字) 五・一二 五丁

ナ昭和十一年六月廿七日丸の内有楽座におゐて六世常磐津兼太夫襲名披露會に演奏へ千種萬歳へ大々叶へ常磐津正本板元坂川書舗

ナ「廣尾へ八けい」千代の友鶴

ロ「廣尾へ八けい」千代の友鶴「岸澤式壽齋 岸澤古壽満節弘」振付西川鯉三郎

ナ2・友つる老(一〜四丁)

ニ1・1 (B) 二二、五\*一五、九 一七、八〇 (行・字) 五・一二 四丁

ナ名古屋長者町廣小路角へ玉沢屋新七板元

ナ「岸の松」千代の友鶴「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付作者霞山述

ロ〇

ナ2・千代の友鶴(一〜五丁)へ梓あり

ニ1・2 (B) 二二、一\*一五、一 一六、二〇 (行・字) 六・一一 五丁

ナ常磐津正本板元「印刷者兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印



ハ「岸の松」千代の友鶴「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付／作者霞山述  
ロ千代の友鶴「常磐津直傳」版元坂川平四郎

ハ2・千代一（～三丁）

ニ1・2 (B) 二三、一\*一五、三 一八、〇cm (行・字) 六・一一 五丁

※a/ 「登録済」正本版元「東京都台東区谷中清水町老番地」坂川平四郎印

ハ「常磐の松」千代の友鶴「霞山述」

ロ常磐の松／千代の友鶴「霞山述」

ハ〇

ニ1・1 (B) B (行・字) 八・二二 二丁

※嘉永三庚戌夏新調／「神田鍛冶町」二丁目板元「いがや勘右衛門」

ハ千代の友鶴

ロ「常磐津」千代の友鶴

ハ〇

ニ2・2 (B) 二三、〇\*一五、四 一九、〇cm (行・字) 六・一三 六丁

※〇

ハ千代の友鶴

ロ〇

ハ〇

ニ2・2 (B) B (行・字) 四・一〇 五丁

※文字登和記

ハ千代花節操壽詞「常磐津小文字太夫直傳」狂言堂如臈述

ロ「享保年間遺事」／千代花節操壽詞

ハ〇

ニ1・1 (B) 三〇、一\*二〇、〇 二二、五cm (行・字) 八・二六 二丁

※文政庚寅五月吉日 正本版元「大傳馬二丁目」いがや勘右之門

ハ千代花節操壽詞「常磐津文字太夫直傳」狂言堂如臈作

ロ〇

ハ2・千代の花一（～五了）へ梓あり

ニ1・2 (B) B (行・字) 六・一二 六丁

※慶應四「戊辰」歳正月 / a/ 正本版元東京「地本」問屋へ紋／「人形町通松嶋町」／さか川平四郎板印

ハ千代花節操壽詞「常磐津文字太夫直傳」狂言堂如臈作



ロ 常磐津正本全集「四之巻」

ㄣ2・千代の花一(五了)△枠あり

ㄣ1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 六・一三 七丁

※ 慶応四戊辰歳正月 / 正本版元東京「地本」問屋△紋△「下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎板△印△

ㄣ0

ㄣ2・弓はり下二(十一終)

ㄣ1・2 (㊦) 二〇、九\*一四、六一七、一㊦ (行・字) 七・一六 一一丁

ㄣ0

△ 通天の紅葉

ロ 「常磐津」通天の紅葉

ㄣ0

ㄣ2・2 (㊦) 二一、六\*一五、〇一九、〇㊦ (行・字) 五・一〇 三丁

ㄣ0

△ 月見酒同飯橋段「常磐津文字太夫直傳」

ㄣ0

ㄣ2・かりばし一(十三)

ㄣ1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・二〇 一四丁

※ 文字太夫直本清書所△丈阿

△ 「一弦の琴を」風曲に△調じ合せて「月光氏 漱磨初雁」常磐津豊後大掾直傳△狂言堂櫻田左交述

ロ 源氏模様振袖雛形「作者櫻田治助」△「浄瑠璃」△「明石の琴を」風曲に△調じ合せて「月光氏 漱磨初雁」市村座

ㄣ2・げんじ巻(式)

ㄣ1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 九・二四 三丁

※ 嘉永四辛亥年菊月吉日△市村座 大々叶△ 板元△神田かぢ丁△いがや勘右△門

△ 壽月見農盛

ロ 壽月見の盃「左交述」

△ 月見巻(四了)

ㄣ1・1 (㊦) ㊦ (行・字) 六・一七 六丁

※ b/ 正版元「高砂町南新道」いがや勘右衛門△印△

△ 筒幹色水上「常磐津文字太夫直傳」

ロ 筒幹色水上△土農工商

ㄣ2・筒幹巻(八)



11・1 (B) 二二、三\*一五、三一八、〇 (行・字) 七・一八 九丁  
\*1・板元(名古屋長者町筋)玉澤屋新七(廣小路角)

→筒幹色水上[作者増山金八述]

H0

2・判読不可

11・2 (B) B (行・字) 七・一五 二二丁

H0

→筒幹色水上[作者増山金八述]

□筒幹色水上[上][常磐津文字太夫直傳(伊賀屋勘右衛門版)]

2・水上上二(六)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・一九 七丁

\*2/ 正本版元江戸[地本/問屋]へ紋(神田鍛冶町式丁目)いがや勘右衛門(印)

H0

□筒幹色水上[中][常磐津文字太夫直傳(伊賀屋勘右衛門版)]

2・いづ、中巻(七了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・一九 八丁

\*2/ 正本版元江戸[地本/問屋]へ紋(神田鍛冶町式丁目)いがや勘右衛門(印)

→筒幹色水上[作者増山金八述]

H0

2・水上二(上六)・いづ、中巻(中七了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二〇 一三丁

\*松川書

→筒幹色水上[作者増山金八述]

□[大工]筒幹色水上[上][常磐津文字太夫直傳(正本所坂川平四郎)]

2・判読不可

11・2 (B) B (行・字) 七・一七 七丁

H0

H0

□[大工]筒幹色水上[中][常磐津文字太夫直傳(正本所坂川平四郎)]

2・判読不可へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・一七 八丁

H0



ハ 積思花雪解「常磐津小文字太夫直傳」作者櫻田次助述

ロ 伊勢平氏惠顔鏡「第二ばんめ大切」市村座「いふて三升」初に大和く「積思花雪解」狂言作者櫻田治助「上

ノ 2・ゆきどけき(〜二)

ハ 1・1 (B) C (行・字) 一一・三三 三丁

イ いがや勘右衛門大傳馬町二丁目

ハ 「いふて三升」初に大和く「積思花雪解」常磐津小文字太夫直傳「作者櫻田次助述」

ロ

ノ 2・判読不可(枠あり)

ハ 1・2 (B) C (行・字) 七・一九 九丁

イ

ハ 「能のはじまりし比」狂言を可笑といひしよし「新曲」釣女「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付

ロ 新曲釣女

ハ 釣女老(〜十一了)

ハ 1・1 (B) 二二・〇\*一五、五 一七、六 C (行・字) 六・一四 一二丁

イ 長者町玉沢屋「新七」板元「廣小路角」明治廿八年三月五日印刷「同年同月同日出版」印刷兼發行者「愛知縣

名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七

ハ 「能のはじまりし比」狂言を可笑といひしよし「新曲」釣女「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付

ロ 「新曲」釣女「正本所玉澤屋」

ハ 釣女老(〜十一了)

ハ 1・2 (B) 二二・八\*一五、四 一七、七 C (行・字) 六・一四 一三丁

イ 「明治廿八年三月五日印刷」同年同月同日出版「印刷兼發行者」愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新

七

ハ 「能のはじまりし比」狂言を可笑といひしよし「新曲」釣女「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付

ロ 「新曲」釣女「正本所玉澤屋」

ハ 釣女老(〜十一了)

ハ 1・2 (B) 二二・八\*一五、四 一七、七 C (行・字) 六・一四 一三丁

イ 「明治廿八年三月五日印刷」同年同月同日出版「印刷兼發行者」愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新

七 常磐津豊後節「正本」常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」若林芳造

ハ 「能のはじまりし比」狂言を可笑といひしよし「新曲」釣女「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付

ロ 「新曲」釣女「正本所玉澤屋」

ハ 釣女老(〜十一了)

ハ 1・2 (B) 二二・八\*一五、四 一七、七 C (行・字) 六・一四 一三丁



\*「明治廿八年三月五日印刷、同年同月同日出版」印刷兼發行者、佐々新七、常磐津豊後節正本、常磐津版元、玉澤屋

ハ「能のはじまりし比、狂言を可笑と、いひよし」新曲「釣女」常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付、振付花柳壽輔、作者河竹其水綴

ハ2・釣女巻(十一了)

ハ1・2 (B) 二二、五\*一五、四 一七、六 (行・字) 六・一四 一一丁

\*明治十六年十二月、印(坂川版)

ハ釣女「常磐津文字太夫直傳」

ロ釣女

ヅつり女一(九)

ハ1・2 (B) 二二、五\*一五、九 一七、五 (行・字) 六・一七 一一丁

\*昭和三十三年十一月一日印刷、昭和三十三年十一月五日發行(定本常磐津刊行會本)

ハ釣女「寄良娼釣鮎」

ロ「常磐津」釣女

ハ0

ハ2・2 (B) 二二、〇\*一六、一 一七、〇 (行・字) 五・一一 一九丁

\*筆者 澤田春

ハ「能のはじまりし頃、狂言を可笑とゆひしに」新曲釣女「常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付、振付花柳壽輔、作者河竹其水綴」

ロ「新曲」釣女

ハ2・釣女巻(十一了) (枠あり)

ハ1・1 (B) 三 (行・字) 六・一四 一四丁

\*明治十六年十一月、明治十六年十二月十二日御届、「東京浅草區馬道町二丁目十二番地」編輯人「河竹新七」東京下谷區谷中清水町老番地、「出版人」坂川平四郎

ハ寄良娼釣鮎(てくだのわなきやつをつりひげ)「岸澤式壽、玉沢屋新七」

ロ「春の今やうつりきつね」寄良娼釣鮎

ハ2・釣狐巻(六)

ハ1・1 (B) 二二、二\*一五、五 一八 (行・字) 七・二〇 七丁

\*板元、長者町、玉沢屋新七、廣小路

ハ寄良娼釣鮎(てくだのわなきやつをつりひげ)「岸澤式壽、玉沢屋新七」

ロ寄良娼釣鮎「正本所 玉澤屋」

ハ2・釣狐巻(六)



11・2 (B) 111' 0\*15、1 一八<sup>m</sup> (行・字) 七・二〇 八丁

\* 常磐津豊後節 正本 常磐津版元「大阪市西區北堀江御通」二丁目十番地」へ紋 若林芳造へ印

1 「蝶と衝の」名にしおふ、虎少将が今やう姿「寄民娼釣髭」常磐津文字 太夫直傳 作者 櫻田次助述  
H〇

12・手くだのわな老(一六了)

11・2 (B) 110' 七\*14、五 一八<sup>m</sup> (行・字) 七・二二 七丁

\* a/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町」へ紋 いがや勘右衛門へ印

1 「蝶と衝の」名にしおふ、虎少将が今やう姿「いまやうはじめ」寄民娼釣髭「常磐津文字 太夫直傳」作者 櫻田次助述  
H〇

12・手くだのわな老(一六)

11・2 (B) B (行・字) 七・一八 八丁

\* a/ 正本版元江戸「地本」問屋「埋め木で消してある」いがや勘右衛門へ印

1 「蝶と衝の」名にしおふ、虎少将が今やう姿「いまやうはじめ」寄民娼釣髭「常磐津文字 太夫直傳」作者 櫻田次助述  
H〇

12・手くだのわな老(一六)

11・2 (B) B (行・字) 七・一八 八丁

\* a/ 正本版元東京「地本」問屋「人形町通松嶋町」さか川平四郎板へ印

1 「蝶と衝の」名にしおふ、虎少将が今やう姿「いまやうはじめ」寄民娼釣髭「常磐津文字 太夫直傳」作者 櫻田次助述  
H〇

12・手くだのわな老(一六)

11・2 (B) B (行・字) 七・一八 七丁

\* a/ 常磐津正本版元「印刷者兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

1 寄民娼釣髭「櫻田次助述」

12 皇月富士會我初夢「第三番目大切」「蝶と衝の」名にしおふ、虎少将が今やう姿「寄民娼釣髭」狂言作者 櫻田治助」市村座

12・老(一六)

11・1 (B) B (行・字) 11・三四 二丁

\* 板元「大傳馬町式丁目」いがや勘右衛門

1 「帝國」萬歳「旭影

12 「帝國」萬歳「旭影ちゃん」坊主末路の唄「振付 西川鏗三郎」作者 不二廼家高根

12・ちゃん」老(一四了)

11・1 (B) 111' 1\*15、四 一八、四<sup>m</sup> (行・字) 六・一九 四丁



※七、市下長者町四丁目玉沢新七「明治廿七年十二月廿六日印刷、同年同月同日出版」印刷兼発行者「愛知県名古屋  
屋市下長者町四丁目百廿五番地」佐々新七

ハ唐人「玉沢屋新七板元」

ロ唐人「岸澤式寿齋」

ニ・唐人老（三丁）

ニ一・一（四）二二、五\*一五、二一八、〇四（行・字）六・一四 四丁

ニ二・名古屋長者町玉沢屋新七、廣小路角板元

一〇

ロ常磐津

一〇

ニ二・二（四）二二、六\*一五、八一七、〇四（行・字）五・一〇 四丁

※筆者 澤田春

ハ常磐の老松

ロ常磐の老松

ニ・ときは おひまつ巻（四）・ときはのおひ松五了

ニ一・一（四）二二、二\*一五、四一七、三三（行・字）七・一七 六丁

※一・名古屋長者町玉沢屋新七、廣小路角板元

ハ常磐の老松

ロ常磐の老松（表紙絵なし）

ニ・ときは おひまつ巻（四）・ときはのおひ松五了

ニ一・一（四）二二、〇\*一五、三一七、三三（行・字）七・一七 六丁

※一・名古屋長者町玉沢屋新七、廣小路角板元

ハ常磐の老松

ロ常磐の老松「正本所玉澤屋」

ニ・ときは おひまつ巻（四）・ときはのおひ松五了

ニ一・二（四）二二、六\*一四、九一七、三三（行・字）七・一七 七丁

※常磐津豊後節正本常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」へ紋、若林芳造へ印

ハ「歳旦」としくにみどり弥増「常磐の老松」作者松樹翁述

ロ「歳旦」としくにみどり弥増「常磐の老松」

ニ・常磐の老松一（五）

ニ一・二（四）二二、〇\*一五、三一七、七三（行・字）七・一五 七丁

※安政六巳未年正月元旦、昭和二十八年再改版、常磐津正本版元「東京都台東区谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印



ナ「歳旦」としくに「みどり弥増」／常磐の老松「常磐津豊後大掾直傳」作者松樹翁述

ロ「歳旦」としくに「みどり弥増」／常磐の老松

ハ2・常磐老（～五）

ハ1・2 （ロ）二二、六\*一五、四 一八、七ロ （行・字）七・二二 六丁

※安政六巳未年正月元旦／明治卅一戊戌年一月再版／常磐津正本版元「東京下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎印

ナ「新曲」／常磐の松「常磐津文字太夫直傳」／常磐津文字兵衛節付／右田寅彦著述

ロ「新曲」／常磐の松「十五代目常磐津文字太夫」

ハ2・判読不可

ハ1・1 （ロ）ロ （行・字）六・一四 五丁

※大正四年八月五日印刷／大正四年八月九日發行／常磐津正本版元「著述者」／「東京市」判読不可／右田寅彦「印刷兼發行者」／「東京下谷區谷中清水町老番地」／坂川平四郎印

ナ床邊胸水仙「作者堀越二三治」並木良輔

ロ

ハ2・判読不可

ハ1・2 （ロ）ロ （行・字）七・一五 一二丁

オ

ナ殿意戀歌占「作者堀越二三治述」

ロ

ハ2・殿意上巻（～十一了）

ハ1・2 （ロ）二〇、九\*一四、六 一八、三ロ （行・字）七・一八 二三丁

オ

ナ「河津衛名香」／風折蝶名香「留袖浅間嶽」作者並木良輔

ロ留袖浅間嶽「常磐津文字太夫直傳」いがや勘右衛門版

ハ2・あやま一上（～十了）

ハ1・2 （ロ）ロ （行・字）六・一六 一一丁

オD/ するがや文右衛門「板元」いがや勘右衛門印

ナ「降積る雪に」旭の色染てまばゆく懸す／木曾の棧「粟津合戦巴組討」常磐津豊後大掾直傳／作者松樹翁述

ロ

ハ2・ロ「せん上巻」～上六了・下巻～下六了（～梓あり）

ハ1・2 （ロ）ロ （行・字）六・一三 一二丁

オ



2・巴御前下巻上巻(上六了・下巻下六了)へ枠あり

1・2 (四) 三 (行・字) 六・一三 一三丁

慶應元六月吉日 / 正本版元東京「地本問屋」へ紋「上野廣小路元黒門町老番地」へさか川平四郎板へ印

「歳旦」豊若緑「佐々木市蔵調」

「歳旦」豊若緑

2・とよのわかみどり六了

1・1 (四) 三 (行・字) 六・一七 二丁

文久三癸亥年正月吉日、坂川平四郎板

道行丸い字

道成寺

2・丸い字(四)

1・1 (四) 二二、七\*一五、七 一七、五 三 (行・字) 六・一〇 五丁

弘化三年丙午九月、板元名古屋廣小路、玉澤屋新七

道行丸い字「常磐津小文字太夫直傳」

「小野道風青柳硯」第二番目大切「相つとめ申候」道行丸い字

2・丸い字

1・1 (四) 二二、五\*一五、三 一七、五 三 (行・字) 九・一九 二丁

天保三年壬辰正月吉日、正本版元、坂川平四郎

道行丸い字「常磐津文字太夫直傳」

「小野道風青柳硯」第二番目大切「相勤申候」「河原崎座」道行丸い字「白拍子、澤村訥升」

2・丸い字

1・1 (四) 三 (行・字) 一〇・二二 二丁

天保三「壬辰」正月吉日、正本、板元、大傳馬、式丁目いがや勘右門

丸い字

「常磐津」丸い字

10

1・2 (四) 二二、五\*一五、二 一八、〇 三 (行・字) 五・一三 五丁

10

清姫日高川の段

新清姫



- ㍷2・日高川老(〳八了)・日高川下一(〳五了)
- ㍷1・1 (㍷) 二一、九\*一五、〇 一七、〇 ㍷ (行・字) 七・一八 一四丁
- ㍷2・名古屋長者町〳玉沢屋新七〳廣小路角版元

㍷ 道成寺日高川の段

- ㍷ 八百萬蘭生梅枝「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎「題簽の貼り間違い」
- ㍷2・1 (〳九了)

- ㍷1・2 (㍷) 二〇、七\*一四、〇 一七、一 ㍷ (行・字) 七・一八 一一丁

㍷ a/ 正本版元東京「地本〳問屋」〳上野廣小路元黒門町老番地」〳紋〳さか川平四郎〳印〳

㍷ 新清姫

㍷ 「常磐津」新清姫

㍷ 〇

- ㍷2・2 (㍷) 二三、〇\*一六、〇 ㍷ (行・字) 五・一〇 一九丁

㍷ 筆者 澤田春

㍷ 道成寺日高川の段

㍷ 〇

- ㍷2・日高川一(〳九了・下一〳六了)

- ㍷1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・一八 一五丁
- ㍷ 〇

㍷ 道成寺日高川の段

㍷ 道成寺日高川「上」〳常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

㍷2・〳判読不可〳

- ㍷1・2 (㍷) ㍷ (行・字) 七・一九 一〇丁

㍷ 〇

㍷ 道成寺日高川の段

㍷ 道成寺日高川「上」〳常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

- ㍷2・日高川一(〳九了)

- ㍷1・1 (㍷) ㍷ (行・字) 七・一九 一〇丁

㍷ 〳表紙見返し〳 a/ 天保十亥年三月狂言〳河原崎座」元板人〳坂川平四郎」〳日本橋区馬喰町二丁目一番地」〳木村文三郎

㍷ 〇

㍷ 道成寺日高川「下」〳常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

- ㍷2・日高川下一(〳六了)



二1・2 (四) 四 (行・字) 七・一八 八丁

※a/ 正本版元東京「地本」問屋へ紋へ「下谷區谷中清水町老番地」へさか川平四郎板へ印へ

10

□ 道成寺日高川「下」常磐津文字太夫直傳正本版川平四郎

※2・日高川下二(六了)

二1・1 (四) 四 (行・字) 七・一九 七丁

※へ表紙見返しへa/ 元板人へ坂川平四郎翻刻人へ「明治十五年十一月廿七日御届」馬喰町二丁目一番地」木村文三郎

へ道成寺傳授睦言「常磐津兼太夫直傳」作者柳井邸左交述

□ 敵討染分紙「第一ばんめ」五たため」道成寺傳授睦言「作者櫻田治助」中村座」上・下

※2・道成寺上「一」上二・下「巻」下二了)

二1・1 (四) 四 (行・字) 一〇・三二 四丁

※へ上巻正本版元高砂町南新道へいがや勘右門 へ下巻正本版元高砂町南新道へいがや勘右門

へ「道行」婿千種錦繪「常磐津文字太夫直傳」

□ 「東鹿子娘道成寺」へ「道行」婿千種錦繪へ再板へ

※2・にしき多三(四)

二1・1 (四) 四 (行・字) 五・一五 四丁

※ 正本版元へ神田鍋町へいがや勘右門

へ「判読不可」へ娘道成寺」鐘入段

10

※2・へ判読不可へ

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 八丁

※0

へ道行戀別路「常磐津文字太夫直傳」

10

※2・へ判読不可へ

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・一九 六丁

※ 天保九戊戌年八月狂言

へ 神楽謡雲井曲謡

□ 神楽謡雲井曲謡「振付西川鯉三郎」

※2・どんつく老(五了)

二1・1 (四) 二二、一\*一五、三 一八、〇 四 (行・字) 六・一五 六丁

※1・名古屋長者町へ玉沢屋新七へ廣小路角板元



ノ 神楽謡雲井曲巻

ロ 神楽謡雲井曲巻「正本所玉澤屋」

ア2・ム2の曲まり志(〜五丁)

二1・2 (四) 二二、八\*一六、〇 一七、八<sub>四</sub> (行・字) 六・一六 七丁

\* 常磐津豊後節正本ノ「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」ノ常磐津版元ノ紋ノ若林芳造ノ印ノ

ノ 神楽謡雲井曲巻

ロ ム2ノ曲

ア〇

二2・2 (四) 二二、五\*一六、〇 一七、五<sub>四</sub> (行・字) 五・一三 二〇丁

\* 筆者 澤田春

ノ「弓張月のゝいるに／まかせて」神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ櫻田治助述」

ロ 當會我武繪懸額「狂言作者櫻田治助ノ藤本吉蔵」ノ「弓張月のゝいるに／まかせて」神楽謡雲井曲ノ上・下

ア2・曲まり一(〜三丁)

二1・1 (四) 四 (行・字) 一一・三一 四丁

\* 弘化三「午」年二月春狂言ノ 正本板元ノ神田鍋町ノ伊賀屋勘右ノ印

ノ「弓張月のゝいるに／まかせて」神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ櫻田治助述」

ロ〇

ア2・ム2の曲まり志(〜七丁)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 八丁

ア〇

ノ「弓張月のゝいるに／まかせて」神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ櫻田治助述」

ロ 神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎」

ア2・ム2の曲まり志(〜六丁)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 八丁

\* a/ 正本板元東京「地本ノ問屋」ノ紋ノ「上野廣小路元黒門町志番地」ノさか川平四郎板ノ印ノ

ノ「弓張月のゝいるに／まかせて」神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ櫻田治助述」

ロ 神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎」

ア2・ム2の曲まり志(〜七丁)

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 八丁

\* a/ 正本板元東京「地本ノ問屋」ノ紋ノ「下谷區谷中清水町志番地」ノさか川平四郎板ノ印ノ

ノ「弓張月のゝいるに／まかせて」神楽謡雲井曲巻「常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助述」



110

22・くもりの曲まり巻(七了)

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二四 九丁

22/ 常磐津正本版元「印刷者兼発行者」東京市下谷區谷中清水町巻番地「坂川平四郎印」

1「あぢさいや」つたなきさまの繪具皿「七小町姿」常磐津小文字太夫直傳「あふむ清水

口將優曲者「第二ばん目大切」七小町の内「あぢさいや」つたなきさまの繪具皿「七小町姿」市村座

22・七小町巻

11・1 (B) 田 (行・字) 一一・三五 二丁

22 文政十丁亥六月狂言 市村座 正本板元「大傳馬町式目」いがや勘右門

1 七小町姿「常磐津小文字太夫直傳」

110

22・七小町巻(五了)へ枠あり

11・2 (B) 田 (行・字) 七・一八 六丁

22/ 「大傳馬町二丁目」いがや勘右衛門印

1 汐くみ

110 「常水講傳」七枚續花の姿繪「第二ばん目大切」志ほくみ

22・汐くみ(三了)

11・1 (B) 田 (行・字) 六・一九 三丁

110

1 汐くみ

110 大字六行けいこ本汐くみ「七変化の内」松風「坂東三五郎」市村座

22・汐くみ(三了)

11・2 (B) 田 (行・字) 六・一九 三丁

110

1 汐くみ

110 口 整話水講傳「第二ばんめ大切」七枚續花の姿繪「桜田次助述」ふり附「藤間勘十郎」

110

11・1 (B) 田 一\*一五、八 一八、五田 (行・字) 六・一二 五丁

22 「大正七年二月廿一日印刷」同年二月廿四日発行「編輯兼発行者」東京日本橋区住吉町二十番地「長唄本板元」法木徳

兵衛印 板元「日本橋区」法木書店「住よし町」

1 きのふ見た「目にめづらしきさくらかな」七枚續花の姿繪「常磐津文字太夫直傳」櫻田次助述「女三の宮・うかれぼう  
ず・松かぜ



110

2・すがた糸(〜六)

11・2 (四) 二〇、八\*一四、五 一八、〇 (行・字) 六・二〇 七丁

\*2/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」紋いがや勘右衛門印

1 「きのふ見た」目「めづらしき」さくらかな「七枚續花の姿繪」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田次助述」女三の宮・うかれぼろ・松かせ

110

2・すがた糸(〜六了)

11・2 (四) 二一、一\*一四、一 一八、二 (行・字) 六・二〇 七丁

\*2/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」紋いがや勘右衛門印

1 「きのふ見た」目「めづらしき」さくらかな「七枚續花の姿繪」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田治助述」女三の宮・うかれぼろ・松かせ・くわんう

110

2・すがた糸(〜六了) 梓あり

11・2 (四) (行・字) 七・二九 八丁

\*2 東都板元「紋」南傳馬町老「芳野」判読不能「紋」同町「萬」判読不能

1 「きのふ見た」目「めづらしき」さくらかな「七枚續花の姿繪」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田治助述」女三の宮・うかれぼろ・松かせ・くはんう

110

2・すがた糸(〜六了) 梓あり

11・2 (四) (行・字) 七・二九 六丁

110

1 「きのふ見た」目「めづらしき」さくらかな「七枚續花の姿繪」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田治助述」女三の宮・うかれぼろ・松かせ・くはんう

110

2・すがた糸(〜六了) 梓あり

11・2 (四) (行・字) 六・二五 八丁

\*2/ 正本版元江戸「地本」問屋「二丁目中橋通」いがや勘右衛門印

1 「きのふ見た」目「めづらしき」さくらかな「七枚續花の姿繪」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田治助述」女三の宮・うかれぼろ・松かせ

110

2・すがた糸(〜六了)

11・2 (四) (行・字) 六・二五 八丁



※a/ 正本版元東京[a-y/問屋]へ紋く「上野廣小路元黒門町老番地」へさか川平四郎板へ印く

イ 汐くみ「岸沢式治」玉沢屋新七「板」

ロ 話水許傳「七枚續花の姿繪」市村座「七変化の打」松風

※2・汐くみ巻「三了」

※1・1 (四) 四 (行・字) 六・一八 四丁

※1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

イ 汐くみ

ロ 汐波

※1・1 (四)

※1・2 (四) 四 (行・字) 五・一六 四丁

※0

イ 難波濃女舞「常磐津文字太夫直傳」

ロ 0

※2・あし「四終」

※1・2 (四) 四 (行・字) 七・一六 四丁

※0

イ 鳴髪鐘入桜「常磐津文字太夫直傳」作者並木良輔

ロ 0

※2・なるかみ上「上十三了・下」下十四畢「梓あり」

※1・2 (四) 四 (行・字) 七・二〇 二七丁

※0

イ 錦着戀山守「常磐津兼太夫直傳」作者福森久助述

ロ 0

※2・戀山守上巻「七了」

※1・2 (四) 二〇、三\*一四、三一八、一四 (行・字) 七・二一 七丁

※0

イ 錦敷色義仲「作者中村重助述」

ロ 0

※2・色儀仲上「十了」・色義仲下巻「十了」

※1・2 (四) 二〇、九\*一四、六一八、六四 (行・字) 七・一六 二〇丁

※0



ハ 錦鳥縁橋供養「常磐津兼太夫直傳」櫻田左文述

ロ 錦鳥縁橋供養「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右衛門板

ニ<sub>2</sub>・ニ<sub>2</sub>しき鳥巻(九了)へ枠あり

ニ<sub>1</sub>・2 (四) 二二、ニ\*一四、五 一七、九cm (行・字) 七・二〇 一一丁

キa/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」へ紋い「がや勘右衛門」へ印

ハ「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「常磐津小文字太夫直傳」瀬川如臯述「七変化の内」こみ太夫へ 瓢箪鉢

ロ

ニ<sub>2</sub>・ニ<sub>2</sub>じりがき巻(五了)へ枠あり

ニ<sub>1</sub>・2 (四) 五 (行・字) 七・二〇 六丁

キa/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」い「がや勘右衛門原板」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」へ印

ハ「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「七変化の内」こみ太夫「名古屋長者町八丁目」玉沢屋新七板「瓢箪鉢(三丁目より)」

ロこみ太夫「なまづひょうたん」

ニ<sub>2</sub>・ニ<sub>2</sub>こみ太夫一(五)

ニ<sub>1</sub>・1 (四) 二二、ニ\*一五、三 一七、九cm (行・字) 六・一六 七丁

キ板元「名古屋長者町筋」玉澤屋新七「廣小路角」

ハ「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「七変化の内」こみ太夫「常磐津小文字太夫直傳」作者瀬川如臯述「瓢箪鉢(三丁目より)」

ロ 如臯述「瓢箪鉢(三丁目より)」

ロ

ニ<sub>2</sub>・ニ<sub>2</sub>じりがき巻(五了)へ枠あり

ニ<sub>1</sub>・2 (四) 二二、一\*一四、〇 一八、〇cm (行・字) 七・一六 五丁

キ

ハ「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」作者瀬川如臯述「七変化の内」こみ太夫・瓢箪鉢

ロ 拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板

ニ<sub>2</sub>・ニ<sub>2</sub>じりがき巻(五了)へ枠あり

ニ<sub>1</sub>・2 (四) 五 (行・字) 七・二〇 七丁

キa/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」い「神田鍛冶町式丁目」い「がや勘右衛門」へ印

ハ「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」作者瀬川如臯述「七変化の内」こみ太夫・瓢箪鉢

ロ

ニ<sub>2</sub>・ニ<sub>2</sub>じりがき巻(五了)へ枠あり



11・2 (B) ㊦ (行・字)七・二〇 六丁

\* a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」埋め木で消してある「いがや勘右衛門」印

1 「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」作者瀬川如臯述「七変化の内」

み太夫・瓢箪鮫

ロ 拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

12・にじりがきぎ(五了)へ枠あり

11・2 (B) ㊦ (行・字)七・二〇 七丁

\* a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印

1 「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」作者瀬川如臯述「七変化の内」

み太夫・瓢箪鮫

ロ 拙筆力七以呂波「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

12・にじりがきぎ(五了)へ枠あり

11・2 (B) ㊦ (行・字)七・二〇 七丁

\* a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町壱番地「さか川平四郎板」印

1 「登庸の御最眞御恵に縫りて」拙筆力七以呂波「常磐津小文字太夫」瀬川如臯述「み太夫」瓢箪鮫

ロ 水滸伝會我風流後日狂言「第二番目大切七変化の内」み太夫「瓢箪鮫」登庸の御最眞御恵に縫りて」拙筆以上呂

波「狂言作者」瀬川如臯述

10

11・1 (B) ㊦ (行・字)一〇・三五 二丁

\* 文政十一子年三月狂言 中村座 / 正本版元大傳馬町式丁目「いがや勘右衛門

1 拙筆力七以呂波「み太夫

10

10

12・2 (B) ㊦ (行・字)七・一七 三丁

10

1 「登庸の御めぐみ御ひろきにすがりて」拙筆力七以呂波「常磐津小文字太夫直傳」作者瀬川如臯述「七変化の内」

み太夫

ロ 拙筆力七以呂波「み太夫」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

12・にじりがきぎ(五了)へ枠あり

11・1 (B) ㊦ (行・字)七・二〇 六丁

\* へ表紙見返し「a/

瓢箪鮫



2・たじりがき四(五)

1・2 (B) C (行・字) 八・二三 二丁

\*文政十一年子三月

→「時も幸ひ／四つ紅葉の／追善を縁の／人の進めに任せ」狂華法手向「岸沢式治／玉沢屋新七／板」

□日連記「七面山のだん」

2・日れん記上巻(十四了)

1・1 (B) 二一、九\*一五、三 一八、三 C (行・字) 七・二四 一五丁

\*1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

→「時も幸ひ／四つ紅葉の／追善を縁の／人の進めに任せ」狂華法手向「常磐津文字太夫直傳／添削三升屋四郎」

□狂華法手向上「常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

2・日れん記上巻(七了)

1・2 (B) 二一、三\*一四、一 一八、四 C (行・字) 七・二四 九丁

\*文久式戌四月再板／正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地「紋／さか川平四郎／印」

□狂華法手向「下」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川屋平四郎

2・判読不可

1・2 (B) C (行・字) 七・三一 八丁

\*0

→俄仙人

□俄仙人

10

2・2 (B) B (行・字) 四・一〇 一五丁

\*文字登和記

→濡扇戀 夜

10

10

2・2 (B) C (行・字) 七・一八 三丁

\*0

→乗合船惠方萬歳「岸澤古式部述／玉澤屋新七板」

□乗合船惠方萬歳

2・のり合 老(二十了)



11・1 (B) 二二、〇・一五、五 一八、二cm (行・字) 五・九 二二丁

\*1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

→「乗合船之内」恵方萬歳

ロ「乗合船之内」恵方萬歳

22・のり合万才(のり合 十二〜二十了)

11・1 (B) 二二、一・一五、六 五・一〇cm (行・字) 一一一・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

(「乗合船」の内後半柱立ての部分のみ)丁

\*0

→乗合船恵方萬歳「岸澤古式部述」玉澤屋新七板

ロ乗合船恵方萬歳「正本所玉澤屋」

22・のり合 巻(〜二十了)

11・2 (B) 二二、五・一五、八 一八、〇cm (行・字) 五・九 二二丁

\*常磐津版元 玉澤屋

→乗合船恵方萬歳「常磐津豊後大掾直傳」

ロ乗合船恵方萬歳「上下」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

22・のり合 上巻(〜六了・下巻(〜六了)へ枠あり

11・2 (B) 二二、一・一五、〇 一八、〇cm (行・字) 六・一三 一三丁

\*2/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

→乗合船恵方萬歳「常磐津豊後大掾直傳」

ロ乗合船恵方萬歳「上」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

22・のり合 上巻(〜六了)へ枠あり

11・2 (B) 二二、八・一五、五 一七、七cm (行・字) 六・一三 八丁

\*2/ 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

→乗合船恵方萬歳「常磐津豊後大掾直傳」

ロ乗合船恵方萬歳「抜粹」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎版

22・のり合 上巻(〜六了・下巻(〜六了)

11・2 (B) 二二、一・一五、五 一八、〇cm (行・字) 六・一三 一四丁

\*昭和二丁卯年八月吉日再々版へ坂川藏版へ、常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」へ紋、坂川平四郎板へ印

→乗合船恵方萬歳「常磐津豊後大掾直傳」

ロ乗合船恵方萬歳「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎版

22・のり合 上巻(〜六了・下巻(〜六了)



二1・2 (B) 二二、二\*一五、二一八、〇cm (行・字) 六・一三 一四丁

\* 昭和二丁卯年八月吉日再々版へ坂川蔵版へ、常磐津正本版元〔印刷兼發行者〕〔東京都台東區谷中清水町老番地〕へ坂川平四郎板へ印へ

へ 乗合船惠方萬歳〔常磐津文字太夫直傳〕

二〇

二2・のり合ふね上巻(六了)へ枠あり▽

二1・2 (B) B (行・字) 六・一八 七丁

\* a/ 正本版元東京〔地本問屋〕〔上野廣小路元黒門町老番地〕へ紋さか川平四郎板へ印へ

へ 乗合船惠方萬歳〔常磐津豊後大掾直傳〕

二 乗合船惠方萬歳〔上〕〔常磐津豊後大掾直傳〕正本所坂川平四郎

二2・のり合ふね上巻(六了)へ枠あり▽

二1・2 (B) B (行・字) 六・一八 七丁

\* 〇

一〇

二 乗合船惠方萬歳〔下〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

二2・のり合ふね下(六了)へ枠あり▽

二1・2 (B) B (行・字) 六・一八 八丁

\* a/ 正本版元東京〔地本問屋〕〔下谷區谷中清水町町老番地〕へ紋さか川平四郎板へ印へ

一〇

二〇

二2・のり合ふね下(六了)へ枠あり▽

二1・2 (B) B (行・字) 六・一八 七丁

\* 元板人坂川平四郎明治十五年十一月廿七日御届馬喰町二丁目一番地へ木村文三郎へ

丁目四拾貳番地尾 富五郎東京書 売 人〔東京馬喰町二丁目老番地〕へ木村文三郎

〔横浜野毛町二

へ 三幅對和歌發繪〔常磐津文字太夫直傳〕作者櫻田治助述

二〇

二2・はいかいし巻(六了)へ枠あり▽

二1・2 (B) 二〇、九\*一三、九一七、〇cm (行・字) 六・一五 七丁

\* a/ 正本版元江戸〔地本問屋〕いがや勘右衛門原板へ印へ紋さか川平四郎板へ印へ

へ 〔三拍子〕正銘雪鉢木〔作者藤越二三治〕

二 〔三拍子〕正銘雪鉢木〔常磐津文字太夫直傳〕伊賀屋勘右衛門版

二2・正め(一)へ十六了(十三)まで枠あり▽



二1・2 (B) 二一、七\*一五、五 一八、三<sub>三</sub> (行・字) 七・二六 一八丁

\* b/ 常磐津文字太夫直傳／江戸板元／正本売所「元濱町」するがや文右衛門いがや勘右衛門へ印

イ「三拍子」正銘雪鉢木「作者堀越二三治」

B0

ア2・判読不可

二1・2 (B) B (行・字) 七・一七 一六丁

ホ0

イ「去年見し雪」あらねども「再夕暮雨乃鉢本」作者櫻田治助述

B0

ア2・はぢの木老(七了)

二1・2 (B) B (行・字) 九・二九 八丁

\* a/ 正本版元江戸「地本／問屋」へ紋／「神田鍋町」いがや勘右衛門へ印

イ「著讀本」曲亭馬琴／浄瑠璃／立川焉馬「八犬義士誉勇猛」大序 富山の段「常磐津豊後大掾直傳」

B0

ア2・八犬義士老(十一)

二1・2 (B) 二〇、九\*一四、三 一七、九<sub>四</sub> (行・字) 八・二三 一三丁

\* a/ 正本江戸「地本／問屋」／「ミナキ」へ紋いがや勘右衛門へ印

イ「著讀本」曲亭馬琴／浄瑠璃／立川焉馬「八犬義士誉勇猛」大序 富山の段「常磐津豊後大掾直傳」

ロ 八犬傳誉勇猛「常磐津豊後大掾」(手書)

ア2・八犬義士上老(十一・下老)八了(八梓あり)

二1・2 (B) 二〇、八\*一四、一 一八、一<sub>三</sub> (行・字) 八・二〇 二五丁

\* a/ 正本版元江戸「地本／問屋」／「人形町通松嶋町」へ紋さか川平四郎板へ印

イ「常磐津豊後大掾直傳」香蝶樓豊國画「著述」曲亭馬琴／浄瑠璃／立川焉馬「八犬義士勇氣猛」

ロ 八犬義士誉勇猛

ア2・八犬義士老(十九了)八梓あり

二1・2 (B) B (行・字) 八・二四 二六丁

\* a/ 正本版元江戸「地本／問屋」／「神田鍛冶町式丁目」へ紋いがや勘右衛門へ印

イ「著述」曲亭馬琴／浄瑠璃／立川焉馬「八犬義士勇氣猛」大序 富山の段 「常磐津豊後大掾直傳」

ロ 八犬義士誉勇猛「上下」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

ア2・八犬義士上老(九了・下老)八了(八梓あり)

二1・2 (B) B (行・字) 八・二四 一九丁



※ a / 正本版元東京「地本」問屋「人形町通松嶋町」へ紋さか川平四郎板へ印

ハ「著讀本」曲享馬琴浄瑠璃立川焉馬「八犬義士誉勇猛」

ロ「八犬義士誉勇猛」富山の段

ハ2・八犬義士上巻(〜十)

ハ1・1 (B) 二二、九\*一五、四 一六、八cm (行・字) 六・一五 一一丁

※ 1・名古屋長者町玉沢屋新七廣小路角板元

ト0

ロ富山下の巻

ハ2・八犬義士下巻(〜八了)へ枠あり

ハ1・2 (B) 一〇、八\*一四、二 一八、〇cm (行・字) 八・二三 九丁

※ a / 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」人形町通松嶋町へ紋さか川平四郎板へ印

ハ「著述」曲享馬琴浄瑠璃立川焉馬「八犬義士勇氣猛」大序 富山の段 「常磐津豊後大掾直傳」

ロ 八犬義士誉勇猛「上」常磐津文字太夫直傳正本所坂川平四郎

ハ2・八犬義士上巻(〜九了)へ枠あり

ハ1・2 (B) B (行・字) 八・二四 一一丁

※ a / 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ハ「著述」曲享馬琴浄瑠璃立川焉馬「八犬義士勇氣猛」大序 富山の段 「常磐津豊後大掾直傳」

ロ 八犬義士誉勇猛「上」常磐津文字太夫直傳正本所坂川平四郎

ハ2・八犬義士上巻(〜九了)へ枠あり

ハ1・2 (B) B (行・字) 八・二四 一一丁

※ a / 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ハ「著讀本」曲享馬琴浄瑠璃立川焉馬「八犬義士誉勇猛」常磐津豊後大掾直傳「大序富山の段」

富山下の巻

ト0

ハ2・八犬義士上巻(〜上九了・下巻〜下八了)へ枠あり

ハ1・2 (B) B (行・字) 八・二二 一八丁

※ a / 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ハ「著讀本」曲享馬琴浄瑠璃立川焉馬「八犬義士誉勇猛」大序富山の段「常磐津豊後大掾直傳」

ト0

ハ2・八犬義士上巻(〜六・上七〜上九了)

ハ1・1 (B) B (行・字) 八・二四 一〇丁

※ a / 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」人形町通松嶋町へ紋さか川平四郎板へ印



10

ロ富山下の巻

2・八犬義士十一(十九了)〈梓あり〉

11・2 (甲) 乙 (行・字) 八・二一 一〇丁

2a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」埋木「消」  
いがや勘右衛門印

ハ初霞袖濃笏「常磐津文字太夫直傳」

ロ初霞袖ノ乃笏

10

11・1 (甲) 乙 (行・字) 一〇・二六 二丁

2 清書処 沾翁

ハ初桜浅間嶽「常磐津文字太夫直傳」作者増山金八述

10

ハ初さくら巻(六了)〈梓あり〉

11・2 (甲) 乙 (行・字) 七・一七 七丁

2a/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」紋  
いがや勘右衛門印

ハ初桜浅間嶽「常磐津政太夫直傳」作者増山金八述

ロ江戸春吉例會我「第二ばん目大づめ」  
「浄瑠璃」初桜浅間嶽「狂言作者」増山金八  
木村國治「都座」

11・1 (甲) 乙 (行・字) 一〇・四一 三丁

2 寛政九年三月 正本版元高砂町南新道  
いがや勘右門

ハ初紋日比翼の舞鶴

10

10

11・2 (甲) 乙 (行・字) 七・一二 六丁

2 天明三年正月吉

ハ初ゆめたから船「三味線徳永理鳥」  
振付西川鯉三郎

ロ初夢宝婦袴

10

11・1 (甲) 二二、一\*一五、五一八、〇  
cm (行・字) 五・一四 三丁

2 名古屋長者町玉澤屋新七版元  
廣小路角

ハ初夢宝船

10



10

112・2 (B) 115、0\*17、1 B (行・字) 七・一五 四丁  
10

ハ「安部野の二人妻」信田整の二人奴」花信時雨森」作者増山金八述」

ロ花信時雨森」上」常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板」

12・花がたみ上一(七了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二二 九丁

\*b/ 正本版「地本」問屋」紋」判読不可」いがや勘右衛門」印」

ハ花梯十二月所作さ」常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述」三月花見侍」四月卯花賣」櫻田左交述」六月雇奴・七月  
七夕娘」櫻田左交述」・九月腹鼓僧」十月山猿師」篠田

ロハ中・下巻」七五三既賣會我第二番目大切相勤申候」花梯十二月所作」市村座

12・十二月一(六了) 磯助述」十一月雪鉢木」櫻田治助述」

11・1 (B) B (行・字) 一一・三九 六丁

\*天保十一庚子年三月吉日」市村座」 正本版元」神田鍋町」いがや勘右」門

ハ花既曆色所八景」常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述」(年増・飴売の夕照)

ロ花既曆色所八景」常磐津文字太夫直傳」坂川平四郎板」

12・はなよみ一・花よみ式(六了)へ梓あり

11・2 (B) 111、五\*一五、三 一八 B (行・字) 七・一七 八丁

\*a/ 正本版元東京」地本」問屋」下谷區谷中清水町老番地」紋」さか川平四郎板」印」

ハ竹紫波八景・花既曆色所八景(S丁末より)

ロ竹紫波八景」花既曆色所八景

12・しほ吉(六)

11・1 (B) 111、七\*一五、六 一八、三 B (行・字) 六・一四 七丁

\*版元 玉澤屋新七

ハ竹紫波八景

ロ竹紫波八景」花既曆色所八景

10

12・2 (B) 111、九\*一五、0 一八、0 B (行・字) 五・一四 四丁

\*富士楼 美代吉

ハ巽船頭

ロ「常磐津」」巽船頭」花既曆色所八景

10



二・二 (B) 二二、九\*一五、五一七、五〇 (行・字) 五〇二一九丁

ノ年増(花既曆色所八景の内)

ロ [常磐津]ノ年増

ノ〇

二・二 (B) 二四、一\*一六、五一八、〇〇 (行・字) 五・一〇 一〇丁

ホ〇

ノ花既曆色所八景「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述「離あたって花に浮高輪に」船乗の帰帆(巽船頭・佃船頭)

ロ花既曆色所八景「常磐津文字太夫直傳」坂川平四郎板

ハ2・ふなのり帰一(〜五了)

二・二 (B) 二二、〇\*一四、一一七、八〇 (行・字) 六・一四 七丁

ホa/ 正本版元江戸「地本」問屋「人形町通松嶋町」紋さか川平四郎板印

ノ船乗の帰帆(花既曆色所八景の内)

ロ浮名たつみ

ハ2・せんだう巻(〜三了)

二・一 (C) 二二、〇\*一五、三一八、〇〇 (行・字) 七・一八 四丁

\*板元長者町八丁目玉沢新七

ノ船賣の夕照・旁妻の晩鐘

ロ岩井歌會我對面「第二番目大切

二相勤申候」八景の内」花既曆色所八景「狂言作者櫻田治助」

ノ〇

二・一 (B) 〇 (行・字) 五・一六 一二丁

\*天保十一乙亥年三月狂言八けの内 正本版元神田鍋町いがや勘右門

ノ花既曆色所八景「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述「離あたって花に浮高輪に」乗の帰帆

ロ花既曆色所八景「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ハ2・ふなのり帰一(〜二五了)印あり

二・二 (B) 〇 (行・字) 六・一五 七丁

\*a/ 正本版「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板印

ノ花來崎色鶏「常磐津兼太夫直傳」

ロ花來崎色雉「上」常磐津兼太夫直傳伊賀屋勘右衛門版

ハ2・色鶏志(〜九了)印あり

二・二 (B) 〇 (行・字) 七・二二 一〇丁



ハ「おもしろき人をよび出す時雨かな」花姿宅扇蓋「常磐津文字太夫直傳」作者福森久助「松井幸三述」

ロ雪八嶋凱陣「狂言作者」福森久助「松井幸三」大一番目四建目「浄瑠璃」「おもしろき人を呼出すしぐれかな」花姿宅

扇蓋上「市村座」

ハ2・あたか一（〜二）

ハ1・1（B） B（行・字）一一・三一 二丁

※ 正本所高砂町いがや勘右門

ロ雪八嶋凱陣「大一番目四建目」浄瑠璃「おもしろき人を呼出すしぐれかな」花姿宅扇蓋「狂言作者」福森久助「松井

幸三」下「市村座」

ハ2・あたか三（〜四了）

ハ1・1（B） B（行・字）一一・三一 二丁

※ 正本板元「高砂町南新道」いがや勘右門

ハ「男江口」女西行「花吹雪富士管笠」常磐津文字太夫直傳「作者堀越二三治」

ロ

ハ2・花ふぶ上二（〜上七了・下二〜下七了）（梓あり）

ハ1・2（B） B（行・字）七・二〇 一四丁

ハ「男江口」女西行「花吹雪富士管笠」常磐津文字太夫直傳「作者堀越二三治」

ロ

ハ2・判読不可

ハ1・2（B） B（行・字）七・二〇 一三丁

※

ハ「男江口」女西行「花吹雪富士管笠」常磐津文字太夫直傳「作者藤越二三治」

ロ花吹雪富士管笠「上」常磐津文字太夫直傳「正本所伊賀屋勘右門板」

ハ2・花吹雪上二（〜七了）

ハ1・2（B） 二一、三\*一四、五 一七、八 B（行・字）七・二〇 九丁

※ a/ 正本板元「地本」問屋「神田鍛冶町」へ紋「いがや勘右衛門」印

ハ「男江口」女西行「花吹雪富士管笠」上「常磐津文字太夫直傳」藤越二三治

ロ花吹雪富士管笠「上」常磐津文字太夫直傳「伊賀屋勘右門板」

ハ2・花ふぶ上二（〜七了）（梓あり）

ハ1・2（B） B（行・字）七・一八 九丁

※ a/ 「大傳馬町式丁目」いがや勘右衛門「印」



10

口花吹雪富士音笠「下」常磐津文字太夫直傳、伊賀屋勘右門板

マ2・花ふぶき下「七了」梓あり

ニ1・2 (四) 田 (行・字) 七・一八 九丁

オ2/ 「大傳馬町式丁目」紋いがかや勘右衛門印

ハ花紅葉土農工商

口聲花洩高綱「第二ばん目序幕」世にあふ坂のせまはゆるさじ「花紅葉土農工商、玉川座

マ2・花もみじ「二」

ニ1・1 (四) 田 (行・字) 九・二〇 二丁

オ2 正本板元、町通、新いづみ丁、いがや勘右衛門

ハ濱松風「玉澤屋新七板元」

口此兵衛、松風「振り附」

マ2・濱松風「五了」

ニ1・1 (四) 田 (行・字) 六・一九 六丁

オ2・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

ハ濱松風

口濱松風

マ0

ニ2・2 (四) 二四、〇\*一六、四 一七、〇 田 (行・字) 四・一一 一三丁

オ0

ハ春斯立帰花「讀人しらず」

田0

マ2・判読不可

ニ1・2 (四) 田 (行・字) 七・二四 二二丁

オ0

ハ春駒姿八景「常磐津文字太夫直傳」

田0

マ2・判読不可

ニ1・2 (四) 田 (行・字) 八・二二 二二丁

オ0

ハ春待谷諸聲「瀬川如皇述」



H0

2・判読不可

1・2 (B) B (行・字) 七・二六 一六丁  
0

今様盤女舞「岸澤式佐節付」振付西川鯉三郎」

口「岸沢古式部節付」今様盤女舞

2・盤女巻(〜六丁)

1・1 (B) 二二、三\*一五、五 一八、三 B (行・字) 六・一七 七丁

名古屋市長者町廣小路角「正本所 玉澤屋新」 「明治廿五年六月廿一日印刷」同年同月同日出版「印刷兼發行者」愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸「佐々新七

「隅田川」班女前物狂

口「隅田川」班女前物狂「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

2・はん女巻(〜了四)

1・2 (B) 二二、八\*一五、五 一八、三 B (行・字) 六・一三 六丁

千穂萬歳「大々叶」紋 昭和二「丁卯」年十月吉日書寫 常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町」坂川平四郎  
印

盤女の舞

口「常磐津」盤女の舞

0

2・2 (B) 二三、九\*一六、〇 一六、五 B (行・字) 五・一〇 一四丁

筆者 澤田春

獨旅客談言「常磐津志津摩太夫・常磐津文字太夫・造酒太夫」

0

2・2 (B) B (行・字) 七・一四 四丁

0

「ひざ」栗毛「弥二喜多八」玉澤弥新七板」

口「弥次郎兵衛」喜多八「膝栗毛」振付西川鯉三郎「節付岸沢式壽齋」

2・弥二喜多一(〜十七了)

1・1 (B) 二二、二\*一五、六 一八、五 B (行・字) 六・一三 一八丁

2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角

「蝶々売」日高川三「面」玉沢屋新七板元」



- ロ 日高川三つ面「三味線」岸沢式寿「振り付」西川鯉三郎
- ハ2・蝶々うり苔(〜四了)
- ニ1・1 (ロ) 二三、〇\*一五、九 一八、〇 (行・字) 六・一六 五丁
- ハ2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

イ「蝶々売」日高川三つ面  
ロ「常磐津」日高川三つ面

- ハ0
- ニ2・2 (ロ) 二二、五\*一五、七 一七、二 (行・字) 四・九 一一丁
- 筆者 澤田春

イ「左甚五郎」京人形「時玩鑑佐小刀」  
ロ「左甚五郎」京人形「時玩鑑佐小刀」

- ハ0
- ニ2・2 (ロ) 二二、七\*一五、六 (行・字) 六・一三 七丁
- ハ0

イ 甚五郎  
ロ「常磐津」左小刀甚五郎

- ハ0
- ニ2・2 (ロ) 二三、〇\*一五、八 一八、五 (行・字) 五・八 一一丁
- ハ0

イ「幼者の十二単」百姓の冠装束「鄙都袍玉簪」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田次助述」  
ロ

- ハ2・玉だれ上(〜上六・下二〜下六了)〈枠あり〉
- ニ1・2 (ロ) (行・字) 七・二五 一二丁
- 筆者 櫻田次助「文化八年辛未十一月吉日梓行」於中村座興行「伊賀屋板」

イ 百壽「常磐津文字太夫直傳」  
ロ 百福壽「柳文朝」

- ハ0
- ニ1・1 (ロ) (行・字) 八・一六 二丁
- 筆者 伊賀屋

イ「平仮名」盛衰記「無間鐘」上「常磐津文字太夫直傳」  
ロ「ひらがな」盛衰記「無間鐘」上「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎  
ハ2・無間鐘上(老)〜七了)



11・2 (B) 二一、〇\*一四、二一八、〇cm (行・字) 七・一三 九丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「旧人形町通り松島町移轉」上野公園地前廣小路西側上野元黒門町老番地」へ紋さ  
か川平四郎板へ印

10

ロ「ひらがな」盛衰記「無間鐘」下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

2・無間鐘下巻(七了)へ梓あり

11・2 (B) 二一、〇\*一四、〇一七、八cm (行・字) 七・一六 九丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「旧人形町通り松島町移轉」上野公園地前廣小路西側上野元黒門町老番地」へ紋さ  
か川平四郎板へ印

10

ロ「ひらがな」盛衰記「無間鐘」下「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

2・無間下巻(七了)へ梓あり

11・1 (B) cm (行・字) 七・一八 九丁

\*a/ 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」さか川平四郎板へ印

ロ「ひらがな」盛衰記「むげんのかねのたん」文字七くどりけいこまし正本所「元演町」いがや勘右衛門板・「ひらがな」

な「盛衰記」無間鐘「上」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

2・無間かね上巻(七了)へ梓あり

11・1 (B) cm (行・字) 七・一八 一〇丁

\*a/ 正本所「元演町」いがや勘右衛門板  
か川平四郎板へ印

ナ「平假名」盛衰記「無間の鐘」常磐津文字太夫直傳」

ロ「平假名」盛衰記「無間の鐘」

2・無間上巻(七了)下巻(七了)へ梓あり

11・2 (B) cm (行・字) 七・一八 一九丁

\*o

ナ 琵琶島

ロ 琵琶島

10

11・2 (B) cm (行・字) 四・一〇 一三丁

\*文字登和記

風流隔田川四段目狂女の段







11・1 (B) 二三、七\*一六、一 一八、六 (C) (行・字) 六・一九 五丁

\*天保十三年寅十月、江都御替地新芝居、市村座新浄るり、名古屋、板元玉沢屋新七、千秋万歳大々叶

富士岡屏風八景〔常磐津文字太夫直傳、作者福森久助述〕

B0

2・屏風八けい巻(五)

11・2 (B) (C) (行・字) 六・一二 六丁

\*文化十一年戌年中村座興行

1〔たる屋、おせん〕女 帯昔囃 〔常磐津文字太夫直傳〕

2〔樽屋、おせん〕女 帯昔囃 上〔常磐津文字太夫直傳、伊賀屋勘右衛版〕

2・おせん上巻(六了)

11・2 (B) 二一、三\*一四、六一七、七 (C) (行・字) 七・一八 七丁

\*b/ 正本版元江戸〔地本、問屋〕、神田鍋町 横丁、いがや勘右衛門、印

両顔月姿繪〔岸澤式治、玉沢屋新七、板〕

2〔両顔月姿繪〕、隅田川渡しのだん

2・巻(五)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、三一七、五 (C) (行・字) 六・一六 六丁

\*1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

1 両顔月姿繪下

2〔両顔月姿繪〕、隅田川渡し、下のまき

2・隅田川下巻(十)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、三一六、九 (C) (行・字) 六・一六 一一丁

\*1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

10

2 両顔月姿繪〔下〕〔常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎〕

2・おもて下巻(七了)

11・2 (B) 二一、一\*一三、八一七、〇 (C) (行・字) 六・二二 九丁

\*明治十五年九月再版、正本版元東京〔地本、問屋〕〔下谷區谷中清水町老番地〕、紋、さか川平四郎、印

10

2・おもて下巻(七了)

11・2 (B) 二一、三\*一四、〇一七、〇 (C) (行・字) 六・二二 八丁

\*明治十五年九月再版、正本版元東京〔地本、問屋〕〔上野廣小路元黒門町老番地〕、紋、さか川平四郎、印



ハ 両顔月姿繪「常磐津文字太夫直傳」増補木村系んふ述

ロ 兩顔月姿繪「上下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ヌ 2・ニ おもて上巻(〜七了)・ニ おもて下巻(〜七了)

ニ 1・2 (B) 二二、二\*一四、一 一七、〇 B (行・字) 七・二〇 一四丁

※ 明治十五年九月再版ノ B 正本版元東京「地本」問屋「下谷區谷中清水町老番地」へ紋さか川平四郎板へ印

ハ 両面月姿繪

ロ 「常磐津」両面月姿繪「法界坊」

ノ

ニ 2・2 (B) 二二、九\*一六、〇 B (行・字) 五・一一 一五丁

※ 筆者 澤田春

ハ 兩顔月姿繪「常磐津文字太夫直傳」増補木村系んふ述

ロ 兩顔月姿繪「上」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ヌ 2・ニ おもて上巻(〜七了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 七・二〇 九丁

※ いがや勘右衛門原板ノ 正本版元江戸「地本」問屋「人形町通松嶋町坂川平四郎板」へ印

ハ 兩顔月姿繪「常磐津文字太夫直傳」増補木村系んふ述

ロ

ヌ 2・ニ おもて上巻(〜七了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 七・二〇 七丁

ホ

ト

ロ 兩顔月姿繪「下」常磐津文字太夫直傳「正本所伊賀屋勘右門板」

ヌ 2・ニ おもて下巻(〜七了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 七・二〇 九丁

ホ a/ 正本版元江戸「地本」問屋「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門へ印

ト

ロ 兩顔月姿繪「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ヌ 2・ニ おもて下巻(〜七了)

ニ 1・2 (B) B (行・字) 七・二〇 九丁

※ いがや勘右衛門原板ノ 正本版元江戸「地本」問屋「人形町通松嶋町」さか川平四郎板へ印

ト



- 110
  - 22・11 おもて下巻(〜下七了)
  - 11・2 (B) B (行・字)七・二〇 七丁
- 明治十五年九月再版

ノ 両顔月姿繪「常磐津文字太夫直傳」増補木村彥んぶ述  
 ロ 両顔月姿繪「全」「常磐津文字太夫直傳」正本所伊賀屋勘右門板  
 22・11 おもて上巻(〜上七了・下巻(〜七了))  
 11・2 (B) B (行・字)七・二〇 一六丁  
 2a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」埋木「ツツミ」いがや勘右衛門印

ノ 両顔月姿繪「常磐津文字太夫直傳」増補木村彥んぶ述  
 110  
 22・11 おもて上巻(〜上七了・下巻(〜七了))  
 11・2 (B) B (行・字)七・二〇 一四丁  
 110

ノ 両顔月姿繪「常磐津文字太夫直傳」増補木村彥んぶ述  
 ロ 両顔月姿繪「全」「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

22・11 おもて上巻(〜上七了・下巻(〜七了))  
 11・2 (B) B (行・字)七・二〇 一六丁

明治十九年九月再版ノ 常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」發行兼印刷者「坂川平四郎」印

110  
 110  
 110  
 22・2 (B) B (行・字)七・一六 一丁  
 110

110  
 22・11 おもて下巻(〜七了)  
 11・1 (B) B (行・字)七・二〇 八丁  
 2a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」埋木「消ツツミ」いがや勘右衛門印

ノ 雙子隅田川三段目  
 110  
 22・11 すみだ川老(〜十了)以外枠あり



11・2 (甲) 丑 (行・字) 七・二〇 一一丁

※2/ 正本板元江戸「地本問屋」へ紋「神田鍛冶町式丁目」いがや勘右衛門へ印

1舟

10

10

11・2 (甲) 丑 (行・字) 四・一〇 一一丁

※ 文字登和記

1 北州千歳壽

1 北州千歳壽「振付」西川鯉三郎」

※2・北州巻(〜四)

11・1 (甲) 二二、一\*一五、五 一七、七 丑 (行・字) 六・一五 五丁

※ 安政七「庚申」正月吉辰出版「名古屋」玉沢屋新七

1 北州千歳壽

1 北州千歳壽「ふり付」西川鯉三郎」

※2・北州巻(〜四)

11・1 (甲) 二二、一\*一五、五 一七、七 丑 (行・字) 六・一一 五丁

※ 安政七「庚申」正月吉辰出版「名古屋長者町廣小路角板元」玉沢屋新七

1 「風流」道行「時鳥花有里」常磐津文字太夫直傳「作者増山金八述」

1 時鳥花有里「上」常磐津文字太夫直傳「伊賀屋勘右衛門板」

※2・花有里上一(〜六了)へ梓あり

11・2 (甲) 丑 (行・字) 七・一九 八丁

※ b/ 正板元「高砂町南新道」いがや勘右衛門へ印

1 杜鵑花空解「中村重助」

10

※2・判読不可

11・2 (甲) 丑 (行・字) 七・一一 一〇丁

※0

1 「本朝」廿四孝「狐火之段」岸澤古式部直傳」

1 「本朝」廿四孝「狐火之段」

※2・狐火巻(〜五了)

11・1 (甲) 二二、一\*一五、四 一八、〇 丑 (行・字) 六・一四 六丁

※2・名古屋長者町「玉澤屋新七」廣小路角板元



狐火

ロ「常磐津」狐火

10

11・2 (ロ) 113' 0\*16' 0 17' 0ロ (行・字) 5・10 11丁

筆者 澤田春

→本朝廿四孝「岸澤古式部直傳」玉澤屋新七板」

ロ「廿四孝」十種香の段「三弦岸澤式壽齋」

11・2 廿四孝上巻(三〜五丁)

11・1 (ロ) 111' 0\*15' 2 18' 3ロ (行・字) 6・17 14丁

11・2 名古屋長者町「玉澤屋新七」廣小路角板元 明治十九年 月 日御届翻刻出版人「愛知縣平民」鍋野長三郎「名古屋

屋區八百屋町百廿三番」

→本序廿四孝「岸澤古式部直傳」玉澤屋新七板」

ロ「廿四孝」十種「香の段」三弦「岸澤式壽齋」

11・2 廿四孝上巻(〜上四・五〜十三丁)

11・1 (ロ) 111' 0 (行・字) 6・18 14丁

11・1 名古屋長者町「廣小路角板元」玉澤屋新七

→「本朝」廿四孝「狐火」之段「常磐津文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

10

11・2 きつねびき(〜上六丁)へ枠あり

11・2 (ロ) 111' 0 (行・字) 6・17 6丁

11・2 常磐津正本板元「發行兼印刷者」「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎「印」

→「本朝」廿四孝「狐火」之段「常磐津文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

10

11・2 廿四孝上「巻」(〜上六丁・下「巻」下六丁)へ枠あり

11・2 (ロ) 111' 0 (行・字) 6・20 14丁

11・2 正本版元東京「地本」問屋「上野廣小路元黒門町老番地」へ紋さか川平四郎板「印」

→本朝廿四孝「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付」

10

11・2 廿四孝上「巻」(〜上六丁・下「巻」下六丁)へ枠あり

11・2 (ロ) 111' 0 (行・字) 6・18 13丁

11・2 常磐津正本板元「印刷者兼發行者」「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎「印」



ハ 忍夜戀曲者

口 忍夜戀曲者

マ 2・1(〜八)

11・1 (B) 二二、一\*一五、五一七、四cm (行・字) 六・一五 一〇丁

※板元 玉沢屋新七

ハ 忍夜戀曲者

口 忍夜戀曲者

マ 2・1(〜八)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、五一七、八cm (行・字) 六・一五 九丁

※板元 長者八丁目 玉沢屋新七

ハ 忍夜戀曲者

口 忍夜戀曲者

マ 2・1(〜八)

11・1 (B) 二三、二\*一五、五一七、五cm (行・字) 六・一五 九丁

※板元 長者八丁目 玉沢屋新七、明治十九年八月六日御届翻刻出版人「愛知縣平民」鍋野長三郎「名古屋區八百屋町百三番邸」

ハ 忍夜戀曲者

口 [将門] 忍夜孝事奇 [正本所玉澤屋]

マ 2・1(〜八)

11・2 (B) 二一、五\*一五、三一七、七cm (行・字) 六・一六 一〇丁

※常盤津豊後節 正本、常盤津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」へ紋、若林芳造へ印

ハ 忍夜戀曲者

口 [将門] 忍夜孝事奇 [正本所玉澤屋]

マ 2・1(〜八)

11・2 (B) 二一、六\*一五、三一七、五cm (行・字) 六・一五 一〇丁

※0

ハ 「ひとつ家に」遊女も寝たり「芳宜」月「忍夜孝事奇」常盤津小文字太夫直傳「作者寶田壽助述」

口 [将門] 忍夜孝事奇 「常盤津小文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

マ 2・恋のくせ物巻(〜八了)

11・2 (B) 二二、九\*一五、〇一七、六cm (行・字) 六・一五 一〇丁

※a/ 常盤津 正本版元「印刷者兼發行者」「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印

ハ 「ひとつ家に」遊女も寝たり「芳宜」月「忍夜孝事奇」常盤津小文字太夫直傳「作者寶田壽助述」



ロ「将門」忍夜孝事奇「常磐津小文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ㇿ2・恋のくせ物老・恋のくせ者(二)八了)

ㇿ1・2 (B) 二二、一\*一五、一 一七、八 C (行・字) 六・一五 九丁

ㇿ大正九年「庚申」七月再版

ㇿ「ひとつ家に」遊女も寝たり「芳宜」月「忍夜孝事奇」常磐津小文字太夫直傳「作者寶田壽助述」

ㇿ2・恋のくせ物老・恋のくせ者二(八了)・恋のくせもの四 (梓あり)

ㇿ1・2 (B) 二〇、一\*一四、〇 一七、七 C (行・字) 六・一五 一〇丁

ㇿ明治二年巳九月再版、ㇿ 正本版元東京「地本」問屋「人形町通松嶋町」紋「さか川平四郎板」印

ㇿ「ひとつ家に」遊女も寝たり「芳宜」月「忍夜孝事奇」常磐津小文字太夫直傳「作者寶田壽助述」

ㇿ〇

ㇿ2・みつくに巻(八了) (梓あり)

ㇿ1・2 (B) 二一、〇\*一四、九 一八、三 C (行・字) 六・一五 八丁

ㇿ〇

ㇿ忍夜戀曲者

ㇿ忍夜戀曲者

ㇿ〇

ㇿ2・2 (B) 二三、一\*一六、三 二〇、一 B (行・字) 六・一五 一〇丁

ㇿ〇

ㇿ「ひとつ屋に」遊女も寝たり「芳宜と月」忍夜戀曲者「常磐津小文字太夫直傳」作者寶田壽助述

ㇿ〇

ㇿ2・戀のくせ者一(八了) (梓あり)

ㇿ1・2 (B) 二〇、七\*一三、九 一八、〇 C (行・字) 六・二一 九丁

ㇿa/ 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」印「紋」さか川平四郎板「印」

ㇿ「ひとり家に」遊女も寝たり「芳宜の月」忍夜戀曲者「常磐津小文字太夫直傳」作者寶田壽助述

ㇿ忍夜戀曲者「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ㇿ2・「判読不可」

ㇿ1・2 (B) B (行・字) 六・一九 一一丁

ㇿa/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印

ㇿ「ひとつ家に」遊女も寝たり「芳宜と月」忍夜孝事奇「常磐津文字太夫直傳」作者寶田壽助述「ㇿ〇

ㇿ2・戀のくせ者一(八了) (梓あり)

ㇿ1・2 (B) B (行・字) 六・一七 八丁



ハ「ひとり家に遊女も寝たり芳宜と月」忍夜孝事奇「常磐津文字太夫直傳」作者寶田壽助述「ロ

ニ・戀のくせ者」ハ了）ハ梓あり

ハ1・2 (ロ) 四 (行・字) 六・一七 八丁

ホ

ハ「ひとり家に遊女も寝たり芳宜と月」忍夜孝事奇「常磐津文字太夫直傳」作者寶田壽助述「ロ

ニ・戀のくせ物老」ハ了）ハ梓あり

ハ1・2 (ロ) 四 (行・字) 六・一七 八丁

明治十五年午九月再版

ハ「ひとり家に遊女も寝たり芳宜と月」忍夜孝事奇「常磐津文字太夫直傳」作者寶田壽助述「ロ「將門」忍夜孝事奇「常磐

津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ニ・孝事奇老」ハ了）ハ梓あり

ハ1・2 (ロ) 五 (行・字) 六・一七 一〇丁

明治四十五年二月改正再版「坂川 正本版元東京「地本」問屋」ハ紋」下谷區谷中清水町老番地」ハさか川

平四郎板ハ印

ハ「ひとり家に遊女も寝たり芳宜の月」忍夜戀曲者「常磐津小文字太夫直傳」作者寶田壽助述

ロ

ニ・ハ判読不可

ハ1・2 (ロ) 五 (行・字) 六・一九 八丁

明治二年巳九月再板

ハ「聞茲姿八景 姫垣の晩鐘」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田治助述」・瀧詣の夜雨・水売の夕照

ロ

ニ・八けい上」ハ了

ハ1・2 (ロ) 二一、三\*一四、一 一七、五 四 (行・字) 七・二六 七丁

正本版元東京「地本」問屋」上野廣小路元黒門町老番地」ハ紋」さか川平四郎板ハ印

ハ水売の夕照

ロ「常磐津」水売の夕照

ホ

ハ2・2 (ロ) 二二、九\*一六、〇 一七、五 四 (行・字) 五・一三 六丁

内「本」筆者 澤田春

ハ「聞茲姿八景 姫垣の晩鐘」常磐津文字太夫直傳「作者櫻田次助述」・瀧詣の夜雨・水売の夕照



マ2・八けい上二(六了)

ハ1・2 (四) 二一、二\*一四、四 一七、五 (行・字) 七・二六 七丁

マa/ 正本版元江戸[地本/問屋][ミヅナ]ノ紋がや勘右衛門ノ印

ノ 晒女の落雁

ロ 関此茲姿八景ノ[姫垣の晩鐘ノさらしめのらくがん]

マ2・はつけい下三(五)

ハ1・1 (四) 四 (行・字) 六・一九 四丁

マ なごやはんもとノ紋ノ菱屋金兵衛

ノ 水売の夕照[常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助]

ロ 関此茲姿八景ノ[水売]

マ2・はつけい下二(二)

ハ1・1 (四) 四 (行・字) 六・一九 三丁

マ なごやはんもとノ紋ノ菱屋金兵衛

ノ 関茲姿八景 姫垣の晩鐘[常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田次助]ノ 瀧詣の夜雨ノ 水売の夕照ノ 狐作の暮雪ノ 晒

女の落雁ノ 拙業再張交

マ2・はつけい上二(六了)ノ上六了・下二(六了)ノ下五・六のみ枠あり

ハ1・2 (五) 五 (行・字) 七・二二 一二丁

マ0

ノ 関茲姿八景姫垣の晩鐘[常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助]ノ 瀧詣の夜雨ノ 水売の夕照ノ

ロ [水うり]関茲姿八景[常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎]

マ2・八けい上二(六了)

ハ1・2 (五) 四 (行・字) 七・一九 六丁

マ a/ 正本版元東京[地本ノ問屋]ノ人形町通松嶋町ノさか川平四郎板ノ印

ノ [吾楼での業平卿ノ大坂下りの夢想平]再道廓色胤[岸澤古式部直傳ノ作者櫻田治助]ノ

ロ 操返米升糞[第一番目大切ノ相勘申候][狂言作者ノ河竹新七][浄瑠璃ノ吾楼での業平卿ノ大坂下りの夢想平]再道廓色胤

[作者狂言堂]

マ2・奴胤老(三了)

ハ1・1 (四) 四 (行・字) 一〇・三〇 四丁

マ 文久二[壬戌正月狂言ノ守田座ノ 正銘板元ノ田所町ノ小川半助]

ノ [公儀ノ寸目ノ頁替り冊]



ロ「松風／村雨」須摩の浦

ア0

ニ2・2 (ロ) ニ三、〇\*一五、〇 (行・字) 六・一三 二〇丁

イ0

ハ「松似候男姿」常磐津文字太夫直傳／作者濙越二三治

ロ「松似候男姿」常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右衛門板

ニ2・男姿一(〜十三丁)

ニ1・2 (ロ) (ロ) (行・字) 七・二〇 一五丁

イb/ 「するがや文右衛門」板元いがや勘右衛門へ印

ハ「歳旦」松の寿

ロ0

ニ2・へ判読不可

ニ1・2 (ロ) (ロ) (行・字) 五・一〇 四丁

イ0

ニ2・へ判読不可へ梓あり

ニ1・2 (ロ) (ロ) (行・字) 六・一四 四丁

イ 千秋書／明治三十九年丙午十一月吉日／明治三十九年十二月十八日印刷／明治四十年十二月廿日發行／常磐津正本  
版元／著作者「東京市日本橋區箔屋町拾三番地」／常岡丑五郎／印刷兼／發行者「東京下谷區谷中清水町老番地」／坂  
川平四郎へ印

ハ「新曲」十二段「松の調」常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述

ロ0

ニ2・松のしらべ老(〜五了)へ梓あり

ニ1・2 (ロ) (ロ) (行・字) 六・一一 六丁

イ 文政十二「巳丑」三月吉日改板／坂川平四郎正本／ 正本版元東京「地本／問屋」へ紋／「下谷區谷中清水町老番地」さ  
か川平四郎板へ印

ハ「新曲」壽松の名所「常磐津文字太夫直傳」常磐津文字兵衛節附／岡鬼太郎作歌

ロ「新曲」壽松の名所

ニ2・壽松の名所老(〜三)

ニ1・2 (ロ) ニ三、〇\*一五、四 一七、五 (行・字) 六・一二 五丁

イ 常磐津正本版元「東京都台東區谷中清水町老番地」／坂川平四郎



ハ「新曲」松の名所「常磐津文字太夫直傳」常磐津文字兵衛節付「岡鬼太郎作歌」

ロ「新曲」壽松の名所「正本版元」坂川平四郎」

ニ2・壽松の名所巻（〜三）へ梓あり

ニ1・2 (ロ) 三 (行・字) 六・一二 六丁

※大正拾五年五月吉日新曲開く昭和拾年五月吉日写す版元「坂川写」千穂萬歳大々叶

ハ「新曲」松廼羽衣「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附」

ロ「新曲」松廼羽衣「常磐津小文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ニ2・松の羽衣巻（〜四了）

ニ1・2 (ロ) 二二、四\*一五、四 一八、二四 (行・字) 六・一三 六丁

※大正二年癸丑四月吉日改正再版(坂川蔵版)へ常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」補述印刷兼發行者「坂川平四郎へ印」

ハ松廼羽衣「常磐津文字太夫直傳」

ロ松廼羽衣「羽衣」

ニ2・松の羽衣一（〜三）

ニ1・2 (ロ) 二三、五\*一六、〇 一七、三三 (行・字) 六・一三 七丁

※昭和廿七年五月拾日印刷昭和廿七年五月拾五日發行(定本常磐津刊行會本)

ハ松羽衣「振付西川鯉三郎」三弦婦久」

ロ都羽二重拍子屬

ニ2・羽衣巻（〜六了）

ニ1・2 (ロ) 二二、三\*一五、三 一八、〇三 (行・字) 五・一四 七丁

※〇

ハ其岸沢松の羽衣 ロ「新浄瑠璃」五調子「其岸沢」松廼羽衣

※〇

ニ2・2 (ロ) 二二、二\*一五、〇 三 (行・字) 五・一五 七丁

※〇

ハ「新曲」松廼羽衣「常磐津小文字太夫直傳」

※〇

ニ1・2 (ロ) 三 (行・字) 六・一五 五丁

※千穂萬歳大々叶「正本版元」坂川平四郎

ハ「歳旦」松廼子「常磐津小文字太夫直傳」

ロ「歳旦」松のはやし「正本所坂川平四郎」



11・1 (B) B (行・字)七・一九 二丁

\* 正本所坂川平四郎ノ 文久三癸亥年正月吉辰坂川屋板

ノ「五せつくの内ノ正月」松色操高砂「常磐津文字太夫直傳ノ作者瀨川如臯述」

ロ「大ノかくら」松色操高砂「常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎」

12・高きノ巻(ノ六了)

11・2 (B) 11'・11\*・14'・0 一七、五 B (行・字)七・一六 九丁

\* aノ 正本版元東京「地本ノ問屋」ノ上野廣小路元黒門町老番地ノ紋ノさか川平四郎板ノ印ノ

ノ「五節句ノ正月」松色操高砂「常磐津兼太夫直傳ノ作者瀨川如臯述」

ロ

12・高きノ巻(ノ六了)

11・2 (B) B (行・字)七・一五 八丁

\* aノ 正本版元江戸「地本問屋」「神田鍛冶町式丁目」ノ紋ノいがや勘右衛門ノ印ノ

ノ 松色操高砂

ロ「太神楽ノ鳥おひ」末色操高砂「常磐津稽古本ノ芳野屋勝五郎板」・常磐津節ノ松色操高砂「五節句の内」太神楽ノ鳥追「ひらがなけいこ本」

12・高きノ巻(ノ六了)

11・2 (B) B (行・字)七・一八 六(七)丁

\* 板元ノ南傳馬町一丁目ノ芳野屋勝五郎

ノ 万ざい恵方みやげ

ロ

11・まんやぶび一(ノ四)

11・2 (B) B (行・字)七・二〇 四丁

\* 〇

ノ 糸ほう万歳「常磐津文字太夫直傳」

ロ「大字六くたり」ノ万歳恵方みやげ「文字太夫直傳」

11・糸ほう巻(ノ四)

11・2 (B) B (行・字)六・二二 五丁

\* 玉分町十九軒ノ本や治右門板

ノ 三重帯裾野模様「作者金井三笑」

ロ

12・三重のおび上一(ノ十三)・三重の帯下一(ノ十三末尾)



二1・2 (甲) 四 (行・字) 六・一四 二七丁  
ホ

ハ乱咲尾花の蝶 友すみ物狂ひ

ホ

ホ

二1・2 (甲) 四 (行・字) 九・二二 二丁

ホ

ハ乱咲花色衣〔与鳳亭述〕

ホ

二2・判読不可

二1・2 (甲) 四 (行・字) 七・二七 一七丁

ホ

ハ道行栄花月〔常磐津文字太夫直傳作者櫻田次助述〕

ホ

二2・栄花月上老・栄花上二(一六了)へ梓あり

二1・2 (甲) 四 (行・字) 七・一九 六丁

ホ

ハ〔高砂〕姥〔道行故今の色陸〕〔常磐津文字太夫直傳故談洲樓述〕

ホ

二2・高砂うば老(一五了)

二1・2 (甲) 四 (行・字) 六・一五 五丁

ホ文久元〔辛酉〕三月吉日

ハ其姿花圖繪〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ〔三枚續古画交張〕三、人形

二2・うつしゑ老(四)

二1・1 (甲) 二一、九\*一五、六一八、二四 (行・字) 七・一七 五丁

ホ板元〔名古屋〕玉澤屋新七〔長者町〕

ハ三、人形

ロ〔常磐津〕三、人形

ホ

二2・2 (甲) 二二、〇\*一五、八一六、八四 (行・字) 五・九 一〇丁

ホ筆者 澤田春



ハ 其姿花圖繪「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「三」人形「其姿花圖繪」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎」

ハ2・ウツしゑ老(〜五了)

ハ1・2 (B) 四 (行・字) 七・一八 七丁

キ a/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」上野廣小路元黒門町老番地「さか川平四郎板」印

ハ 其姿花圖繪

ロ

ハ2・ウツしゑ老(〜六了・下老)下六了(ハ梓あり)

ハ1・2 (B) 四 (行・字) 七・一六 一二丁

キ

ハ 女番太郎「常磐津文字太夫直傳」

ロ 「岩井屋」二度の咲かけ「女番太郎」三「人形の内」夜ぼん」

ハ2・ハ判読不可

ハ1・1 (B) 四 (行・字) 六・一一 五丁

キ な「や板元」ハ紋「菱屋金兵衛

ハ 其姿花圖繪「常磐津文字太夫直傳」

ロ

ハ2・ウツしゑ老(〜五了)

ハ1・2 (B) 四 (行・字) 七・二〇 六丁

キ a/ 正本版元江戸「地本」問屋「紋」神田鍛冶町二丁目「ら」がや勘右衛門「印」

ハ 三津朝床敷顔触「常磐津文字太夫直傳」作者福森久助述

ロ 三津朝床敷顔触「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎」

ハ2・三つの朝上老(〜五了) ハ梓あり

ハ1・2 (B) 二〇、七\*一四、六 一八、三 四 (行・字) 七・一八 五丁

キ a/ 正本版元等強「地本」問屋「上野廣小路元黒門町一番地」ハ紋「さか川平四郎板」印

ロ

ロ 「常磐津節」三津朝床敷顔触「下」「ひらかな稽古本」「朝比奈」少将「虎」五郎時宗」

ハ2・三の朝下(〜六了)

ハ1・2 (B) 二〇、七\*一四、六 一八、四 四 (行・字) 六・二一 七丁

キ 板元「南傳馬町老」目「芳野屋勝五郎」 東部板元「南傳馬町老」目「ハ紋」芳野屋勝五郎「同町」ハ紋「高屋吉蔵

ハ 三津朝床敷顔觸「常磐津文字太夫直傳」作者福森久助述」



10

12・三つの朝上巻(〜四)・三つの朝五了

11・2 (B) 二〇、九\*一三、八 一八、八cm (行・字) 七・二一 六丁

\*a/ 正本版元江戸[地本/問屋][「ミヤ」/紋]いがや勘右衛門印

1 三津朝床敷額触[常磐津文字太夫直傳/作者福森久助述]

10 三津朝床敷額触[上][常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎]

12・三津の朝上巻(〜五了)へ枠あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二二 八丁

\*a/ 正本版元東京[地本/問屋][人形町通松嶋町]へ紋さか川平四郎板印

10

12・三つの朝下巻(〜五了)

11・2 (B) 二〇、九\*一三、八 一八、二cm (行・字) 七・二一 六丁

\*a/ 正本版元江戸[地本/問屋][「ミヤ」/紋]いがや勘右衛門印

1 三津朝床敷額触[常磐津文字太夫直傳/作者福森久助述]

10

12・わかな上巻(〜五了)へ枠あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二二 七丁

10

1 三津朝床敷額触[常磐津文字太夫直傳/福森久助述]

10

12・三つの朝上巻(〜五了・下巻〜五了)へ枠あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二二 一〇丁

10

10

10 三津朝床敷額触[下][常磐津文字太夫直傳/正本所坂川平四郎]

12・三津の朝下巻(〜五了)へ枠あり

11・2 (B) B (行・字) 七・二二 七丁

\*a/ 正本版元東京[地本/問屋][上野廣小路元黒門町老番地]へ紋さか川平四郎板印

1 千代/万歳[三の祝株][花柳巷述]

10

10



二1・2 (B) B (行・字) 六・一三 二丁

\* 正本所いがや勘右衛門 / 正銘 / 四谷傳馬町式丁目 / 湯河原

入 「五変化之内 / 子もり」 寄三樹五大字樓「玉澤屋新七板」

ロ 「寄三樹五大字樓」三〇面子もり

二2・子もり一 (〇五了)

二1・1 (B) 二二、〇\*一五、四 一八、九〇 (行・字) 六・一八 六丁

\* 1・板元 / 長者町筋 / 玉澤屋新七 / 廣小路角

入 「五変化之内 / 子もり」 寄三樹五大字樓「玉澤屋新七板」

ロ 「三〇面 / 子もり」 寄三樹五大字樓「正本所玉澤屋」

二2・子もり一 (〇五了)

二1・2 (B) 二二、六\*一六、〇 一九、〇〇 (行・字) 六・一八 七丁

\* 常磐津豊後節 正本 / 常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」 / 紋 / 若林芳造 / 印

入 「五変化之内」三〇面子守り「常磐津文字太夫直傳」

ロ

二2・子守者一 (〇五)

二1・2 (B) 二二、三\*一五、二 一八、〇〇 (行・字) 六・一六 五丁

\* 大正十五年「丙寅」十一月吉辰日(坂川蔵版)

入 三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附 / 古河黙阿弥著述

ロ 三保松富士晨明

二2・三保松老一 (〇四了)

二1・1 (B) 二一、八\*一五、三 一七、〇〇 (行・字) 六・一三 五丁

\* 名古屋市下長者町四丁目 / 玉澤屋新七 / 版元 / 明治卅一年九月廿日印刷 / 同年同月同日出版 / 印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」 / 佐々新七 / 名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸 / 佐々新七

入 三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附 / 古河黙阿弥著述

ロ 三保松富士晨明「正本所玉澤屋」

二2・三保松老一 (〇三)

二1・2 (B) 二二、九\*一五、六 一七、八〇 (行・字) 六・一二 六丁

\* 明治卅一年九月廿日印刷 / 同年同月同日出版 / 印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」 / 佐々新七 / 常磐津豊後節 正本 / 常磐津版元 玉澤屋 / 印

入 三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附 / 古河黙阿弥著述

ロ 三保松富士晨明「正本所玉澤屋」

二2・三保松老一 (〇四了)



ニ1・2 (四) 二二、七\*一六、一 一七、〇四 (行・字) 六・一三 六丁

明治 一年九月廿日印刷、同年同月同日出版、印刷兼發行者「愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番戸」佐々新七、常磐津豊後節正本常磐津版元「大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地」へ紋、若林芳造へ印

ハ三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附、古河黙阿弥著述  
ロ三保の松

ニ2・三保松老(三了)へ梓あり

ニ1・2 (四) 二二、二\*一五、一 一八、五四 (行・字) 六・一七 四丁

大正十二「癸亥」年十一月再々版、坂川蔵版

ハ三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付、古河黙阿弥著述

ロ三保松富士晨明「十二代目常磐津小文字太夫」

ニ2・三保松老(三了)へ梓あり

ニ1・1 (四) 五 (行・字) 六・一六 五丁

大正十二「癸亥」年十一月再々版、明治二十五年四月廿七日印刷、明治二十五年四月廿九日出版、「東京本郷區南二葉町三拾老番地」著作者「吉村新七」印刷兼發行者「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

ハ三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付、古河黙阿弥著述

ロ三保松富士晨明「十二代目常磐津小文字太夫」

ニ2・三保松老(三了)へ梓あり

ニ1・1 (四) 五 (行・字) 六・一六 五丁

大正五「丙辰」年三月再版、明治二十五年四月廿七日印刷、明治二十五年四月廿九日出版、「東京本郷區南二葉町三拾老番地」著作者「吉村新七」印刷兼發行者「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎

ハ三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節附、古河黙阿弥著述

ロ三保松富士晨明「十二代目常磐津小文字太夫」

ニ2・三保松老(三了)

ニ1・2 (四) 二二、八\*一五、一 一八、〇四 (行・字) 六・一八 五丁

昭和十二「丁丑」年二月再々版、坂川蔵版、明治二十五年四月廿七日印刷、明治二十五年四月廿九日發行、著作者「東京本郷區二葉町三拾老番地」吉村新七印刷兼發行者「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印

ハ三保松富士晨明「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式佐節付、古河黙阿弥著述

ロ三保松富士晨明「十二代目常磐津小文字太夫」

ニ2・三保松老(三了)へ梓あり

ニ1・1 (四) 五 (行・字) 六・一六 五丁

明治二十五年四月廿七日印刷、明治二十五年四月廿九日出版、「東京本郷區南二葉町三拾老番地」著作者「吉村新七」印刷兼發行者「東京下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎



→ 都鳥男浅妻

□ 花 木母寺由来「第一ばんめ三建め」市村座「都鳥男浅妻」上

→ 都鳥上巻

11・1 (B) 11 (行・字) 10・31 2丁

\* 正本板元高砂町南新道「いがや勘右門」

→ 都鳥二人松若

□ 都鳥二人松若

NO

11・2 (C) 11 (行・字) 4・10 17丁

\* 文字登和記

→ 宮八景「應禱語澤山人述」

□ 宮八景

NO

11・1 (B) 113、7\*16、5 19、2 (行・字) 6・16 4丁

\* 弘化四未季春 名古屋長者丁廣小路上「玉澤屋新七板」

→ 「笑ふ門にはきつと」来る福と云ふ名のある處「昔晰賣の釜」岡鬼太郎著作「岸澤仲助節附」岸澤式佐補助

□ 「教育お伽浄瑠璃」昔晰賣の釜

11・2 釜の昔(五丁)

11・1 (B) 113、11\*15、3 17、8 (行・字) 6・17 7丁

\* 明治三拾九年丙午十一月吉日「千穂萬歳大々叶」

→ 「會我もやうへ判読不能」廓操無間の鐘優「常磐津豊後大掾直傳」作者瀬川如皋 詞

□ 廓操無間の鐘優「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

11・2 むげんのかね(上巻)上七了・下七了(了以外枠あり)

11・2 (B) 11 (行・字) 7・21 16丁

\* a/ 正本板元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印

→ 「新曲」娘頼子

□ 娘頼子「岸澤巳佐吉調」「ふり付西川鯉三郎」

11・2 娘し(巻)式

11・1 (B) 1110、\*15、3 18、3 (行・字) 5・13 4丁

\* 常磐津正本元 玉澤屋新七版

→ 娘頼子

NO



NO

11・1 (B) 二二、〇\*一五、二一七、九 (行・字) 六・一二 四丁  
\*玉澤

ノ娘獅子

ロ [新曲]娘獅子

NO

12・2 (B) 二二、七\*一五、五 (行・字) 五・一一 五丁  
\*〇

ノ [上の巻、大いその、初すか、き] 睦月管絃日 [常磐津文字太夫直傳、作者櫻田治助述]

NO

12・もん日上二 (上六了・下一下五了)

11・2 (B) (行・字) 七・二五 一一丁

\*〇

ノ 思愛險関守 [常磐津小文字太夫直傳、作者奈河本助述]

ロ 宗清 [振り付西川仁蔵]

12・ 險関守老 (六了)

11・1 (B) 二二、〇\*一五、五一九、〇 (行・字) 七・一九 八丁

1・ 名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

ノ 思愛險関守 [常磐津小文字太夫直傳、作者奈河本助述]

ロ 宗清 [正本所玉澤屋]

12・ 險関守老 (六了)

11・2 (B) 二二、六\*一五、二一七、三 (行・字) 七・一九 八丁

\* 玉澤屋版

ノ 思愛險関守 [常磐津小文字太夫直傳、作者奈河本助述]

ロ 宗清 [正本所玉澤屋]

12・ 險関守老 (六了)

11・2 (B) 二二、〇\*一五、四一七、四 (行・字) 七・一九 八丁

\* 常磐津豊後節 正本、常磐津版元 [大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地]、紋、若林芳造、印

ノ 思愛險関守 [常磐津小文字太夫直傳、作者奈河本助述]

ロ 思愛險関守 [鳥居誠画筆]

12・ 險関守一 (八了) (枠あり)

11・1 (B) 二二、二\*一五、六一八、〇 (行・字) 六・一八 一六丁



※ 正本版元坂川平四郎、文政十一年子十一月刊行、明治二四十一年申三月再版 坂川藏版、  
十四年十二月二十日印刷、明治四十四年十二月廿三日発行、常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」補  
述者兼発行者兼印刷者「坂川平四郎」

→ 恩愛險関守「常磐津文字太夫直傳」作者奈河本助述

H0

※2・險関守一（八了）

※1・2 (B) 二二、四\*一五、四 一五、四 (行・字) 六・一八 八丁

※ 文政十一年子十一月刊行、明治四十一年申三月再版 坂川藏板

→ 恩愛險関守「常磐津文字太夫直傳」作者奈河本助述

H0

※2・險関守壹（六了）（枠あり）

※1・2 (B) B (行・字) 七・二五 七丁

※ a/ 正本版元江戸「地本/問屋」へ紋「神田鍛冶町二丁目」いがや勘右衛門へ印

→ 恩愛險関守「常磐津文字太夫直傳」作者奈河本助述

H0

※2・險関守壹（六了）（枠あり）

※1・2 (B) 二二、三\*一四、三 一六、八 (行・字) 七・一九 六丁

※ a/ 正本版元江戸「地本/問屋」へ紋「いがや勘右衛門」へ印

→ 恩愛險関守「常磐津文字太夫直傳」

→ 恩愛險関守「宗清」

※2・宗清一（九了）

※1・2 (B) 二二、三\*一六、〇 一七、〇 (行・字) 六・一六 一〇丁

※ 昭和廿七年三月印刷、昭和廿七年三月十語日発行、常磐津稽古本校訂著作十六世宗家常磐津小文字太夫「東京都中  
央區日本橋呉服橋三丁目老番地」発行者常岡晃「東京都中央區日本橋呉服橋三丁目老番地」印刷者江川堂印刷株式  
會社へ略、發行所定本常磐津刊行會へ略

10

→ 常磐津宗清

H0

※2・2 (B) 二二、一\*一五、四 (行・字) 六・一六 一二丁

H0

→ 恩愛 関守「常磐津文字太夫直傳」作者奈川本助述

→ 恩愛 関守「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎



㊦2・関守老(〱六了)〱梓あり

㊦1・2 (B) B (行・字)七・二四 七丁

㊦慶應三「丁卯」年三月再版 ㊦a/ 正本版元東京「地本」問屋「〱紋」〱人形町通松嶋町」〱さか川平四郎板「印」

㊦恩愛繪関守「常磐津文字太夫直傳」作者奈川本助述

㊦恩愛繪関守「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

㊦2・関守老(〱五了)〱梓あり

㊦1・2 (B) B (行・字)七・二四 七丁

㊦a/ 正本版元東京「地本」問屋「〱紋」〱下谷區谷中清水町老番地」〱さか川平四郎板「印」

㊦恩愛繪関守「常磐津文字太夫直傳」作者奈川本助述

H0

㊦2・繪関守老(〱五了)〱梓あり

㊦1・2 (B) B (行・字)七・二四 五丁

㊦a/ 正本版元東京「地本」問屋「〱紋」〱上野廣小路元黒門町老番地」〱さか川平四郎板「印」

㊦恩愛繪関守

H0

㊦2・繪関守老(〱六了)〱梓あり

㊦1・2 (B) B (行・字)七・二六 六丁

㊦a/ 正本版元江戸「地本」問屋「〱紋」〱いがや勘右衛門原板」〱人形町通松嶋町」〱さか川平四郎板「印」

㊦辰駕色相肩「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

㊦辰駕色相肩「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

㊦2・もどりか(〱上老)〱六了・下1〱六了

㊦1・2 (B) B 二一、二一\*一五、七 一七、六 B (行・字)七・一九 一四丁

㊦竹賀写/ a/ 常磐津正本版元「印刷兼發行者」〱東京下谷區谷中清水町老番地」〱坂川平四郎「印」

㊦辰駕色相肩「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

H0

㊦2・もどりか(〱)〱判読不可〱梓あり

㊦1・2 (B) B (行・字)七・一八 一四丁

H0

㊦辰駕色相肩「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

H0

㊦2・〱判読不可〱

㊦1・2 (B) B (行・字)七・一八 六丁



ハ 辰鴛色相肩「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

ロ 辰鴛色相肩

ア2・モヅリか(上)六了(下)六了

ハ1・1 (ロ) 二一、〇\*一四、七 一八、〇 (行・字) 七・二〇 一三丁

イ 竹賀写ノ 尾張ノ名古屋板元ノ紋ノ菱屋金兵衛ノ印 文林堂ノ印

ハ 「浪花治郎作」東与四郎「辰鴛色相肩」岸澤式治ノ玉澤屋新七ノ板

ロ 辰鴛色相肩「正本所玉澤屋」

ア2・モヅリ一(十二了)

ハ1・2 (ロ) 二一、八\*一五、五 一八、〇 (行・字) 七・一七 一四丁

イ 常磐津豊後節正本ノ常磐津版元「大阪市西區北堀江語池通り二丁目十番地」ノ紋ノ若林芳造ノ印

ハ 「浪花治郎作」東与四郎「辰鴛色相肩」岸澤式治ノ玉澤屋新七ノ板

ロ 辰鴛色相肩

ア2・モヅリ一(十二了)

ハ1・1 (ロ) (行・字) 七・一五 一三丁

イ 2・名古屋長者町ノ廣小路角板元ノ玉澤屋新七

イ

ロ

ア2・モヅリか(下)一(六了)

ハ1・2 (ロ) 一〇、〇\*一四、二 一七、八 (行・字) 七・一三 六丁

オ

ハ 辰鴛色相肩「櫻田治助述」

ロ

ア2・戻りか(上)一(上)六了(下)一(下)六了(枠あり)

ハ1・2 (ロ) (行・字) 七・一八 一二丁

オ

ハ 辰鴛色相肩

ロ 辰鴛色相肩「下」常磐津文字太夫直傳「正本所坂川平四郎」

ア2・モヅリか(下)六了

ハ1・2 (ロ) (行・字) 七・二〇 八丁

イ 竹賀写ノ b/ 正本版元江戸「地本」問屋「新和泉町北がわ」ノ紋ノいがや勘右衛門ノ印



2・もどりか(下) (十五了)

11・2 (B) B (行・字) 七・一八 一五丁

竹賀写

1 「新古演劇」十種之内「辰橋」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節附」古河黙阿弥著述

2 「新古演劇」十種之内「辰橋」明治廿二年十月狂言「第二番目大切

3 「相勤め申候」【歌舞伎座】

4 2・戻はし老(九了) (梓あり)

11・1 (B) 113、0\*15、四 一八、0 B (行・字) 六・一六 一一丁

明治二十三年十二月一日印刷「明治二十三年十二月五日出版」著作者「東京本所區南二葉町三拾老番地」吉村新

七「發行者兼印刷者」東京下谷區上野元黒門町老番地「坂川平四郎

1 「新古演劇」十種之内「辰橋」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節附」古河黙阿弥著述

2 明治廿三年十月狂言「第二番目大切

3 「相勤め申候」【新古演劇】十種之内「辰橋」【歌舞伎座】

4 2・戻はし老(九了) (梓あり)

11・1 (B) 113、0\*15、0 一八、3 B (行・字) 六・一六 一一丁

明治二十三年庚寅十二月吉日坂川蔵版 / 明治二十三年十二月一日印刷「明治二十三年十二月五日出版」常磐津  
正本版元「東京市本所區南二葉町三拾老番地」著作者「吉村新七」東京市下谷區谷中清水町老番地「發行者兼印  
刷者」坂川平四郎印

1 「新古演劇」十種之内「辰橋」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節附」古河黙阿弥著述

2 「新古演劇」十種之内「辰橋」明治廿二年十月狂言「第二番目大切」相勤め申候【歌舞伎座】

3 2・戻はし老(九)

11・1 (B) 113、0\*15、五 一八、5 B (行・字) 六・一六 一一丁

明治二十三年庚寅十二月吉日「大正二年癸丑八月再版」坂川蔵版 / 明治二十三年十二月一日印刷「明治二十  
三年十二月五日出版」著作者「東京本所區南二葉町三拾老番地」吉村新七「發行者兼印刷者」東京下谷區谷中清水町  
老番地「坂川平四郎印

1 「新古演劇」十種之内「辰橋」常磐津小文字太夫直傳「岸澤式佐節附」古河黙阿弥著述

2 「新古演劇」十種之内「辰橋」明治廿二年十月狂言「第二番目大切」相勤め申候【歌舞伎座】

3 2・戻はし老(九)

11・1 (B) 113、0\*15、五 一八、0 B (行・字) 六・一六 一一丁

明治二十三年庚寅十二月吉日「昭和四年乙巳十二月吉日再版」坂川蔵版 / 明治二十三年十二月一日印刷「明治  
二十三年十二月五日出版」著作者「東京市本所區南二葉町三拾老番地」吉村新七「發行者兼印刷者」東京市下谷區谷  
中清水町老番地「坂川平四郎印



ノ「新古演劇」十種之内「辰橋」

口常磐津辰橋

ア0

ニ2・2 (甲) 二一、七\*一五、五一七、八四 (行・字) 六・一六 一〇丁

イ0

ノ「新古演劇」十種之内「辰橋」常磐津小文字太夫直傳、岸澤式佐節付、古河黙阿弥著述

口「明治卅三年十月狂言」第二晚目大切、相勤め申候、「新古演劇」十種之内「辰橋」歌舞伎座、鳥居清満画

ア2・辰ばし巻(九)へ枠あり

ニ1・1 (甲) 五 (行・字) 六・一五 一一丁

イ「明治二十三年庚寅十二月吉日」昭和十二年十月再々版、坂川蔵版、a、明治二十三年十二月一日印刷、明治二十三年十二月五日出版、常磐津正本版元、「著作者」東京市本所區二葉町三拾壹番地、「吉村新七」發行者兼印刷者、「東京市下谷區谷中清水町壹番地」坂川平四郎

ノ「新古演劇」十種之内「辰橋」常磐津文字太夫直傳

口辰橋

ア2・もどり橋(九)

ニ1・2 (甲) 二三、四\*一五、八一七、〇五 (行・字) 六・一六 一二丁

イ「昭和三十一年六月五日印刷」昭和三十一年六月十日發行、常磐津稽古本(定本常磐津刊行會本)

ノ「新曲」紅葉狩「常磐津文字太夫直傳」個人河竹黙阿弥著作

口「明治二十年十月狂言」中幕に相勤申候「新曲」紅葉狩、新富座「正本所坂川平四郎」

ア2・紅葉狩巻(十一)へ枠あり

ニ1・1 (甲) 五 (行・字) 六・一四 一三丁

イ「明治四十年丁未」十一月吉日、坂川蔵版、a、明治四十年十二月二日印刷、明治四十年十二月五日發行、常磐津正本版

元「版權興行権」所有者、「東京市本所區南二葉町卅壹番地」吉村糸、「印刷兼發行者」東京下谷區谷中清水町壹番地、「坂川平四郎」印

ノ紅葉雲錦釣夜春「作者櫻田治助」

口0

ア2・判読不可

ニ1・2 (甲) 五 (行・字) 七・一六 二四丁

イ0

ノ「八百屋お七」小性吉三「江戸鴛鴦の夫戀」宮古路豊後直傳

口0

ア1・江戸かのか巻(十一終)



11・2 (B) 田 (行・字)七・三四 一一丁  
オ

1 〔八百屋お七ノ小性吉三〕時鳥夢路戀

ロ 〔八百屋お七〕吉祥院のだん上

ハ 八百屋お七巻(一六了)

11・1 (B) 田 (行・字)六・一八 七丁

オ1・名古屋長者町ノ廣小路角板元ノ玉澤屋新七

1 〔おどるかしまノとても神代のノやつしこと〕八百萬園生梅枝〔常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助述〕

ロ 八百萬園生梅枝〔常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎〕

ハ2・八百萬上巻(一八了)ノ梓あり

11・2 (B) 11・0\*14、三 一八、0田 (行・字)七・二〇 一〇丁

オ1/ 正本版元東京〔地本ノ間屋〕上野廣小路元黒門町老番地〔紋ノさか川平四郎板ノ印〕

1 〔おどるかしまノとても神代のノやつしこと〕八百萬園梅枝〔常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助述〕

ロ 八百萬園梅枝〔常磐津文字太夫直傳ノ正本所坂川平四郎〕

ハ2・八百萬上巻(一八了)ノ梓あり

11・2 (B) 田 (行・字)七・二二 一五丁

オ2/ 正本版元江戸〔地本ノ間屋〕ノ紋ノ「いがや勘右衛門原板ノ人形町通松嶋町」ノさか川平四郎板ノ印

1 屋敷娘(五節句所作事の内)

ロ 〔常磐津〕屋敷娘

オ

11・2 (B) 11・0\*16、一 一六、六田 (行・字)五・一二 九丁

オ筆者 澤田春

1 八重九重花姿繪ノ狂乱〔九変化之内〕

ロ 九変化の内〔保名狂乱〕〔尾上多見蔵〕

ハ2・狂乱巻(一四)

11・1 (B) 11・11、六\*15、九 一七、三田 (行・字)六・一〇 五丁

オ天保十二年〔辛丑〕七月狂言

1 奴唄〔常磐津文字太夫直傳〕

ロ 奴唄

ハ2・奴唄巻(一二了)ノ梓あり

11・1 (B) 田 (行・字)六・二二 二二丁

オ 正本版元坂川ノ 明治十五年十月再版ノ正本版元東京〔地本ノ間屋〕ノ紋ノ「上野公園地前廣小路西側」ノ上野元黒門町老



ナ「山崎与次兵衛ノふぢやあづま」寿門松「将某の段」

ロ「山崎与次兵衛ノ藤屋あづま」将某の段「上」常磐津文字太夫直傳ノ正本所伊賀屋勘右門板

ナ2・せうぎ上一(〜六了)

ニ1・2 (B) 二〇一\*一四、四 一七、五B (行・字) 七・一七 八丁

キa/ 正本版元江戸「地本ノ間屋」[「*ニミヤ*」ノ紋]いがや勘右衛門へ印

イ0

ロ「山崎与次兵衛ノ藤屋あづま」升落の段「下」常磐津文字太夫直傳ノ正本所伊賀屋勘右衛門板

ナ2・升落し下一(〜六了)

ニ1・2 (B) 二二、三\*一四、八 一七、二B (行・字) 七・二一 八丁

キa/ 正本版元江戸「地本ノ間屋」[「神田鍛冶町式丁目」ノ紋]いがや勘右衛門へ印

ナ 山さぎ与次兵衛上之巻・山崎与次兵衛酒酔の段

ロ「山崎与次兵衛ノ藤屋あづま」壽門松「常磐津文字太夫直傳ノ正本所伊賀屋勘右門板」

ナ1・山さぎ上一(〜上八終) 2・山崎上切一・山崎二(〜六了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・三二 一五丁

キ0

ナ「山崎与次兵衛ノふぢやあづま」壽門松「将某の段」

ロ0

ナ2・せうぎ上一(〜上六了・下一〜下六了)へ梓あり

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・一九 一三丁

キ0

ナ「山崎与次兵衛ノ藤屋あづま」升落しの段

ロ0

ナ2・升落し上一(〜上六了・下一〜下六了)

ニ1・2 (B) B (行・字) 七・二四 一三丁

キa/ 正本版元江戸「地本ノ間屋」[「神田鍋町」ノ紋]いがや勘右衛門へ印

ナ 倭假名色七文字「岸澤式治ノ玉澤屋新七」

ロ「倭假名色七文字」糸びら源太

ナ2・源太老(〜五)

ニ1・1 (B) 二二、九\*一六、〇 一八B (行・字) 六・一六 六丁

キ1・板元ノ名古ノ廣小路ノ玉澤屋新七



ハ 倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」〔常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述〕

ロ

ニ・七もじ老（〜四）ハ控あり

ニ一・二 (B) 二一、一\*一四、二一七、三B (行・字) 七・一六 五丁

ホ a/ 正本版元東京「地本／問屋」〔上野廣小路元黒門町老番地〕ハ紋／さか川平四郎板ハ印

ハ 倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」〔常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述〕・桃太郎

ロ 倭假名色七文字「常磐津文字太夫直傳／正本所伊賀屋勘右門板」

ニ・七もじ老（〜六了）ハ控あり

ニ一・二 (B) 二〇、七\*一四、六一七、八B (行・字) 七・一六 七丁

ホ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〔神田鍛冶町式丁目〕ハ紋／いがや勘右衛門ハ印

ハ 倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」〔常磐津文字太夫直傳／櫻田治助述〕・桃太郎〔常磐津文字太夫直傳／福森久助述〕

ロ 倭假名色七文字「常磐津文字太夫直傳／正本所伊賀屋勘右門板」

ニ・七もじ老（〜六了）ハ控あり

ニ一・二 (B) B (行・字) 七・一八 八丁

ホ 竹賀写ノ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〔ミヅ、カゲル〕ハ紋／いがや勘右衛門ハ印

ハ 倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」〔常磐津文字太夫直傳／櫻田治助述〕・桃太郎〔常磐津文字太夫直傳／福森久助述〕

ロ 倭假名色七文字「常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

ニ・七もじ老（〜六了）ハ控あり

ニ一・二 (B) B (行・字) 七・一八 八丁

ホ 文久癸酉六月再板／竹賀写ノ a/ 正本版元「神田鍛冶町二丁目」ハ紋／いがや勘右衛門ハ印

ハ 倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」〔常磐津文字太夫直傳／櫻田治助述〕

ロ 倭假名色七文字「常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

ニ・七もじ老（〜四了）ハ了以外控あり

ニ一・二 (B) B (行・字) 七・一八 六丁

ホ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〔人形町通松嶋町〕ハ紋／さか川平四郎板ハ印

ハ 倭假名色七文字「常磐津文字太夫直傳／櫻田次助述」

ロ

ニ 源太老（〜四）ハ控あり

ニ一・二 (B) B (行・字) 七・一八 四丁

ホ



ハ倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」〔常磐津文字太夫直傳／＼作者櫻田治助述〕・桃太郎

ロ

ハ2・源太吉（四）

ハ1・2（ロ）ロ（行・字）七・一八 六丁

オ

ハ桃太郎〔常磐津文字太夫直傳／＼福森久助述〕

ロ

ハ七もじ五（六了）／＼梓あり

ハ1・2（ロ）ロ（行・字）七・一八 三丁

オ竹賀写ノハ江戸〔地本／＼問屋〕／＼紋／＼正板元〔大傳馬式〕／＼いがや勘右衛門／＼印

ハ倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」

ロ

ハ

ハ2・2（ロ）ロ（行・字）七・二一 四丁

オ

ハ倭假名色七文字「七へんげの内／＼びら」 桃太郎〔作者福森久助述〕

ロ

ハ2・七文字巻（三）・七文じ四（五）・七文字六了

ハ1・2（ロ）ロ（行・字）七・二〇 六丁

オ

ハ倭假名色七文字「七へんげの内／＼梶原源太」

ロ

ハ2・／＼判読不可

ハ1・2（ロ）ロ（行・字）六・一八 六丁

オ

ハ倭假名色七文字〔常磐津文字太夫直傳／＼作者櫻田次助述〕

ロ〔常磐津文字太夫直傳〕／＼／＼源太／＼〔作者福森久助述〕

ハ2・源太吉（四）／＼梓あり

ハ1・2（ロ）ロ（行・字）七・一九 四丁

オ

ハ大和文字戀の歌〔常磐津文字太夫直傳／＼作者櫻田治助述〕

ロ大和文字戀の歌〔上〕〔常磐津文字太夫直傳／＼伊賀屋勘右衛門板〕



2・大和もじ上巻(六了)  
11・2 (B) 田 (行・字) 七・一八 八丁  
4a/ 正本版元江戸「地本問屋」「大傳馬町式丁目」へ紋いがや勘右衛門へ印

10

ロ 大和文字戀の歌「下」「常磐津文字太夫直傳」伊賀屋勘右衛門板  
2・大和もじ下巻(下五了)  
11・2 (B) 田 (行・字) 七・一八 七丁  
4a/ 正本版元江戸「地本問屋」へ判読不可へ紋いがや勘右衛門へ印

ハ 大和文字戀の歌「常磐津文字太夫直傳」作者櫻田治助述

10

2・大和もじ上巻(六了・下巻(下五了))  
11・2 (B) 田 (行・字) 七・一八 一一丁  
4a/ 常磐津正本版元「印刷者兼」發行者「東京市下谷區谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印

ハ 山廻四季詠

ロ 山廻四季詠「振付西川鯉三郎」

2・山廻り巻(式了)

11・1 (B) 110、九\*一五、〇 一七、五田 (行・字) 五・一二 二丁  
4 正本版元「玉沢屋」新七 / 明治廿六年式月五日印刷「同年同月同日出版」愛知縣名古屋市下長者町四丁目百廿五番  
戸」佐々新七

ハ 山廻四季詠

ロ 山廻四季詠「振付西川鯉三郎」

2・山廻り巻(式了)

11・1 (B) 111、一\*一五、五 一七、五田 (行・字) 五・一二 一丁  
4 正本版元「玉沢屋」新七 / 佐々新七

10

10

2・判読不可

11・2 (B) 田 (行・字) 七・二二 一三丁  
4 0

10

10

10



二2・2 (甲) 乙 (行・字) 五・一五 二〇丁

オ

ハ 禿紋日髷形「岸沢式治」玉沢屋新七「板」

ロ 弥生あわしま

ニ2・あわしま巻(七七了)

二1・1 (甲) 二二、四\*一五、八 一六、六 乙 (行・字) 六・一六 八丁

オ1・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ「五せつくの内」弥生「禿紋日髷形」常磐津文字太夫直傳「作者瀬川如臯述」

ロ

ニ2・もん日一(七七了)

二1・2 (甲) 乙 (行・字) 六・一四 八丁

オa/ 正本版元江戸「地本」問屋「いがや勘右衛門原板」紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎板「印」

ハ「五せつくの内」弥生「禿紋日髷形」常磐津文字太夫直傳「作者瀬川如臯述」

ロ 禿紋日髷形「常磐津文字太夫直傳」正本所坂川平四郎

ニ2・もん日一(七七了)

二1・2 (甲) 乙 (行・字) 六・一四 九丁

オa/ 正本版元東京「地本」問屋「紋」人形町通松嶋町「さか川平四郎板」印

ハ 弥生の花浅草祭り「玉澤屋新七板」

ロ 高砂「漁師」振り附西川鯉三郎「三味線岸沢式寿」

ニ2・みざほ三(七五)

二1・1 (甲) 二二、〇\*一五、四 一七、三 乙 (行・字) 六・一九 四丁

オ2・名古屋長者町「玉沢屋新七」廣小路角板元

ハ 其扇屋浮名戀風「岸沢式治」玉沢屋新七

ロ 「夕ぎり」伊左衛門「其扇屋浮名戀風」

ニ2・夕ぎり上巻(七七・下巻)下九了)

二1・1 (甲) 二二、〇\*一五、二 一七、五 乙 (行・字) 七・一七 一六丁

オ板元・名古屋廣小路「玉澤屋新七」

ハ 其扇屋浮名戀風「岸沢式治」玉沢屋新七

ロ 其扇屋浮名戀風「正本所玉澤屋」

ニ2・夕ぎり上巻(七七・下巻)下九了)

二1・2 (甲) 二二、八\*一五、九 一七、五 乙 (行・字) 七・一七 一七丁

オ 常磐津豊後節正本「常磐津版元」大阪市西區北堀江御池通り二丁目十番地「紋」若林芳造「印」



ハ其扇屋浮名戀風

ロ其扇屋浮名戀風〔常磐津太夫直傳〕〔手書〕

ㇿ2・夕ぎり上巻(〓七了)

ㇿ1・2 (㉔) 二一、〇\*一四、二一七、九cm (行・字) 七・一七 九丁

ㇿb/ 正本元〔大傳馬町二丁目〕ハ紋ハいがや勘右衛門ハ印ハ

ㇿ0

ㇿ0

ㇿ2・夕ぎり下巻(〓八了)

ㇿ1・2 (㉔) 二一、〇\*一四、四一八、四cm (行・字) 七・一八 九丁

ㇿa/ 正本版元江戸〔地本/問屋〕〔神田鍋町〕ハ紋ハいがや勘右衛門ハ印ハ

ハ其扇屋浮名戀風〔上〕

ロ其扇屋浮名戀風〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎〕

ㇿ2・夕ぎり上巻(〓七了)

ㇿ1・2 (㉔) 二一、〇\*一三、九一八、〇cm (行・字) 七・一三 九丁

ㇿa/ 正本版元東京〔地本/問屋〕〔下谷區谷中清水町老番地〕ハ紋ハさか川平四郎板ハ印ハ

ハ其扇屋浮名戀風

ロ其扇屋浮名戀風〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎〕

ㇿ2・夕ぎり上巻(〓七了)・下巻(〓八了)

ㇿ1・2 (㉔) 二〇、八\*一四、二一八、〇cm (行・字) 七・二〇 一七丁

ㇿ 東都板元/南傳馬町老丁目ハ紋ハ高屋吉蔵/同所ハ紋ハ吉野屋勝五郎

ハ其扇屋浮名戀風

ロ〔夕ぎり/伊左衛門〕其扇屋浮名戀風

ㇿ0

ㇿ2・2 (㉔) 二四、五\*一七、〇cm (行・字) 六・一四 一一丁

ㇿ0

ハ其扇屋浮名戀風

ㇿ0

ㇿ2・夕ぎり下二(〓八了)ハ二丁以外枠ありハ

ㇿ1・2 (㉔) ㉔ (行・字) 七・二〇 八丁

ㇿ0

ㇿ0



ロ 其扇屋浮名戀風〔下〕〔常磐津文字太夫直傳〕伊賀屋勘右衛門板

ㄣ2・夕ぎり下巻(く八了)へ梓あり

ㄣ1・2 (B) B (行・字)七・二〇 一一丁

ㄣa/ 正本版元江戸〔地本〕問屋〔へ紋〕〔神田鍋町〕いがや勘右衛門へ印

ハ 其扇屋浮名戀風

ロ

ㄣ2・夕ぎり上巻(く上七了・下巻)上八了(へ梓あり)

ㄣ1・2 (B) B (行・字)七・二〇 一五丁

ホ

ハ 其扇屋浮名戀風〔上〕

ロ 其扇屋浮名戀風〔上下〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

ㄣ2・夕ぎり上巻(く七了・下巻)八了(へ梓あり)

ㄣ1・2 (B) 二二、三\*一五、三一八、〇 (行・字)七・一三 一七丁

ㄣa/ 正本版元東京〔地本〕問屋〔下谷區谷中清水町老番地〕へ紋さか川平四郎板へ印

ハ 其扇屋浮名戀風

ロ 其扇屋浮名戀風〔下〕〔常磐津文字太夫直傳〕伊賀屋勘右衛門板

ㄣ2・夕ぎり上巻(く上七了・下巻)上八了(へ梓あり)

ㄣ1・2 (B) B (行・字)七・二〇 一七丁

ㄣb/ 正本版元〔高砂町南新道〕いがや勘右衛門へ印

ハ 其扇屋浮名戀風

ロ

ㄣ2・夕ぎり上巻(く七了)へ巻・式以外梓あり

ㄣ1・1 (B) B (行・字)七・二〇 七丁

ホ

ハ 其扇屋浮名戀風

ロ 其扇屋浮名戀風〔上〕〔常磐津文字太夫直傳〕伊賀屋勘右衛門板

ㄣ2・夕ぎり上巻(く七了)へ梓あり

ㄣ1・1 (B) B (行・字)七・二〇 九丁

ㄣa/ 正本版元江戸〔地本〕問屋〔へ紋〕〔神田鍋町〕いがや勘右衛門へ印

ホ

ロ 其扇屋浮名戀風〔下〕〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎

ㄣ2・へ判読不可



二1・2 (三) 三 (行・字) 七・二一 九丁  
字0

ハ其扇屋浮名戀風

ロ其扇屋浮名戀風「上」〔常磐津文字太夫直傳〕正本所坂川平四郎〕

二2・ハ判読不可

二1・2 (三) 三 (行・字) 七・二一 八丁  
字0

ハ夕霧阿波鳴渡〔常磐津文字太夫直傳〕

字0

二2・

二1・2 (三) 三 (行・字) 七・二二 一五丁  
字0

ハ其扇屋浮名戀風

ロ其扇屋浮名戀風「夕ぎり」伊左衛門〕

二2・夕ぎり上巻(上七了・下巻)下九了(ハ粹あり)

二1・1 (三) 三 (行・字) 六・一五 一七丁

ハ名古屋板元ハ紋ハひしや金兵衛

ハ懷花郭馴園〔作者中村重助〕

ハ欠(合綴の際切とられた)

二1・2 (三) 二〇、九\*一四、六一八、三三 (行・字) 六・一〇 一一丁  
字0

字0

二0

二2・馴園下一(ハ八)

二1・2 (三) 三 (行・字) 六・一四 八丁  
字0

ハけいせいハ奥女中ハ子守

ロ紫扇の交張「五節句の内ハけいせいハ奥女中ハ子もり」

二2・扇交張一(ハ五)

二1・1 (三) 二二、七\*一五、五一六、二三 (行・字) 七・一五 六丁

ハ名古屋板元ハ紋ハひしや金兵衛



ハ「正月」けいせい、「三月」奥女中、「新子もり」

ロけいせい、奥女中、新子もり

ニ2・扇交張巻(〜五)

ハ1・1 (四) 二二、九\*一五、六一七、九四 (行・字) 七・二〇 六丁

イ1・板元、長者町筋、玉澤屋新七、廣小路角

ハ雪嵐卯花籠

ロ〇

ニ2・卯花巻(〜重了)

ハ1・2 (四) 二〇、九\*一四、六一八、二四 (行・字) 七・一四 一〇丁

イ〇

ハ「狩野雪姫」北条力之助「傳授の雲龍」

ロ「狩野雪姫」北条力之助「傳授の雲龍」

ニ2・判読不可

ハ1・2 (四) 四 (行・字) 七・一八 一〇丁

イ〇

ハ「請地の参詣」七回祀、靈地の参拝「七福詣」豊文字名譽三圍「常磐津小文字太夫直傳」岸澤式左節附「三世河竹新七著述」

ロ「請地の参詣」七回祀、靈地の参拝「七福詣」豊文字名譽三圍「十二代目、常磐津小文字太夫」

ニ2・七福詣巻(〜三)

ハ1・1 (四) 二二、九\*一五、五一八、〇四 (行・字) 六・一一 五丁

イ明治三十二年亥、九月吉日、庭吹秋書、印、明治三十二年九月十一日印刷、明治三十二年九月十五日發行、「東京

浅草區馬道町二丁目十二番地、河竹新七事、「著作者」竹柴金作、「東京下谷區上野元黒門町老番地」印刷兼發行者「坂

川平四郎」紋

ハ豊文字名譽三圍

ロ「常磐津」豊文字名譽三圍

イ〇

ニ2・2 (四) 二二、六\*一五、四一六、八四 (行・字) 四・一〇 八丁

イ筆者 澤田春

ハゆめの繪合「木村紅粉助述」

ロ「追善」浄瑠璃「ゆめの繪合」

イ〇

ニ1・1 (四) 四 (行・字) 五・一二 二丁

イ正板元、高砂町南新道、いがや勘右門



10

ロ [夢結時の蝶／傾誠音羽の瀧]古寫本

10

11・2 (ロ) 四 (行・字) 七・一四 八丁

10

ハ [義経／千本]狐忠信御殿の段[佐々木市藏調／玉沢屋新七板]

ロ [義経千本櫻]狐忠信／御殿之段

12・きつね一(ハ上九)

11・1 (ロ) 11・1\*1五、四 一九、七cm (行・字) 六・一四 一〇丁

11・1 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ハ 戀鼓調懸良[岸澤古式部直傳]

10

12・忠信御てん巻(七了)

11・1 (ロ) 11・1、八\*1五、九 一八、四cm (行・字) 六・一七 九丁

11・1 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元 名古屋市中區中町二丁目廣小路半町下玉澤や

ハ 戀鼓調懸良[岸澤古式部直傳]

10

12・忠信御てん巻(ハ上四了)

11・1 (ロ) 11・1、七\*1五、〇 一八、五cm (行・字) 六・一七 四丁

11・1 慶應四[戊辰]正月辰日出版 1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

10

12・忠信御てん五(ハ七了)

11・1 (ロ) 11・1、〇\*1五、五 一八、二cm (行・字) 六・一四 四丁

11・1 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

11・1 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

10

12・忠信御てん五(ハ七了)

11・1 (ロ) 11・1、七\*1五、〇 一八、五cm (行・字) 六・一七 四丁

11・1 名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

11・1 名古屋市中區中町二丁目廣小路半町下玉澤や(朱印)

ハ [花も吉野のハ判読不可]大狐[戀鼓調懸良]常磐津小文字太夫直傳[岸澤式佐節付]



110

12・戀のはしね巻(六了)〈枠あり〉

11・2 (B) B (行・字) 六・二〇 七丁

a/ 常磐津正本版元「發行兼印刷者」〔東京市下谷區谷中清水町老番地〕坂川平四郎印

義経千本櫻初音鼓の段

110

12・

11・2 (B) B (行・字) 七・二六 一二丁

110

千本桜道行「岸澤式治／玉沢屋新七板」

戀中車初音の旅「千本桜」道行のだん

12・千本一(十二了)

11・1 (B) 11・1、\*1五、五 一七、六 B (行・字) 六・一五 一三丁

1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

千本桜道行「戀中車初音の旅」常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述

110

12・中車上一(六了)〈枠あり〉

11・2 (B) B (行・字) 六・一四 七丁

a/ 正本版元江戸紋「判読不能」いがや勘右衛門紋

千本桜道行「戀中車初音の旅」常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述

戀中車初音の旅「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

12・中車上一(六了)・下一(六了)〈枠あり〉

11・2 (B) B (行・字) 六・一四 一四丁

a/ 正本版元東京「地本／問屋」いがや勘右衛門原板紋「人形町通松嶋町」さか川平四郎板印

千本桜道行「戀中車初音の旅」常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述

戀中車初音の旅「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

12・中車上一(六了)〈枠あり〉

11・2 (B) 11・1、\*1三、六 一七、〇 B (行・字) 六・一五 八丁

a/ 正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地「紋」さか川平四郎板印

千本桜道行「戀中車初音の旅」常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述

戀中車初音の旅「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

12・中車上一(六了)〈枠あり〉



二1・2 (B) 四 (行・字) 六・一四 八丁

※明治十九年戊三月再版／坂川版／  
a/ 正本版元東京「地本／問屋」へ紋／「上野廣小路元黒門町老番地」／さか川平四郎板  
へ印

へ「千本櫻」道行「戀中車初音の旅」常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述

ロ 戀中車初音旅「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎

ニ2・中車上一(六了)へ梓あり

二1・2 (B) 四 (行・字) 六・一七 八丁

キa/ 正本版元東京「地本／問屋」へ紋／「人形町通松嶋町」／さか川平四郎板へ印

一〇

二〇

ニ2・中車下巻(六了)へ梓あり

二1・2 (B) 四 (行・字) 六・一四 六丁

キa/ 正本版元へ紋／「大傳馬町二丁目」／いがや勘右衛門へ印

一〇

二〇

ニ2・中車下巻(六了)へ梓あり

二1・2 (B) 四 (行・字) 六・一四 六丁

キa/ 正本版元江戸「地本／問屋」へ紋／「判読不能」／いがや勘右衛門へ印

一〇

ロ 戀中車初音旅「下」常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右衛門板

ニ2・中車下巻(六了)へ梓あり

二1・2 (B) 四 (行・字) 六・一四 八丁

キa/ 正本版元江戸「地本／問屋」へ紋／「神田鍛冶町式丁目」／いがや勘右衛門へ印

一〇

ロ 「きつね」忠のぶ「戀中車初音の旅」常磐津稽古本／芳野屋勝五郎板

ニ2・中車下巻(六了)へ梓あり

二1・2 (B) 四 (行・字) 六・一四 七丁

キ 正本版元へ紋／「南傳馬町二丁目」／芳野屋勝五郎へ紋／「同町」／萬屋吉蔵

一〇

二〇

ニ2・中車巻(六了)へ梓あり

二1・2 (B) 二〇、九、一四、〇、一七、三 四 (行・字) 六・一四 七丁



※ a/ 正本版元江戸「地本／問屋」〔「ミナチ」〕へ紋いしがや勘右衛門へ印

10

□ 戀中車初音旅「下」〔常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

※ 2・中車下1(〜六了)

※ 1・2 (B) 二〇、一\*一三、六一七、〇B (行・字) 六・一五 八丁

※ a/ 正本版元東京「地本／問屋」〔上野廣小路元黒門町老番地〕へ紋さか川平四郎板へ印

10

□ 戀中車初音旅「下」〔常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

※ 2・中車下1(〜六了)へ枠あり

※ 1・2 (B) B (行・字) 六・一七 八丁

※ a/ 正本版元東京「地本／問屋」〔紋〕／「人形町通松嶋町」／さか川平四郎板へ印

□ 千本桜／道行「戀中車初音の旅」〔常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述〕

10

※ 2・中車上1(〜上六了・下1〜下六了)へ枠あり

※ 1・2 (B) B (行・字) 六・一四 一二丁

10

□ 千本桜／道行「戀中車初音の旅」〔常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述〕

□ 戀中車初音旅「中」〔常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎〕

※ 2・中車上1(〜上六了・下巻〜下六了)へ枠あり

※ 1・2 (B) B (行・字) 六・一四 一四丁

※ 明治十七年八月再版／B 正本版元東京「地本／問屋」〔紋〕／「上野廣小路元黒門町老番地」／さか川平四郎板へ印

□ 千本桜／道行「戀中車初音の旅」〔常磐津文字太夫直傳／作者福森久助述〕

10

※ 2・中車上1(〜上六了・下巻〜下六了)へ枠あり

※ 1・2 (B) B (行・字) 六・一五 一三丁

※ へ上巻／明治十九年戊二月再版／坂川版／へ下巻／明治十七年八月再版／B 正本版元東京「地本／問屋」〔紋〕／「下谷區  
谷中清水町老番地」／さか川平四郎板へ印

□ 千本桜／道行「恋中車初音の旅」〔常磐津文字太夫直傳／福森之助述〕

□ 恋中車初音の旅「千本桜／道行」

※ 2・中車上1(〜上六了・下巻〜下六了)

※ 1・1 (B) B (行・字) 六・一五 一三丁

※ 名古屋板元へ紋ひしや金兵衛



ノ「恋中車初音の旅」〈添紙〉

二〇

二二・吉・式

二二・二 (甲) 四 (行・字) 六・一六 四丁

二〇

ノ千本桜

二〇

二〇

二二・二 (甲) 四 (行・字) 四・一〇 一一丁

ノ文字登和記

ノ義経千本櫻

二〇「常磐津」義経千本櫻

二〇

二二・二 (甲) 二二・〇\*一六、一 一六、五 四 (行・字) 五・一一 六丁

二〇

二〇

二〇 義経仙本櫻「臺四段目の口」/「常磐津浄瑠璃の内」/「色競つくものけん」/「河原崎座」/「二耀齋芳玉女面想」  
二一・けん一(〜四)

二一・一 (甲) 四 (行・字) 七・一八 四丁

二 弘化四未九月 板元へ紋へ「田所町」小川半助

ノ「頃」長月中旬/なかに段くと/ばかり花の「吉野莖山雪振事」常磐津文字太夫直傳/作者櫻田治助述

二 儀衛成波鱸/「頃」長月中旬/なかに段くと/ばかり花の「吉野莖山雪振事」上/市村座・儀衛成波鱸/「頃」長月中旬/なかに段くと/ばかり花の「吉野莖山雪振事」  
二 雪ふり事(〜式)

二一・一 (甲) 四 (行・字) 一一・二九 四丁

二 へ上巻へ正本板元「神田鍋町」いがや勘右門・へ下巻へ天保十一子年九月吉日/市村座

ノ「頃」長月中旬/なかに段くと/ばかり花の「吉野莖山雪振事」常磐津文字太夫直傳/作者櫻田治助述

二 吉野莖山雪振事「上」常磐津文字太夫直傳/伊賀屋勘右門板

二 吉野山上巻(〜七了)へ梓あり

二一・二 (甲) 四 (行・字) 七・二〇 九丁

二 a/ 正本版元江戸「地本問屋」神田鍋町へ紋へいがや勘右衛門へ印



10

ロ 吉野塾山雪振事〔下〕常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右門板

ハ 吉野山下巻（八）（八丁）（梓あり）

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二〇 一〇丁

キ a) 正本版元江戸〔地本問屋〕神田鍋町／紋いしがや勘右衛門印

イ 四つ谷怪談〔上の巻〕

ロ 四つ谷怪談／上の巻

ニ2・四つ谷巻（九丁）

ニ1・1 (ロ) 二二・九\*一四、九 一六、三 四 (行・字) 六・一六 一〇丁

キ 表紙

ニ 岸澤式壽斎〕／2・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

イ 淀染三鷹金

ロ

ハ ちびさめ一（七）

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・一七 九丁

キ b) 〔するがや文右衛門〕／江戸版元〔もとはま町〕いしがや勘右衛門印

10

ロ けいせい優會我〔第三ばんめ〕〔相座〕〔後日〕世尊翼雪解

ハ

ニ1・1 (ロ) 四 (行・字) 〇 〇丁

キ 正本版元／高砂町／南新道／いしがや勘右門

イ 世尊翼雪解〔瀬川如息述〕

ロ

ニ2・世の噂巻（八）（梓あり）

ニ1・2 (ロ) 四 (行・字) 七・二四 九丁

キ

ハ 〔天の網嶋／浄るりに／もつきて〕夜鶴思雪解〔常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述〕

ロ

ニ2・おもひの雪どけ巻（八丁）

ニ1・2 (ロ) 二〇、八\*一四、〇 一七、七 四 (行・字) 七・一九 九丁

キ a) 正本版元江戸〔地本／問屋〕神田鍛冶町式丁目／いしがや勘右衛門印



ハ「天の網嶋／浄るりに／もとづきて」夜鶴想雪解「常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述」

ロ夜鶴想雪解「常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

ヌ・ユゑのつるぎ（～八丁）

ニ・一・二 （四） 二一、二\*二四、一 一七、五 〇 （行・字）七・一九 一〇丁

キ a/ 正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地」ハ紋／さか川平四郎板ハ印

ハ夜の鶴雪笈「常磐津兼太夫直傳／作者福森久助述」

ロ〇（剝落）

ヌ・ユゑのつるぎ（～七丁）

ニ・一・二 （四） 二一、三\*二四、五 一八、〇 〇 （行・字）七・一八 九丁

キ b/ 正本版元「両国橋通り 舟町二丁目」ハ印／いがや勘右衛門ハ印

ハ夜の鶴雪笈「常磐津文字太夫直傳／福森久助述」

ロ夜の鶴雪笈「常磐津文字太夫直傳／伊賀屋勘右門版」

ヌ・ユゑのつるぎ（～七丁）

ニ・一・二 （四） 〇 （行・字）七・二〇 一〇丁

キ b/ 正本版元「大傳馬町二丁目」ハ印／いがや勘右衛門ハ印

ハ夜の鶴雪笈「常磐津文字太夫直傳／福森久助述」

ロ〇

ヌ・ユゑのつるぎ（～七丁）ハ印あり

ニ・一・二 （四） 〇 （行・字）七・二〇 八丁

キ b/ 正本版元江戸ハ地本／問屋」ハ判読不可」二丁目」ハ紋／いがや勘右衛門ハ印

ハ夜の鶴雪笈「常磐津兼太夫直傳／作者福森久助述」

ロ〇

ヌ・ユゑのつるぎ（～七丁）

ニ・一・二 （四） 〇 （行・字）七・二二 八丁

キ a/ 常磐津正本版元「印刷者兼／發行者」東京市下谷區谷中清水町老番地」ハ坂川平四郎ハ印

ハ「常磐津節」夜の鶴雪笈「ひらがなけいこ本／小山田太郎高家／呉羽前」

ロ夜の鶴雪笈「常磐津稽古本／芳野屋勝五郎板」

ヌ・ユゑのつるぎ（～七丁）ハ印あり

ニ・一・一 （四） 〇 （行・字）七・二四 九丁

キ「板元／南傳馬町一丁目」芳野屋勝五郎 東部板元ハ紋／「南傳馬町老丁目」芳野屋勝五郎ハ紋／「同町」／高屋吉蔵

ハ夜の鶴雪毛衣



口「往昔傳話」夜農編「東部／常磐津文字太夫／岸澤古式部／直傳」

no

112・2 (四) 二三、三\*一六、五 cm (行・字) 六・一九 八丁

no

ノ 夜の鶴

口 夜の鶴

no

112・2 (四) 二三、三\*一六、八 cm (行・字) 五・一三 一一丁

no

ノ「喜撰法師／大伴黒主」六歌仙花彩

口 六歌仙花彩／喜撰

112・六かせん三(七)

111・1 (四) 二二、〇\*一五、五 一七、二 cm (行・字) 七・二三 五丁

111・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ノ「世にふる双帯の／詠くせを／常磐の色に／淡ひとて」六歌仙花彩「岸澤式治／玉沢屋新七／板」・小町業平  
口 六歌仙花粉「大切所作事」清壽院芝居

二面]

112・六歌仙老(五)

111・1 (四) 二二、五\*一五、三 一七、四 cm (行・字) 六・一七 六丁

111・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

ノ 六歌仙花彩

口 六歌仙花粉「大切所作事」

no

112・2 (四) 二四、四\*一六、五 cm (行・字) 六・一七 六丁

no

ノ

口 若木花容彩四季「下」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

112・若木花下巻(六了) へ枠あり

111・2 (四) 二二、三\*一四、一 一八、五 cm (行・字) 七・二四 八丁

111・天保九「戊戌」年春狂言／ 正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地」へ紋／さか川平四郎板へ印

ノ 若木花容彩四季

口 若木花容彩四季



2・そが巻(十了)

1・1 (B) 二二、八\*一六、〇 一八、六 (行・字) 六・一六 一一丁

\* 安政五[午]十一月出版、千秋萬歳大々叶、  
1・名古屋長者町、玉沢屋新七、廣小路角板元

1「御ひるきの釣鼠、爰に召されて、庵の春」若木花容彩四季「常磐津文字太夫直傳、作者中村重助述」・下の巻「三人生酔」

2 若木花容彩四季「上」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

2・若木花上巻(六了)〈梓あり〉

1・2 (B) B (行・字) 七・二三 八丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」上野廣小路元黒門町老番地「紋」さか川平四郎〈印〉

1「御ひるきの釣鼠、爰に召されて、庵の春」若木花容彩四季「常磐津文字太夫直傳、作者中村重助述」

10

2・若木花上巻(五)〈梓あり〉

1・2 (B) B (行・字) 七・二三 六丁

\* a/ 正本版元東京「地本、問屋」下谷區谷中清水町老番地「紋」さか川平四郎板〈印〉

1 下の巻「三人生酔」

2 若木花容彩四季「下」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

2・若木花上六了・下巻(六了)〈梓あり〉

1・2 (B) B (行・字) 七・二三 九丁

\* 天保九「戊戌」年春狂言、  
常磐津正本版元「東京市下谷區谷中清水町老番地」發行兼印刷者「坂川平四郎」〈印〉

1「御ひるきの釣鼠、爰に召されて、庵の春」若木花容彩四季「常磐津文字太夫直傳、作者中村重助述」

10

2・若木花上巻(上六了・下巻六了)

1・2 (B) B (行・字) 七・二三 一三丁

\* 天保九「戊戌」年春狂言、  
常磐津正本版元「印刷者兼、發行者」東京市下谷區谷中清水町老番地「坂川平四郎」〈印〉

1「御ひるきの釣鼠、爰に召されて、庵の春」若木花容彩四季「上」常磐津文字太夫直傳、作者中村重助述

2 若木花容彩四季「上」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

2・若木花上巻(六了)〈梓あり〉

1・2 (B) B (行・字) 七・二四 八丁

\* a/ 常磐津正本版元「印刷兼、發行者」東京市下谷區谷中清水町老番地「坂川平四郎」〈印〉

1 下の巻「三人生酔」

2 若木花容彩四季「下」常磐津文字太夫直傳、正本所坂川平四郎

2・若木花上六了・若木花下巻(六了)〈梓あり〉



二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二四 九丁

★天保九戊戌年春狂言ノ 常磐津正本版元「印刷兼ノ發行者」ノ東京下谷區谷中清水町老番地ノ坂川平四郎ノ印ノ

ノ和歌三神

ロ和歌三神「左り甚五郎の作」

マ2・三神ノ巻(ノ三)

二1・1 (四) 二二、七\*一五、七 一七、三 四 (行・字) 六・一〇 四丁

★板元ノ長者町筋ノ玉澤屋新七ノ廣小路角

ノ若菜摘野路手段「笠縫專助述」

ロ

マ2・若菜上一(ノ上七了・下卷ノ下六了)ノ梓ありノ

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・二〇 一四丁

★ロ/ 正版元「高砂町南新道」ノいがや勘右衛門ノ印ノ

ノ今年祝

ロ若みどりノ今年祝

ノ

二2・2 (四) 二二、〇\*一四、九 四 (行・字) 六・一一 四丁

ノ

ノ若縁巳歳祝「振り附西川鯉三郎ノ三弦岸沢壽佐久」

ロ若縁巳歳祝「振付西川鯉三郎」

マ2・若縁昔

二1・1 (四) 二三、〇\*一六、〇 一七、八 四 (行・字) 五・一四 三丁

★ノ表紙ノ名古屋市長者町廣小路上ノ玉澤屋新七板ノ 卷末ノ「明治廿六年二月五日印刷同日出版」ノ編輯印刷ノ兼發行者ノ

「愛知縣名古屋市下長者町百廿五番戸」ノ佐々新七

ノ我衣手運階「常磐津文字太夫直傳ノ作者遠越二三治述之」

ロ

ノ

二1・2 (四) 四 (行・字) 七・一六 一四丁

ノ

ノ笑門俄七福「常磐津文字太夫直傳ノ作者櫻田治助述」

ロ「和田酒守ノノ姫初ノ 頭藝子ノノ踊り初」笑門俄七福「河原崎座」

マ2・二(ノ四)

二1・1 (四) 二一、八\*一四、六 一七、八 四 (行・字) 六・一九 五丁



※1・長者町筋／玉澤屋新七／廣小路角

ノ笑門俄七福「常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述」

D0

㊦2・なはかの七ふく上巻（～十了）

㊦1・1 (㊦) 二〇、七\*一四、六一七、二〇 (行・字) 七・一七 一一丁

※弘化四「丁未」春／河原崎座／大々叶／㊦ 正本版元江戸「治本／問屋」神田鍛冶町式丁目／㊦紋い／がや勘右衛門／印

ノ笑門俄七福「常磐津文字太夫直傳／櫻田治助述」

ロ笑門俄七福「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

㊦2・なはかの七ふく上巻（～上五了・下六～十了）

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・一五 一二丁

※弘化四「丁未」春／河原崎座／大々叶／㊦い／がや勘右門原板／ 正本版元東京「地本／問屋」人形町通松嶋町／㊦紋さ1

か川平四郎／印

ノ笑門俄七福「常磐津文字太夫直傳／櫻田治助述」

ロ笑門俄七福「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

㊦2・なはかの七ふく上巻（～上五了）

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・一五 七丁

※aノ 正本版元東京「地本／問屋」人形町通松嶋町／㊦紋さか川平四郎／印

ノ笑門俄七福「常磐津文字太夫直傳／櫻田治助述」

ロ笑門俄七福「上」常磐津文字太夫直傳／正本所坂川平四郎」

㊦2・なはかの七ふく上巻（～上五了・下六～十了）

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・一五 一二丁

※弘化四「丁未」春／河原崎座／大々叶／㊦ 正本版元東京「地本／問屋」上野廣小路元黒門町老番地／㊦紋さか川平四郎／印

ノ笑門俄七福「常磐津文字太夫直傳／作者櫻田治助述」

D0

㊦2・なはかの七ふく上巻（～上五了・下六～十了）

㊦1・2 (㊦) ㊦ (行・字) 七・一五 一一丁

※弘化四「丁未」春／河原崎座／大々叶／㊦ 常磐津正本版元「印刷者兼／發行者」東京市下谷區谷中清水町老番地／坂川平四郎／印

ノ七福神

ロ七福神

㊦2・七福神(～三)



11・2 (B) B (行・字) 七・一五 四丁  
\*名古屋板元へ紋へひしや金兵衛

へ腕久色紙送「田村西作歌」常磐津文字兵衛作曲」

口腕久色紙送

22・腕久老(く五丁了)へ梓あり

11・2 (B) B (行・字) 八・二〇 七丁

\*大正十五「丙寅」歳十二月興行於帝國劇場上演「千圓書」正本版元坂川製へ、常磐津正本版元「印刷兼發行者」東京  
部台東區谷中清水町老番地」坂川平四郎へ印

10

口三重翼柀松 市むら座 上 作者堀越二三治述

10

12・1 (B) B (行・字) 一〇・三〇 二丁

\*板もと／いがや／元演町

10

口三重翼柀松 市むら座 下 作者堀越二三治述

10

12・1 (B) B (行・字) 一〇・三〇 二丁

\*板もと／いがや／元演町

へへおきく／幸助V比翼加賀紋 常磐津文字太夫直伝

口比翼加賀紋 作者藤本斗文述 上

へかゝもん 上

12・1 (B) B (行・字) 九・二九 二丁

\*はんもと／駿河屋／本石四町 文字太夫清書所／翁書／はん元するがや

10

口比翼加賀紋 作者藤本斗文述 下

へかゝもん 上

12・1 (B) B (行・字) 九・二九 二丁

\*板もと／するがや／本石四町め 文字太夫清書所／翁書／はん元するがや

へ蜘蛛線梓弦「作者金井三笑」

口蜘蛛線梓弦上「常磐津文字太夫直伝／伊賀屋勘右衛門版」

22・くもの糸上(く上十三了)

11・2 (B) B (行・字) 六・一五 一四丁



ア 江戸板元「するがや文右衛門」／「元はま町」いがや勘右衛門（印）

イ 芳野川妹背紙攤「岸澤式治／玉沢屋新七」板

ロ 芳野川妹背紙攤／山の段

ニ 1・1 いませ山姥（九了）

ニ 1・1 (B) 二二、一\*一五、三 (行・字) 七・一九 一〇丁

サ 1・名古屋長者町／玉沢屋新七／廣小路角板元

## 第二節 「常磐種」諸本考

常磐津節は、延享四（一七四七）年一月中村座の顔見世番付において、宮古路文字太夫が常磐津文字太夫と改名したのをその嚆矢とする。この時、文字太夫は初め関東と名乗って顔見世番付に名を連ねたのだが、一〇月二五日北町奉行馬場讃岐守より関東姓を名乗ることを差止められたので、常磐津と名乗ったものであった。

こうした事情は、現在伝わっている延享四年の中村座の二種の顔見世番付から、ある程度裏付けすることはできるが、この事情を詳しく述べているのは東京芸術大学図書館蔵の「常磐種天之巻」のみで、ほかには「常磐津年表」に「此顔見世に宮古路を廃し更に更に関東と改む間もなく御咎めあり」とあるに過ぎない。「歌舞妓年代記」「江戸芝居年代記」「歌舞伎年表」などには、これらについての記事は全く見られない。「近世邦楽年表」は「常磐種」を引用しているだけである。また、文字太夫が改名後最初に語った曲を「恋路の友鳥」とするのも「常磐種」のみである。

このように、「常磐種」は常磐津節に関する独自の資料や事情を抱負に伝えている。これらの記事の全てをそのまま信じるわけにはいかないが、常磐津節研究において不可欠の資料であることは間違いない。本稿は、この「常磐種」の諸本を整理し、常磐津節研究の資料として、吟味しておこうとするものである。



(一) 常磐津節と常磐津節上演年表

常磐津の上演記録について現存する主なものを挙げてみると、「常磐種」「常磐津年表」「歌舞伎年代記」「歌舞伎年代記 続編」「続々歌舞伎年代記」「歌舞伎年表」「江戸芝居年代記」「近世邦楽年表 常磐津・富本・清元の部」「江戸芝居」邦楽年表」その他各種番付がある。これらの中で常磐津を主体的に扱っているのは「常磐種」「常磐津年表」「近世邦楽年表」「江戸芝居」邦楽年表」の四点で、その他は歌舞伎を中心とした記述である。これら四点のうち、「常磐種」「常磐津年表」の二点が江戸時代のもので、他の二点は明治以後のものである。

「近世邦楽年表」は言うまでもなく、明治四五(一九一二年)三月の発行、編纂は東京音楽学校、発行所は六合館で、収録してあるのは、常磐津については、文字太夫がまだ宮古路を名乗っていた享保一五(一七三〇)年正月から慶応三(一八六七)年八月までである。この「近世邦楽年表」は、資料として「常磐種」と各種番付を多く用いている。特に、最初の享保一五年正月から明和年間までの約四〇年間は「常磐種」に拠っている箇所が多い。したがって、後で詳述するように「常磐種」の誤りをそのまま転写してしまっている点も見受けられる。いずれにしても「近世邦楽年表」と「常磐種」とは密接な関係にある。

「江戸芝居」邦楽年表」は山本桂香氏の編著になるもので、架蔵本は三冊あり、享保一六(一七三二年)年三月中村座の「傾城福引名護屋」の三番目の「傾城道成寺」(別称「無間鐘新道成寺」或いは「中山道成寺」、長唄)から、慶応三(一八六七)年一〇月守田座の「喜九字当機成台」一番目大詰の「恋暮時雨袖旧寺」(清元)までが収録してある。一頁を三段に分け、上段を中村座とその控櫓の都座、中段を市村座とその控櫓の桐座、下段を守(森)田座とその控櫓の河原崎座として、上演年月日、上演された常磐津・清元・富本・長唄の外題と立方・地方、場合によっては、外題の別称、通称、長唄の「唄出しの歌詞」「めりやすの歌詞」などが記されており、所々に簡単な解説が付けられている。ま

た、ものによっては資料名を示しているが、全体的には本年表が何に拠っているのか明確ではない。もともと、架蔵本三冊のうち、一冊目(記事年代の最も古いもの)は序文・解題・凡例などがなく、いきなり享保一六年から始まっている上、三冊目も慶応三年の記述までで終わって、後書きや刊記はない。さらに注目すべきは、本書が印刷に移す以前の写植本ということである。したがって、本書は刊行される予定であったこと、もしかすると、架蔵本は全体ではなく前後が欠けているのかもしれないこと、などが想像される。ただ、本書が刊行された由は未だ聞かない。

江戸時代の成立である「常磐津年表」は、これを収めている「音曲叢書 巻一」(演芸珍書刊行会編)の解題に、

一、「常磐津年表」は元祖宮古路より三代目までの興行年表にして何人の著なるかを明かにせずと雖も、常磐津に関する著書の類少きうちにありて、出色のものたるを失はず。

とあるように、寛保三(一七四三年)秋中村座の「遊君今川状」の二番目大切「若楓口舌帯」から、文化一一(一八一四)年七月二六日の三代目常磐津兼太夫病死の記事までが収められている。記事は、単なる上演年表ではなく、しばしば常磐津の太夫や三味線方の出入り、その他常磐津に関する記述が見受けられる。したがって、「常磐津年表」は三代目常磐津文字太夫没後それほど時を経ない頃の成立と思われる。「常磐種」の成立する以前のほとんど唯一の纏まった常磐津節の上演年表であったと考えられる。しかし、「常磐種」に比べて記載が簡略であり、あまり史料的价值を認められず、明治以後の上演記録にもほとんど利用されなかったようである。

「常磐種」以外の常磐津節の上演年表について述べたが、これらはそれぞれ不備な点が多い。「常磐種」はそれらの欠落部分をしばしば補い得る資料である。しかし、この「常磐種」と題するものは版本と写本があり、内容も多様であり、同一に扱うことは誤りと思われるので、次にこれら「常磐種」諸本を分類する。



(二) 「常磐種」の分類

「国書総目録」に拠れば、「常磐種」は写本が二種、版本が四種ある。しかし、これらは単に写本と版本とを区別しているに過ぎないのであって、内容による分類はない。内容の上から「常磐種」諸本を分類すると、次の三種類に分けられる。

- 一、常磐津外題集
- 二、常磐津外題年表
- 三、常磐津作品集

ちなみに、前項で触れた「常磐種」は右の分類の二類に属するもので、町田佳声氏は、これを「常磐津家元所蔵の常磐種」として、他の系統のものと同様に区別しておられる。

次にそれぞれの系統別に、書誌・内容・特色について述べる。

(三) 一類 常磐津外題集

一類は、主として常磐津の外題を集めて、いろは順に配列したものである。調査したところでは、東京大学図書館蔵の一本を除いては全て版本である。

文化八年版(九州大学図書館蔵本)

横本一冊。縦二・九種、横一八・七種。袋綴。題簽剥落。序文により「常磐種」と判る。墨付二五丁半(含刊記)、遊紙首一丁。一面行数九行(序文)、五行(本文)。本文に匡郭なく字高は一〇種。

〈序文〉

席麗に今朝や霞と、もにひく。いとねじめも子の日する野辺の小まつのいつしかに。枝葉かさねていとよなほ。をらさぬ天が下とてか四方に古今の色見せてつきせぬ文字や。ふでのあや書あつめたる題づくしそのくさくさをそのまに常磐種としるすのみ文化八ツのとし末のはる

〈刊記〉

右之外影有之候得共有増相しるし申候猶追々開板仕候尤いろは附に仕候間新古前後仕候此段御改申上候御求御一読可下候以上于時文化八年末春発兌

常磐津正本所



小舟町二丁目

いがや勘右衛門

三系統の「常磐種」全ての中で最も古いもの。伊賀屋勘右衛門は代々常磐津正本を出版している版元である。「常磐種」の名称の由来は、それまでの常磐津の外題のいろいろを集めたものであるからと述べている。

本書の構成は刊記にもあるように、いろは順に外題が配列してあるが、序文に続く本文の最初に「祝儀物」として「老まつ」以下一九曲を挙げ、その後、「仲藏道成寺」道行媚千種錦絵」と「三津五郎道成寺」道行面影草」を並べ、次に「い之部」から「す之部」までに分類して、常磐津の外題を列挙している。「祝儀物」の配列法が何に拠っているのかは不明であるが、道成寺道行は上演順の配列となっている。道成寺道行については、この他にも初代文字太夫が寛保四(一七四四)年正月中村座で、道成寺道行「駒鳥恋関札」を語っているが、これは本書に採られていない。これは初代文字太夫がまだ宮古路であったためかとも考えられるが、そうすると、この「祝儀物」の中にある「万歳恵方土産」や「け之部」にある「傾城小夜中山」、「あ之部の「茜染野中隠井」は、まだ文字太夫が宮古路姓



の時のものであることと矛盾する。したがって、『駒鳥恋関札』が除去されたのは、右の三曲が文化八年当時まだ語られていたのに、この曲だけが既に語られなくなっていたためと考える方が妥当ではなからうか。

本書の□から□までの曲数は、総数一七八曲(但し段物は一段を一曲とし、一曲が上下に分れているものは上下で一曲とした)であるが、□から□までの個々の曲数などについては後でこの系統の他本と比較しながら述べる。「近世邦楽年表」によれば、延享四年から文化八(一八一二)年春までの六五年間に語られた常磐津は二六七曲(重複するものは一曲とする)であるので、本書にはその約七割五分が収められていることになる。刊記に言う「有増」とはこれをいうのであろう。ここに収められているものは常磐津の中でも主要なものが多い。本書が何を資料としているかはわからない。ただ、このように外題だけを集めるならば、正本或いはその写本、または稽古本があれば可能であるので、そうした類のものを参考にしたか、後述するような上演記録のようなものが家元に存在し、それを参考したとも考えられよう。

ところで、本書が刊行された文化八年前後の常磐津界を考えてみる。寛政一一(一七九九)年二月に当時の実力者二代目兼太夫が破門されたが、同年七月には二代目小文字太夫が病没し、その倅二代目小文字太夫はまだ八歳であり、常磐津は一時的に勢力が衰えてしまった。享和元(一八〇一)年の顔見世などは、中村座・市村座へは富本齋宮太夫、同豊前太夫が、河原崎座へは破門された兼太夫の吾妻太夫が出演しているのに対し常磐津は江戸三座の一つにも出演できなかったのである。しかし、二代目小文字太夫の成長と共に常磐津が次第に勢力を盛返してきた。文化四(一八〇七)年二月池の端蓬萊座での文字八重の会に、一六歳の小文字太夫が『子宝三番叟』を語ったのが、事実上の初舞台となり(常磐津年表)、同年市村座の顔見世『花安宅扇盃』(『雪八鳴凱陣』四立目)で、念願の歌舞伎への初舞台を果した。これ以後、常磐津は小文字太夫を中心に発展することになり、文化六(一八〇九)年六月(常磐津年表)には、小文字太夫の脇を固めていた綱太夫が三代目兼太夫を襲名し、着々と態勢を整えていったのである。

したがって、このような時に本書が作成されたことを考えると、本書の編纂の意図は常磐津一流の態勢建直しにあったと思われる。それまでの常磐津曲のうち、主なものの外題を集大成して世間に公表することにより、対外的には常磐津節の存在を再確認させ、対内的には常磐津一門の結束を図ったのであろう。こうした状況から、序文の筆者は明らかではないが、当時二〇歳の小文字太夫か、或いはその補佐役であった三代目兼太夫と思われる。その結果、文化八年の劇場出演回数表は、「近世邦楽年表」に拠れば、常磐津が一一回であるのに対し富本は六回、同九年は常磐津の一四回に対し富本の七回、同一〇年は常磐津の一四回に対し富本の一〇回、同一一年は常磐津の一四回に対し富本は四回と、圧倒的に常磐津の方が出演回数が多くなっている。その上、この時期富本では、文化九年に二代目齋宮太夫が家元と不和を生じ、文化一一年清元延寿太夫と名乗って清元節を創始するなど混乱が起こっていた。

文政九年版(東北大学図書館狩野文庫蔵・架蔵)

半紙本一冊。縦二一・六種、横一四・八種。袋綴。題簽中央「常磐種 全」とある。墨付五二丁半(含刊記)、遊紙なし。匡郭は四周双辺(子持枠)で、縦罫線入(除序跋文)、縦一七・三種、横一二種。版心は上魚尾で外題分類の一字、例えば「祝儀歳旦之部」なら(祝)を入れ、下方に丁数を入れる。一面行数九行(序文)、五行(本文)、八行(跋文)。本書は枠外上段に朱注が一〇箇所ある。これは、例えば「祝儀歳旦之部」の『子宝三番三』の場合、「三番三」と朱で右側に〇印をさうち、該当部の枠外上段に「三当作叟」と記しているものである。見返しは、

浄瑠璃外題集

常 磐 種 全

発 販 書 肆 文 龜 堂



とある。

〈序文〉

常磐津の一節は古くより伝はりて治れる／御代の愛度謠ひものとなり予が先祖文字太夫／享保年中に初て中村座に於て此曲をなせし／より常磐の松の色かへず年々月々に緑をまし／繁れる枝のときはかきはにむかし今の事を／作り出でこの音節を加へ三筋の糸のいとしげく／此道のはひひろごれること偏にわが祖のいさをし／にこそありけれか、れば其種々の外題弥増て／つと／にはえおぼえあきらめ難く思ひてこたび／板元のまめやかなる心に其部数を書きあつめ／国字をもて品をわかち見安きを旨として／梓にちりばめて普く世に播およぼす事に／なりたるこそやつがれが歎ばしき且此道の／根を深み猶末長く栄え人事を寿きて／常磐種とは号けけらし／文政九年／丙戌初春／四代目／小文字太夫述

〈跋文〉

常磐種跋／浄瑠璃の謠曲世に弘りてより以往所謂豊／後節と唱ふるが中に此常磐津の一流伝来／略久し故に其章句も自ら正しく部類／も亦多く此門に入て女兒に師範し或は／好み弄ぶものも従て夥し因て二たび板元／文龜堂の主人と計りて此一冊を編し／ときは種と号て都鄙となく貴賤となく此道に／たづさはれる人をして其部その曲の品／目を求め易からしむ然れ共年来多端の／具に拳尽しかたくこれに洩たるも亦弥多／あるべく且撰者の謬もあらん歟そは又追々／補ひ益べしまづ当用の要なるを摘て／一編とし既に四方の君子に驚くことには／なりぬ／戌の孟陽 二代目文字太夫門人／須賀太夫訂正并述

〈刊記〉

江戸

晋米斎藍庭一醒備書

全

副嗣師加藤利助雕工

文政九年丙戌参宿

孟春発兌

常磐津正本所

大伝馬町二丁目

東都書肆

伊賀屋勘右衛門板

本書は文化八年版に比べて一層整ったものになっている。構成の上から見ると、序文・跋文・刊記を揃え、本文も、初めに「祝儀歳旦之部」次に「道成寺道行之部」続いて「㊦之部」から「㊧之部」までに分類してそれまでの常磐津曲を列挙し、最後に新しく「段物之部」を設けて、文化八年版では㊦から㊧の部に入れていた段物を別にして挙げてゐる。「段物之部」の下に「左に出す外にも段物数多あれどもことごとくあげ尽しがたし当時多く用ゆる所の部のみを大略こゝにあらはす」とあり、段物の中でも主要なもののみを挙げていることがわかる。また、㊦㊧㊨の中で該当するものがない箇所は、例えば「○之部 此部当時なし」と記しているが、これは文化八年版には見られない。

「祝儀歳旦之部」は文化八年版に比べて「歳旦之部」が新たに追加され、祝儀物と歳旦物を区別する意識が見られる。どちらも祝意を込めてお目出たい時に演奏するものではあるが、歳旦はもともとその字の示す如く新年の初演奏会で演奏されるもので、祝儀物とは厳密な意味では異なるのである。ともあれ、本書の「祝儀歳旦之部」に挙げられているのは「老まつ」以下一四曲で、文化八年版の「祝儀物之部」より五曲少ない。その内訳は文化八年版から六曲が除去され、新たに別の一曲が加えられている。

「道成寺道行之部」が文化八年版の道行曲に加えること三曲で計五曲となっている。

㊦から㊧までの曲数は二九一で、新しく加えられた「段物之部」は四九曲である。文化八年版は合計一九九曲で



あるから、本書の合計三五九曲と比べると一六〇曲増加している。文化八年版は、その年の三月出版であるから文化八年の曲は入っていない。したがって、文化八年から文政八年末（本書は文政九年初春出版であるので、取められたのは文政八年の曲までである）までの一五年間に一六〇曲も増加していることになり、これは、文化八年版の六四四年間に一九九曲と比較すると、常磐津の勢力がこの僅かの間に如何に広がったかを伺わせるものである。

本書もまた、初代文字太夫が宮古路姓を名乗っていた時の曲を九曲収めている。この中には初代文字太夫の師宮古路豊後掾の出世作『睦月連理恋』が含まれているが、読みが違っていて「むつまじきれんりのたまつばき」とあるべきところが「むつまじきれんりのことぶき」となっている。文化八年版と本書を比較する時、「祝儀歳旦之部」では文化八年版より曲数が減っており、㊸から㊿の部では文字太夫の宮古路姓の時のものが文化八年版よりも増えているのは、おそらく当時何等かの意味で、例えば正本が残っている、或いは節が残っているということ、常磐津曲としての生命を保っているものを収めたのではないかと考えられる。

また、本書は先に刊行された文化八年版については一言も触れていないが、これが文化八年版をもとにして可能性は十分に考えられる。文政九年という年は、文政二年一二月に二代目小文字太夫の三代目文字太夫が二八歳で急死したあとの後継者をめぐっての混乱が、文政三年一二月の四代目小文字太夫（市川男女蔵の子男熊。三代目小文字太夫は実在しないが、二代目没後番付などには形式上「小文字太夫」が置かれている。これを三代目と数え、男熊の小文字太夫は四代目としたらしい。）の襲名披露により一段落し、四代目小文字太夫を中心に再び態勢を整えて、常磐津が発展しようとする時期に当たっている。文化八年版もそうであったように、「常磐種」はこういう時に決って出版されるところをみると、文政九年版もまた、常磐津界の態勢固めという意図があったと思われる。

ところで、跋文の筆者須賀太夫はこの時六八歳（常磐津年表）であった。この須賀太夫という人は、劇場出演も少なく、語りは巧くなかったらしいが、常に文字太夫の側に付き、どんな時にも文字太夫を盛り立てるべく努力した人で、文字太夫や一門のために色々世話をしていることが「常磐津年表」にしばしば見られる。こういう人だからこそ、跋文の筆者としては最適の人物であった。

猶、本書は、京都大学図書館・慶応大学（未見、「国書総目録」による）・雲泉文庫（未見、同書による）にも所蔵されている。また、本書の写本が東京大学図書館に所蔵されている。

天保一二年版（東京大学図書館蔵）

横本一冊。縦七種、横一五・三種。袋綴。題簽左肩「常磐種 全」とあり。墨付七九丁（含刊記）、遊紙なし。匡郭は四周単辺で縦罫線入（除序跋文）、縦六種、横一四種。版心は上魚尾で「祝儀歳旦之部」ならば㊸を入れ、下方に丁数を入れる。一面行数、一四行（序文）、九行（祝儀歳旦之部）、六行（道成寺道行之部）、四行（㊸から㊿までの部）、七行（段物之部）、一二行（跋文）。見返しは白紙。

序文は文政九年版とほとんど同じで、末尾の「文政九年」以下が「天保辛丑春新彫／四代目／文字太夫述」となっている。跋文も文政九年版と全く同じ。但し、「戌の孟陽」はない。跋文に続けて「前編にもれたる／外題の分は追て／後編にいたし／近日出版仕候」の一文を載せる。さらに、この後に「一名即功丹／声の出る妙薬／代へ六十四文三十二文」の一文がある。本書が常磐津の外題集であるところから、本書を求める人の多くは常磐津愛好家であるとして、声のよく出る薬の広告を載せたのであろうか。

〈刊記〉

天保十二年辛丑歳／晚秋九月新刻

常磐津正本所

神田鍋町西横町



伊賀屋

〈東都書肆〉 勘右衛門板

本書は、文政九年版をもとに天保一二(一八四一)年までの分を増補し、新たに横本にすべく版を起こしたものである。増補分は「い之部」から「す之部」までのもので合計五八曲である。前述の四代目小文字太夫が、天保八(一八三七)年正月の中村座で四代目文字太夫を襲名し、新たな出発をしているので、このような時期に「常磐種」を刊行したのは、前二編と同様、常磐津の発展を期する心があったのであろう。猶、この横本ならば懐に入れて持ち運びするのに便利であり、今回はこのように改版されたのであろう。

この版本は、他に東京大学教養学部黒木文庫・国会図書館(題名は「常磐津外題鑑」とある。また、製本する時、或いは直す時に誤って綴ったためか、「い之部」以降順序と天地が逆となり、「道成寺道行之部」の次に天地が逆となった七九丁裏が着ている)、慶応大学図書館(未見、「国書総目録」による)に所蔵されている。

嘉永二年版(東京大学図書館蔵)

書誌的には天保一二年版とはほとんど同じ。異なる点は、序文末尾の「天保辛丑春新彫」が無く、また、刊記が「嘉永二酉歳初冬／常磐津正本所／神田鍛冶町式丁目／〈東都書肆〉伊賀屋／勘右衛門板」となっている他、天保一二年から嘉永二(一八四九)年までに新たに作られた常磐津曲が増補されていることである。したがって、墨付は全体で八五丁と天保一二年版より六丁増えている。刊記の前にある葉即功丹の広告が東京大学図書館本では欠けているが、同版の他本にはあるので、東京大学図書館本のみが何等か事情で欠けたものと思われる。

本書は天保一二年版に増補したもので、その数は、「祝儀歳旦之部」の「松の調」と「千歳寿」の二曲と、「い之部」から「す之部」までの八三曲の合計八五曲である。版木は可能な限り天保一二年版を用いている。その結果、

序文は「天保辛丑春新彫」を削除しているので、天保一二年版に比べて本書はその部分が空いたままである。また、「い之部」は増補が多過ぎて、「い」の版本の中に入りきらず、「ろ之部」に一曲入れている。「は之部」は五曲増えて一丁分増補したので丁付を「十二下」としているなど、曲を増補する為に版木に手を加えている。

天保一二年版と本書とが他の一類本と異なる点の一つは、跋文の後の後編出版の広告であるが、これの後編は現存していない。この広告文という前編はこれほど伝存しているのであるから、後編が出版されていたら、おそらく現存しているであろう。したがって、後編は広告のみで出版されなかったと考えるべきである。本書の出版された嘉永二年の翌年、嘉永三年の一二月に、四代目文字太夫は、宮古路豊後掾以来、常磐津で初めて嵯峨御所より豊後掾を受領している。したがって、本書も前三冊同様常磐津の発展期にその意欲を示す如く出版されたものと言えよう。

この版本は、他に国会図書館(二本)、東京都立中央図書館加賀文庫に所蔵されている。

ここで、一類の諸版本における外題数を一覧表にしておく。猶、文化八年版は、「段物之部」が独立していないので、本表では新たに段物だけを取り出して、他の版と同じ基準で表を作った。また、文化八年の「因」の項にある「道行千種乱咲」は、他本では「因」の項にあって「千種の乱咲」とあるので、それぞれ該当する項に入れておいた。



東京大学図書館蔵

大本六巻六冊。但し第六巻は題簽が他と違って「常磐種」ではなく「宮古路豊後掾浄瑠璃外題」となっている。実際は五巻五冊。写本。五巻の内訳は「天之巻」「地之巻」「人之巻」「宝之巻」「宝之巻統」の五つである。紙寸法は同じで、縦二七檜、横一九檜。袋綴。題簽左肩で例えば「常磐種 天之巻」などあり、扉に当る部分の中央にも、例えば「常磐種 天之巻」などある。大体半丁に一外題が記されている。各巻の内容は次の通り。

「天之巻」墨付二丁（序文）、五二丁（本文）、遊紙首尾各一丁。序文と享保一五年正月から安永二（一七七三）年一月までの記録。序文（一面八行）については後述する。本文中にはしばしば本文と同筆で朱注が加えてある。

「地之巻」墨付六九丁（本文のみ）、遊紙尾一丁。安永三（一七七四）年四月から寛政一（一七九九）年一月までの記録。朱注あり。扉の次に「二代目時代／地之巻」とある。巻末に「四代目太夫／松根亭」とある。

「人之巻」墨付七八丁（本文のみ）、遊紙尾一丁。寛政一二年六月から文政三（一八二〇）年七月までの記録。朱注あり。扉の次に「三代目時代／人之巻」とある。巻末に「四代目太夫／松根亭」とある。本書は、年代順の配列に乱れがあり、文化六（一八〇九）年正月の次に文化九（一八一二）年九月の上演外題があつて、これを含めて二七丁後に文化六年七月の上演外題がある。ここから一二丁後の表に文化九年一月の上演外題があり、その裏と次の丁の表には文化一〇年の上演外題が、その裏には文化八年の上演外題が記してあり、次の丁でやっと元に戻って文化一三（一八一六）年八月の上演外題が記され、以後また年代順の配列となっている。

「宝之巻」墨付八六丁（本文のみ）、遊紙尾一丁。文政三年一月から天保八（一八三七）年正月までの記録。朱注あり。扉の次に「四代目初舞台ヨリ／宝之巻」とある。本文八五丁裏に「文政三辰年霜月小文字太夫初舞台／より今天保七丙申年霜月浄瑠璃／瑠まで此巻に有改名常磐津／四代目文字太夫と成以後浄瑠璃は次／の巻に記／松根亭」とある。

二類は主として常磐津の外題を集めて上演年代順に配列したものである。現存するのは東京芸術大学所蔵の写本一点のみである。

(四) 二類 常磐津外題年表

| り | ち  | と  | へ | ほ  | に  | は  | ろ  | い  | 道  | 之  | 祝      |   |    |
|---|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|--------|---|----|
| 部 | 部  | 部  | 部 | 部  | 部  | 部  | 部  | 部  | 成  | 部  | 儀      | 部 |    |
| 之 | 部  | 部  | 部 | 部  | 部  | 部  | 部  | 部  | 成  | 部  | 儀      | 部 |    |
| 部 | 部  | 部  | 部 | 部  | 部  | 部  | 部  | 部  | 成  | 部  | 儀      | 部 |    |
| 部 | 部  | 部  | 部 | 部  | 部  | 部  | 部  | 部  | 成  | 部  | 儀      | 部 |    |
| 0 | 4  | 3  | 0 | 3  | 3  | 7  | 0  | 17 | 2  | 19 | 文化八年版  |   |    |
| 0 | 5  | 8  | 1 | 4  | 4  | 17 | 0  | 29 | 5  | 14 | 文成九年版  |   |    |
| 0 | 6  | 8  | 1 | 4  | 4  | 24 | 0  | 32 | 6  | 14 | 天保一二年版 |   |    |
| 0 | 7  | 11 | 1 | 4  | 4  | 29 | 1  | 38 | 6  | 16 | 嘉永二年版  |   |    |
| む | ら  | な  | ね | つ  | そ  | れ  | た  | よ  | か  | わ  | を      | る | ぬ  |
| 2 | 0  | 2  | 0 | 6  | 4  | 0  | 4  | 2  | 5  | 3  | 6      | 0 | 1  |
| 9 | 0  | 7  | 0 | 8  | 9  | 0  | 10 | 5  | 12 | 4  | 14     | 0 | 3  |
| 0 | 0  | 8  | 1 | 9  | 10 | 0  | 12 | 7  | 18 | 6  | 16     | 0 | 3  |
| 2 | 0  | 11 | 1 | 10 | 13 | 0  | 16 | 7  | 23 | 8  | 16     | 0 | 3  |
| さ | あ  | て  | え | こ  | ふ  | け  | ま  | や  | く  | お  | の      | ゐ | う  |
| 1 | 9  | 1  | 1 | 7  | 3  | 2  | 2  | 4  | 5  | 0  | 0      | 0 | 6  |
| 5 | 15 | 4  | 3 | 15 | 5  | 2  | 6  | 9  | 7  | 0  | 0      | 0 | 11 |
| 6 | 16 | 4  | 5 | 19 | 5  | 2  | 8  | 10 | 8  | 0  | 0      | 0 | 12 |
| 8 | 18 | 4  | 6 | 24 | 11 | 2  | 11 | 14 | 10 | 0  | 0      | 0 | 12 |
|   |    |    |   | 段  | す  | せ  | も  | ひ  | ゑ  | し  | み      | め | ゆ  |
|   |    |    |   | 物  |    |    |    |    |    |    |        |   | き  |
|   |    |    |   | 33 | 2  | 1  | 5  | 1  | 0  | 8  | 9      | 0 | 3  |
|   |    |    |   | 49 | 3  | 3  | 6  | 6  | 0  | 16 | 17     | 1 | 4  |
|   |    |    |   | 49 | 3  | 4  | 10 | 1  | 1  | 19 | 23     | 2 | 0  |
|   |    |    |   | 49 | 0  | 5  | 11 | 1  | 0  | 13 | 25     | 3 | 2  |



「宝之巻統」墨付四五丁（本文のみ）、遊紙なし。天保一三年一〇月から嘉永三（一八五〇）年正月までの記録。朱注あり。

〈序文〉

常磐種 自序ノ元祖文字太夫は土岐何某の子なりノけるが豊後掾の門弟となり此道にノ妙なるを以やしなひて子とはなしにけれノされは君も師父の鴻恩の浅からぬをノ肝に銘て骨に彫て深く道を修ノ行する事十とせあまりなりしかノ享保といふとの神無月未つかたノはるノこの東都へくだりノあくるむつまし月はしめ中村ノ勘三郎座にて睦月連理惣といふ浄瑠璃をつとめられしにノきのふよりけふと入来る人のノ多にして芝居は針を立るのノひまあらぬまでにそなりければみなノ神のしわざとそ沙汰しけるノされはむかしの人の言葉にもノ鶴みれば神に入るとはこれノらのことなりけらし 抑この道ノの世にみさかりになり行しもノみなこの君の功にしてノあまねく人のあふぎする所ノなれとみな巷談街説にしてノいまたそのまことをしるものノまれなり さればこたひこのノ道をもて遊ぶもの、ためにノそのあらましをかいしるしてよにノ公にするものは予か微意にしてノいさ、か父母をあらはすの聖のノ叶ひてんとおそるノ筆をとりぬノ文政己丑ノ弥生ノ四代目太夫誌ノ松根亭

本書全五巻は、以上見てきた如く、享保一五年から嘉永三年までの常磐津の全上演年表である。序文にある「文政己丑」は文政一二（一八二九）年のことである。また、松根亭はその号である。四代目文字太夫が襲名したのは天保八年のことであるから、文政一二年に「四代目太夫」と記すのは不自然のようにも見えるが、これは四代目小文字太夫が将来当然文字太夫を継ぐ人であるので、自序にこのように記したものとと思われる。しかし、襲名もしていないのに文字太夫とするのは問題が多いので、「四代目太夫誌ノ松根亭」と婉曲に書いたのであろう。また、逆に自序にこのように書くことは、四代目小文字太夫の常磐津界を背負って立つ決意のほどを明らかにしたものと考えられる。序文は

文政一二年でありながら、嘉永三年まで記されているところを見ると、本書は文政一二年頃に一旦成立し、その後嘉永三年頃まで書き継がれていったものと思われる。この文政末から嘉永初めにかけては、三代目文字太夫の急死の後、血縁関係のみ（四代目は初代の曾孫に当る）で常磐津家元となった四代目文字太夫にとって、飛躍発展の時期であった。この時期に、常磐津の正史ともいべきものとして「常磐種」の編纂を思い立ったのであろう。自序に常磐津を世に理解してもらおうべく、本書を公にする由が記されている（実際には二類の形では公刊されなかった）点からも、小文字太夫の常磐津の発展、及び本書の編纂にかける意気込みが伺われる。

ところで、本書が何に拠っているのか明らかではないが、前にも述べた如く、家元に代々伝わっている上演記録書とでもいうようなものがあった、それを利用して編纂したと考えるのが妥当であろう。近い時代の曲ならば多少は記憶していることもあろうが、約九〇年も以前のこととなるとそれは無理であろう。あるいはまた、正本表紙や諸番付などを使って編んだとも考えられるが、これでは上演年次の順序に記すのは相当困難であろう。本書の所々に誤りが見出されるのも、他の資料を使うことなく、私的な記録に頼ったためではなからうか。誤りは時代が上がるほど多いが、これは当初からその時々記録してきたものでなかったからであろう。

本書に似た書き方をしているのが、前述した「常磐津年表」である。記述内容は本書と似ているが、不思議とあまり重複しない。特に、常磐津上演関係以外の記述の部分については双方を補って初めて充実したものとなる。これは、或いは四代目文字太夫が先行していた「常磐津年表」を見て意識的に重なる部分を除いたのかもしれない。

また、本書の由来は「天之巻」扉の裏に「本書ハ常磐津家元ノ秘蔵本ヲ時ニ乞ヒテ謄写シタルモノナリノ明治四十三年十二月 東京音楽学校ノ邦楽調査掛」とあるように、家元所蔵本の写しである。家元所蔵の原本については、昭和二年一〇月五日から一〇日まで、東京日本橋の三越において長唄協会主催で開かれた「近世邦楽文化展」の展示品解説書に、



この原本は常磐津家元の家蔵であったが大正十二年九月一日の震火に焼失、当時家元が東京音楽学校邦楽調査掛の囑託であった関係で音楽学校で写しを取っておいたので残った。

とあるように、関東大震災で焼失してしまっており、本書が現存唯一のものとなっている。

このような一流の上演記録は、富本や清元などには見られないものであり、常磐津の近世後期における位置を伺わせるものであろう。ちなみに、享保一五年から嘉永三年までの一二年間に本書に収められた常磐津の上演回数は、常磐津以前の宮古路豊後掾、及び途中で分派した豊名賀造酒太夫や富士岡若太夫、吾妻国太夫の上演も含めて六四六回になる。このうち、延享四年文字太夫が常磐津を名乗ってからの回数は六二〇回である。これは、平均一年に約五回強上演されたことになる。勿論、常磐津も短期的には栄枯盛衰を繰り返しているが、近世後期を通じて、長期的に見た場合、常磐津の隆盛が知られるのである。こうした状況を背景として、「常磐種」の二類本は一類同様に編纂されたのである。

#### (五) 三類 常磐津作品集

三類は常磐津の主な作品を集めて年代順に配列したものである。これを収める物は次の二本である。

徳川文芸類聚 第九卷 俗曲上

日本歌謡集成 卷十 近世編

このうち「徳川文芸類聚」の方は例言がある。それによると、

一、常磐種一卷 常磐津節の家元にありては、斯流の語物を集めたる書の総称に此の名を用ふ。(嘉永年中須賀太夫常磐種の外題のみを載せ、此の名を附して出版したることあり、今此の名を襲ぎて、新に編纂したる常磐津正本集に常磐種と名づけたるなり。常磐津の語物は、累計せば七八百段に上るべく、上享保元文より下慶応明治にか

けて、凡百五六十段を抽けば、これを以て斯流の語り物を代表せしむるを得るに似たり。然れども紙数限りあるを以て、関扉、戻駕、宗清、葱売の類よりはじめて、最も注意すべきもの六十段を選びて、年代順に排列せり。

とある。これは、前に述べた一類、二類とは全く性質の異なるものである。三類における問題は、これらの本文が何に拠っているかということである。おそらくは正本に拠っているのだろうが、現存する正本と比較すると、漢字仮名表記など多少の異同があり、断定し得ない。今は今後の課題としておく。

#### (六) 結語

「声曲類纂」の「常磐津文字太夫」の項に、

常磐津上るりを集めて常盤艸と題するものあり。しげければこゝに略す。

とある。「声曲類纂」の成立は天保一〇年九月以前であるので、ここにいう「常盤艸」は、この時二類本は未完成であるから、おそらく一類本であろう。この時までには成っていたのは、一類本の文化八年版と文政九年版であるが、「しげければ」とあるのは、文政九年版を指しているであろう。いずれにしても、この記事から当時巷間に「常磐種」が出回っていたことが知られる。

二類本の方は、公刊されていないので、どのような人の目に触れたか定かではないが、おそらくは家元とその関係者以外には、ほとんど知られていなかったであろう。

三類間の相互の関係を見ると、一類と二類は、その構成・成立の仕方からみて、あまり関係がないように思われる。というのは、一類は単に外題を集めただけのものであるのに、二類は年代順の配列もさることながら、一つの外題についての記事が豊富であるので、もし相互に影響があるとすれば、二類が一類に対して及ぼすと考えられるが、一類



の方が成立が古く、この可能性はない。もっとも、前述した如く、二類本のもとになったと思われる記録類があったとすれば、それを参考として一類本が編まれた可能性は十分に考えられよう。また、一類・二類と三類とは、三類の例言でわかるように、三類本は独自の基準の下に撰んでいるのだから、相互に関連は全くない。

以上、検討してきたことから、「常磐種」は常磐津史研究に貴重な資料であるが、特に、二類本の提供する内容は重要である。本稿では、書誌的検討をしたのみであるが、研究資料とするには、もっと詳細に個々の記事内容を検討し、総合的に調査する必要がある。さらに、一類本もこの二類本を補足する意味で、もっと調査・利用すべきであろう。

注一、竹内道敬氏及び板谷徹氏の御教示によれば、本書は、タイプ印刷版として、一九五七年から一九五八年にかけて、山本桂一郎（桂香）氏によって出版された「江戸芝居」邦楽年代記」と内容が酷似しており、「江戸芝居」邦楽年代記」は全五巻の刊行予定であったが、巻一から巻四（寛永元年から天保一四年）までしか確認できないとのことであった。

注二、「江戸における豊後節の停止と再建の前後」（『創立三十周年記念』日本・東洋音楽論考）一九六九・七）

### 第三節 常磐津節版元伊賀屋勘右衛門

常磐津節成立以来、多くの正本稽古本が出版されてきたが、私に調査したところでは、約一一五〇種、三〇〇〇点を数えることができる。三升屋二三治がその著「紙屑籠」（天保一五年一〇月刊）に、「豊後節上り板元」として、

神田鍋町

所々宅替有、大

常磐津方

伊賀屋勘右衛門

昔より此家なり

とあるように、これら常磐津節正本稽古本の内、江戸においては、江戸期に出版されたものほとんどが伊賀屋勘右衛門版であり、幕末以降伊賀屋に替わって坂川平四郎版が現れる。したがって、伊賀屋勘右衛門が常磐津節の動向と密接に関わっていたことは言うまでもない。そこで本稿では、伊賀屋勘右衛門版常磐津節の正本稽古本を検討して、伊賀屋勘右衛門と常磐津節の関わりを追跡してみたいと思う。

#### (一) 常磐津節成立以前

まず、常磐津節成立以前の伊賀屋勘右衛門の動向を見る。「近世書林板元総覧」（青裳堂書店 一九八一・二）は「伊賀屋勘右衛門 文龜堂」のほか「伊賀屋 江戸元濱町」を挙げ、前者の項に「元濱町の伊賀屋と同じか。」と記しているが、これは後述する如くに、常磐津節稽古本の何種かに「元濱町 いがや勘右衛門」とするものがあるので、同一に見てよいであろう。

さて、同書には伊賀屋版の版画として元禄一三（一七〇〇）年版の「岩井左源太の島原遊女と勝山又五郎の柏木左京」が挙げられているが、現在知られるところでは、元禄一〇（一六九七）年五月中村座初演の「兵根元會我」の初代市川



團十郎の曾我五郎を描いた鳥居清の画（東京国立博物館蔵）<sup>1</sup>が、もっとも古いものであろう。さらに、正徳五（一七一五）年正月二日より中村座初演の『坂東一寿曾我』の二代目團十郎の鳴神上人と中村竹三郎の雲絶間姫を描いた鳥居清信の画（ホノルル美術館蔵）、同じく清信が、享保元（一七一六）年二月二日中村座の『式例和曾我』におけるこの二人の助六と揚巻を描いたもの（大英博物館蔵）も出版している。これらには全て「元はま町 はんもと いが屋」とあり、すでに元禄一〇年以前から江戸元浜町で芝居画を出版していたことが知られる。一枚絵以外のものでは、享保三（一七一八）年三月刊の「紀ノ海音」作『八百やお七恋桜』（東北大学附属図書館蔵）がある。「浄瑠璃名作集」の黒木勘藏氏の解題には、竹本喜世太夫正本『八百屋お七恋桜』が享保二（一七二七）年一〇月伊賀屋勘右衛門から出版されている由であるが、これは確認できない。また、享保一九（一七三四）年三月中村座初演の『相生獅子』の正本も伊賀屋勘右衛門から出されている。これらから推すと、伊賀屋勘右衛門は歌舞伎や浄瑠璃に関係のあるものを中心に元禄期から江戸元浜町において出版業を営んでいたと思われる。

(二) 元浜町時代

常磐津節は、宮古路豊後掾の高弟（養子）宮古路文字太夫が、「関東」を名乗って新たな節を創始し、さらに延享四（一七四七）年一月「常磐津」と改めたことによって成立した。しかし、伊賀屋勘右衛門との関わりはすでに豊後節のころからあったと思われる。

竹内道敬・根岸正海編の『竹内道敬寄託文庫目録（その一）宮古路節の部』に掲載された豊後節の正本稽古本及び段物集<sup>2</sup>の内に、伊賀屋勘右衛門版のものが二〇点見出される。これらの内、『茜染野中の隠井』（03-0335・03-0013）・『釜淵双級巴 新釜煎の段 下』（03-0340）・『紅の染小袖 中の巻』（03-0015）・『弘徽殿 似公時の段』（03-0051）・『さつま源五郎兵衛 中之巻』（03-0336）・『酒吞童子（頼光）道行』（03-0052）・『お染久松（名残の廿三夜）』（03-0337）・『蟾旅宵睦言』（03-0468）・『玉屋新兵衛三国小女郎（比翼の初旅）』（03-0042・03-0043）・『風流隅田川 狂女の段』（03-0053）・『金村屋おさんた、みや伊八（睦月連理惣）』（03-0047）・『淀染三雁金』（03-0054）及び段物集の『宮古路軒端の梅』（03-1039）には、版元が江戸元浜町伊賀屋勘右衛門であることが記されている。さらに、これらには「宮古路豊後掾直伝」と記されたものが多い。また、『弘徽殿 似公時の段』（03-0026）も元浜町とはないが、伊賀屋勘右衛門版で「宮古路豊後掾直伝」とある。これらの正本・稽古本の中に刊年が記されたものはないが、『金村屋おさんた、みや伊八（睦月連理惣）』（03-0047）は奥付に「宮古路豊後」とあるので、これは豊後掾が受領する前の出版と考えられる。『睦月連理惣』は享保一九年正月名古屋で大当りをとり、江戸に下り、同年九月播磨小芝居で上演し、翌年七月には中村座で上演して、江戸において豊後節の地位を築いたものであった。これは正本（『牟芸古雅志』には播磨小芝居の時の正本が見えるが、これは伊賀屋勘右衛門版ではない）ではないが、初演後あまり時期を隔てない頃の出版なのであろう。したがって、伊賀屋勘右衛門は宮古路豊後掾が江戸で活躍を始め、豊後節が爆発的な人気を得ると、じきに豊後節の正本や稽古本の出版を始めたのであろう。しかし、豊後掾は元文二（一七三六）年春以降京に帰ってしまい、さらに江戸では、同四年には豊後節が全面禁止となってしまう。伊賀屋勘右衛門の豊後節の出版も当然中止されたことであろう。

ところで、前述の内、『蟾旅宵睦言』（03-0468）と『淀染三雁金』（03-0054）は豊後掾帰京後の作品で、宮古路文字太夫の語ったものである。前者は延享二年正月中村座の初演の正本、後者は延享二年正月中村座の初演の作品の稽古本で、後者には「宮古路文字太夫直伝」とある。また、延享元（一七四四）年八月中村座初演の浄瑠璃の稽古本（架蔵）には、内題に、

へおちよ半兵衛 浮名野毛靴 宮古路文字太夫直傳



とあり、刊記には、

世上にあさむく贗板多ク有といへ共其写なるゆへに□のあやまり甚し仍而太夫直傳之正本より板行出し令開板して能々御吟味被成御求御覽被遊可被下候

宮古路文字太夫へ印直傳

江戸板元 元はま町

いがや勘右衛門へ印

とあるので、豊後節の復活後は宮古路文字太夫の語った作品の出版を行なうようになったと考えられる。また、東京芸術大学蔵の「常磐種」によれば、延享三年九月朔日、宮古路文字太夫が豊後節の七回忌を勤めているが、その時の文字太夫一門の連名の末尾に「板元伊賀屋勘右衛門」とあり、文字太夫と伊賀屋勘右衛門の結びつきはこの頃からすでに強いものであったことが窺われる。一方、延享四年正月の中村座の浄瑠璃『嬌柳花街晩』の稽古本（竹内道敬氏蔵）には、表紙に、

ワキ 同志妻太夫

常磐津文字太夫 佐々木市蔵

ワキ 同造酒太夫

(絵) 嬌柳花街晩

大字七下り 元濱町

正本 処

けいこ本 伊賀屋板

とあり、内題にも「嬌柳花街晩 常磐津文字太夫直傳」とある。文字太夫は、延享四年正月にはまだ「宮古路」を名

乗っていたはずで、これは、初演時のものではなく、常磐津節成立後に出された稽古本であることを示している。

さて、常磐津節作品では、東京都立中央図書館加賀文庫蔵の『浄瑠璃せりふ』に収められた宝暦三（一七五三）年正月の市村座『春深いろは會我』の三番目に演じられた『鐘入妹背傍』の正本が、現在のところ一番古い。これは、上下二巻で、上の表紙には火鉢の上に幽霊、その横に市村亀蔵が描かれ、下は嵐和歌野が描かれている。上下とも右側に、

ワキ常磐津志妻太夫

三味線

正本売所

常磐津文字太夫直伝

佐々木市蔵

いがや

ワキ常磐津造酒太夫

勘右衛門

とあり、下巻末尾に「文字太夫清書所丈阿書」とある。この浄瑠璃については、平沢常富の「後はむかし物語」（享和三年九月刊）にも、

此程見せ給ひし番付のうちにも見えたる嵐和歌野が道成寺の狂言、鐘入妹背の傍といふ浄瑠璃にて、小松川の文字太夫、志妻太夫、造酒太夫也、亀蔵、和歌野が袖を火鉢にくべむとする時、切幕にて、なうく其袖焼給ふなと声をかけて、誰が出ると見れば、常磐津文字太夫長袴にて花道を出、舞台へ入り、三尺計の衝立へびつたりと背中を付ると、カチ／＼と衝立廻りて、和歌野幽霊にて出る、夫より狂言ありて、文字太夫が浄瑠璃となるなり、何故文字太夫が出たるや、其故をしらず、其等は昔と今の中頃の気取を考べき所なり、

と記されているほど、常磐津文字太夫の活躍が評判を呼んだ作品であった。この曲については、稽古本（竹内道敬氏蔵）も元浜町伊賀屋から出版されていた。続いて、同年十一月の市村座顔見世『冠競和黒主』の一番目浄瑠璃『芥川紅葉』の元浜町伊賀屋勘右衛門版正本が、やはり「浄瑠璃せりふ」に収められている。この狂言は、壕越二三次の作品で歌舞伎における浄瑠璃所作事の隆盛の基となった作品であった。さらに、「浄瑠璃せりふ」には、宝暦四年市村座正



月狂言『臯需會我橋』の三番目として演じられた『葛飾菜種漣』及び『我衣手蓮曙』の正本、また、宝暦五年八月『蟬丸都尾花』の四番目に演じられた『夕霧阿波之鳴渡』、宝暦一〇年春中村座の『饒将門會我』で演じられた『稻穂是当蝶』の正本も収められている。これらの表紙には、

するがや文右衛門

正本所

元はま町

いがや勘右衛門

とある。刊年はないが、正本であるのでいずれも初演直後に出版されたものと思われる。

また、稽古本については、現在までに調査したところでは、前述の『鐘入妹背傍』の他、『一谷嫩軍記二段目與討段』と『ひらがな盛衰記無間鐘の段』、『淀染三雁金』、『忠臣蔵七段目軟飽の段』(以上四点とも竹内道敬氏蔵)などが元浜町伊賀屋から出されている。これらはいずれも刊年を明記していない。前者三点は、前述の『嬌柳花街暁』と同形式の「大字けいこ本」で、太夫三味線方連名も同じである。この稽古本の形式は、豊後節の頃から伊賀屋版に使われてきたものである。『一谷嫩軍記二段目與討段』と『ひらがな盛衰記無間鐘の段』は本来義太夫物で、それを常磐津節に改作して語ったものであり、初演時などを特定することは困難であるが、この太夫三味線連名は同じ構成で寛延元年(一七四八)八月から明和四年(一七六七)まで劇場に出ているので、三点とも共この間に作られたものであろう。ただ、『ひらがな盛衰記無間鐘の段』は末尾に「さか川平四郎板」の刊記が添付されているので、明治以後坂川平四郎によって再版されたものである。後者二点は表紙がなく、『淀染三雁金』は豊後節の再版、『忠臣蔵七段目軟飽の段』は義太夫節を常磐津節に改めたもので、出版年次を知ることができない。

延享四年常磐津節成立以後の元浜町伊賀屋の常磐津節以外の出版について見ると、『浄瑠璃せりふ』には、寛延元年

正月中村座の『筋蝦蟇會我』の『めいけんつくし かけ合せりふ』・同年一月中村座顔見世『女文字平家物語』の『かゝるたつくしせりふ』・『もんさくあつたけいづせりふ』・宝暦二年正月中村座『曲輪商會我』の『蝶千鳥細見鑑かけ合せりふ』・同年一月中村座顔見世『赤沢山相模日記』の『中村七三郎丹前かけ合せりふ』・市川八百蔵かるたづくしかけ合せりふ』・宝暦三年正月中村座『男伊達初買會我』の『中村伝九郎むしづくしせりふ』・『どうけせりふ』・『中村助五郎かけ合いせりふ』・大谷広次かけ合いせりふ』・『今日熊坂の段かけ合いせりふ』・『紋尽かけ合いせりふ』・『出づかい十二段かけ合いせりふ』・同年一月中村座顔見世『百万騎兵太平記』の『篠塚伊賀 定綱 市川海老蔵せりふ』・宝暦五年正月中村座『若緑錦會我』の『万歳貝つくしかけ合せりふ』・宝暦七年正月中村座『日本塘鶏音會我』の『林朝比奈三郎坂東三八せりふ』・『かけあひせりふ』・『紋づくしかけ合いせりふ』・『橋づくしせりふ』、及び宝暦二年七月中村座『諸軽奥州黒』の『浄瑠璃所作事』『笹結渡涉船』・宝暦九年正月森田座『菜花隅田川』の二番目浄瑠璃所作事『道行乱髪所縁加賀笠』・『龍桜男雛形』の富本節正本、宝暦三年正月中村座『男伊達初買會我』の所作事『京鹿子娘道成寺』・『花のゑん』・宝暦四年正月中村座『百千鳥曲輪會我』の三番目所作事『英執着獅子』・宝暦一〇年三月市村座の『會我万年柱』の二番目所作事『鐘入解脱衣』の長唄正本、宝暦四年七月中村座『根元阿国歌舞妓』二番目所作事『草枕夢路相合駕』の浄瑠璃正本が見出せる。したがって、延享から宝暦にかけての伊賀屋は、当り狂言の名せりふを初め、長唄、富本成立後は富本の正本も出版していたことが知られる。

ところで、これら伊賀屋勘右衛門版の中には、前述の『葛飾菜種漣』『我衣手蓮曙』『夕霧阿波之鳴渡』『稻穂是当蝶』の正本表紙のように、版元の部分に「するがや文右衛門」と記されたものがある。稽古本の内にも『鐘入妹背傍』は「大字七くだりけいこ本」とある下に「するがや文右衛門」の名の見え、『淀染三雁金』『忠臣蔵七段目軟飽の段』の刊記も見出せる。この二本の刊記には次のようにある。

右太夫直傳の正本ハ私方より外に無御座候、仍而太夫直傳の使用本ハ、印、如此印形をし、令開板者也能々御吟







られている。宝暦二年一月市村座初演の『三重襲艶松』の「いづみやこん四郎」から出版された正本のみである。一方、「するがや文右衛門」の名が正本に見出せるのは、宝暦三・四年以降のものであるから、文字太夫が出版に関わったのはこの頃からと見ることもできよう。ちなみに、「するがや文右衛門」の名の入った正本・稽古本には、常磐津文字太夫・同志妻太夫・同造酒太夫・三弦佐々木市蔵の名が見える。これは、前述のように、寛延元年（一七四八）八月から市蔵が死没した明和五年（一七六八）二月まで続いた連名構成である。ところで、これら正本・稽古本には、版元伊賀屋勘右衛門の住所を記さないものもあるが、住所のあるものは全て「元浜町」とある。また、刊年は不明のものが多いが、宝暦一〇年春以降の出版と思われるものはない。一方次項で考察するように、天明六年（一七八六）初演以後の作品の正本・稽古本には「高砂町」とあって「元浜町」は見られない。さらに、この間に出版されたと思われる常磐津節正本・稽古本も現存しない。また、前述の「浄瑠璃せりふ」は全一〇巻で寛延元年から享和二年までの狂言の名せりふと浄瑠璃・長唄正本を少々集めたものであるが、右に記したように、「浄瑠璃せりふ」に収められた伊賀屋勘右衛門版は宝暦一〇年までで、これ以後のものは見出せない。この状況からすると、「元浜町伊賀屋勘右衛門」は宝暦一〇年頃から常磐津関係のみでなく、全ての出版を止めたか、縮小してしまっただけであらう。この間は、天明元年（一七八一）二月初代文字太夫が死没し、兼太夫（二代目文字太夫）が活躍を始めた、世代交代の時期でもあった。世代交代に当たって、常磐津の流行も下火となり、稽古本の出版も控えられたであろう。初代文字太夫と深く関わっていた伊賀屋勘右衛門は、常磐津の動向にもなつてその他の出版事業も縮小・停止してしまつたものと思われる。この間一〇数年の伊賀屋勘右衛門の動向はわからないが、伊賀屋勘右衛門は、この間に「高砂町」転居し、二代目文字太夫と組んで、再び常磐津正本・稽古本の出版を始めたのである。但し、これ以後は「するがや文右衛門」の名は登場しないので、二代目は出版事業には直接関わらなかつたようである。

### (三) 高砂町時代

さて、天明六年正月桐座初演の『若菜摘野路手段』の稽古本（上野学園日本音楽資料室蔵）の刊記には正本であることを示す識語の後に、

常磐津兼太夫 三弦 鳥羽屋里長  
 同 造酒太夫 同 里桂  
 常磐津文字太夫（印） 三弦 岸澤 式佐  
 同 政太夫 上調子岸澤 惣吉

高砂町南新道  
 正本板元 いがや勘右衛門（印）

とある。二代目文字太夫の襲名は天明七年（一七八七）二月なので、天明六年にはまだ兼太夫であった。したがって、この地方連名は天明七年以後のものである。また、天明八年春桐座初演の『世尊雪解』の正本（竹内道敬氏蔵）が伝存する。これの表紙の地方・版元欄には、

三弦 鳥羽屋里長  
 同 里桂 正本 高砂町  
 常磐津文字太夫 同政太夫 三弦 岸澤 式佐 いがや勘右衛門  
 同 兼太夫 上調子岸澤 金蔵 板元 南新道

とある。さらに同年七月四日からの伊香保座の『上毛袖振合』の正本（竹内道敬氏蔵）にも「高砂町南新道」とあるの  
 で、二代目文字太夫襲名後、天明八年までには伊賀屋勘右衛門は高砂町南新道で出版業を始めていたことがわかる。



前項の元浜町の伊賀屋勘右衛門とは代替りしたかもしれないが、再び常磐津節の正本・稽古本を出版した。「高砂町」の住所のある伊賀屋勘右衛門版は右の他に、現在左記の八点が知られている。

- 〈お染久松〉花頃誓十七夜待（稽古本）（竹内道敬氏蔵） 寛政元（二七八九）年五月五日中村座
- 都鳥男浅妻（正本）（竹内道敬氏蔵） 寛政二（一七九〇）年三月十五日市村座初演
- 其扇屋浮名恋風（稽古本）（竹内道敬氏蔵） 寛政二（一七九〇）年六月市村座初演
- 〈祝儀〉壽月見の盃（正本）（竹内道敬氏蔵） 寛政五（一七九三）年九月「検物町ニテ惣稽古」（常磐種）
- 〈風流道行〉時鳥花有里（稽古本）（竹内道敬氏蔵） 寛政六（一七九四）年五月五日河原崎座初演
- 道成寺傳授睦言（正本）（竹内道敬氏蔵） 寛政一〇（一七九八）年五月五日中村座初演
- 初陣の兒鎧（稽古本）（東京大学教養学部黒木文庫蔵）
- 〈追善浄瑠璃〉ゆめの繪合（正本）（竹内道敬氏蔵）

これらの内、正本は初演時に出版されたと思われるが、上演年次の不明な「ゆめの繪合」を別にすると寛政一〇年が最も新しい。稽古本については、必ずしも初演時の出版とは限らないが、例えば「時鳥花有里」の稽古本刊記には、

同常磐太夫  
同出雲太夫

常磐津兼太夫

三弦故澤里慶

同 万蔵

常磐津文字太夫（印）

三弦岸澤式佐

常磐津政太夫

上てうし同 九蔵

とあって、常磐太夫・出雲太夫を除いて、主要メンバーは「常磐種」の初演記録と一致する。この時期は初代鳥羽屋

里長の破門騒ぎの渦中であり、「故澤」姓を記している点などは初演時を正確に伝えているので、初演から遠くない時期の出版であろう。また、「其扇屋浮名恋風」の稽古本刊記には、常磐津文字太夫・常磐津兼太夫・常磐津須磨太夫・鳥羽屋里長・岸澤式佐・鳥羽屋里笛・鳥羽屋里夕の名が見えるが、初演時の連名には、「常磐種」では兼太夫の名が見えず、「近世邦楽年表」では文字太夫の名が見えない。何れが初演の構成であっても稽古本刊記とはずれがある。しかし、鳥羽屋里長の名があるので、寛政三年の初代里長破門以前の出版であろう。さらに、「花頃誓十七夜待」の地方連名は、常磐津文字太夫・同兼太夫・同造酒太夫・鳥羽屋里長・岸澤古式部・鳥羽屋里桂・岸澤九蔵である。これは寛政元年初演時のメンバーだが、造酒太夫は寛政六年死没し、二代目式佐が三代目古式部を襲名した寛政七年一月には生存していなかったためであるから、この名で連名することは不可能である。おそらく、この稽古本は古式部が襲名後に出版されたために、こうしたことが起こったのであろう。「初陣の兒鎧」は初演年次が不明であるが、刊記の連名は、常磐津文字太夫・岸澤古式部とある。これは、二代目古式部なら天明三年九月以前、三代目古式部なら寛政七年一月以後のことになるが、他の出版状況から見て後者であろう。また、「ゆめの繪合」は「追善浄瑠璃」と角書され、表紙の連名は常磐津小文字太夫と岸澤古式部・岸澤九蔵である。詞章は木村紅助だが、この詞章の中に「世俗文字の業狂言綺語の道」とあり、また、「法のふみ月とりく」にもあるので、寛政一年七月に死没した二代目文字太夫の追善浄瑠璃であろう。何回忌ともないので、死後間もない時のものと思われる。二代目死没の一カ月前に息子の林之助が二代目小文字太夫となっていたが、僅か八歳であり、実際に語ったのではなく、父の追善ということである。これを留めたのであろう。これが、寛政一年の出版とすると、伊賀屋勘右衛門はこれを最後に「高砂町」での出版を止めてしまう。これは二代目文字太夫の死没の年である。「元浜町」の時の初代との場合と同様に、二代目の活躍期と「高砂町」での伊賀屋勘右衛門の活動時期は一致していたのである。



(四) 小舟町時代

再び伊賀屋勘右衛門の動向が知られるのは、文化八(一八一二年)一月一日より中村座初演の『鄙都極玉簾』の正本(竹内道敬氏蔵)である。但し、これには版元の住所がない。その前年文化七(一八一〇)年春に出版された読本「小野小町劇化粧」(東北大学附属図書館蔵)の刊記には「江戸地本問屋常磐津正本所 小舟町二丁目 伊賀屋勘右衛門板」とある。また、文化八年三月には常磐津外題集型の「常磐種」(九州大学附属図書館蔵)の最も古いものが出版され、それにも「小野小町劇化粧」と全く同じ刊記が付いている。この時期には小舟町で出版しており、常磐津節の正本屋として知られていたらしい。ところが、式亭三馬の「式亭雜記」の文化八年三月二日のところに「堀江町 はんもといがや勘右衛門」とある。同じ文化八年三月に一方では「小舟町」、一方では「堀江町」に住んでいたことになる。両者別人とも考えられるが、三馬は伊賀屋勘右衛門から文化七年春には「一對男時花歌川」、文化八年春には「法界坊野分姫其写絵劇佛」を出しており、前述の「小野小町劇化粧」巻末の広告にも前者が見られる。さらに、「式亭雜記」によると文化八年四月二六日、

常磐津文字太夫「傍注」△二代目、ひもの町十三回忌追善会、刷物、外題袋等、伊がや勘右衛門よりたのまれ、染筆遣す、

催主 常磐津小文字太夫

浄るりは二代目桜田左交連、外題秋去衣云々

とあって、伊賀屋勘右衛門の世話で二代目文字太夫の追善会のために三馬が染筆しているのであるから、両者を別人とするのは無理であろう。これ以上に小舟町・堀江町で活動した時期を示す資料がないので、明らかなことは言えない

いが、あるいは「常磐種」出版と同時に引越したのかもしれない。小舟町と堀江町は隣合わせの地で離れていない。また、堀江町を刊記に刻んである本は全く知られていないのだから、あるいは両者は仕事場と住居のようなものであったかもしれない。

常磐津節稽古本で、「小舟町」の住所を記すものは次の三点である。

夜の鶴雪竈 (稽古本) (竹内道敬氏蔵) 寛政一〇年一月三日中村座初演

姿花鳥居が色採 (稽古本) (竹内道敬氏蔵) 文化二年五月一六日市村座初演

七枚續花の姿絵 (稽古本) (竹内道敬氏蔵) 文化八年三月六日市村座

例えば『夜の鶴雪竈』の稽古本刊記には常磐津文字太夫・同兼太夫・同伊勢太夫・同出雲太夫の名が見えるが、初演時には文字太夫は出演していない。また、『姿花鳥居が色採』でも刊記に小文字太夫の名があるが、この頃にはまだ幼少で語ることができなかったので初演のメンバーではない。ところが、『七枚續花の姿絵』の刊記は常磐津小文字太夫・同兼太夫・同喜代太夫・同綱太夫・岸澤古式部・同式佐・同安治で、主要メンバーは初演時と一致している(番付によると安治の名は見えず、鯉鮒助・三五郎となっている)。この稽古本は、初演時よりそれ程隔たらない時期に出版されたものであろう。したがって、小舟町での出版は文化七・八年に近い頃からだったと考えたい。これは、いわゆる二代目小文字太夫が活躍を初める時期とまたも一致しているのである。『姿花鳥居が色採』の稽古本が小文字太夫の名を記すのも、小文字太夫活動期に出版されたからではなかろうか。さらに、前述の「式亭雜記」にもあった如く、文化八年は二代目文字太夫の一回忌追善を行ない、「常磐種」もそれを記念して出されたと思われ、小文字太夫の活躍と出版の密接な関係が窺われる。稽古本刊記によると、伊賀屋勘右衛門の場所は「両国橋通り小舟町二丁目中の橋通り」であった。



(五) 新和泉町時代

次いで伊賀屋勘右衛門は新和泉町北側に移っている。現存の正本で「堺町通新いづみ町」の住所になっているものに『花紅葉士農工商』(竹内道敬氏蔵)がある。これは文政三(一八二〇)年一月十五日玉川座において初演されたものである。その他、稽古本では『積恋雪関扉』(上野学園日本音楽資料室蔵)及び『戻駕色相肩』(竹内道敬氏蔵)、『四天王大江山入』(架蔵)の三種があるが、いずれも上演記録にある地方連名ではなく、出版年次の特定はできない。『積恋雪関扉』については、すでに考察したことがあるが、『四天王大江山入』にしても、刊記の連名は前述した『花頃誓十七夜待』のものと主要メンバーは同じであって、天明・寛政頃の連名を示している。これより古いものがないので断定は難しいが、高砂町時代の版の後刷、あるいは改版ではないかと思われる。この頃から幕末になるにつれてこうした傾向が顕著になってくる。したがって、前項の文化八年以来文政三年までの伊賀屋勘右衛門の動向はわからない。しかし、この間、文政二(一八一九)年には三代目小文字太夫(二代目小文字太夫)が死没している。『花紅葉士農工商』の初演された文政三年一月は三代目小文字太夫の血筋に当る市川男女蔵の伴男熊が四代目小文字太夫を襲名し、三座において初舞台を勤めた時である。再び常磐津宗家の代替わりとともに、新しい場所での伊賀屋勘右衛門の出版活動が認められるのである。また、この住所のある稽古本三種は皆末尾に「竹賀写」とある。これは、次の「大傳馬町」から出版された稽古本にも幾つか見られる。稽古本の版下の書き手であろう。

(六) 大傳馬町時代

新和泉町北側での出版活動が何時まで続いたかは明確ではないが、文政九(一八二六)年三月「常磐種」(東北大学附属図書館蔵)が出版されているが、版元は「大傳馬町二丁目伊賀屋勘右衛門」である。この頃には伊賀屋勘右衛門は「大

傳馬町」にいたことになる。さらに、文政一三(一八三〇)年三月一日より中村座で初演された『第二番目九変化』の正本(竹内道敬氏蔵)も同住所で出されている。また、同じ年の五月七日中村屋平吉方で催された「豊後掾百年文字太夫五十年」及び「小文字太夫名聞御披露」の折の新浄瑠璃『千代花節操寿詞』の正本(架蔵)も同住所である。この時は披露の引き札(架蔵)なども刷られ盛大な催であったようだ。この「大傳馬町」の住所を持つ正本は、他には天保三(一八三二)年正月二日河原崎座初演の『道成寺丸い字』(竹内道敬氏蔵)と同年九月二三日市村座初演の『姿花後雛形』(竹内道敬氏蔵)がある。この正本はいずれも同じ板木を使った後刷が出されている。後者は後刷も「大傳馬町式丁目伊賀屋勘右衛門」だが、表紙の絵の中から役者の名と紋が削られている。この場所で活動している間に再版したのである。また、前者は版元が「坂川平四郎」となっている。板木が坂川平四郎に譲渡され、版元の部分だけが彫り直されて出版されたのである。稽古本は一三種あるが、出版年次の特定できるものはない。この中にも古い時代の版の後刷・改版がかなり含まれている。ちなみに、『其扇屋浮名恋風』は高砂町版とは同じ地方連名を持つ。

四代目小文字太夫は、文政六(一八二三)年一〇月二六日元服しているが、前記の文政一三年の「名聞」によって名実ともに常磐津宗家としての力を示した。文政一〇年前後の小文字太夫が力を得てきた時期に、伊賀屋勘右衛門は大傳馬町で出版を始め、天保三年頃までここで活動していたと思われる。新和泉町からここへの転居は代替りではなかったが、四代目小文字太夫の実質的な宗家としての活動の開幕とは一致するのである。

(七) 神田鍋町時代

ところが、天保九(一八三八)年には神田鍋町西横町にいた。天保九年三月七日中村座初演の『三幅対和歌姿画』の正本(竹内道敬氏蔵)はこの住所で出されているのである。この前年天保八年正月小文字太夫は四代目小文字太夫と改名しており、それを機に伊賀屋勘右衛門も新しい場所出版を始めたのであろうか。天保九年以後、天保一〇(一八三九)



年三月一日中村座初演の『花魁曆色所八景』・同一一年三月二日市村座『花梯十二月所作』・同年九月一七日市村座『吉野山雪振事』・弘化元(一八四四)年五月岸澤式佐宅での三代目式佐二十三回忌追善の時の『手向花菖蒲』・同二年正月一日中村座『花競俄曲突』(後刷は坂川平四郎から出されている)・同三年正月一日市村座『神楽飄雲井曲毯』・嘉永元(一八四八)年八月二〇日市村座『新曲胡蝶夢』などの正本(以上、竹内道敬氏蔵)がこの住所で出されている。したがって、天保八・九年から嘉永の初年までは伊賀屋勘右衛門は神田鍋町にいたことになる。また、出版年次は特定できないが、稽古本も一五種程知られており、ここでの出版活動はかなり活発だったと思われる。これは四代目文字太夫が安定した力量と人気で活躍していたことと重なっていよう。この間に、天保一二年には再び『常磐種』(東京大学附属図書館蔵)を出している。

さらに、『花舞台霞猿曳』の稽古本(架蔵)に「天保九戌霜月」の刊記を持つものがある。これには「正本版元江戸地本間屋いがや勘右衛門原板坂川平四郎」とあるので、直接の版元は坂川平四郎だが、もともと伊賀屋勘右衛門で出していたものを譲り受けて、刊記を改めて出したのである。したがって、『花舞台霞猿曳』の稽古本は本来は神田鍋町の頃に出されたものであろう。こうした例は非常に多く、伊賀屋勘右衛門原板であることを断ったものだけで現在三二種が知られ、さらに前述した正本のように刊記のみ坂川平四郎にしてしまったものも相当ある。それらの中にはこの『花舞台霞猿曳』と同様に神田鍋町時代のものが含まれていよう。

#### (八) 神田鍛冶町時代

伊賀屋勘右衛門はさらに転居して、神田鍛冶町に移る。嘉永二(一八四九)年九月九日より市村座初演の『余波五色花魁番』の正本(竹内道敬氏蔵)は「神田鍛冶町」の住所になっているので、前年の八月以降これまでに引越したのであろう。この後、嘉永三年夏新調『千代の友鶴』・同四年正月中村座初演『蝶衛喜庵五郎会』(上)『採一座劇の福撰

(下)・同年四月五日中村座初演『競獅子劇場花音』(正本には四年五月とある)・同年九月七日市村座『月光氏須磨初雁』などの正本(以上、竹内道敬氏蔵)があり、稽古本も七〇種を数え、転居後も出版は活発である。嘉永二年一〇月には『常磐種』(東京大学附属図書館蔵)も出している。

この時期の稽古本を見ると、例えば『邯鄲』(竹内道敬氏蔵)では詞章の終りに、  
弘化三年丙午年八月

と記されている。『邯鄲』の初演は弘化三年七月二七日より市村座であるから、ほぼ初演年次を示している。こうした初演年次を末尾に記した稽古本が何種も見られ、この時期の特長的な形態と考えられる。また一方『倭仮名色七文字』の一本(竹内道敬氏蔵)には、

文久癸酉六月再板

とあるように、再版年次を記すものもある。

活発に活動していた伊賀屋勘右衛門だが、明治になると前述したように、伊賀屋勘右衛門の板木を使った坂川平四郎の出版が見られ、伊賀屋勘右衛門の出版は全く無い。伊賀屋勘右衛門版で確認できる最も新しいものは、前述の『倭仮名色七文字』である。ただ、『視仇雪濡事』上・下(架蔵)は坂川平四郎版だが、その巻末識語に、

右常磐津一流太夫直傳之正本者私方ヨリ外二決而無御座ノ仍而太夫自筆ヲ取而節章句ヲ正シヘ印ノ如此印形ヲ頭シノ令開板者也御求御覽被遊可被下候以上いがや勘右衛門原板

とある。しかし、これはこの識語が「いがや勘右衛門原板」なのであって、作品の版のことではなからう。したがって、この稽古本は始めから坂川平四郎版で出されたと思われるであろう。下巻末尾に「慶応元年乙丑歳十月吉日」とあるが、これは初演年次を示しているので、稽古本の出版は少なくともそれ以後である。現在のところ前述の文久二年六月以後の伊賀屋勘右衛門版は見出せない。したがって、この間に伊賀屋勘右衛門が廃業し、坂川平四郎がその後



を引き継いだものと思われる。

なぜ伊賀屋勘右衛門が廃業したのか、全くわからないが、常磐津宗家と深く関わってきた伊賀屋勘右衛門であって、みれば、常磐津岸澤が分裂した状態で、文久二年八月豊後大掾が死に、岸澤古式部が死んで（慶応二年）、両者の複雑な確執が伊賀屋勘右衛門にも影響したのではなからうか。

(九) まとめ

以上、伊賀屋勘右衛門版の常磐津節正本・稽古本の検討を通して、江戸版元伊賀屋勘右衛門の動向を考察してきた。伊賀屋勘右衛門は、すでに元禄一〇年頃には江戸元浜町で、役者画や正本等、歌舞伎・浄瑠璃関係の出版を行っていたが、宮古路文字太夫と密接な関わりを持つようになって、特に文字太夫が、常磐津節を創始してからは、その出版を一手に引受けるようになった。文字太夫自身も「するがや文右衛門」の名で出版に関わったようであるが、二代目以後は常磐津宗家自体は出版からは手を引いたようである。しかし、二代目以後も伊賀屋勘右衛門は常磐津節宗家とは深い関係を保ち続け、常磐津節正本所として幕末まで活躍を続けた。常磐津節関係以外の出版もおこなってはいたが、伊賀屋勘右衛門の足跡は歴代常磐津宗家の活躍の盛衰と見事に重なっている。現在の正本を辿ると、宗家の代替わり（一）の度に伊賀屋勘右衛門も次々と転居したことが窺えるし、宗家の活躍期には伊賀屋勘右衛門版の点数も多いのである。これは宗家の盛衰に従って伊賀屋勘右衛門の店も盛衰し、それぞれの代替わりには転居を余儀無くされたということなのであろう。こうして幕末まで、常磐津節関係の出版をほぼ独占してきたが、文久二年を最後に廃業し、坂川平四郎に後を譲ってしまった。

この伊賀屋勘右衛門の人物像や代々の関係などは全く知ることができないので、如何なる事情で文字太夫と関わり、その後どのような形で常磐津宗家と特別な関係を保ってきたのか、全く不明という他はない。今後の新しい資料の出現を待ちたい。

注一、歴代市川団十郎の画については『日本を創った人びと』20 市川団十郎（平凡社）所収の写真によった。

注二、宮古路節は宮古路豊後掾を祖としており、初期には豊後節とも称されていたが、豊後節が豊後系浄瑠璃の総称として使用される場合が生じたので、それと区別するために宮古路節の称が使われた。また、竹内道敬氏は正本・稽古本を合わせて簿物正本と称しておられるので、『竹内道敬寄託文庫目録（その一）宮古路節の部』は初期豊後節の正本・稽古本の目録と見ることができよう。

注三、『淀染三雁金』の連名に見える「古流」は、「常磐種」（東京芸術大学附属図書館蔵）によると、宝暦一一年正月市村座の『明霞名所渡』の連名に見え、それに「始メテ」と注記がある。「常磐種」の記述を信ずれば、これが連名に加わった最初だったことになるが、「古流」はすでに宝暦一〇年春の『稲穂是当葉』の上調子に見えるので、「常磐種」の記述は信じ難い。よって、『淀染三雁金』の稽古本の出版は宝暦一〇年でも問題はない。

注四、「浄瑠璃せりふ」以外の資料によっても、元浜町伊賀屋勘右衛門の出版は、宝暦六年中村座の『将門装束榎』の四代目団十郎の「せりふづくし」などが知られるが、宝暦一〇年以降のものは見出せない。

注五、第二章第三節第一項参照。

注六、三代目文字太夫（二代目小文字太夫）の没後、男熊が小文字太夫を襲名するまでの間、現実には小文字太夫が存在しないにも拘わらず、番付などには「常磐津小文字太夫」の名が見える。これは形式上宗家存在の形態を整えたもので、実際にはワキの兼太夫や和歌太夫が語っていたものと思われる。男熊の小文字太夫を「常磐種」などが「四代目小文字太夫」とするのは、この形式上の小文字太夫を三代目と数えたからであらう。これについては、第三章第一節で触れた。この四代目小文字太夫が後の文字太夫である。

注七、高砂町以降の住所を記す伊賀屋勘右衛門版の宮古路節・長唄などの正本や、本文で触れたように合本なども現存しており、少しは常磐津以外の出版していたことが知られる。



所収論文初出一覧

序章 常磐津節成立以前

第一節 浄瑠璃と歌舞伎

第二節 江戸浄瑠璃と歌舞伎所作事

第一章 常磐津節の成立

第一節 豊後掾から文字太夫へ

矢われゆく日本音楽 豊後節——心中を呼んだ音楽の実態——

(季刊コンサート一九八八・七)

常磐津節の成立とその周辺(南山国文論集一九九〇・三)

第二節 常磐津節の成立

初期常磐津節の動向と富本節の成立(南山国文論集一九九一・三)

第三章 常磐津節の展開

第一節 常磐津節と壕越二三次

劇舞踊の発達と壕越二三次(後藤重郎先生古稀記念国語国文学論集一九九一・三)

第二節 常磐津節と大切所作事

一、大切所作事の展開

大切所作事の展開(南山国文論集一九八七・三)

二、『桜姫東文章』の大切所作事



第三節 『積恋雪関扉』研究

- 一、『積恋雪関扉』諸本考
- 二、『積恋雪関扉』考

三、歌舞伎・浄瑠璃の小町物

- 四、『去程恋重荷』考
- 五、『小野小町劇場化粧』考

第四節 常磐津節と桜田治助

- 一、『巫山伏千早経言』考

二、『帯文桂川水』考

三、豊後系浄瑠璃のお半長右衛門物

第三章 常磐津節幕末明治の動向

第一節 『花紅葉士農工商』考

第二節 『初恋千種の濡事』考

『桜姫東文章』の大切所作事をめぐって

(松村博司先生喜寿記念国語国文学論集一九八六・一一)

『積恋雪関扉』諸本考(東洋音楽研究一九八七・一一)

『積恋雪関扉』考(後藤重郎教授停年退官記念国語国文学論集一九八四・四)

近世における小町物の受容(伝承文学の世界 一九八四 三弥井書店)

『去程恋重荷』考(南山国文論集一九八三・三)

『小野小町劇場化粧』考(南山国文論集一九八四・三)

『巫山伏千早経言』考(松村博司先生古稀記念国語国文学論集一九七九・一一)

『帯文桂川水』考(南山国文論集一九八二・三)

義太夫と豊後系浄瑠璃——お半長右衛門物を比較して——  
(講座 日本の演劇 第四卷 勉誠社)

『花紅葉士農工商』考(東海近世一九九一・九)

『初恋千種の濡事』考(東海近世一九八八・三)

第三節 逍遙の舞踊論

第四章 常磐津節の資料研究

第一節 「常磐種」諸本考

第二節 常磐津節版元伊賀屋勘右衛門

逍遙の舞踊論(南山国文論集一九八九・三)

「常磐種」諸本考(アカデミア文学・語学編一九八〇・二)

常磐津節版元伊賀屋勘右衛門(南山国文論集一九八八・三)



## あとがき

私は、保育園の二年生（五歳）の時、初めて東京へ行った。特急つばめの特別二等車で。今に較べると随分時間がかかった。五時間くらいだったと思う。ミニハーモニカを貰い、トンネルに入るたび、ブーツと吹いたが、今思うと近所迷惑なことだったと思う。当時の人は、とても寛容で、少しも怒られなかった。実はこのハーモニカは、小さくても、半音を除いてドレミファソラシドの音をだすことができるので結構歌を楽しむことができる。私は母に教えてもらった唱歌や童謡を、当時からこれで吹いていた。音楽には人一倍関心を持つほうであった。

東京に着いて二日後、母の師匠の三代目常磐津文字兵衛師のお宅へ伺った。ここで私は勧められるままに「水売り」を語った。これを文字兵衛師が録音し、さらに録音盤（レコード）にして後に私に送ってくださった。今これを聴くと、赤面の至りだが、偉大な師匠の前でおめず聴せず語っている自分に却って驚かされる。

私は常磐津師匠の家に育ち、幼少の時から母に常磐津の手ほどきを受け、さらに、小学校の一年生からは、常磐津の師匠になるには踊り（日本舞踊）の心得がなくてはいけないということで、二代目西川鯉三郎師に入門、鯉三郎・司津夫妻の指導を受けた。

高校から大学に進学するとき、実演者ではなく、研究者になろうと考えた。それは、現代の日本の伝統芸能が持っている家元制度に疑問を抱いたからである。と同時に、常磐津を始め、日本の伝統芸能についてはまだわからないところが膨大にあるとわかったからである。私は、国文学科への進学の道を選び、大学院に進んだ。本書は、以来、私が常磐津師の研究を始めて二五年の成果をまとめたものである。

こんなわけで、私の周りは常に常磐津その他の邦楽が聞えてくる環境であり、自分でも語ったり踊ったりしていたので、謂わば、芸能の世界を内から眺められる立場にあった。しかし、これは研究者としてはマイナスでもある。大学院生の時、常磐津と清元と新内の区別を聞かれたことがあった。私はこれを体験的にすぐ聞き分けられるが、区別の基準を巧く説明できなかった。芸の中に浸かっていて、客観的目が持てないのである。これを契機として、できにかぎり、外側から邦楽を見る立場を心掛け、文献的資料を重視した考察をしてきたつもりである。

常磐津をはじめ、豊後系浄瑠璃の研究は少ない。纏まった研究としては、今に至っても、岩沙慎一先生の「江戸豊後浄瑠璃史」、竹内道敬氏「近世芸能史の研究」、「近世邦楽研究ノート」など数点を数えるのみである。研究を目指した私は、幸いにも松村博司先生というよき指導者に巡り合った。松村先生の御専門は「栄花物語」を始めとする歴史物語で、その方法は文献学を基本とするものであった。しかし、先生の講義は中古から近世に至るまでの幅広いものであったし、大相撲と歌舞伎をこよなく愛され、私の研究対象にも造詣が深く、常に的確な御指導を賜わった。特に、雑多で慎重な吟味の必要な私の研究資料の扱いについては、先生の文献学に関する御指導が有効であった。また、私はこれまでに、二度にわたって文部省科学研究費補助金の交付を受けることができたが、散逸に瀕している資料が多い中で、これは研究の大きな助けとなった。

これまでは、常磐津を中心に取組んできたが、豊後系浄瑠璃は相互に関係が深いので、他の流派の研究もおろそかにはできない。中でも、富本節は現在ほとんど行なわれなくなっているのに、資料の散逸も早い。したがって、これらの研究も急がねばならない。私の研究を導いて下さった松村先生も昨年逝ってしまわれたが、本書を私の江戸豊後系浄瑠璃研究の端緒として位置付け、さらに、今後の精進を期したい。

終わりに、本書を成すにあたり、貴重な資料の翻刻を御許可いただいた東京大学教養学部国文学研究室、及び東京都立中央図書館当局の方々、また、数々の資料の調査・収集を御許可下さった東京芸術大学附属図書館・上野学園日



本音楽資料室・上田市立図書館・国立音楽大学附属図書館・竹内道敬氏をはじめ、各地の図書館・所蔵家の方々、また、大学以来、種々御指導・御教示をいただいた諸先生・諸先輩、本書の刊行になみなみならぬお世話を賜わった和泉書院廣橋研三氏に深甚の謝意を表します。

本書は、平成二年度および平成三年度文部省科学研究費補助金・一般研究(B)「江戸豊後節系浄瑠璃の基礎的研究」(課題番号 02451058・研究代表者 安田文吉南山大学文学部教授)による研究成果である。



